

ハロートレーニング

能力開発セミナー

コースガイド2026 令和8年4月～10月



みんなの未来をハロー！

住居系
建築・設備

機械系

電気・電子系

管理系



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部
関東職業能力開発促進センター

ポリテクセンター関東

ポリテクセンター関東 (関東職業能力開発促進センター)

厚生労働省所管の独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部が運営する
公共職業能力開発施設です。

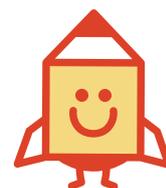
70年の歴史
横浜・希望が丘の職業訓練校

ポリテクセンター
TOP



能力開発セミナーとは

ものづくり分野（製造業）の仕事に役立つ技能・技術を学べる研修
講義・実習で使用する機器は企業で使用しているものと同じ
分野は建築、設備、電気、電子、機械、管理など豊富なラインナップ
公共施設だから受講しやすい受講料設定



公的職業訓練のキャラクター

ハロトレくん

能力開発セミナーを受講するには

★パンフレットで受けたいコースを選んで申込み
(申込方法はP114)

★社員まとめて（10名様～）受講させたい
(オーダーメイド型ご相談、詳しくはP100)

※令和8年度途中より、全国統一の Web 受付システムが稼働する予定です。
詳しくは、ホームページ上でお知らせする予定です。

在職者の方へ

デジタルパンフレットはこちら



受講者満足度 99.1%

セミナー終了後に行っている受講者アンケートでは、受講者の 99.1%から、「大変役に立った」「役に立った」と評価していただきました。(令和 6 年度実績)



ご利用いただいた皆さまにお聞きしました。

受講してみて・させてみて、いかがでしたか

受講した方から

- 今まで実務を通じて技能や知識を身に付けてきましたが、**基礎から説明**をしてもらえ、**理論的に理解**することができました。
- 基礎から応用まで専門的な分野**を学ぶことができました。
- 演習の時間が多く**あり、学んだことの復習ができ理解が深まりました。実務に活かしていきたいと思います。
- テキストから説明まで分かりやすく**、社内に持ち帰って復習した際に迷うことが無いと感じました。
- グループディスカッションで**様々な方々とコミュニケーション**を取ることができ、大変勉強になりました。
- 自分の作業方法と違った方法を知る事ができ、**効率 up** できると思いました。
- なんとなくやってきたことが、理論的に整理できました。**新人・部下の教育にも役立ち**そうです。

受講者の上司・人材育成担当者から

- 自身でいろいろと考えて作業している様感じており、知識・技能が向上して**受注増への戦力**になっています。
- 適切な**条件の選択**が出来るようになり、品質面が安定し、それに伴って**生産効率も向上**しました。
- 組織内での**コミュニケーションの強化**や目標達成に向けての**課員をまとめる力**を感じます。
- 現場改善の視点が広がり、**効率的な改善への意識**が向上しました。
- 社員自身の知識や**技術力が向上**し、より**作業速度が速く**なり、**工夫出来る**ようになったと思います。
- 新人・若手社員への**指導や配布資料の作成の際の参考**になりました。
- コスト安**でありがたいです。

施設設備等貸出サービス

会議室や教室を借りて社員研修をしたい
職業訓練指導員を派遣してほしい
(詳しくは P108)



もくじ

セミナーコース一覧	3～9
推奨コースフロー	10～15
コース詳細	16～97

居住系 建築・設備  	設計 (CAD 設計 / 3次元プレゼンテーション / リフォーム設計)	16
	構造	22
	施工	27
	設備	28
	調査・点検・維持管理	30
	オーダーメイド型コース	32
	空調設備	37
	保全 / 設備管理	38
	省エネ	39
	電気・電子系 	電子回路 / パワーエレクトロニクス
組込み		46
スマートフォン / タブレット / ネットワーク		52
制御工学 / 自動計測 / 信号処理		54
電動機 / シーケンス制御 / その他のアクチュエータ制御		57
機械系   	機械製図 / 設計	64
	2DCAD AutoCAD	67
	3DCAD SolidWorks 2025	68
	3DCAD CATIA V5 2025	71
	3DCAD NX 2506	73
	射出成形	74
	汎用加工	76
	切削理論	77
	NC 加工	78
	溶接	80
	保全 / 油空圧	82
測定	85	
管理系 	人材育成	88
	品質管理	90
	生産管理	95
	原価管理	96

高度ポリテクセンター紹介	98	テクノインストラクター派遣・施設設備等貸出サービス	108
オーダーメイド型セミナー	100	人材採用・企業実習受入	110
利用者の声	102	お申し込みから受講までの手続きの流れ	114
館内案内図	104	よくあるご質問 FAQ	116
各種助成制度	105	【様式】受講申込書	118
人材育成に関する企画・提案サービス	106	【様式】受講者変更・取消届	120
生産性向上支援訓練のご案内	107		

このコースガイドは令和8年4月から10月末までの日程を掲載しています。
 令和8年11月から令和9年3月までの日程を掲載したコースガイドは、令和8年7月に発行予定です。

Webによる能力開発セミナー情報の検索

ポリテクセンター関東のWebサイトでは、最新の能力開発セミナーコース情報が確認できます。

<https://www.3.jeed.go.jp/kanagawa/poly/seminar/index.html>



全セミナーコース一覧

● 居住系 建築・設備 (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
設計 (CAD設計/ 3次元プレゼン テーション/ リフォーム設計)	H0111	実践建築設計2次元CAD技術 【機器：AutoCAD】	7/6(月)~7(火)	8	9,500	16	★
	H0211	実践建築設計2次元CAD技術(コマンド編) 【機器：Jw_cad】	RENEW 7/9(木)~10(金)	10	7,500	16	★
	H0311	実践建築設計2次元CAD技術(建築図面編) 【機器：Jw_cad】	RENEW 7/23(木)~24(金)	10	7,500	17	★
	H0411	施工図作成実践技術 【機器：AutoCAD】	8/22(土)~23(日)	10	8,000	17	★
	H0511	実践建築設計3次元CAD技術 【機器：SketchUp Pro】	9/12(土)~13(日)	12	7,000	18	
	H0611	実践建築設計3次元CAD技術 【機器：マイホームデザイナー PRO10】	5/18(月)~19(火)	10	9,000	18	★
	H0711	実践建築設計提案書作成技術 【機器：PowerPoint】	11月以降開講予定	12	9,000	19	★
	H0811	住空間リフォーム設計(概算費用算出編)	6/3(水)~4(木)	12	15,500	19	
	H0911	住空間リフォーム設計(収納計画編)	10/21(水)~22(木)	12	15,500	20	
	H1011	住空間リフォーム設計(コミュニケーションパス編)	11月以降開講予定	12	17,000	20	★
	H1111	住空間リフォーム設計(ペット共生住宅計画編)	11月以降開講予定	12	15,500	21	★
	H1211	住空間リフォーム設計(提案実践編)	11月以降開講予定	12	15,500	21	★
	H1311	高齢者配慮住宅のリフォーム計画実践技術	11月以降開講予定	15	5,500	22	★
構造	H1411	静定構造物の構造解析技術	6/6(土)~7(日)、 6/13(土)	15	8,000	22	
	H1511	不静定構造物の構造解析技術	7/6(月)~7(火)	10	11,000	23	
	H1611	建築構造設計実践技術	8/22(土)~23(日)、 8/29(土)	10	14,500	23	
	H1711	木造住宅における許容応力度設計技術	9/5(土)~6(日)	10	11,000	24	
	H1811	【オンライン開催】地震被害から学ぶ木造住宅の構造技術	7/2(木)~3(金)	10	16,500	24	
	H1911	【オンライン開催】木造住宅の構造安全性を考慮した間取りと架構設計技術	7/28(火)~29(水)	10	16,500	25	
	H2011	鉄骨構造物における構造計算技術	11月以降開講予定	10	20,000	25	★
	H2111	建築物のリニューアル・リノベーションのための構造設計技術	11月以降開講予定	10	15,500	26	★
	H2211	R C構造物における構造計算技術	10/15(木)~16(金)	10	11,000	26	
施工	H2311	隅木・振垂木の施工実践技術	11月以降開講予定	10	14,000	27	★
	H2411	継手・仕口の製作実践技術	11月以降開講予定	10	17,500	27	★

● 居住系 建築・設備 (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
設備	① H2511 ② H2512	実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体との納まりとリニューアル編)	①5/16(土)~17(日) ②10/24(土)~25(日)	10	10,000	28	
	H2611	実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体への工事編)	6/20(土)~21(日)	10	10,000	28	★
	H2711	実習で学ぶ住宅設備技術 (給排水・衛生設備 リペア編)	7/30(木)~31(金)	8	15,500	29	★
	H2811	実習で学ぶ住宅設備技術 (給排水・衛生設備 リペア実践編)	8/5(水)~6(木)	8	15,500	29	★
調査・点検 ・維持管理	H2911	実習で学ぶ住宅の補修・修繕実践技術	7/11(土)~12(日)	10	10,500	30	
	H3011	住宅の維持管理・更新と点検技術	11月以降開講予定	10	10,000	30	★
	H3111	ドローンを活用した建物劣化診断技術	7/7(火)~8(水)	10	18,000	31	★
	H3211	ドローンを活用した建物赤外線劣化診断技術	10/1(木)~2(金)	10	18,000	31	★
オーダー メイド型 コース		実習で学ぶ住宅性能と架構・建方 (部材編)				32	
		実習で学ぶ住宅性能と架構・建方 (建方編) 実習で学ぶ住宅性能と下地 (内部下地編)				33	
		実習で学ぶ住宅性能と下地 (外部下地編) 実習で学ぶ住宅性能と仕上げ (外部仕上編)				34	
		実習で学ぶ住宅性能と仕上げ (内部仕上編) 木造住宅の基本計画技術				35	
		B I Mを用いた建築設計技術 (Revit 編) 木造住宅における構造設計実践技術				36	
空調設備	① H3311 ② H3312	冷媒配管の施工と空調機器据付け技術	①6/1(月)~2(火) ②7/13(月)~14(火)	10	11,500	37	
	H3411	冷媒配管の加工・接合技術	11月以降開講予定	10	17,500	37	★
	H3511	【オンライン開催】 冷凍空調設備の故障診断と予防保全	11月以降開講予定	10	9,000	38	★
保全/ 設備管理	① H3611 ② H3612	現場のための電気保全技術	①5/18(月)~19(火) ②6/11(木)~12(金)	10	10,500	38	★
	H3711	自家用電気工作物の高圧機器技術	5/26(火)~27(水)	10	11,000	39	★
省エネ	H3811	実習でわかる省エネルギーの進め方と対策技術	7/1(水)~2(木)	10	19,500	39	

● 電気・電子系 (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
電子回路/ パワーエレ クトロニクス	① E0111 ② E0112 ③ E0113 ④ E0114 ⑤ E0115 ⑥ E0116	電子回路の計測技術 (実践計測 オシロスコープ・テスタ編)	①4/9(木)~10(金) ②6/8(月)~9(火) ③7/16(木)~17(金) ④7/22(水)~23(木) ⑤9/1(火)~2(水) ⑥10/6(火)~7(水)	10	12,000	40	★
	① E0211 ② E0212 ③ E0213	トランジスタ回路の設計・評価技術 (アナログ回路 トランジスタ編)	①4/22(水)~23(木) ②8/4(火)~5(水) ③10/14(水)~15(木)	10	13,000	40	★
	E0311	F E T回路の設計・評価技術 (アナログ回路 FET 編)	5/12(火)~13(水)	10	12,500	41	★
	① E0411 ② E0412	オペアンプ回路の設計・評価技術 (アナログ回路 OP アンプ編)	①4/27(月)~28(火) ②10/20(火)~21(水)	10	13,000	41	

● 電気・電子系 (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11 月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
電子回路/ パワーエ レクトロニクス	E0511	シミュレータを活用したアナログ回路設計技術 (アナログ回路 シミュレーション編)	6/25(木)~26(金)	10	16,000	42	
	① E0611 ② E0612	デジタル回路設計技術	①4/22(水)~23(木) ②6/23(火)~24(水)	10	11,000	42	★
	E0711	HDL による回路設計技術 (デジタル回路設計 VHDL 編)	7/14(火)~16(木)	10	15,500	43	★
	E0811	基板製作に係る鉛フリーはんだ付け技術 (鉛フリーはんだ付け編)	7/1(水)~2(木)	10	25,500	43	★
	E0911	電子回路製作と実装技術	10/27(火)~30(金)	10	33,000	44	
	① E1011 ② E1012	EMC 対策のための電磁気学	①7/6(月)~7(火) ②9/10(木)~11(金)	10	21,500	44	★
	E1111	電子回路から発生するノイズ対策技術 (デジタル電子回路 ノイズ対策編)	7/8(水)~10(金)	10	29,000	45	★
	E1211	アナログ・デジタル混在回路におけるノイズ対策技術	8/26(水)~28(金)	10	29,500	45	★
	E1311	実習で学ぶ高性能 AD / DA 変換回路設計技術	11 月以降開講予定	10	17,000	46	★
組込み	① E1411 ② E1412 ③ E1413 ④ E1414	組込み技術者のためのプログラミング (C 言語 IoT スタートアップ)	①4/13(月)~14(火) ②5/25(月)~26(火) ③7/29(水)~30(木) ④10/21(水)~22(木)	15	10,000	46	★
	① E1511 ② E1512	組込み技術者のためのプログラミング (Python 言語 ICT スタートアップ)	①6/10(水)~11(木) ②9/29(火)~30(水)	10	15,500	47	★
	E1611	オブジェクト指向による組込みプログラム開発技術 (C++ 言語 IoT スタートアップ)	7/1(水)~2(木)	10	16,500	47	
	E1711	機械制御のためのマイコン実践技術 (C 言語 PIC マイコン編)	6/17(水)~19(金)	10	16,500	48	★
	E1811	実践センサ活用技術 (マイコンインタフェース編)	6/11(木)~12(金)	10	13,000	48	★
	E1911	マイコンを用いたワイヤレス通信システム構築	8/18(火)~19日(水)	10	17,500	49	
	E2011	CAN インタフェース技術 (マイコン技術者のための CAN インタフェース技術)	8/20(木)~21(金)	10	12,500	49	★
	E2111	組込み Linux による TCP / IP 通信システム構築 (組込み Linux 活用技術 TCP/IP 編)	6/10(水)~11(木)	10	11,500	50	
	E2211	オープンソフトウェアライブラリを用いた人工知能 (AI) 活用技術	8/20(木)~21(金)	10	15,500	50	
	① E2311 ② E2312	組込みソフトウェア開発者のためのテスト技法	①7/21(火)~22(水) ②9/15(火)~16(水)	10	18,000	51	★
E2411	組込みソフトウェア開発者のためのコーディング作法とレビュー技術	9/9(水)~10(木)	10	18,000	51	★	
スマートフォン/ タブレット/ ネットワーク	E2511	タブレットを活用したシステム構築 (ICT 向け OS 活用技術 Android Java 編)	10/7(水)~8(木)	15	11,500	52	
	E2611	タブレットを活用したシステム構築 (ICT 向け OS 活用技術 Android Kotlin 編)	11 月以降開講予定	15	11,500	52	★
	E2711	タブレット型端末を利用した通信システム構築 (ICT 向け OS 通信技術 Android 編)	10/15(木)~16(金)	10	12,500	53	
	E2811	製造現場における LAN 活用技術	7/6(月)~7(火)	8	15,000	53	
制御工学/ 自動計測/ 信号処理	E2911	パソコンによる計測制御システム技術 (計測制御 RS-232C、GPIB 編)	7/29(水)~31(金)	9	14,000	54	
	E3011	制御解析手法 (フィードバック制御編)	11 月以降開講予定	10	12,000	54	★
	E3111	シミュレーションで学ぶ古典制御と現代制御	7/9(木)~10(金)	10	22,000	55	

● 電気・電子系 (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11 月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
制御工学/ 自動計測/ 信号処理	E3211	P I D制御によるサーボ制御技術	6/17(水)~19(金)	10	28,500	55	★
	E3311	デジタルサーボ制御技術	10/15(木)~16(金)	10	22,000	56	
	E3411	ロバスト制御によるサーボ制御技術	11月以降開講予定	10	28,500	56	★
電動機/ シーケンス制御/ その他の アクチュエータ 制御	① E3511 ② E3512	小型モータの制御回路技術 (モータの特性と制御回路編)	①6/16(火)~18(木) ②9/2(水)~4(金)	10	16,500	57	★
	① E3611 ② E3612 ③ E3613 ④ E3614 ⑤ E3615	有接点シーケンス制御の実践技術	①4/9(木)~10(金) ②6/1(月)~2(火) ③7/23(木)~24(金) ④7/30(木)~31(金) ⑤9/10(木)~11(金)	12	10,500	57	★
	① E3711 ② E3712	シーケンス制御による電動機制御技術	①4/16(木)~17(金) ②9/17(木)~18(金)	12	10,500	58	★
	① E3811 ② E3812 ③ E3813 ④ E3814	P L Cプログラミング技術 【機器：三菱 PLC Fシリーズ】	①4/23(木)~24(金) ②6/11(木)~12(金) ③7/9(木)~10(金) ④10/1(木)~2(金)	12	11,000	58	★
	① E3911 ② E3912	P L C制御の回路技術 【機器：三菱 PLC Qシリーズ】	①8/5(水)~6(木) ②10/8(木)~9(金)	10	11,000	59	
	E4011	P L Cによるタッチパネル活用技術	10/15(木)~16(金)	10	11,000	59	★
	E4111	電動機のインバータ活用技術	11月以降開講予定	10	10,500	60	★
	E4211	P L Cによるサーボモータ制御の実務	11月以降開講予定	5	18,500	60	★
	E4311	空気圧設備の保全と省エネルギー対策技術	11月以降開講予定	10	10,500	61	★P84 掲載の コースと同一 コースです。
	E4411	協働ロボットプログラミング制御技術	10/29(木)~30(金)	10	12,000	61	
	E4511	協働ロボットを活用した自動化システム構築技術	11月以降開講予定	10	12,000	62	★

● 機械系 (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11 月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
機械製図/ 設計	① M0111 ② M0112 ③ M0113 ④ M0114	実践機械製図 (形状編)	①6/3(水)~5(金) ②7/14(火)~16(木) ③8/19(水)~21(金) ④9/28(月)~30(水)	12	15,000	64	★
	① M0211 ② M0212 ③ M0213	実践機械製図 (寸法編)	①6/24(水)~26(金) ②7/28(火)~30(木) ③9/2(水)~4(金)	12	11,500	64	★
	M0311	機械設備設計のための総合力学	7/15(水)~17(金)	12	31,000	65	★
	① M0411 ② M0412	製品設計におけるリスクマネジメント	①7/2(木)~3(金) ②9/3(木)~4(金)	10	19,500	65	★P94 掲載の コースと同一 コースです。
	M0511	品質工学に基づくパラメータ設計実践技術	6/1(月)~3(水)	10	31,500	66	P94 掲載の コースと同一 コースです。
	① M0611 ② M0612	鉄鋼材料の熱処理技術	①7/23(木)~24(金) ②9/10(木)~11(金)	10	13,000	66	★
	2DCAD AutoCAD	① M0711 ② M0712	2次元CADによる機械設計技術 (製図手法編) 【機器：AutoCAD】	①6/3(水)~5(金) ②9/9(水)~11(金)	12	28,000	67
① M0811 ② M0812		2次元CADによる機械設計技術 (図面構築手法編) 【機器：AutoCAD】	①6/17(水)~19(金) ②10/14(水)~16(金)	12	28,000	67	★

● 機械系 (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11 月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
3DCAD SolidWorks 2025	① M0911 ② M0912 ③ M0913 ④ M0914	設計ツールによるモデリング技術 【機器：SolidWorks 2025】	①6/22(月)～24(水) ②7/6(月)～8(水) ③8/31(月)～9/2(水) ④9/28(月)～30(水)	12	28,000	68	★
	① M1011 ② M1012 ③ M1013	3次元CADを活用したアセンブリ技術 【機器：SolidWorks 2025】	①6/25(木)～26(金) ②7/9(木)～10(金) ③10/1(木)～2(金)	12	22,500	68	★
	M1111	設計ツールを活用した製品設計技術 (テクニカルソリッドモデリング編) 【機器：SolidWorks 2025】	7/1(水)～3(金)	12	28,000	69	
	① M1211 ② M1212	3次元CADを活用したサーフェスモデリング技術 【機器：SolidWorks 2025】	①7/21(火)～23(木) ②10/6(火)～8(木)	12	28,000	69	
	M1311	CAEを活用した構造解析技術 (モデル化実践編) 【機器：SolidWorks 2025】	7/29(水)～31(金)	12	30,500	70	★
	M1411	公差設計技術 【機器：SolidWorks 2025】	11月以降開講予定	12	25,000	70	★
3DCAD CATIA V5 2025	① M1511 ② M1512	設計ツールによるモデリング技術 【機器：CATIA V5 2025】	①8/17(月)～19(水) ②10/26(月)～28(水)	12	28,000	71	★
	① M1611 ② M1612	3次元CADを活用したアセンブリ技術 【機器：CATIA V5 2025】	①8/20(木)～21(金) ②10/29(木)～30(金)	12	22,500	71	★
	M1711	3次元CADを活用したサーフェスモデリング技術 【機器：CATIA V5 2025】	8/26(水)～28(金)	12	28,000	72	★
	M1811	CAEを活用した構造解析技術 (モデル化実践編) 【機器：CATIA V5 2025】	9/16(水)～18(金)	12	24,500	72	
3DCAD NX 2506	① M1911 ② M1912	設計ツールによるモデリング技術 【機器：NX 2506】	①7/13(月)～15(水) ②10/19(月)～21(水)	10	31,500	73	★
	① M2011 ② M2012	3次元CADを活用したアセンブリ技術 【機器：NX 2506】	①7/16(木)～17(金) ②10/22(木)～23(金)	10	24,500	73	★
射出成形	M2111	プラスチック射出成形品の設計	6/30(火)～7/2(木)	12	18,500	74	★
	M2211	プラスチック射出成形金型設計技術	6/16(火)～19(金)	10	43,000	74	
	M2311	ホットランナー金型設計技術	10/19(月)～20(火)	10	22,500	75	
	M2411	プラスチック射出成形金型設計技術 (トラブル要因と対策) NEW	11月以降開講予定	10	32,000	75	★
汎用加工	① M2511 ② M2512	旋盤精密加工技術	①6/15(月)～19(金) ②8/24(月)～28(金)	9	25,500	76	★
	① M2611 ② M2612 ③ M2613	フライス盤加工技術	①6/9(火)～12(金) ②7/14(火)～17(金) ③10/13(火)～16(金)	6	27,500	76	★
	M2711	旋削加工の理論と実際	11月以降開講予定	10	18,000	77	★
切削理論	M2811	フライス加工の理論と実際	9/16(水)～18(金)	10	17,000	77	
	① M2911 ② M2912	NC旋盤プログラミング技術 (プログラム～加工編)	①7/27(月)～31(金) ②10/26(月)～30(金)	10	23,500	78	
NC加工	① M3011 ② M3012	マシニングセンタプログラミング技術 (プログラム～加工編)	①8/3(月)～7(金) ②9/28(月)～10/2(金)	10	24,000	78	
	M3111	穴加工の最適化技術 (マシニングセンタ編)	9/1(火)～4(金)	10	23,500	79	
	M3211	切削工具の使い方・選び方によるトラブル回避法 (マシニングセンタ編) NEW	11月以降開講予定	10	25,500	79	★
	M3311	カスタムマクロによるNCプログラミング技術	11月以降開講予定	10	12,000	80	★

● **機械系** (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11 月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
溶接	① M3411 ② M3412	【オンライン開催】 設計・施工管理に活かす溶接技術	①6/9(火)、6/11(木)、 6/16(火)、6/27(土) ②9/29(火)、10/1(木)、 10/6(火)、10/10(土)	9	11,500	80	
	M3511	ステンレス鋼の T I G 溶接技能クリニック	6/18(木)~19(金)	9	17,000	81	★
溶接	M3611	アルミニウム合金の T I G 溶接技能クリニック	6/22(月)~23(火)	9	15,500	81	★
	M3711	半自動アーク溶接技能クリニック	6/25(木)~26(金)	9	15,500	82	★
保全/ 油空圧	M3811	生産現場の機械保全技術	6/3(水)~4(木)	16	9,000	82	
	① M3911 ② M3912 ③ M3913	空気圧実践技術	①6/24(水)~26(金) ②7/15(水)~17(金) ③8/19(水)~21(金)	10	20,000	83	★
	M4011	空気圧機器の保全 (メンテナンスとトラブルシューティング)	11月以降開講予定	10	19,000	83	★
	E4311	空気圧設備の保全と省エネルギー対策技術	11月以降開講予定	10	10,500	84	★P61 掲載の コースと同一 コースです。
	① M4111 ② M4112 ③ M4113 ④ M4114	油圧実践技術	①6/3(水)~5(金) ②7/1(水)~3(金) ③8/26(水)~28(金) ④10/7(水)~9(金)	10	20,500	84	★
	① M4211 ② M4212	油圧システムの保全技術	①6/10(水)~12(金) ②7/29(水)~31(金)	10	20,500	85	★
測定	① M4311 ② M4312 ③ M4313	精密測定技術 (長さ測定編)	①6/11(木)~12(金) ②9/10(木)~11(金) ③10/13(火)~14(水)	12	10,500	85	★
	M4411	精密形状測定技術	9/24(木)~25(金)	8	15,000	86	
	M4511	三次元測定技術 (寸法測定編)	11月以降開講予定	6	20,000	86	★

● **管理系** (NEW は新規コース、RENEW は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11 月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
人材育成	① E4611 ② E4612	製造現場担当者の実践力向上 (職場のリーダーを目指そう)	①4/9(木)~10(金) ②10/22(木)~23(金)	20	10,000	88	
	E4711	現場監督者の実践力向上 (成果を出すリーダー育成)	6/9(火)~10(水)	20	10,000	88	★
	E4811	仕事と人を動かす現場監督者の育成 (リーダーシップ力の強化)	9/17(木)~18(金)	20	10,000	89	★
	E4911	戦略的現場管理者の育成 (できる管理者になろう)	7/16(木)~17(金)	20	10,000	89	★
	E5011	技能伝承のための部下・後輩指導育成 (OJT トレーナー育成)	9/28(月)~29(火)	20	10,000	90	★
品質管理	E5111	QC7つ道具活用による製造現場における品質改善・品質保証	8/3(月)~4(火)	20	10,000	90	★
	E5211	新QC7つ道具活用による製造現場における品質改善・品質保証	9/10(木)~11(金)	20	10,000	91	
	E5311	なぜなぜ分析による真の要因追求と現場改善	4/16(木)~17(金)	20	10,000	91	★
	E5411	なぜなぜ分析による製造現場の問題解決	5/14(木)~15(金)	20	10,000	92	★
	E5511	製造現場の問題解決力向上 (実践コース)	8/7(金)、9/4(金)	20	10,000	92	★

● **管理系** (**NEW** は新規コース、**RENEW** は内容刷新または再開講のコースです。) ★ 11 月以降にも開講予定があります。

分野	コース番号	コース名	日程	定員	受講料 (税込)	掲載 ページ	備考
品質管理	E5611	現場の問題解決実践 (5S の実践と定着)	4/20(月)~21(火)	20	10,000	93	★
	E5711	現場の安全確保 (5S) と生産性向上	5/27(水)~28(木)	20	10,000	93	★
	① M0411 ② M0412	製品設計におけるリスクマネジメント	①7/2(木)~3(金) ②9/3(木)~4(金)	10	19,500	94	★P65 掲載の コースと同一 コースです
	M0511	品質工学に基づくパラメータ設計実践技術	6/1(月)~3(水)	10	31,500	94	P66 掲載の コースと同一 コースです
生産管理	E5811	生産現場における現場改善技法	10/19(月)~20(火)	20	10,000	95	
	E5911	生産現場改善手法 (現場力向上)	8/27(木)~28(金)	20	10,000	95	★
	E6011	ヒューマンエラー対策実践 (ポカミスのない職場作り)	6/22(月)~23(火)	20	10,000	96	★
原価管理	E6111	原価管理から見た生産性向上	7/23(木)~24(金)	20	10,000	96	★
	E6211	コスト削減と製造現場の原価管理 (数字で現場の問題発見と解決)	8/20(木)~21(金)	20	10,000	97	★

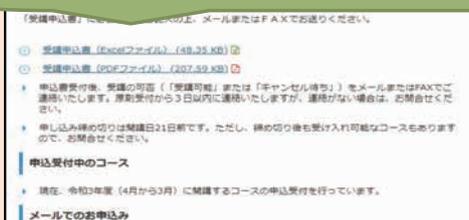
Webによる能力開発セミナー情報の検索

ポリテクセンター関東のWebサイトでは、最新の能力開発セミナーコース情報が確認できます。



<https://www3.jeed.go.jp/kanagawa/poly/seminar/index.html>

申込方法の確認、各種様式のダウンロードもできます！



最新の申し込み状況を確認できます！

コース番号	コース名	開催日時	開催場所	定員	備考
42021	製品設計の品質向上実践 (新コース) 製品設計の品質向上実践	4/27(火)	ポリテクセンター関東	20	受講料：一般参加費 4,000円 資料代 500円
40010	現場力向上実践 (新コース) 現場力向上実践	4/27(火)	ポリテクセンター関東	20	受講料：参加費 4,000円 資料代 500円
40012	現場力向上実践 (新コース) 現場力向上実践	4/27(火)	ポリテクセンター関東	20	受講料：参加費 4,000円 資料代 500円
40013	現場力向上実践 (新コース) 現場力向上実践	4/27(火)	ポリテクセンター関東	20	受講料：参加費 4,000円 資料代 500円
40014	現場力向上実践 (新コース) 現場力向上実践	4/27(火)	ポリテクセンター関東	20	受講料：参加費 4,000円 資料代 500円

● 居住系 建築・設備



◆ 設計 (CAD設計/3次元プレゼンテーション/リフォーム設計)

実践建築設計2次元CAD技術 【機器:AutoCAD】	16 ページ	施工図作成実践技術 【機器:AutoCAD】	17 ページ
実践建築設計2次元CAD技術 (コマンド編) 【機器:Jw_cad】 RENEW	16 ページ	実践建築設計2次元CAD技術 (建築図面編) 【機器:Jw_cad】 RENEW	17 ページ
実践建築設計3次元CAD技術 【機器:SketchUp Pro】	18 ページ		
実践建築設計3次元CAD技術 【機器:マイホームデザイナー PRO10】	18 ページ		
実践建築設計提案書作成技術 【機器:PowerPoint】	19 ページ		
住空間リフォーム設計 (概算費用算出編)	19 ページ		
住空間リフォーム設計 (収納計画編)	20 ページ		
住空間リフォーム設計 (コミュニケーションパス編)	20 ページ	住空間リフォーム設計 (提案実践編)	21 ページ
住空間リフォーム設計 (ペット共生住宅計画編)	21 ページ		
高齢者配慮住宅のリフォーム計画 実践技術	22 ページ		

セット受講おすすめ

セット受講おすすめ

◆ 構造

静定構造物の構造解析技術	22 ページ	不静定構造物の構造解析技術	23 ページ
建築構造設計実践技術	23 ページ		
		木造住宅における許容応力度設計 技術	24 ページ
地震被害から学ぶ木造住宅の 構造技術	24 ページ	木造住宅の構造安全性を考慮した 間取りと架構設計技術	25 ページ
鉄骨構造物における構造計算技術	25 ページ		
RC 構造物における構造計算技術	26 ページ	建築物のリニューアル・リノベーション のための構造設計技術	26 ページ

セット受講おすすめ

◆ 設備/省エネ

実習で学ぶ住宅設備技術(電気設備 住宅 躯体との納まりとリニューアル編)	28 ページ	実習で学ぶ住宅設備技術(電気設備 住宅躯体への工事編)	28 ページ
実習で学ぶ住宅設備技術(給排水・ 衛生設備 リペア編)	29 ページ	実習で学ぶ住宅設備技術(給排水・ 衛生設備 リペア実践編)	29 ページ
		実習でわかる省エネルギーの進め方 と対策技術	39 ページ

セット受講おすすめ

◆調査・点検・維持管理

住宅の維持管理・更新と点検技術	30 ページ
実習で学ぶ住宅の補修・修繕実践技術	30 ページ

ドローンを活用した建物劣化診断技術	31 ページ	ドローンを活用した建物赤外線劣化診断技術	31 ページ
-------------------	-----------	----------------------	-----------

◆構法／施工

実習で学ぶ住宅性能と架構・建方(部材編)	32 ページ	継手・仕口の製作実践技術	27 ページ	隅木・振垂木の施工実践技術	27 ページ
実習で学ぶ住宅性能と架構・建方(建方編)	33 ページ				
実習で学ぶ住宅性能と下地(内部下地編)	33 ページ				
実習で学ぶ住宅性能と下地(外部下地編)	34 ページ				
実習で学ぶ住宅性能と仕上げ(外部仕上げ編)	34 ページ				
実習で学ぶ住宅性能と仕上げ(内部仕上げ編)	35 ページ				

◆空調設備

冷媒配管の施工と空調機器据付け技術	37 ページ
冷媒配管の加工・接合技術	37 ページ
冷凍空調設備の故障診断と予防保全	38 ページ

◆保全／設備管理

現場のための電気保全技術	38 ページ
自家用電気工作物の高圧機器技術	39 ページ

推奨コースフロー

(必ずしもこの流れで受講しなくても差し支えありません)



●電気・電子系



◆電子回路

電子回路の計測技術(実践計測オシロスコープ・テスト編)	40 ページ		
トランジスタ回路の設計・評価技術(アナログ回路トランジスタ編)	40 ページ	オペアンプ回路の設計・評価技術(アナログ回路 OPアンプ編)	41 ページ
FET回路の設計・評価技術(アナログ回路 FET編)	41 ページ	実践センサ活用技術(マイコンインタフェース編)	48 ページ
シミュレータを活用したアナログ回路設計技術(アナログ回路シミュレーション編)	42 ページ	オペアンプ回路の設計・評価技術(アナログ回路 OPアンプ編)	41 ページ
		実習で学ぶ高性能AD/DA変換回路設計技術	46 ページ

デジタル回路設計技術	42 ページ	HDLによる回路設計技術 (デジタル回路設計 VHDL編)	43 ページ		
EMC対策のための電磁気学	44 ページ	電子回路から発生するノイズ対策技術 (デジタル電子回路 ノイズ対策編)	45 ページ	アナログ・デジタル混在回路に おけるノイズ対策技術	45 ページ
基板製作に係る鉛フリーはんだ付け 技術 (鉛フリーはんだ付け編)	43 ページ				
電子回路製作と実装技術	44 ページ				

◆パワーエレクトロニクス

電子回路の計測技術 (実践計測 オシロスコープ・テスタ編)	40 ページ
トランジスタ回路の設計・評価技術 (アナログ回路 トランジスタ編)	40 ページ
FET回路の設計・評価技術 (アナログ回路 FET編)	41 ページ

◆組み込み

組み込み技術者のためのプログラミング (C言語 IoTスタートアップ)	46 ページ	機械制御のためのマイコン実践技術 (C言語 PICマイコン編)	48 ページ	オブジェクト指向による組み込みプログラム 開発技術 (C++言語 IoTスタートアップ)	47 ページ
実践センサ活用技術 (マイコンインタフェース編)	48 ページ			CANインタフェース技術 (マイコン 技術者のためのCANインタフェース 技術)	49 ページ
				マイコンを用いたワイヤレス通信 システム構築	49 ページ
組み込み技術者のためのプログラミング (Python言語 ICTスタートアップ)	47 ページ	オープンソフトウェアライブラリを 用いた人工知能 (AI) 活用技術	50 ページ		
組み込み技術者のためのプログラミング (C言語 IoTスタートアップ)	46 ページ	組み込みLinuxによるTCP/IP通信 システム構築 (組み込みLinux活用 技術 TCP/IP編)	50 ページ		
組み込みソフトウェア開発者のための テスト技法	51 ページ	組み込みソフトウェア開発者のための コーディング作法とレビュー技術	51 ページ		

◆スマートフォン・タブレット・ネットワーク

タブレットを活用したシステム構築 (ICT向け OS活用技術 Android Java編)	52 ページ	タブレット型端末を利用した通信システム構築 (ICT向けOS通信技術 Android編)	53 ページ
タブレットを活用したシステム構築 (ICT向け OS活用技術 Android Kotlin編)	52 ページ		
製造現場におけるLAN活用技術	53 ページ		

◆制御工学

制御解析手法 (フィードバック制御編)	54 ページ		
シミュレーションで学ぶ古典制御と 現代制御	55 ページ	PID制御によるサーボ制御技術	55 ページ
		デジタルサーボ制御技術	56 ページ
		ロバスト制御によるサーボ制御技術	56 ページ

◆自動計測 / 信号処理

パソコンによる計測制御システム技術 (計測制御 RS-232C、GPIB編)	54 ページ
---	-----------

◆電動機／シーケンス制御／その他のアクチュエータ制御

有接点シーケンス制御の実践技術 57 ページ	シーケンス制御による電動機制御技術 58 ページ	PLCによるサーボモータ制御の実務 60 ページ
PLCプログラミング技術 【機器：三菱PLC Fシリーズ】 58 ページ	PLC制御の回路技術 【機器：三菱PLC Qシリーズ】 59 ページ	PLCによるタッチパネル活用技術 59 ページ
	協働ロボットプログラミング制御技術 61 ページ	協働ロボットを活用した自動化システム構築技術 62 ページ
小型モータの制御回路技術 (モータの特性と制御回路編) 57 ページ		
電動機のインバータ活用技術 60 ページ		
空気圧設備の保全と省エネルギー対策技術 61 ページ		

推奨コースフロー

(必ずしもこの流れで受講しなくても差し支えありません)



●機械系

専門性の高さ

◆機械製図／設計

実践機械製図（形状編） 64 ページ	実践機械製図（寸法編） 64 ページ	機械設備設計のための総合力学 65 ページ
鉄鋼材料の熱処理技術 66 ページ		製品設計におけるリスクマネジメント 65 ページ
		品質工学に基づくパラメータ設計 実践技術 66 ページ
		設計・施工管理に活かす溶接技術 80 ページ

◆2DCAD AutoCAD

2次元CADによる機械設計技術（製図手法編） 67 ページ	2次元CADによる機械設計技術（図面構築手法編） 67 ページ
-------------------------------------	---------------------------------------

◆3DCAD SolidWorks 2025

設計ツールによるモデリング技術 68 ページ	3次元CADを活用したアセンブリ技術 68 ページ	設計ツールを活用した製品設計技術（テクニカルソリッドモデリング編） 69 ページ
		3次元CADを活用したサーフェスマデリング技術 69 ページ
		CAEを活用した構造解析技術（モデル化実践編） 70 ページ
		公差設計技術 70 ページ

◆3DCAD CATIA V5 2025

設計ツールによるモデリング技術 71 ページ	3次元CADを活用したアセンブリ技術 71 ページ	3次元CADを活用したサーフェスマデリング技術 72 ページ
		CAEを活用した構造解析技術（モデル化実践編） 72 ページ

◆3DCAD NX 2506

設計ツールによるモデリング技術	73 ページ	3次元CADを活用したアセンブリ技術	73 ページ
-----------------	-----------	--------------------	-----------

◆射出成形

プラスチック射出成形品の設計	74 ページ	プラスチック射出成形金型設計技術	74 ページ	ホットランナー金型設計技術	75 ページ
				プラスチック射出成形金型設計技術 (トラブル要因と対策)	75 ページ NEW

◆汎用加工、切削理論

旋盤精密加工技術	76 ページ	旋削加工の理論と実際	77 ページ
フライス盤加工技術	76 ページ	フライス加工の理論と実際	77 ページ

◆切削理論、NC加工

NC旋盤プログラミング技術 (プログラム～加工編)	78 ページ	旋削加工の理論と実際	77 ページ
マシニングセンタプログラミング技術 (プログラム～加工編)	78 ページ	フライス加工の理論と実際	77 ページ
		穴加工の最適化技術 (マシニングセンタ編)	79 ページ
		切削工具の使い方・選び方によるトラブル回避法 (マシニングセンタ編)	79 ページ NEW
		カスタムマクロによるNCプログラミング技術	80 ページ

◆溶接

設計・施工管理に活かす溶接技術	80 ページ
ステンレス鋼のTIG溶接技能クリニック	81 ページ
アルミニウム合金のTIG溶接技能クリニック	81 ページ
半自動アーク溶接技能クリニック	82 ページ

◆保全／油空圧

生産現場の機械保全技術	82 ページ	空気圧機器の保全 (メンテナンスとトラブルシューティング)	83 ページ
空気圧実践技術	83 ページ	空気圧設備の保全と省エネルギー対策技術	84 ページ
油圧実践技術	84 ページ	油圧システムの保全技術	85 ページ

◆測定

精密測定技術 (長さ測定編)	85 ページ	精密形状測定技術	86 ページ
		三次元測定技術 (寸法測定編)	86 ページ

●管理系

専門性の高さ

◆人材育成

リーダー・主任クラス

管理職

製造現場担当者の実践力向上
(職場のリーダーを目指そう) **88**
ページ

現場監督者の実践力向上
(成果を出すリーダー育成) **88**
ページ

戦略的現場管理者の育成
(できる管理者になろう) **89**
ページ

仕事と人を動かす現場監督者の育成
(リーダーシップ力の強化) **89**
ページ

技能伝承のための部下・後輩指導育成 (OJTトレーナー育成) **90**
ページ

◆品質管理

なぜなぜ分析による真の要因追求
と現場改善 **91**
ページ

なぜなぜ分析による製造現場の
問題解決 **92**
ページ

製造現場の問題解決力向上
(実践コース) **92**
ページ

QC7つ道具活用による製造現場
における品質改善・品質保証 **90**
ページ

新QC7つ道具活用による製造現場
における品質改善・品質保証 **91**
ページ

製品設計におけるリスクマネジメント **94**
ページ

現場の問題解決実践
(5Sの実践と定着) **93**
ページ

現場の安全確保 (5S) と
生産性向上 **93**
ページ

品質工学に基づくパラメータ設計
実践技術 **94**
ページ

◆生産管理

生産現場における現場改善技法 **95**
ページ

生産現場改善手法
(現場力向上) **95**
ページ

ヒューマンエラー対策実践
(ポカミスのない職場作り) **96**
ページ

◆原価管理

コスト削減と製造現場の原価管理
(数字で現場の問題発見と解決) **97**
ページ

原価管理から見た生産性向上 **96**
ページ

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



2次元CADシステムで建築製図をしよう！ 実践建築設計2次元CAD技術 【機器：AutoCAD】



受講対象者 建築図面作成業務に従事する方

概要		カリキュラム内容		AutoCAD	
<p>実践的な建築図面作成業務の効率化および図面データの高品質化をめざして、設計・製図支援システム (AutoCAD) による実践的な製図方法について習得します。</p>		<p>1. 建築一般図と詳細図 (1) 建築一般図について (各種図面概要、縮尺等) (2) 建築詳細図について (各種図面概要、縮尺等) (3) その他 (構造図等) (4) 建築図面作成におけるCADシステムの役割 (5) 実践的な建築図面作成の要点 (6) 図面作成の準備 イ. 用紙・図面尺度、図面範囲設定、レイヤ設定 ロ. 線種と線種設定 (7) 図面作成 イ. 図面の要素、作図 ロ. 記号、寸法等 (8) 図面修正・データ整理 イ. 印刷図面と図面表現の確認 ロ. 図面表現の訂正・修正等 (9) 図面管理の検討</p> <p>2. 種々の図面の構築手法 (1) 図面間でのデータ活用 イ. ブロック図形データの活用 ロ. ファイルの共有化の活用 (2) 尺度の考え方</p>		<p>(3) 異尺度混合図面の構築方法と環境設定</p> <p>3. 演習課題 (1) 建築一般図演習課題 (2) 個々に応じた効率的な図面作成方法の提案</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師				
定員	8	受講料	9,500円		
コース番号	H0111				
日程	7/6(月)~7(火)				
時間	9:15~16:00 (休憩45分間含) 2日間 計12時間				
使用機器等	パソコン一式、資料提示装置、AutoCAD				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

- CADに関する知識を身につけることができました。
- わかりやすいテキストに加え、練習する課題もいただけたので、自学習でさらに身につけることが可能なので、うれしいです。
- 知見を広げることができました。CADソフトによる操作方法の違いを体験できようになりました。



2次元CADシステムで建築製図をしよう！ 実践建築設計2次元CAD技術 (コマンド編) 【機器：Jw_cad】

RENEW

受講対象者 建築図面作成業務に従事する方

概要		カリキュラム内容		Jw_cad	
<p>実践的な建築図面作成業務の効率化および図面データの高品質化をめざして、設計・製図支援システム (Jw_cad) による実践的なコマンド操作や各種設定方法について習得します。</p>		<p>1. 建築一般図と詳細図 (1) 建築一般図について (各種図面概要、縮尺等) (2) 建築詳細図について (各種図面概要、縮尺等) (3) その他 (構造図等) (4) 建築図面作成におけるCADシステムの役割 (5) 実践的な建築図面作成の要点 (6) 図面作成の準備 イ. 用紙・図面尺度、図面範囲設定、レイヤ設定 ロ. 線種と線種設定 (7) 図面作成 イ. 図面の要素、作図 ロ. 記号、寸法等 (8) 図面修正・データ整理 イ. 印刷図面と図面表現の確認 ロ. 図面表現の訂正・修正等 (9) 図面管理の検討</p> <p>2. 種々の図面の構築手法 (1) 図面間でのデータ活用 イ. ブロック図形データの活用 ロ. ファイルの共有化の活用 (2) 尺度の考え方</p>		<p>(3) 異尺度混合図面の構築方法と環境設定</p> <p>3. 演習課題 (1) 建築一般図演習課題 (2) 個々に応じた効率的な図面作成方法の提案</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師				
定員	10	受講料	7,500円		
コース番号	H0211				
日程	7/9(木)~10(金)				
時間	9:15~16:00 (休憩45分間含) 2日間 計12時間				
使用機器等	パソコン一式、資料提示装置、Jw_cad				
受講者持参品	筆記用具				

★ Jw_cad シリーズ
『実践建築設計2次元CAD技術 (建築図面編)』(P17)
のセット受講をお勧めします。

参加受講者の声

- 図面の正確な理解に繋がりました。
- CADコマンドの全般を学び、スムーズに動かせる様になりました。
- 教えてもらわないと分からないテクニックなどが良かったです。
- 図面作成方法が理解できたので、今後自分で学習する基礎力がつきました。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



2次元CADシステムで建築製図をしよう！

実践建築設計 2次元CAD技術 (建築図面編)

【機器：Jw_cad】

RENEW

受講対象者 「実践建築設計 2次元CAD技術 (コマンド編)」を受講された方、または、それと同等の知識を有する方

概要		カリキュラム内容		Jw_cad
<p>実践的な建築図面作成業務の効率化および図面データの高品質化をめざして、設計・製図支援システム (Jw_cad) による実践的な建築図面の作図方法について習得します。</p>		<p>1. 建築一般図と詳細図 (1) 建築一般図について (各種図面概要、縮尺等) (2) 建築詳細図について (各種図面概要、縮尺等) (3) その他 (構造図等) (4) 建築図面作成におけるCADシステムの役割 (5) 実践的な建築図面作成の要点 (6) 図面作成の準備 イ. 用紙・図面尺度、図面範囲設定、レイヤ設定 ロ. 線種と線種設定 (7) 図面作成 イ. 図面の要素、作図 ロ. 記号、寸法等 (8) 図面修正・データ整理 イ. 印刷図面と図面表現の確認 ロ. 図面表現の訂正・修正等 (9) 図面管理の検討</p>		<p>(3) 異尺度混合図面の構築方法と環境設定</p>
<p>3. 演習課題 (1) 建築一般図演習課題 (2) 個々に応じた効率的な図面作成方法の提案</p>	<p>★ Jw_cad シリーズ 『実践建築設計 2次元CAD技術 (コマンド編)』(P16) のセット受講をお勧めします。</p>			
<p>予定講師</p>	<p>ポリテクセンター関東 講師</p>			
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>7,500 円</p>	
<p>コース番号</p>	<p>H0311</p>			
<p>日程</p>	<p>7/23(木)～24(金)</p>			
<p>時間</p>	<p>9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間</p>			
<p>使用機器等</p>	<p>パソコン一式、資料提示装置、Jw_cad</p>			
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>			



鉄筋コンクリート造における生産設計図面の見方、描き方のノウハウについて学びたい方

施工図作成実践技術

【機器：AutoCAD】

土日開催

受講対象者 鉄筋コンクリート造建築物の生産設計業務に従事する方

概要		カリキュラム内容		AutoCAD
<p>建築現場において建築物をつくるために必要な要素が描き込まれる生産設計図面を設計者の意図を分かりやすく表現力豊かに作図するための基礎的なノウハウについて習得します。</p>		<p>1. 躯体工事の施工計画と施工図 (1) 施工計画と施工管理 (2) 施工計画と設計変更 (3) 躯体工事チェックリスト (4) 躯体施工図の表記法 (5) 躯体工事の作成手順と要点</p>		
<p>予定講師</p>	<p>ポリテクセンター関東 講師</p>			
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>8,000 円</p>	
<p>コース番号</p>	<p>H0411</p>			
<p>日程</p>	<p>8/22(土)～23(日)</p>			
<p>時間</p>	<p>9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間</p>			
<p>使用機器等</p>	<p>パソコン一式、資料提示装置、AutoCAD</p>			
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>			

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



プレゼンテーション用のパースを作成 実践建築設計 3次元CAD技術 【機器：SketchUp Pro】



土日開催

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方でプレゼンツール (SketchUp) の利用法に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容		SketchUp Pro
<p>施主に対する提案を可視化する3次元の設計手法や、各種建築図面・パースの活用技術について習得します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 設計条件の設定 <ol style="list-style-type: none"> 与条件の確認 制約条件の確認 構想とエスキス <ol style="list-style-type: none"> 設計方針 ボリュームチェック 配置・平面・断面のゾーニング プランニング (グリッドプランニング・分割プランニング) 各部材等の入力 <ol style="list-style-type: none"> 敷地の入力 柱・壁・梁・床・天井 テクスチャーの決定 柱・壁・梁・床・天井 入力 提案書の作成 <ol style="list-style-type: none"> 配置図・各階平面図・断面図・立面図作成 3次元モデリングの作成 パースの作成 		
予定講師	ポリテクセンター関東 講師			
定員	12	受講料	7,000円	
コース番号	H0511			
日程	9/12(土)~13(日)			
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間			
使用機器等	パソコン一式、資料提示装置、SketchUp Pro			
受講者持参品	筆記用具			

参加受講者の声

- 自力でやろうとした時にうまくできなかったが、講習でとてもスムーズにできるようになりました。
- 一人ではなかなか立ち向かえなかった SketchUp のスキルを何とか得られたと思うとうれしい。忘れないうちに実務で使いたいです。
- 効率的な作業方法、オブジェクトの組み立ての考え方を学べました。
- わかりやすいテキストと、ていねいなご指導で大変充実した2日間となりました。



プレゼンテーション用のパースを作成、VRを活用したプレゼン方法がわかる。 実践建築設計 3次元CAD技術 【機器：マイホームデザイナー PRO10】

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方でプレゼンツール (マイホームデザイナー) の利用法に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容		マイホームデザイナー PRO10
<p>施主に対する提案を可視化する3次元の設計手法や、各種建築図面・パースの活用技術について習得します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 設計条件の設定 <ol style="list-style-type: none"> 与条件の確認 制約条件の確認 構想とエスキス <ol style="list-style-type: none"> 設計方針 ボリュームチェック 配置・平面・断面のゾーニング プランニング (グリッドプランニング・分割プランニング) 各部材等の入力 <ol style="list-style-type: none"> 敷地の入力 柱・壁・梁・床・天井 テクスチャーの決定 柱・壁・梁・床・天井 入力 提案書の作成 <ol style="list-style-type: none"> 配置図・各階平面図・断面図・立面図作成 3次元モデリングの作成 パースの作成 DX活用 <ol style="list-style-type: none"> VR活用 メタバース活用 		<p>(3) クラウド活用</p>
予定講師	ポリテクセンター関東 講師 メガソフト株式会社 井町 良明 氏			
定員	10	受講料	9,000円	
コース番号	H0611			
日程	5/18(月)~19(火)			
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間			
使用機器等	パソコン一式、資料提示装置、マイホームデザイナー PRO10、VR装置一式			
受講者持参品	筆記用具			

参加受講者の声

- VRが初めてだったので想像しているより現実味があってよかったです。
- 設計条件を知らずに苦闘していたのですが、今回の学びで修得したため、つまづく事が少なくなりそうです。3Dモデルを使う事により良いプレゼンができそうです。
- 知らない操作方法など能力の向上ができました。今後このようなセミナーがあることを知人に知らせてあげたいと思いました。

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



身近なソフトでも、驚くほどのプレゼン資料が作成できます

実践建築設計提案書作成技術

【機器：PowerPoint】

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方でプレゼンツール（PowerPoint）の活用法に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容		PowerPoint
身近な汎用性ソフト、PowerPoint。図、写真、文字のレイアウトや、文字使い、配色などの伝わるルールを用いればお客様への提案が変わります。効果的なプレゼン手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> レイアウト <ol style="list-style-type: none"> 効果的な文章の段組みについて <ol style="list-style-type: none"> 段組みの幅・形状及び変更方法 視認性の高いタイトルについて <ol style="list-style-type: none"> 文字の配置基準・配置位置及び変更方法 図版の形状、配置位置の検討及びトリミング方法 綴じ方向（余白代）及び用紙サイズ標準 色彩と配色 <ol style="list-style-type: none"> 印刷物に欠かせない「色彩」について <ol style="list-style-type: none"> 色彩・明度・彩度、色の三要素 色覚バリアフリー 文字使い <ol style="list-style-type: none"> 文章の可読性・視認性・判読性要素について <ol style="list-style-type: none"> 文字要素（タイトル・見出し・本文・キャプション） 文字フォント（種類・特徴） 引出線の使用 <ol style="list-style-type: none"> 引出線形状、配置 <ol style="list-style-type: none"> 図版との関係、配置について 画像処理 <ol style="list-style-type: none"> ラスター画像について ベクター画像について プレゼンテーション資料の作成実習 <ol style="list-style-type: none"> 要素配置のスペース検討 <ol style="list-style-type: none"> グリッドレイアウト 図版配置バランス 文字スタイル検討、インデックス・ノンブル プレゼンテーション <ol style="list-style-type: none"> 受講者によるプレゼンテーション 		
予定講師	ポリテクセンター関東 講師			
定員	12	受講料	9,000円	
コース番号	H0711			
日程	11月以降開講予定			
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間			
使用機器等	パソコン一式、資料提示装置、PowerPoint			
受講者持参品	筆記用具			

参加受講者の声

- 分かりやすいテキストや講師の説明も丁寧で、理解が大変深まりました。
- 今まで知らなかった使い方を学ぶことができ、すぐ仕事に活かせると感じました。
- 目的に合わせた操作の方法を指導して下さったので、スムーズに受けられました。



お客様がすぐに知りたい「概算費用」 オリジナルシートを活用すれば簡単に算出。お客様納得のご提案を。

住空間リフォーム設計（概算費用算出編）

受講対象者 リフォーム業に従事する方、これから「リフォームコスト算出、リフォーム提案」を担当される方

概要		カリキュラム内容		
契約時、お客様が気になる概算費用。現場調査の調査事例から実物件を現場調査。実践的手法から、お客様のニーズに合わせた提案のためのプランニング手法、概算費用算出に必要な技術を習得し、お客様に納得していただけるご提案ができるスキルを身につけます。		<ol style="list-style-type: none"> 住空間リフォーム計画 <ol style="list-style-type: none"> 住空間リフォーム需要 <ol style="list-style-type: none"> 住空間リフォーム市場について 住空間リフォームの需要分析 住空間リフォーム工事の特徴と課題 住空間リフォーム計画 <ol style="list-style-type: none"> 部屋別要望調査 単部位リフォームから複合部位リフォームへの展開 現場調査知識 <ol style="list-style-type: none"> 現場調査の方法とポイント <ol style="list-style-type: none"> 調査時の確認内容 現場調査シートの活用法 キッチン調査事例・浴室調査事例 実物件での現場調査 住空間リフォーム設計技術 <ol style="list-style-type: none"> 施主ニーズ分析 <ol style="list-style-type: none"> 調査事例 効率的な建築図面の読み方 生活提案型プランニングの考え方 商品選定とプランニング向上手法 概算費用算出 <ol style="list-style-type: none"> 住空間リフォームのコストデザイン 		<ol style="list-style-type: none"> 住空間リフォーム業務において概算費用算出の重要性 商品知識 概算費用算出シートの活用法 概算費用算出シートの応用法
予定講師	ブランドゥ プラス 代表 太田 正美氏			
定員	12	受講料	15,500円	
コース番号	H0811			
日程	6/3(水)～4(木)			
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間			
使用機器等				
受講者持参品	筆記用具、電卓（スマートフォンの計算機アプリも可）、使い慣れたコンベックス・A4バインダー・視調用スリッパ 必要であれば			



概算費用算出実習

参加受講者の声

- 見積を作成する際どの寸法を測るべきか等業者まかせにしていた部分を知ることができました。
- どのような工事工程があるのか、全く把握できていないことに気が付きました。見積の作り方も勉強になりました。
- 採寸方法や、マナーなどについても、実際に体験することで学ぶことが多かったです。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

お客様の悩みベスト3の「収納」をリフォーム提案に。「収納」をモノ、動線、動作から考える。



住空間リフォーム設計（収納計画編）

受講対象者 リフォーム業に従事する方、これから「リフォーム提案」を担当される方

概要		カリキュラム内容	
<p>住まいでお客様の悩みが多い「収納」。「収納」をモノ、動線、動作から考える、収納プランニング。 既存の間取の問題点を読み取り、片付かない原因や解決策を検討。お客様の悩みを解決する、長くきれいが保つ、使いやすい収納プランニング技術を習得します。</p>		<p>1. 住空間リフォーム計画 (1) 住空間リフォーム需要 イ. 住空間リフォーム市場について ロ. 住空間リフォームの需要分析 ハ. 住空間リフォーム工事の特徴と課題 (2) 住空間リフォーム計画 イ. 部屋別要望調査 ロ. 単部位リフォームから複合部位リフォームへの展開</p>	
予定講師	ブランドゥ プラス 代表 太田 正美氏	<p>イ. 住空間の製品サイズ ロ. 生活モジュール (3) 収納物 イ. 収納物の性格、要素</p>	
定員	12	受講料	15,500円
コース番号	H0911		
日程	10/21(水)～22(木)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等			
受講者持参品	筆記用具		
		<p>2. 収納計画 (1) 住空間収納プランニング イ. 人、モノ、住まいの関係 ロ. 既存住宅の問題点 ハ. 住空間の不満足因の分析 ニ. 間取りから検討する収納計画 (2) 収納へのアプローチ イ. 生活から要求を取り出す ロ. 集合住宅と戸建住宅の相違点</p>	
		<p>3. 細部計画 (1) 住空間の寸法計画 イ. 住空間における動線の分析 ロ. ヒューマンスケール、動作寸法の検討 (2) 住空間の機能寸法計画</p>	
		<p>4. 課題実習 (1) リフォームに繋がる収納プラン提案</p>	
		<p>5. 成果発表 (1) 課題のプレゼンテーション (2) 質疑応答とディスカッション</p>	
		<p>★リフォーム実践シリーズ 『概算費用算出編』(P19) 『コミュニケーションパス編』(P20) 『ペット共生住宅計画編』(P21) のセット受講をお勧めします。</p>	
		<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今まで発想しなかった新たな視点が得られました。 ●収納の悩みの解決する入口を学べて良かったです。 ●講座を機に、重要性、ニーズを実感し、仕事として収納からのアプローチを再考するきっかけになりました。 	

受注への近道！フリーハンドで描く「コミュニケーションパス」お客様のイメージをより具体的に！



住空間リフォーム設計（コミュニケーションパス編）

受講対象者 リフォーム業に従事する方、これから「リフォーム提案」を担当される方

概要		カリキュラム内容	
<p>住空間リフォーム提案力アップに繋がる、趣のある手描きでのコミュニケーションパス。お客様とイメージを共有するため、コミュニケーション・会話しながら作成します。リフォーム後のイメージや現場でのイメージがぐっとわかりやすくなる、パス技術を習得します。</p>		<p>1. 住空間リフォーム計画 (1) 住空間リフォーム需要 イ. 住空間リフォーム市場について ロ. 住空間リフォームの需要分析 ハ. 住空間リフォーム工事の特徴と課題 (2) 住空間リフォーム計画 イ. 部屋別要望調査 ロ. 単部位リフォームから複合部位リフォームへの展開</p>	
予定講師	ブランドゥ プラス 代表 太田 正美氏	<p>ロ. 住空間リフォーム業務の効果的な打合せ</p>	
定員	12	受講料	17,000円
コース番号	H1011		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等			
受講者持参品	筆記用具		
		<p>2. 提案平面図作図手法 (1) 施主に伝わるプレゼンボード イ. ターゲット分析 ロ. ターゲットを考慮したプレゼンテーション手法 (2) 平面図作図手法 イ. CGとは異なるフリーハンドのメリット ロ. マーカー着彩技法 ハ. 色鉛筆着彩技法 (3) フリーハンドプレゼンテーションボード作成実習</p>	
		<p>2. 提案平面図作図手法 (1) 施主に伝わるプレゼンボード イ. ターゲット分析 ロ. ターゲットを考慮したプレゼンテーション手法 (2) 平面図作図手法 イ. CGとは異なるフリーハンドのメリット ロ. マーカー着彩技法 ハ. 色鉛筆着彩技法 (3) フリーハンドプレゼンテーションボード作成実習</p>	
		<p>3. コミュニケーションパス作成手法 (1) コミュニケーションパスとは イ. ターゲットを考慮したコミュニケーション手法</p>	
		<p>4. 成果発表 (1) 課題のプレゼンテーション (2) 質疑応答とディスカッション</p>	
		<p>★リフォーム実践シリーズ 『概算費用算出編』(P19) 『収納計画編』(P20) 『ペット共生住宅計画編』(P21) のセット受講をお勧めします。</p>	
		<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今までは、CADで図面作成をしていましたが、手書きのパスを学んだことでさらにイメージがわくようになりました。 ●イメージの伝達に役立てると思います。 ●新しい顧客へのアプローチができる可能性を感じました。 	

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



大切な家族のペットとともに暮らす家づくりの提案を。

住空間リフォーム設計（ペット共生住宅計画編）

受講対象者 リフォーム業に従事する方、これから「リフォーム提案」を担当される方

概要		カリキュラム内容	
<p>ペットは大切な家族。「ペットと暮らす家づくりの提案」の商品価値が高まっています。リフォーム拡大提案に繋がるペット共生住宅計画における、住環境整備のポイントやプランニング技術を習得します。</p>		<p>1. 概要 (1) ペット共生住宅とは何か (2) 関連団体のガイドライン</p> <p>2. ペット共生住宅の基本的な住環境整備 (1) 動物別の環境整備のポイント イ. 犬 ロ. 猫 ハ. 小動物・鳥 (2) 住環境整備のポイント イ. 安全対策 ロ. 内装対策 ハ. ペットストレス対策 ニ. 騒音対策 ホ. 衛生・健康対策 ヘ. 災害対策・防災対策</p> <p>3. ペット共生集合住宅の計画 (1) 集合住宅基本計画 イ. 共用部分計画 ロ. 各住戸部分計画 ハ. 設備計画 (2) 集合住宅管理運営計画 イ. 適正飼養の遵守体制</p>	
<p>予定講師</p>	<p>ブランドゥ プラス 代表 太田 正美氏</p>	<p>4. 衛生管理体制 ハ. 情報共有体制</p> <p>4. ペット共生施設の計画 (1) 事例研究 イ. ペットツーリズム ロ. 宿泊施設</p> <p>5. 課題実習 (1) ペット共生住宅計画に関する実習 イ. 予測される問題点確認 ロ. 問題解決プラン提案</p>	
<p>定員</p>	<p>12</p>	<p>受講料</p>	<p>15,500円</p>
<p>コース番号</p>	<p>H1111</p>		
<p>日程</p>	<p>11月以降開講予定</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p></p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		



参加受講者の声

- 今までふんわりとしか話せなかった犬種の話や、ワンランク上のレベルでお客様に話せるようになりました。ペット用の商品が実際のところはどうなのか、また、全く知らなかった商品を知ることができて本当に良かったです。
- 具体的な商品も知ることができました。

★リフォーム実践シリーズ
 『概算費用算出編』(P19)
 『コミュニケーションパス編』(P20)
 『収納計画編』(P20)
 のセット受講をお勧めします。



お客様にわかりやすく！契約に繋がりたい！リフォーム提案を見積、コミュニケーションパスを用いて実践的に

住空間リフォーム設計（提案実践編）

受講対象者 住空間リフォーム設計のシリーズを受講された方 リフォーム業に従事し提案に携わる方

概要		カリキュラム内容	
<p>お客様のニーズや現状把握、ポイントを押さえた現場調査をもとに、リフォーム設計、概算費用の算出、コミュニケーションパスを用いた、お客様にわかりやすく、イメージしやすい、契約に結び付く提案の実践的な技術を習得します。</p>		<p>1. 住空間リフォームのためのヒアリング (1) 住空間リフォームのためのヒアリング イ. 部屋別要望調査 (2) 施主ニーズ調査・問題点の洗い出し (3) 現場調査の方法とポイント・確認内容</p> <p>2. 現場調査実習 (1) 現場調査と要望確認 イ. 現場調査シートを活用した現場調査 ロ. 現場調査のポイント * 事例図面と写真での演習を行います</p> <p>3. 住空間リフォーム設計技術 (1) 住空間リフォーム設計 イ. 単部位リフォームから複合部位リフォームへの展開 (2) 生活提案型プランニング (3) 商品選定とプランニング向上手法</p> <p>4. 概算費用算出の重要性 (1) 住空間リフォームの概算費用算出 イ. 住空間リフォーム業務において概算費用算出の重要性</p> <p>5. 提案書作成実習 (1) 住空間リフォームの提案書作成実習</p>	
<p>予定講師</p>	<p>ブランドゥ プラス 代表 太田 正美氏</p>	<p>6. 提案実習 (1) コミュニケーションパスを使用した提案実習 イ. お客様へのプレゼンテーション (2) 質疑応答とディスカッション</p>	
<p>定員</p>	<p>12</p>	<p>受講料</p>	<p>15,500円</p>
<p>コース番号</p>	<p>H1211</p>		
<p>日程</p>	<p>11月以降開講予定</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p></p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具、電卓（スマートフォンの計算機アプリも可）</p>		

★リフォーム実践シリーズ
 『概算費用算出編』(P19)
 『コミュニケーションパス編』(P20)
 『収納計画編』(P20)
 『ペット共生住宅計画編』(P21)
 のセット受講をお勧めします。

参加受講者の声

- コンベックスの使い方から図面への計測数値の書き方、パスの書き方、お客さまへの提案方法などすぐに実践で使うことができることを教えていただけ勉強になりました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



高齢者や障害者にやさしい住まいについて学ぶ。

高齢者配慮住宅のリフォーム計画実践技術

受講対象者 建築分野の業務に携わる方で福祉住環境についての知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>高齢者の特性や介護問題を理解し、高齢者に配慮した住環境整備に必要な知識・手法等を習得します。</p>		<p>1. 高齢者社会と居住環境 (1) 高齢者の疾病と医療 (2) 高齢者のリハビリと医療 (3) 老人福祉対策 (4) 諸外国と日本の違い (5) 高齢者医療の事例</p> <p>2. 医療の関係者からみた高齢者への取り組み (1) 補助器具と住宅改造 (2) 生活改善としての住宅改造 (3) 技術支援プロセスと医療専門職の関係 (4) 医療専門職とどう連携するか</p> <p>3. 高齢者対応空間と住宅設備機器 (1) 商品開発の歴史 (2) 高齢者社会に向けての取り組み (3) 浴室、トイレ設計のポイント (4) 福祉用具</p> <p>4. 高齢者に配慮したリフォーム計画 (1) 高齢者配慮リフォームの目的 (2) 高齢者住宅のリフォームの組立て方 (3) 高齢者の特性 (4) 改造のポイント (5) 設備計画と照明計画 (6) 具体的事例</p> <p>(7) 今後の課題</p> <p>5. 設計実習 (1) 課題説明 (2) リフォーム設計実習 (3) 申請方法の習得 (4) 資金計画</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	15	受講料	5,500円
コース番号	H1311		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等			
受講者持参品	筆記用具		



構造力学の初学者および苦手な方！ 例題解説と演習問題を反復して習得をめざす！

静定構造物の構造解析技術

土日開催

受講対象者 建築分野の業務に携わる方で構造力学に関する基礎および解法を身につけたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>「力のつり合い」、「反力」、「応力」などを求める行為は、構造計算をマスターする上で、最も重要で基礎的な知識となります。 本セミナーでは、単純な静定構造物の例題解説及び課題演習を通して、構造計算に必要な力学の基本事項の習得を目指します。</p>		<p>1. 建築構造物のモデル化と反力 (1) 建築構造物のモデル化 (2) 静定構造物の反力</p> <p>2. 静定構造物の応力解析 (1) 応力の種類と向き (2) 静定はり (3) 静定ラーメン (4) 静定トラス</p> <p>3. 応力と変形 (1) 軸方向応力と変形 (2) せん断力応力と変形 (3) 曲げ応力と変形</p> <p>4. 断面の諸性能 (1) 断面1次モーメントと図心 (2) 断面2次モーメントと曲げ応力度 (3) 断面相乗モーメントと主軸</p> <p>5. 許容応力度設計 (1) 許容応力度設計法と耐震設計 (2) 曲げに対する設計 (3) せん断に対する設計 (4) 圧縮材に対する設計</p> <p>6. 静定構造物の変形 (1) 弾性曲線式 (2) モールの定理 (3) 仮想仕事法</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	15	受講料	8,000円
コース番号	H1411		
日程	6/6(土)～7(日)、13(土)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計18時間		
使用機器等	筆記用具 関数電卓		
受講者持参品	筆記用具、電卓(スマートフォンの計算機アプリも可)		

参加受講者の声

●仕事の理解が深まりました。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



演習問題を通して不静定の梁やラーメンの応力を算出する方法を学ぶ！

不静定構造物の構造解析技術

受講対象者 建築・建設業の分野に携わる方で不静定構造物の応力を学びたい方

概要		カリキュラム内容	
不静定構造物は力のつり合い条件だけでは反力・応力を求めることができないので、変位の条件も使いながら応力解析を習得します。		1. 静定構造物の変位 (1) 弾性曲線式 (2) モールの定理 (3) 仮想仕事法 2. 不静定構造物の応力解析 (1) 仮想仕事法 (2) たわみ角法 (3) マトリックス法 (4) 固定モーメント法 (5) D値法 3. 塑性解析 (1) 全塑性モーメント (2) 終局耐力	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 11,000円		
コース番号	H1511		
日程	7/6(月)～7(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等			
受講者持参品	関数電卓、筆記用具		



演習問題を通して構造力学の基礎から応用までの応力を学び構造的な力の流れを習得！

建築構造設計実践技術

土日開催

受講対象者 建築・建設業の分野に携わる方で構造力学・設計を学びたい方

概要		カリキュラム内容	
建築物や構造物に荷重がかかると内部に変形や歪み等が発生し破損や倒壊につながり、重大な事故を引き起こす可能性があります。そのため安全性を保つためには構造設計の概念を習得する事が重要になります。本コースでは力学に基づいた構造計算を学びます。		1. 静定構造物の応力解析 (1) はり (2) ラーメン (3) トラス 2. 不静定構造物の応力解析 (1) たわみ角法 (2) 固定モーメント法 3. 部材断面の力学 (1) 断面の性能 (2) 応力度 (3) 断面の主軸 4. 変形解析 (1) 弾性曲線式 (2) 仮想仕事の原理 (3) モールの定理 5. 構造力学演習 (1) 片持ち梁の変形と断面係数 (2) 単純支持梁の変形と断面係数 6. 座屈 (1) オイラー座屈 (2) 局部座屈・横座屈 7. 塑性解析 (1) 全塑性モーメント (2) 終局耐力 8. 水平荷重と層せん断力 (1) 風荷重の考え方 (2) 地震荷重の考え方 (3) 層方程式 (4) 層せん断力 9. マトリックス構造解析 (1) 剛性マトリックス (2) データ入力	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 14,500円		
コース番号	H1611		
日程	8/22(土)～23(日)、29(土)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計18時間		
使用機器等			
受講者持参品	関数電卓、筆記用具		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

演習問題を通して木造在来工法の許容応力度設計を学ぶ！ 木造住宅における許容応力度設計技術

土日開催

受講対象者 建築・建設業の分野に携わる方で木造の構造計算を学びたい方

概要		カリキュラム内容	
2025年4月から法改正により4号特例が見直され300㎡を超える建築物は許容応力度計算が義務化されています。本コースでは許容応力度設計の考え方、計算方法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 荷重・外力 <ol style="list-style-type: none"> 構造関係規定 荷重・外力の算定と組合せ 地震力の考え方 荷重・外力の計算演習 鉛直構面の設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 耐力壁の壁倍率と許容応力度の関係 鉛直構面の設計実習 建物バランス 水平構面の設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 水平構面の負担水平力と許容応力度の算定 水平構面の設計実習 部材の設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 木材の許容応力度 荷重継続時間と荷重・外力の組合せの関係 部材の荷重伝達機構 部材の応力算定実習 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	11,000円
コース番号	H1711		
日程	9/5(土)~6(日)		
時間	9:15~16:00 (休憩45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等			
受講者持参品	関数電卓、筆記用具		

地震被害からよりよい構造計画や構造に関する技術を習得する 基準や数字の意味を知る！ <設計者・工務店のための構造シリーズ>地震被害から学ぶ木造住宅の構造技術

初日オンライン開催

受講対象者 工務店 設計者 住宅建築 リフォームに携わる方で構造安全性に関する実践的な知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
熊本地震では、現行基準や新耐震基準に沿って建てられた築浅の住宅が被害を受けました。では、今後どのように構造安全性を確保しておけばいいのでしょうか。本コースでは、地震被害から基準の根底にある構造の考え方、構造計画のスキルを身につけます。		<p>◆1日目の学科講習は、「対面受講」または「オンライン受講」のどちらかから選択できます。</p> <p>◆2日目の実技講習は、ポリテクセンター関東にお越しいただき、実習を実施します。</p> <p>◆オンライン配信を受講いただくには、以下について各自でご準備いただきます。</p> <p>①受講用の端末(パソコン、タブレット等) ②インターネット接続環境 ③WEB会議アプリケーション[Microsoft Teams®](アプリ版) ※事前インストール、ID・パスワード登録が必要です。Web版は機能に制限があるため、アプリ版の利用を推奨いたします。</p> <p>◆ログオンアカウントや接続方法等のオンライン配信受講に係る詳細等はお申込手続き終了後にお送りいたします。</p>	
予定講師	村上木構造デザイン室 村上 淳史氏		
定員	10	受講料	16,500円
コース番号	H1811		
日程 時間	オンライン または通所 学科講習	7/2(木) 9:15~16:00 (休憩45分間含) 1日間 6時間	<ol style="list-style-type: none"> 住宅の構造 安全性の基本 <ol style="list-style-type: none"> 住宅の構造安全性とは 荷重と外力 各基準と構造安全性の比較 <ol style="list-style-type: none"> 建築基準法 平成12年(2000年基準) 住宅性能表示制度 木造住宅の工事仕様書(住宅金融支援機構) 地震被害と基準の変遷 地震の知識 <ol style="list-style-type: none"> 熊本地震の被害 阪神淡路大震災等過去の地震の被害 地震規模を示す単位や波形 <ol style="list-style-type: none"> Gal Kine マグニチュード 震度階 加速度応答スペクトル 標準せん断力係数と地域係数 地盤との関係、地震波形とその特徴 共振 地震被害の被害分析 <ol style="list-style-type: none"> 地震の被害分析 <ol style="list-style-type: none"> 壁量不足・バランス、壁・柱 直下率 筋かいの破断(筋交い、接合部) 柱の引抜き(柱頭柱脚) 複数回、繰返し地震の影響(実大実験より) 図面による被害の分析 <ol style="list-style-type: none"> 図面によるチェック演習 地震被害から学ぶ構造計画 <ol style="list-style-type: none"> 地震被害の分析を活かした構造設計 <ol style="list-style-type: none"> 壁量不足・バランス(耐震等級2、3への対応、バランステック) 壁・柱 直下率 力の流れの検討 筋かいの破断(筋かい、接合部) 実験からみる破壊例 耐力壁の実験方法と評価方法 さまざまな数値の根拠 耐力壁の検討 <ol style="list-style-type: none"> 柱の引抜き(柱頭柱脚) 引抜きの金物選定
	通所 実技講習	7/3(金) 9:15~16:00 (休憩45分間含) 1日間 6時間	
	計2日間 12時間		
使用機器等	資料提示装置		
受講者準備品 持参品	学科講習	テキスト、筆記用具、電卓又は関数電卓(スマートフォンの計算機アプリも可)	
	実技講習		

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



リフォーム・リノベ 提案で差をつけたい 構造がわかれば、間取り変更、構造安全性で提案に差がつかます。
 <設計者・工務店のための構造シリーズ> **木造住宅の構造安全性を考慮した間取りと架構設計技術**

**初日オンライン
開催**

受講対象者 工務店 設計者 住宅建築 リフォームに携わる方で間取りと構造に関する実践的な知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>荷重や外力の流れに配慮して、間取りと構造安全性の関係を分析します。架構設計や壁の設計演習を通して、木造住宅の構造安全性を高めていきます。リフォームやリノベーションでの間取り変更でも構造安全性を検討できるスキルを身に付けます。</p>		<p>◆1日目の学科講習は、「対面受講」または「オンライン受講」のどちらから選択できます。 ◆2日目の実技講習は、ポリテクセンター関東にお越しいただき、実習を実施します。 ◆オンライン配信を受講いただくには、以下について各自でご準備いただきます。 ①受講用の端末（パソコン、タブレット等）②インターネット接続環境③WEB会議アプリケーション「Microsoft Teams®」（アプリ版）※事前インストール、ID・パスワード登録が必要です。Web版は機能に制限があるため、アプリ版の利用を推奨いたします。 ◆ログインアカウントや接続方法等のオンライン配信受講に係る詳細等はお申込手続き終了後にお送りいたします。</p>	
<p>予定講師</p>	<p>村上木構造デザイン室 村上 淳史氏</p>		
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>16,500円</p>
<p>コース番号</p>	<p>H1911</p>		
<p>日程 時間</p>	<p>オンライン または通所 学科講習</p>	<p>7/28(火) 9:15~16:00(休憩45分間含) 1日間 6時間</p>	<p>1. 住宅の構造 安全性の基本 (1) 住宅の構造安全性とは (2) 各基準と構造安全性の比較 イ. 建築基準法 平成12年(2000年基準) ロ. 住宅性能表示制度 ハ. 木造住宅の工事仕様書 (住宅金融支援機構) (3) 基準の変遷と住宅被害 2. 間取りと構造 安全性の関係 (1) 地震被害、瑕疵保険利用物件から見る 間取りと構造安全性 (2) 直下率チェック イ. 柱直下率 ロ. 壁直下率 ハ. 直下率チェック図から分析する構造 安全性 3. 構造性能を高める架構設計 (1) 柱の設計 イ. 柱配置のルール ロ. 柱の配置から読む荷重と外力の流れ ハ. 荷重負担から考える使用樹種、寸法 (2) 壁の設計 イ. 構造安全性から考える耐力壁の配置 のルール ロ. 耐力壁線 ハ. 平面バランス・立面バランス (3) 構造通り芯</p>
	<p>通所 実技講習</p>	<p>7/29(水) 9:15~16:00(休憩45分間含) 1日間 6時間</p>	
<p>計2日間 12時間</p>			
<p>使用 機器等</p>	<p>資料提示装置</p>		
<p>受講者 準備品 持参品</p>	<p>学科講習</p>	<p>テキスト、筆記用具、 電卓又は関数電卓 (スマートフォンの計算 機アプリも可)</p>	
	<p>実技講習</p>		

- (4) 横架材の設計
(5) 架構設計 伏図作成演習
4. リフォーム・リノベーションに対応する
架構設計
(1) 間取り変更の基本ルール
(2) 荷重・外力の流れの変化
(3) 補強の必要性
(4) 間取り変更後の構造安全性の確認
(5) 設計演習

参加受講者の声

- 実際に現場を見てもらう力が流れているのかイメージできなかったが、今回講義を受けてイメージができそうな気がしました。
- 木構造のしくみ伏図の書き方など参考になりました。
- 伏図の読み取り、梁を架ける際の注意事項など、独学ではなかなか理解しづらかったことがよく理解できました。



使用頻度の高い鉄骨構造 構造設計、構造図、計算書についての要点を2日間で！
 <設計者のための構造シリーズ> **鉄骨構造物における構造計算技術**

受講対象者 建築・建設業に携わる方で構造についての実践的な知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>さまざまな用途や構造で使用される鉄骨構造の構造設計について、構造計画や材料の特性、鉄骨造ならではの検討項目、構造計算の手法や根拠などを構造計算書を使用して身につけます。</p>		<p>1. 構造設計概要 (1) 構造設計の位置づけと手順 (2) 鉄骨構造の主な構造形式と構造計画 (3) 構造形式と設計ルートの選定 (4) 構造設計のポイント (5) 構造計算書の概要 2. 荷重と外力の算定 (1) 鉛直荷重と水平荷重の種類と算定 (2) 応力算定のための準備計算 3. 存在応力の算定 (1) 鉛直荷重時応力の算定 (2) 水平荷重時応力の算定 4. 断面設計・算定演習 (1) 柱 (2) 梁 (3) 耐震ブレース (4) 接合部 (5) 二次部材 スラブ・小梁 (6) 柱脚 5. 2次設計演習 (1) 層間変形角 (2) 剛性率・偏心率</p>	
<p>予定講師</p>	<p>株式会社 呉建築事務所 呉 東航氏</p>		
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>20,000円</p>
<p>コース番号</p>	<p>H2011</p>		
<p>日程</p>	<p>11月以降開講予定</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15~16:00 (休憩45分間含) 2日間 計12時間</p>		
<p>使用 機器等</p>	<p>構造計算プログラムを使用して、プログラムの内容や入力方法の解説、計算書の確認を行います。 入力・操作が主ではありません。</p>		
<p>受講者 持参品</p>	<p>筆記用具、電卓又は関数電卓 (スマートフォンの計算機アプリも可)</p>		
	<p>構造計算プログラムを使用して、プログラムの内容や入力方法の解説、計算書の確認を行います。 入力・操作が主ではありません。</p>		

参加受講者の声

- 仕事上の強度計算書内の「細長比」は何のことだろうと思っていたのですが、今回の講習で理解できました。
- 日常では計算書を見るだけでしたが、さらに深く理解することができました。
- 構造計算は私の知識レベルで理解できるか不安でしたが、説明がイメージしやすく、分からない部分があると、わかりやすく説明していただきました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

リニューアル・リノベーションで、構造性能もしっかり考える。 構造と設備の関係を考えたリニューアル・リノベを。
 <設計者のための構造シリーズ> **建築物のリニューアル・リノベーションのための構造設計技術**



受講対象者 建築・建設業に携わる方で構造についての実践的な知識を深めたい方

概要

建築物は、リニューアル・リノベーションをしながらの長寿命化を図っています。その際、現在の用途に合わせて改修工事を行うため、設備改修や間取り変更など、改修が構造性能に大きくかわる場合があります。本コースでは、改修ならではの構造の検討項目、構造計算の手法や根拠などを身につけます。

予定講師 株式会社 呉建築事務所 呉 東航 氏

定員 10 **受講料** 15,500 円

コース番号 H2111

日程 11月以降開講予定

時間 9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含)
2 日間 計 12 時間

使用機器等

受講者持参品 筆記用具、電卓又は関数電卓 (スマートフォンの計算機アプリも可)

カリキュラム内容

1. 建築物の用途と構造種別
 - (1) 建築物の規模、用途と構造種別
 - (2) 構造種別による構造的特徴
 - イ. 木造
 - ロ. S 造
 - ハ. RC 造
 - ニ. SRC 造
 - ホ. その他 (混構造)
2. 構造種別ごとの構造設計手法
 - (1) 建築物の構造種別ごとの構造設計手法と設計ルート
 - (2) 構造種別ごとの構造設計ポイント
3. 建築物と設備の関係
 - (1) 建築物と設備との関係・納まり
 - (2) 各種設備の施工方法
 - (3) 応力と設備配管の関係
 - (4) 主要部材の応力算定 演習
4. リニューアル・リノベーションのための構造設計
 - (1) 用途・構造種別ごとのリニューアルのための構造設計・各種演習
 - イ. 設備の更新と構造
 - ・部材応力

- ・フレーム応力
 - ・RC造 ダクトと配筋の関係
 - ロ. 耐震診断・補強
 - ・耐震診断
 - ・耐震補強
 - ハ. 間取変更
 - ・荷重の流れ
 - ・補強
- (2) リニューアル・リノベーションを目的とした物件の構造設計・演習
5. 構造図について
 - (1) 構造図のチェックポイント
 - イ. 構造図チェック演習

参加受講者の声

- 構造の理論、概念についてよくわかりました。
- 今まで苦手意識があった耐震についての考え方を学ぶことができました。

演習問題を通して RC 構造物の部材の応力を算定し安全に設計！

RC 構造物における構造計算技術



受講対象者 建築・建設業の分野に携わる方で RC の構造計算を学びたい方

概要

RC 構造物における 1 次設計 (許容応力度計算)、2 次設計 (保有水平耐力計算) の考え方、計算方法を習得し、部材の断面計算等も習得します。

予定講師 ポリテクセンター関東 講師

定員 10 **受講料** 11,000 円

コース番号 H2211

日程 10/15(木)~16(金)

時間 9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含)
2 日間 計 12 時間

使用機器等

受講者持参品 関数電卓、筆記用具

カリキュラム内容

1. 構造計算概要
 - (1) 鉄筋コンクリート構造の主な構造形式と構造計画
 - (2) 構造形式と設計ルートの選定
 - (3) 構造設計のポイント
 - (4) 構造計算書の概要
2. 荷重と外力の算定
 - (1) 鉛直荷重と水平荷重の種類と算定
 - (2) 応力算定のための準備計算
3. 存在応力の算定
 - (1) 鉛直荷重時応力の算定
 - (2) 水平荷重時応力の算定
4. 断面設計・算定演習
 - (1) 柱
 - (2) 梁
 - (3) 壁・耐震壁
 - (4) 二次部材 スラブ・小梁
 - (5) 剛性評価 スラブ・壁
 - (6) 付着・継手・定着
5. 2 次設計演習
 - (1) 層間変形角
 - (2) 剛成率・偏心率

6. 保有水平耐力の検討・演習
 - (1) 保有水平耐力の検討法
 - (2) 保有水平耐力の検討
7. 構造図について
 - (1) 構造図のチェックポイント
8. 構造計算書
 - (1) 構造計算書のチェックポイントとチェック演習

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



大工用工具を使って屋根部材の墨付け・加工を行い実践的な技術を学ぶ！

隅木・振垂木の施工実践技術

受講対象者 木造建築の小屋組み作業に従事する方で墨付方法、加工の技術を身につけたい方

概要		カリキュラム内容	
建築・構造部材加工（木材）の現場力強化及び技能継承をめざして、寄棟屋根の隅木・振垂木の墨付・加工技術及び技能を習得します。		1. 各種小屋組工法 (1) 各小屋組の工法について (2) 寄棟・入母屋の細部納まりについて 2. 規矩術 (1) 各種勾配 (2) 各構成部材の規矩述について 3. 現寸図 (1) 隅木現寸の手順・表現方法と作成 (2) 振垂木現寸の手順・表現方法と作成 4. 墨付 (1) 各部材の墨付 5. 加工 (1) 各部の木拵え、継手・仕口の加工 6. 組立 (1) 組立・調整	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	14,000 円
コース番号	H2311		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等			
受講者持参品	筆記用具、電卓（スマートフォンの計算機アプリも可）、作業用帽子、作業に適した服装		



大工用工具の基本的な使い方を学び、安全に木材加工を行う手法を学ぶ！

継手・仕口の製作実践技術

受講対象者 木造在来工法建築物の木材加工および組立に携わる方で墨付・加工方法を身につけたい方

概要		カリキュラム内容	
構造部材加工（木材）の現場力強化及び技能継承をめざして、技能高度化に向けた継手・仕口の実践的な加工を行います。鑿・鋸・鉋の知識及び製作実習を通して安全な作業姿勢と加工ポイント、問題点の把握と解決手法を習得する。		1. 規矩用具の活用 (1) 墨つぼの調整 (2) 規矩について (3) 高度な加工を行う為に必要な規矩用具の活用ポイントについて 2. 現寸図の概要説明 (1) 現寸図について (2) 勾配の実際と応用 (3) 規矩述について 3. 継手・仕口の製作 (1) 鑿の知識及び墨付・加工技術について (2) 鋸の知識及び墨付・加工技術について (3) 鉋の知識及び墨付・加工技術について (4) 手工具・電動工具の安全な作業方法 (5) 各種墨付け・加工のポイント (6) 加工・組立 4. 評価と問題解決 (1) 評価 (2) 工作技術・技能と問題点の把握と解決手法 (3) 総括討議	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	17,500 円
コース番号	H2411		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 4 日間 計 24 時間		
使用機器等			
受講者持参品	筆記用具、電卓（スマートフォンの計算機アプリも可）、作業用帽子、作業に適した服装		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



実習で学ぶシリーズ 住宅で知っている役立つ、電気の基本を身につける! ご要望に応じて基礎編を設定 これから試験にチャレンジする方も! 2コースセットでより詳しく実践的に。

<設計者・アフターサービスのための実習で学ぶシリーズ> **実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体との納まりとリニューアル編)**

土日開催

受講対象者 住宅の電気知識や資格をお持ちでない方 設計者 工務店 アフターサービス 住宅建築に携わる方で住宅の電気設備の基礎的な知識を深めたい方

受講条件 電気知識や資格をお持ちでない方は、本コース受講と併せ、「実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体への工事編)」をお申込ください。

概要

設備の設計や施工、維持管理は建築躯体との関係も深く、配管配線は隠蔽になることから業務を行う上で非常に難しい領域になります。本コースでは、施工実習を通して、住宅の電気基礎や電気器具について理解し、隠蔽配線と躯体との関係を理解しながら設計や施工、アフターサービスのポイントを習得することを目標としています。

予定講師 ポリテクセンター関東 講師

定員 10 **受講料** 10,000円

コース番号 ① H2511
② H2512

日程 ① 5/16(土)~17(日)
② 10/24(土)~25(日)

時間 9:15~16:00 (休憩 45分間含)
2日間 計 12時間

使用機器等 電設資材、工具一式

受講者持参品 筆記用具、電卓 (スマートフォンの計算機アプリも可)、作業に適した服装

カリキュラム内容

- 住宅電気設備の概要
 - 戸建住宅の設備
 - 集合住宅の設備
- 電気設備の基本
 - 電力と電気料金
 - 日々の暮らしと契約容量
 - 契約容量の算定と電気代
 - 電気の引込みと財産区分
 - 電気を管理するための設備 電力計
 - 分電盤と回路数
 - 分電盤の種類と構造
 - 生活に合わせた回路数
 - 配線方式
- 配線器具と照明器具
 - 住宅用配線器具の種類と機能
 - 各種コンセント、スイッチの機能
 - 生活スタイルからみる配線器具の選択
 - 照明器具
 - 住宅照明の基礎知識
- 躯体との関係から学ぶ電気配線工事
 - 配線設計
 - 建築躯体との関係を考えての複線図の作成
 - 断熱材との取合い
 - 電気配線施工準備作業
 - 電気配線施工
 - 通電・欠陥確認

- 施工実習から学ぶメンテナンス・リニューアル
 - 電気設備のメンテナンススケジュール
 - トラブルと対策
 - アフターメンテナンスとリニューアル
 - 建築のリフォームと連動した器具のリニューアル
 - 配線器具・照明器具の施工・メンテナンス・リニューアル

★設計者・アフターサービスのための実習で学ぶシリーズ

『実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体への工事編)』(P28 参照)のセット受講をお勧めします。電気知識や資格をお持ちでない方は、本コースを受講後、「実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体への工事編)」をお申込ください。

参加受講者の声

- 内部での配線の方法や根拠を理解することができました。
- 建築の分野から見た電気工事の視点が参考になりました。
- 実物を見たことで頭に残るし、実習で現実の感覚がつかめました。



実習で学ぶシリーズ 住宅で知っている役立つ、電気の基本を身につける! より詳しく実践的に。

<設計者・アフターサービスのための実習で学ぶシリーズ> **実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体への工事編)**

土日開催

受講対象者 住宅の電気知識や資格をお持ちの方、又は「実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体と納まりとリニューアル編)」の受講者

受講条件 ※このコースは電気知識や資格をお持ちの方のコースとなっております。電気知識や資格をお持ちでない方は、「実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体との納まりとリニューアル編)」を先にご受講ください。

概要

設備の設計や施工、維持管理は建築躯体との関係も深く、配管配線は隠蔽になることから業務を行う上で非常に難しい領域になります。本コースでは、施工実習を通して、住宅の電気基礎や電気器具について理解し、隠蔽配線と躯体との関係を理解しながら設計や施工、アフターサービスのポイントを習得することを目標としています。

予定講師 ポリテクセンター関東 講師

定員 10 **受講料** 10,000円

コース番号 H2611

日程 6/20(土)~21(日)

時間 9:15~16:00 (休憩 45分間含)
2日間 計 12時間

使用機器等 電設資材、工具一式

受講者持参品 筆記用具、電卓 (スマートフォンの計算機アプリも可)、作業に適した服装

カリキュラム内容

- 住宅電気設備の概要
 - 戸建住宅の設備
 - 集合住宅の設備
- 電気配線設備の基本
 - 分電盤と回路数
 - 分電盤の種類
 - 災害時の対応
 - 回路数
 - 分電盤の設置
 - 配線方式
 - 住宅躯体と配線経路
 - 配線資材 電設材料
- 建築躯体と配線器具・照明器具
 - 住宅用配線器具の種類と機能
 - 各種コンセント、スイッチの機能
 - 安全・安心・快適な配線器具の選択
 - 照明器具
 - 住宅照明の計画
 - 建築化照明と躯体との関係
 - 省エネ
- 躯体への施工から学ぶ電気配線工事
 - 住宅の意匠設計と配線設計
 - 建築躯体との関係を考えての複線図の作成
 - 建築躯体に基づいた配線経路の決定
 - 電気配線施工準備作業
 - 断熱材との関係
 - 断熱材施工と気密施工
 - 電気配線施工

- 石膏ボード施工
 - 器具付
- アフターメンテナンス
 - 電気設備のメンテナンススケジュール
 - トラブルと対策
 - アフターメンテナンス
 ※本セミナーでは、木造住宅をモデルとして施工します。高所作業があります。

★設計者・アフターサービスのための実習で学ぶシリーズ

『実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体との納まりとリニューアル編)』(P28 参照)のセット受講をお勧めします。電気知識や資格をお持ちでない方は、本コースを受講前に、「実習で学ぶ住宅設備技術 (電気設備 住宅躯体との納まりとリニューアル編)」をお申込ください。

参加受講者の声

- 電気工事の流れが理解できるようになりました。
- 実際に建物に配線できて理解が深まりました。
- 実践的なリフォームの際の電気工事において、今まで我流でやっていたことも正しい知識・やり方を学べました。

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



施工実習を行えば、設計や施工、アフターサービスのポイントもわかる！

実習で学ぶ住宅設備技術（給排水・衛生設備 リペア編）



受講対象者 設計者 工務店 アフターサービス 住宅建築に携わる方で住宅の給排水衛生設備の実践的な知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>設備の設計や施工、維持管理は建築躯体との関係も深く、配管配線は隠蔽になることから業務を行う上で非常に難しい領域になります。本コースでは、施工実習を通して隠蔽配管と躯体との関係や水廻りで起きるトラブルを理解し、設計や施工、アフターサービスのポイントを習得することを目標としています。</p>		<p>1. 住宅設備の概要 (1) 戸建住宅の建築設備 (2) 集合住宅の建築設備 (3) 現地調査</p> <p>2. 給水設備 (1) 給水設備の調査 (2) 給水方式と特徴 (3) 必要水量と給水引込口径 (4) 受水槽の設置基準 (5) 給水配管施工の留意点</p> <p>3. 排水設備 (1) 排水設備の調査 (2) 排水経路（戸建住宅 集合住宅） (3) 排水配管施工の留意点 (4) 排水マス</p> <p>4. 配管材料 (1) 給水配管材料 (2) 排水配管材料 (3) パッキン・シール類</p> <p>5. アフターメンテナンス (1) 給排水衛生設備のメンテナンススケジュール</p>	
<p>（2）アフターメンテナンス</p> <p>6. 施工練習で習得で習得するメンテナンス技術 (1) 施工計画の検討 (2) 排水配管リペア施工 (3) 給水配管リペア施工 (4) パッキン・シール類の損耗状況確認及び交換 (5) 訓練用パネルを利用した衛生陶器及び給排水金具の交換</p>	<p>★実習で学ぶ住宅設備技術シリーズ「給排水・衛生設備 リペア実践編」とのセット受講をお勧めします。</p>		
<p>予定講師 ポリテクセンター関東 講師</p>	<p>定員 8</p>	<p>受講料 15,500 円</p>	
<p>コース番号 H2711</p>			
<p>日程 7/30(木)～31(金)</p>			
<p>時間 9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間</p>			
<p>使用機器等 給排水配管、衛生器機資材、工具一式</p>			
<p>受講者持参品 筆記用具、電卓（スマートフォンの計算機アプリも可）、作業用帽子、作業に適した服装</p>			

設備



施工実習を行えば、設計や施工、アフターサービスのポイントもわかる！

実習で学ぶ住宅設備技術（給排水・衛生設備 リペア実践編）



受講対象者 設計者 工務店 アフターサービス 住宅建築に携わる方で住宅の給排水衛生設備の実践的な知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>設備の設計や施工、維持管理は建築躯体との関係も深く、配管配線は隠蔽になることから業務を行う上で非常に難しい領域になります。本コースでは、施工実習を通して隠蔽配管と躯体との関係や水廻りで起きるトラブルを理解し、設計や施工、アフターサービスのポイントを習得することを目標としています。</p>		<p>1. 配管材料 (1) 給水配管材料 (2) 排水配管材料 (3) パッキン・シール類</p> <p>2. アフターメンテナンス (1) 給排水衛生設備のメンテナンススケジュール (2) アフターメンテナンス</p> <p>3. 木造住宅を利用した給排水配管等のリペア施工 (1) 給排水配管及びパッキン・シール類の損耗状況確認 (2) 施工計画の検討 (3) 木造家屋での排水配管リペア施工 (4) 木造家屋での給水配管リペア施工</p> <p>4. 木造住宅を利用した床及び壁下地施工 (1) 床下地施工 (2) ライニング製作・施工 (3) 壁下地施工</p> <p>5. 木造住宅を利用した衛生器具取付 (1) 木造家屋での衛生設備及び給排水金具の交換</p>	
<p>（2）パッキン・シール類の交換 (3) 通水検査</p>	<p>★実習で学ぶ住宅設備技術シリーズ「給排水・衛生設備 リペア編」を受講されてからの受講をお勧めします。</p>		
<p>予定講師 ポリテクセンター関東 講師</p>	<p>定員 8</p>	<p>受講料 15,500 円</p>	
<p>コース番号 H2811</p>			
<p>日程 8/5(水)～6(木)</p>			
<p>時間 9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間</p>			
<p>使用機器等 給排水配管、衛生器機資材、工具一式</p>			
<p>受講者持参品 筆記用具、電卓（スマートフォンの計算機アプリも可）、作業用帽子、作業に適した服装</p>			

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

≫申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



実習で学ぶシリーズ 住宅の不具合・劣化事象の原因分析と対応を身につける！

＜不動産・アフターサービスのための実習で学ぶシリーズ＞ **実習で学ぶ住宅の補修・修繕実践技術**

土日開催

受講対象者 不動産業 アフターサービス リフォームに携わる方で補修・修繕の実践的な知識・技術を深めたい方

概要

中古住宅の流通・リフォーム市場では、定期的な点検や維持管理・更新で住宅の価値の維持・向上が重要です。維持管理には、補修や修繕が欠かせません。本コースは、劣化・不具合事象の原因分析、補修・修繕実習を通して、住宅の維持管理、価値向上、お客様への対応に関する技術を習得することを目標としています。

予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	10,500円
コース番号	H2911		
日程	7/11(土)～12(日)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	工具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業に適した服装		

カリキュラム内容

- 建物の維持管理概要
 - 住まいのメンテナンススケジュール
 - 住まいの管理・履歴情報と瑕疵保証について
- 内部の不具合・劣化事象と原因分析
 - 内部内装の不具合・劣化事象事例
 - 床 (例:フローリング・クッションフロア)
 - 壁 (例:クロス)
 - 内部内装の構造・施工方法から見る原因分析と対策
 - 床の構造・施工方法からみる原因分析と対策
 - 壁の構造・施工方法からみる原因分析と対策
 - 内部構造材の不具合・劣化事象と原因分析と対策
 - 床鳴り 構造・施工方法からみる原因分析と対策
 - 内部水廻りの不具合・劣化事象と原因分析と対策
 - シーリング
- 内部各部補修・修繕と維持管理
 - 内部各部補修・修繕方法
- 品質維持・向上のための維持管理
 - お客様へのご説明・アドバイス
- 外部の不具合・劣化事象と原因分析
 - 外部の不具合・劣化事象事例
 - 外壁
 - 基礎
 - 外部の構造・施工方法から見る原因分析と対策
 - 外壁の構造・施工方法からみる原因分析と対策
 - 基礎の構造・施工方法からみる原因分析と構造的基準、対策
- 外部各部補修・修繕と維持管理
 - 外部各部補修・修繕方法
 - 外壁 エフロ (白華)・カビ・チョーキング
 - 基礎 ひび割れ
 - 品質維持・向上のための維持管理
 - お客様へのご説明・アドバイス



調査・点検・維持管理



実習で学ぶシリーズ 日常のトラブルから、長期の定期点検まで。住宅の維持管理、点検のスキルを身につける！

＜不動産・アフターサービスのための実習で学ぶシリーズ＞ **住宅の維持管理・更新と点検技術**

受講対象者 不動産業 アフターサービス リフォームに携わる方で点検・維持管理の実践的な知識を深めたい方

概要

国土交通省は、中古住宅の不動産流通・リフォーム市場の規模の拡大を進めています。また新築では、住宅の長期優良化をはかり、定期的な点検や維持管理・更新をすすめていくことで、住宅の価値を維持していきます。本コースは、点検や補修実習から住宅の維持管理・更新技術、性能向上の技術を習得することを目標としています。

予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	10,000円
コース番号	H3011		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	検査機器・工具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業に適した服装		

カリキュラム内容

- 建物の維持管理概要
 - 住まいのメンテナンススケジュール
 - 住まいの管理・履歴情報とリフォーム、売買について
- 建物の構造と設備
 - 建物の構造と設備
 - 住宅の構造
 - 集合住宅の構造
 - 住宅・集合住宅の設備
 - 電気設備
 - 給排水・衛生設備
 - 空調設備
 - 消防設備
 - 構造躯体と設備の関係
 - 構造躯体と内装の関係
- 建物の各部位の劣化事象の原因とメンテナンス・調整
 - 構造躯体等
 - 構造躯体
 - 屋根
 - 外壁
 - バルコニー
 - 開口部周り
 - 設備
 - 給排水・給湯・衛生設備
 - 給排水・衛生設備の配管・取付施工とトラブル
 - 電気設備
 - 換気設備と結露
- 各部の定期点検
 - 外部
 - 水廻り
 - 内部
 - 建具
- メンテナンス実習
 - 内装 クロスの補修
 - 床鳴りの補修
 - シーリング施工実習

参加受講者の声

- メンテナンスの重要性が良くわかりました。
- 普段修繕業務の受付を行っているため、クロス補修などを実際に経験することができ、理解度が深まりました。
- 営業を行うなかで、お客様への説明に役立てることが出来ると感じました。
- 会社内では他者との関わりがなく、かけだし+中小企業で働く者としては自分一人で組み立てる部分が多く心細いのではなかったです。

≫推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



ドローンの運用法、法的知識、操縦実習による基本的な操縦体験及び外壁の劣化診断技術を習得します。

ドローンを活用した建物劣化診断技術

受講対象者 建築物の外壁劣化診断の業務に伴うドローンの活用方法について興味のある方

概要		カリキュラム内容	
外壁の劣化診断において、効率化、適正化、最適化（改善）に向けた劣化診断実習を通して、ドローンを活用した建築物の外壁の劣化診断技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> ドローンの概要 <ol style="list-style-type: none"> 法律・ルール (国際条約、航空法、電波法、道路交通法、民法、個人情報保護法、航空法における許可・承認の申請、安全ガイドライン) 自然科学（気象、電磁波） 技術（構造、飛行制御技術、GPS、通信） ドローンの運用 <ol style="list-style-type: none"> 安全確保、禁止事項、運用者の義務、操縦時の注意点、操縦方法、運用時の確認事項、バッテリーの取扱、リスク・安全対策方法、事故発生時の対応方法、フェールセーフ設定 整備・点検（日常点検方法、整備、飛行前確認） 操縦（垂直離着陸、ホバリング、水平移動、可視範囲での遠方飛行、緊急時の操作） 劣化診断実習 <ol style="list-style-type: none"> ドローン技術を用いた外壁の診断 <ol style="list-style-type: none"> 外装タイルの劣化診断 塗装外壁の劣化診断 クラック調査 	
予定講師	株式会社インフラレッドインスペクション 大峪 勇輝 氏		
定員	10	受講料	18,000 円
コース番号	H3111		
日程	7/7(火)～8(水)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ドローン、赤外線カメラ、解析ソフト、資料提示装置		
受講者持参品	筆記用具		



★『ドローンを活用した建物赤外線劣化診断技術』とのセット受講をお勧めします。

参加受講者の声

- 機材に触る事が出来、具体的に理解できた。
- 建築基準法第 12 条に則った調査方法に赤外線カメラを用いた方法が認められたこと、ドローンの今後の活躍に期待します。



ドローンの運用法、法的知識、操縦実習による基本的な操縦体験及び赤外線カメラを利用した外壁の劣化診断技術を習得します。

ドローンを活用した建物赤外線劣化診断技術

受講対象者 建築物の外壁劣化診断の業務に伴うドローンの活用方法について興味のある方

概要		カリキュラム内容	
外壁の劣化診断において、効率化、適正化、最適化（改善）に向けた劣化診断実習を通して、ドローンを活用した建築物の外壁の赤外線劣化診断技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> ドローンの概要 <ol style="list-style-type: none"> 法律・ルール（国際条約、航空法、電波法、道路交通法、民法、個人情報保護法、航空法における許可・承認の申請、安全ガイドライン） 自然科学（気象、電磁波） 技術（構造、飛行制御技術、GPS、通信） ドローンの運用 <ol style="list-style-type: none"> 安全確保、禁止事項、運用者の義務、操縦時の注意点、操縦方法運用時の確認事項、バッテリーの取扱、リスク・安全対策方法事故発生時の対応方法フェールセーフ設定 整備・点検（日常点検方法、整備、飛行前確認） 操縦（垂直離着陸、ホバリング、水平移動、可視範囲での遠方飛行、緊急時の操作） 赤外線による劣化診断実習 <ol style="list-style-type: none"> ドローン技術を用いた外壁の赤外線診断 赤外線調査（準備と実施） 事例紹介 赤外線画像（熱画像）の見方と解析 	
予定講師	株式会社インフラレッドインスペクション 大峪 勇輝 氏		
定員	10	受講料	18,000 円
コース番号	H3211		
日程	10/1(木)～2(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ドローン、赤外線カメラ、解析ソフト、資料提示装置		
受講者持参品	筆記用具		



★『ドローンを活用した建物劣化診断技術』を受講されてからの受講をお勧めします。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

設備・省エネ関連オーダーメイド型コースのご案内

ご相談から実施までの流れ

お問い合わせ(初めての場合は電話をお勧めします)

ご相談対応(コース内容、日程、受講者数など)

内容、日程、受講者数の仮決定→受講料見積額の提示

内容、日程、受講者名簿の確認・了解→実施決定(4週間前)

請求書、受講票の送付(3週間前)

指定銀行口座への受講料振込(15日前)

セミナー実施

- 「木造住宅の基本計画技術」
- 「BIM を用いた建築設計技術 Revit 編」
- 「木造住宅における構造設計実践技術」
- 実習で学ぶ住宅性能シリーズ

こちらのコースは、オーダーメイド型コースとして対応しております。

詳しくは、P100『オーダーメイド型セミナーのご案内』をご覧ください。

実習で学ぶシリーズ 施工実習をととして木造住宅の躯体について理解します。

<設計者・営業マンのための実習で学ぶシリーズ> **実習で学ぶ住宅性能と架構・建方(部材編)**

オーダー
メイド型

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方で木造住宅の現場施工(躯体)に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
設計及び営業に携わる方が、設計時及び販売営業時に知っておくべき木造軸組工法の躯体施工(部材)に関する知識及び技術を、実習を通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現場で使用する各種図面・寸法と板図・定規 <ol style="list-style-type: none"> (1) 現場で使用する各種図面 (2) 構造図の読図 (3) 板図について (4) 尺杖について (5) 矩計棒について 2. 施工現場での作業について <ol style="list-style-type: none"> (1) 建方現場での施工の確認 <ol style="list-style-type: none"> イ. 番付 ロ. 建方手順の振返り ハ. 現場での指示や動き (2) 構造や接合方法の確認 <ol style="list-style-type: none"> イ. 継手・仕口の種類、形状、位置、耐力 ロ. 架構と接合部 ハ. 接合部と力の流れ (3) 間取りと構造の関係 <ol style="list-style-type: none"> イ. 柱・壁の上下階一致の確認(直下率) ロ. 力の流れの確認 ハ. 間取りと架構の確認 3. 木造軸組工法の概要説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 軸組工法の概要 (2) 架構と接合方法 (3) 各種基準と標準的な仕様 4. 各種資材と材料の知識 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各種建築資材・材料の知識と図面・工事記録での確認 5. 継手・仕口の仕様と道具の取扱い <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部材の木拾いと木取り <ol style="list-style-type: none"> イ. 手工具の取扱い ロ. 電動工具の取扱い (2) 道具の取扱い (3) 墨付け・加工 (4) 架構と力の流れ 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	応相談
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日(12/29~1/3除く)		
時間	9:15~16:00(休憩45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	大工道具一式・電動工具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、作業に適した服装		

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



実習で学ぶシリーズ 施工実習をとおして木造住宅の躯体について理解します。

<設計者・営業マンのための実習で学ぶシリーズ> **実習で学ぶ住宅性能と架構・建方 (建方編)**

オーダーメイド型

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方で木造住宅の現場施工 (躯体) に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
設計及び営業に携わる方が、設計時及び販売営業時に知っておくべき木造軸組工法の躯体施工 (建方) に関する知識及び技術を、実習を通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 木造住宅の性能と各種基準 (躯体) <ol style="list-style-type: none"> 基準や制度の関連・関係性 建築基準法 住宅の品質確保の促進等に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 住宅性能表示制度 長期優良住宅 瑕疵担保履行法 住宅金融支援機構 <ol style="list-style-type: none"> 木造住宅工事標準仕様書 躯体工事 (建方) <ol style="list-style-type: none"> 全体工程の把握 図面・仕様の確認 建方手順の確認 建方 接合金物の施工 (仕口・継手の補強) 建入直し 躯体工事 (接合金物の選定と施工) <ol style="list-style-type: none"> 建築基準法と住宅性能表示制度の構造安全性能 耐力壁の仕様、耐力、壁倍率 耐力壁の配置とバランス 筋かい・柱頭柱脚の補強金物の選定について 模擬家屋の加力実験 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29~1/3除く)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	大工道具一式・電動工具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、作業に適した服装		

オーダーメイド型コース



実習で学ぶシリーズ 施工実習をとおして木造住宅の内部施工について理解します。

<設計者・営業マンのための実習で学ぶシリーズ> **実習で学ぶ住宅性能と下地 (内部下地編)**

オーダーメイド型

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方で木造住宅の現場施工 (内部施工) に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
設計及び営業に携わる方が、設計時及び販売営業時に知っておくべき木造軸組工法の内部施工 (下地) に関する知識及び技術を、実習を通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 木造住宅の性能と各基準 (内部下地) <ol style="list-style-type: none"> 基準や制度の関連・関係性 建築基準法 住宅の品質確保の促進等に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 住宅性能表示制度 長期優良住宅 瑕疵担保履行法 住宅金融支援機構 <ol style="list-style-type: none"> 木造住宅工事標準仕様書 内部下地の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 断熱・気密の仕様と性能 内部下地の施工工程 設備との関係・納まり 内部各部の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 内壁 床 天井 内部下地施工 <ol style="list-style-type: none"> 仕上げ材の違いによる下地、納まり 床下地の施工 壁下地の施工 天井下地の施工 各部断熱・気密施工 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29~1/3除く)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	大工道具一式・電動工具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、作業に適した服装		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



実習で学ぶシリーズ 施工実習をとおして木造住宅の外部施工について理解します。

<設計者・営業マンのための実習で学ぶシリーズ> **実習で学ぶ住宅性能と下地 (外部下地編)**

オーダーメイド型

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方で木造住宅の現場施工 (外部施工) に関する知識を深めたい方

オーダーメイド型コース

概要		カリキュラム内容	
設計及び営業に携わる方が、設計時及び販売営業時に知っておくべき木造軸組工法の外部施工 (下地) に関する知識及び技術を、実習を通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 木造住宅の性能と各基準 (外部下地) <ol style="list-style-type: none"> 基準や制度の関連・関係性 建築基準法 住宅の品質確保の促進等に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 住宅性能表示制度 長期優良住宅 瑕疵担保履行法 住宅金融支援機構 <ol style="list-style-type: none"> 木造住宅工事標準仕様書 外部下地の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 屋根の仕様と性能 外壁の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 通気工法 開口部の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 窓の性能 断熱性能 日射・遮蔽 外部下地の施工工程 開口部の施工 <ol style="list-style-type: none"> 開口部周りの防水施工 サッシの施工 外部下地施工 <ol style="list-style-type: none"> 仕上げ材の違いによる下地、納まり 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29~1/3除く)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	大工道具一式・電動工具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、作業に適した服装		

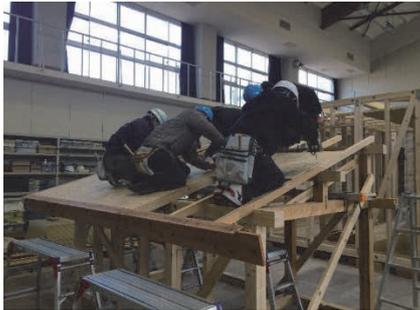


実習で学ぶシリーズ 施工実習をとおして木造住宅の外部施工について理解します。

<設計者・営業マンのための実習で学ぶシリーズ> **実習で学ぶ住宅性能と仕上げ (外部仕上げ編)**

オーダーメイド型

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方で木造住宅の現場施工 (外部施工) に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
設計及び営業に携わる方が、設計時及び販売営業時に知っておくべき木造軸組工法の外部施工 (仕上げ) に関する知識及び技術を、実習を通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 木造住宅の性能と各基準 (外部仕上) <ol style="list-style-type: none"> 基準や制度の関連・関係性 建築基準法 住宅の品質確保の促進等に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 住宅性能表示制度 長期優良住宅 瑕疵担保履行法 住宅金融支援機構 <ol style="list-style-type: none"> 木造住宅工事標準仕様書 外部仕上の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 外部仕上の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 防火、耐火について 防水について 瑕疵について 外部仕上工事について <ol style="list-style-type: none"> 外部仕上工事の施工工程 <ol style="list-style-type: none"> 採寸 割付計画 施工 屋根仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 屋根仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 軒先、けらばの仕上 (例：窯業系仕上材など) 屋根下地H10:H26 葺き (例：アスファルトルーフィングなど) 各種金物などの取付 (例：軒先・ケラバ水切り、のぼり木など) 屋根仕上 (例：化粧スレートなど) 外壁仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 外壁仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 各種金物の取付 (例：スターター、ジョイナーなど) 外壁仕上 (例：窯業系サイディング同質出隅、本体など) 軒天仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 軒天仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 軒天仕上 (例：化粧スラグせっこう板など) 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29~1/3除く)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	外装用工具一式・大工道具一式・電動工具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、作業に適した服装		

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



実習で学ぶシリーズ 施工実習をとおして木造住宅の内部施工について理解します。

<設計者・営業マンのための実習で学ぶシリーズ>実習で学ぶ住宅性能と仕上げ (内部仕上編)

オーダーメイド型

受講対象者 設計者 住宅営業 住宅建築に携わる方で木造住宅の現場施工 (内部施工) に関する知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
設計及び営業に携わる方が、設計時及び販売営業時に知っておくべき木造軸組工法の内部施工 (仕上げ) に関する知識及び技術を、実習を通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 木造住宅の性能と各基準 (内部仕上) <ol style="list-style-type: none"> 基準や制度の関連・関係性 建築基準法 住宅の品質確保の促進等に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 住宅性能表示制度 長期優良住宅 瑕疵担保履行法 住宅金融支援機構 <ol style="list-style-type: none"> 木造住宅工事標準仕様書 内部仕上の仕様と性能 <ol style="list-style-type: none"> 内部仕上の種類と納まり <ol style="list-style-type: none"> 内装制限について ユニバーサルデザインについて 様々なニーズについて 内部仕上工事について <ol style="list-style-type: none"> 内部仕上の施工工程 <ol style="list-style-type: none"> 下地調整 採寸・割付計画 施工 養生 床仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 床仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 施工準備 (例：下地調整、採寸、割付、墨付、裁断など) 床仕上 (例：フローリングなど) 壁仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 壁仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 施工準備 (例：下地調整、採寸、割付、墨付、裁断、のり付けなど) 壁仕上 (例：ビニールクロスなど) 天井仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 天井仕上の施工 <ol style="list-style-type: none"> 施工準備 (例：下地調整、採寸、割付、墨付、裁断、のり付けなど) 天井仕上 (例：ビニールクロスなど) 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29~1/3除く)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	内装用工具一式・大工道具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、作業に適した服装		

オーダーメイド型コース



木造住宅の基本計画技術

オーダーメイド型

受講対象者 意匠設計者 工務店 住宅建築に携わる方で実践的な知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
建築物の構造計画、構造安定性を確保した架構設計に必要な知識を理解し、架構設計ができる技能・技術を習得する。		<ol style="list-style-type: none"> 設計の概要 <ol style="list-style-type: none"> 企画から完成までの住宅設計の概要 住宅の構造の概要 (在来軸組 枠組壁構造) 企画・調査内容と方法 住宅設計に関する各種法令と住宅性能 <ol style="list-style-type: none"> 住宅設計、施工に関する各種法令 各種法令の相関関係と申請や検査のタイミング 住宅の性能や仕様を決める制度 設計条件の設定 <ol style="list-style-type: none"> 各種条件の抽出 条件の整理 構想とエスキス実習 <ol style="list-style-type: none"> 計画方針 配置・平面・断面計画とゾーニング ポリウムチェックについて 設備計画について 基本プラン作成の解説および実習 法規制の検討 <ol style="list-style-type: none"> 構造計画 <ol style="list-style-type: none"> 地震力・風圧力による必要耐力壁の計画・実習 採光・換気・排煙計画・実習 基本設計図書の作成 <ol style="list-style-type: none"> 配置図・各階平面図・屋根伏図・立面図作成実習 プレゼンテーション実習 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師 または外部講師		
定員	10名~ 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29~1/3除く)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	パソコン		
受講者持参品	筆記用具、電卓又は関数電卓 (スマートフォンの計算機アプリも可)		



周辺の地盤・基礎 調査実習

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



Revit を使いこなす さらに活用する。業務での困ったを解決！ BIMを用いた建築設計技術 (Revit 編)

オーダー
メイド型

受講対象者 建築・建設業に携わる方でBIM (Revit) の利用法に関するスキルを深めたい方

オーダーメイド型コース

概要		カリキュラム内容	
BIMツールの使い方や効果的な活用法を学び、実践的な建築設計のプロセスを身に付けることができます。さらに作成されたデータを効果的に活用する方法について習得します。		1. BIMの活用方法 (1) BIMの現状 (2) BIMの仕組み (3) 運用における注意点 イ. 運用ルールと手順・方法の重要性について ロ. データ共有方法 (4) 事例紹介 イ. 各国におけるBIM ロ. 日本におけるBIM 2. 建築設計実習 (1) BIMソフトの起動と画面構成 (2) 対象建築物の条件設定 イ. レベル ロ. 通り芯 (3) モデルの作成 イ. 壁、床、建具、設備・家具、天井、屋根、外構、居室の作成 (4) パースの作成 イ. 地形と外構の作成 ロ. カメラの作成 (外観パース用) ハ. マテリアルの設定 ニ. 室内イメージの作成 ホ. レンダリングの実行 (5) 各種図面作成 イ. 平面図の作成 ロ. 立面図の作成 ハ. 断面図の作成 ニ. シートの作成 * 平屋建木造住宅の実習 3. 作成データの活用 (1) モデリングした建物から図面を切り出す方法 イ. 各種図面の作成 ロ. シートヘレイアウトする方法 ハ. 凡例の作成とシートヘレイアウトする方法 ニ. 集計表の作成とシートヘレイアウトする方法 ホ. シート間のレイアウト調整 * オフィスビルを用いた実習 (複数パターンの図面の種類を用意)	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師 または外部講師		
定員	10名～ 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29～1/3除く)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	パソコン一式、資料提示装置、Revit		
受講者持参品	筆記用具		



木造住宅における構造設計実践技術

オーダー
メイド型

受講対象者 木造住宅の構造設計についての知識を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
木構造の材料、接合部や耐力壁の実験値から読む設計の根拠、実践的な構造設計までのノウハウを身につけます。		1. 木構造の構造計画 (1) 木材・木構造の性質 (2) 荷重と外力の種類と流れ方 (3) 各部材の構造的役割 (4) 木造住宅の被害 (5) 構造計画の最重要ポイント 2. 木構造の耐力要素 (1) 地盤・基礎 (2) 軸組 (3) 耐力壁 (4) 水平構面 (5) 接合部 3. 実例による設計演習 モデルプランによる設計の進め方 (1) 地盤・基礎 イ. 基礎種別による基礎設計の進め方 ロ. 止水処理の種類と選択 ハ. 地業の意味 ニ. スクリューウェイト買入試験データの読み取り演習 (2) 軸組 イ. 木材の係数とたわみ算定演習 ロ. 柱・横架材の断面算定演習 ハ. 変形制限を設計できるスパン表とその活用 (3) 耐力壁 イ. 水平耐力の確保とねじれ防止 ロ. 耐力壁端部柱の接合部の設計演習 ハ. 許容応力度計算による水平力の検討 (4) 水平構面 イ. 水平構面の種類と特徴 ロ. 品確法による水平構面接合部の設計 ハ. 耐力壁構面間隔と水平剛性 ニ. 許容応力度計算による水平構面の設計例 4. 設計事例 (1) 設計事例から見る構造設計 (2) 構造設計に有効な実験データ 参考資料	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師 または外部講師		
定員	10名～ 受講料 応相談		
コース番号	オーダーメイド型コース		
日程	平日または土日 (12/29～1/3除く)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等			
受講者持参品	筆記用具、電卓又は関数電卓 (スマートフォンの計算機アプリも可)		



))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



実際にエアコンを施工する方へおすすめ！！

冷媒配管の施工と空調機器据付け技術



受講対象者 空調機器の施工に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
建築設備における空調和設備工事の現場力強化をめざし、技能高度化に向けた空調機器据付け実習を通して欠陥や問題点を未然に予測し防止するための施工技術を習得します。		1. 配管設備図の見方・とらえ方 (1) 工事仕様の確認、検討 (2) 配管材料の選択および規格の確認 (3) 施工基準および施工方法の決定 2. 課題実習機器据付け (1) 据付け場所の選択 (2) 支持・据付け (3) 冷媒配管の加工および接合 (4) ドレン配管の加工技術 (5) 欠陥発生の有無の確認 3. 漏洩検査 (1) 真空乾燥・真空漏洩検査 (2) 冷媒配管の加圧テスト (3) ドレン配管の通水テスト (4) 冷媒の追加補充 (5) 各断熱工事 4. 試運転 (1) 試運転 (2) 能力評価 (3) 評価、確認	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 11,500 円		
コース番号	① H3311 ② H3312		
日程	①6/1(月)～2(火) ②7/13(月)～14(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	配管工具一式、ゲージマニホールド、冷媒充填用はかり、水準器など	参加受講者の声 ●エアコンの主要 4 機器の知識が得られました。 ●空調の原理から据付まで、系統立てて教わることででき有意義でした。 ●理論と実技を通して、知識が深まりました。	
受講者持参品	筆記用具、長袖作業服、作業帽、運動靴 (または安全靴)		

空調設備



冷媒配管のろう付けなど技能の向上に！

冷媒配管の加工・接合技術

受講対象者 空調機器の施工に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
建築設備における空調和設備工事の現場力強化をめざし、技能高度化に向けた冷媒配管加工・接合実習を通して欠陥や問題点を未然に予測し防止するための施工技術を習得します。		1. 冷媒配管に用いられる銅管 2. 曲げ加工 (1) 銅管の規格 (2) 曲げ加工 3. フレア接合 (1) フレア接合の概要 (2) フレア接合 4. ろう付け接合 (1) ろう付け接合の概要 (2) 酸化防止処置の必要性 (3) アセチレンガス溶接装置の使い方 (4) 銅管のろう付け作業 5. 冷媒配管加工・接合実習 (1) 加工法の確認 (2) 寸法取り (3) 加工・接合 (4) 気密試験 (5) 主な欠陥と予防	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 17,500 円		
コース番号	H3411		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	配管工具一式、アセチレンガス溶接器具一式、りん銅ろう、など	参加受講者の声 ●普段経験できない作業を習得できて役に立ちました。 ●個人、会社では中々体験できない実習を行うことができたので、より深く技能、技術についての知識を得ることができました。 ●仕事の内容が具体的に理解できました。 ●未経験の技術を教えていただきました。 ●これまで現場の慣例での作業に理論が加わり、クオリティーが上がりました。	
受講者持参品	筆記用具、長袖作業服、作業帽、運動靴 (または安全靴)		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



空調機器のメンテナンスなど技能の向上に！ 冷凍空調設備の故障診断と予防保全

初日オンライン
開催

受講対象者 建築設備業の管理等に携わっている方またはその候補の方

概要

空調調和換気設備保全の現場力強化及び技能伝承を目指して、技能高度化、故障対応・予防に向けたp-h線図の理解及び空気線図の理解と冷媒回収実習などを通して、環境・省エネに配慮した冷凍空調設備診断・予防保全技能・技術を習得します。

予定講師 ポリテクセンター関東 講師

定員 10
受講料 9,000円
コース番号 H3511

日程
時間
オンライン
学科講習 11月以降開講予定
9:15～16:00 (休憩45分間含)
1日間 6時間
通所
実技講習 11月以降開講予定
9:15～16:00 (休憩45分間含)
1日間 6時間
計2日間 12時間

使用
機器等
冷凍空調工具類、各種測定機器

受講者
持参品
筆記用具、作業用帽子、
作業に適した服装

カリキュラム内容

- ◆1日目の学科講習は、「オンライン受講」となります。
- ◆2日目の実技講習は、ポリテクセンター関東にお越しいただき、実習を実施します。
- ◆オンライン配信を受講いただくには、以下について各自でご準備いただきます。
- ①受講用の端末（パソコン、タブレット等）②インターネット接続環境③WEB会議アプリケーション【Microsoft Teams®】（アプリ版）※事前インストール、ID・パスワード登録が必要です。Web版は機能に制限があるため、アプリ版の利用を推奨いたします。
- ◆ログオンアカウントや接続方法等のオンライン配信受講に係る詳細等はお申込手続き終了後にお送りいたします。

1. 空気調和概要
 - (1) 空気調和の四要素
 - (2) 建築物環境衛生管理基準
 - (3) 換気の基準
2. 冷凍空調機器の管理ポイント
 - (1) 各種空調機器について
 - (2) 各種機器の特徴
 - (3) 管理ポイントについて
3. 空気調和システム
 - (1) p-h線図を利用した冷凍サイクルの理解
 - (2) 湿り空気線図を用いた空気調和システムの理解
4. 空気調和システムの保全実務
 - (1) 蒸気圧縮式冷凍機の故障診断と保全技術
 - イ. 冷凍機の故障診断実務
 - ロ. 環境に配慮した冷媒の取扱い、回収、充填作業
 - (2) 空気調和機の故障診断と保全技術
 - イ. 送風機の保全管理
 - ロ. フィルター、コイルの保全管理
 - ハ. 自動制御機器の保全管理
5. 空気調和機の省エネルギー
 - (1) 省エネルギーの事例紹介
 - (2) 全体まとめ

参加受講者の声

- 冷凍等のシステムについて理解できました。
- しっかりと、かつわかりやすく理論を説明してくれたので良かったです。
- 現場で行っていた内容の理論的な整理ができました。
- 新たな知識を細かに得る事ができました。



電気設備のトラブル発見・保守・点検を学ぶ！ 現場のための電気保全技術



受講対象者 電気設備の保全に携わっている方またはその候補の方

概要

電気設備保全、電気機器設備保全の現場力強化をめざして、診断・予防保全に向けた総合実習を通して、電気保全技術、故障箇所の特定・対処法、劣化防止、測定試験、作業の安全対策に関する技能・技術を習得します。

予定講師 ポリテクセンター関東 講師

定員 10
受講料 10,500円

コース番号 ① H3611
② H3612

日程 ①5/18(月)～19(火)
②6/11(木)～12(金)

時間 9:15～16:00
(休憩45分間含)
2日間 計12時間

使用
機器等
配線用遮断器、モータブレーカ、電磁接触器、サーマルリレー、スイッチボックス、表示灯、電動機、回路計、絶縁抵抗計、クランプ式電流計、工具、その他

受講者
持参品
筆記用具、作業用帽子、
作業に適した服装

カリキュラム内容

1. 概要
 - (1) 電気設備の概要
 - (2) 電気系故障の分類
2. 電気災害と安全対策
 - (1) 感電の人体反応と対策
 - (2) 短絡、漏電、過負荷の対応策
 - (3) 接地の必要性と起因するトラブル
 - (4) 安全作業
3. 欠陥の種類
 - (1) 混触、過熱、電圧降下
 - (2) 絶縁劣化
4. 電気設備のトラブルとその対策
 - (1) リレーや回路の故障原因とその対策
 - (2) 回路を構成する機器の故障発見技術
 - (3) 測定器を使用した回路確認
5. 電気保全実習
 - (1) 現場における測定検査実習
 - (2) 屋内配線の不良箇所の発見実習
 - (3) 制御盤の不良箇所の発見実習
 - (4) 電気機器の不良箇所の発見実習
6. 全体的な講評及び確認・評価

参加受講者の声

- 電気の保全を復習する事ができました。
- 会社ではやっていない事なのでまったくあたらしい技術を身につけられました。
- 不具合へのアプローチ方法が理解できました。
- 電気図の見方などがわかりました。

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



自家用電気設備の維持管理及び運用実務を短期間で学ぶ 自家用電気工作物の高圧機器技術

受講対象者 自家用電気工作物の保守点検に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
電気設備保全の現場力強化をめざして、高圧機器操作等の実習により、高圧電気設備の工事・維持および運用実務を効率良く安全に行える技能・技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 高圧受変電設備の概要 <ol style="list-style-type: none"> 電圧の区分 電気工作物の種類 受変電設備 受変電設備の形態 主遮断装置の形式 <ol style="list-style-type: none"> CB形 LBS型 高圧受変電設備の結線図 <ol style="list-style-type: none"> 単線結線図 複線結線図 高圧受変電設備用機器と操作 <ol style="list-style-type: none"> スイッチ類 (CB、LBS、PAS、PC、DS、PF) 変圧・変流器類 (T、VT、CT、VCT、ZCT、ZPD) その他高圧機器類 (LA、C、SR) 継電器類 (OCR、GR、DGR、SOG、UVR) 計器類 (Wh、VS、AS) 電線類 (KIP、CV、CVT) 高圧受変電設備の機器操作 <ol style="list-style-type: none"> 高圧電源投入 高圧電源遮断 高圧受変電設備系統調査 <ol style="list-style-type: none"> 開放形受変電設備 キュービクル まとめ <ol style="list-style-type: none"> 実習の全体的な講評および確認・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	11,000円
コース番号	H3711		
日程	5/26(火)～27(水)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	高圧受変電設備、高圧検電器、フック棒、安全ヘルメット、高圧絶縁保護具一式		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、長袖作業服		

参加受講者の声

- 実設備を使用した模擬実習で理解を深めることができました。
- 電気設備の保守点検で実際にどのような作業を行っているのかを説明を受け、実際に計器類を使用する事で、とても勉強になり、身に付きました。
- 会社で簡単な説明はあったものの実際にキュービクルを用いての実技がなかったので要領をつかむことができました。
- 動作原理やなぜそうなるのかを知ることができました。

保全／設備管理

省エネ



実習でわかる省エネルギーの進め方と対策技術

受講対象者 工事・ビル等において省エネルギー推進に従事する担当者及び技術者や省エネルギーの進め方でお困りの方

概要		カリキュラム内容	
省エネルギー推進の生産性の向上をめざして、エネルギーの効率化に向けた照明及び空調の省エネ対策の実習を通して、省エネルギーの推進方法及び具体的な省エネルギー対策技術を習得する。		<ol style="list-style-type: none"> ビルの省エネポイント <ol style="list-style-type: none"> 事務所ビルの省エネポイントと対策 ビル省エネの削減余地について 電力と電力量 <ol style="list-style-type: none"> 電力について (受電端効率、発熱量) 電力利用金体系について <ol style="list-style-type: none"> 従量電力 契約電力 力率割引 電力計算演習 省エネの進め方 <ol style="list-style-type: none"> 省エネの考え方 (効率追求、ロスの削減) 省エネ推進の4ステップ <ol style="list-style-type: none"> 全員の気付きで負荷の削減 運用の省エネ 設備の省エネ システムの省エネ 全員の省エネ (省エネ余地シミュレーション) 照明の省エネ <ol style="list-style-type: none"> 照明の種類と構造 照明の評価と照度計算 タスク、アンビエント照明について <ol style="list-style-type: none"> 考え方と事例 直接照明、間接照明における照度及び電力測定による省エネ評価 エアコンの省エネ <ol style="list-style-type: none"> エアコンの構造とヒートポンプの原理 エアコンの種類と構成 効率評価指標について (COP、APF) エアコンの省エネ対策 室外機省エネ対策の実習 <ol style="list-style-type: none"> ショートサーキット実験 (外気温上昇による電力測定評価) 散水効果実験 (室温、電力比較による省エネ評価) 補助金申請について <ol style="list-style-type: none"> 省エネ補助金の種類について 効果試算の計算方法 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 実習の全体的な講評及び確認・評価 	
予定講師	とおみね技術士事務所 遠峰 徹 氏		
定員	10	受講料	19,500円
コース番号	H3811		
日程	7/1(水)～2(木)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	ルームエアコン実習装置、ヒートポンプ実習装置、照明実習装置、風速計、温度計、電力計、照度計、パソコン一式、表計算ソフト		
受講者持参品	筆記用具、作業用帽子、作業に適した服装		

参加受講者の声

- 提案内容別に具体的な計算方法、原理を説明いただきました。実際業務に役立つと思います。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



実務に必要な計測技術を身につける！

電子回路の計測技術 (実践計測 オシロスコープ・テスタ編)

受講対象者 基本的な電気回路がわかる方



概要

電気・電子測定／電気・電子部品検査の生産性の向上をめざして、適正化、安全性向上に向けた回路製作及び測定実習を通して、各種計測機器の活用技術を習得します。

予定講師 ポリテクセンター関東 講師

定員 10 受講料 12,000 円

コース番号 ① E0111 ② E0112
③ E0113 ④ E0114
⑤ E0115 ⑥ E0116

日程 ①4/9(木)~10(金) ②6/8(月)~9(火)
③7/16(木)~17(金) ④7/22(水)~23(木)
⑤9/1(火)~2(水) ⑥10/6(火)~7(水)

時間 9:15 ~ 16:00
(休憩 45 分間含)
2 日間 計 12 時間

使用機器等 直流安定化電源、ブレッドボード、オシロスコープ、テスタ

受講者持参品 筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)

カリキュラム内容

- 回路と計測の概要
 - 電気・電子回路の概要
 - 各電気・電子回路の構成
 - 各電気・電子回路の特性
 - 計測の概要
 - 測定値の取り扱い
 - 計器の特性、確度および使用法
 - 計測注意点と安全対策
- 計器の校正
 - テスタの原理
 - プローブの校正
 - オシロスコープの測定技法
- 電気回路と電子回路の検証と計測
 - 断線、短絡等の故障診断について
 - 各電気・電子回路の検証および効果的な計測技法
 - 機械接点のチャタリング
 - C R 回路や L R 回路の特性
- 波形観測実習
 - 各計測データの検証
 - 計測値と実測値の比較
 - チャタリング除去対策とその効果
 - 回路評価

- デジタル波形の測定技法
 - 回路評価
- まとめ
 - 実習の全体的な講評および評価・確認

参加受講者の声

- 測定機の使い方や機能を実習を通じて学ぶことができ今後に生かせそうです。
- オシロスコープの使用法や測定方法について、理解して使えるようになりました。
- 今までは何となく使っていた測定機器の使い方を改めて知れました。
- 測定機の使い方を一から学ぶ機会がなかったので、今日知ることができてよかったです。
- 実機を使用しながら学習ができて、結果を見ながら進めることが出来たので、ネットや本での学習に比べ、専門的な内容を習得できたと思います。

電子回路 / パワーエレクトロニクス



アナログ回路の登竜門！！

トランジスタ回路の設計・評価技術 (アナログ回路 トランジスタ編)

受講対象者 これからアナログ回路関連業務を担当する方



概要

トランジスタ回路を中心に、実用的なアナログ回路の設計技術とその評価技術を習得します。

予定講師 ポリテクセンター関東 講師

定員 10 受講料 13,000 円

コース番号 ① E0211 ② E0212
③ E0213

日程 ①4/22(水)~23(木) ②8/4(火)~5(水)
③10/14(水)~15(木)

時間 9:15 ~ 16:00
(休憩 45 分間含)
2 日間 計 12 時間

使用機器等 基本測定器

受講者持参品 筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)

カリキュラム内容

- トランジスタの知識
 - トランジスタの動作モデル
 - トランジスタの特性
 - 増幅回路への応用
- 増幅回路の知識
 - エミッタ共通回路
 - 動作原理と部品の役割
 - 回路各部の動作検証
 - 周波数特性と入出力インピーダンスの測定
 - エミッタフォロワ回路
 - 動作原理と部品の役割
 - 回路各部の動作検証
 - 出力インピーダンスが低い理由
 - 回路の改善 (大きな出力電流の取り出し方)
- 増幅回路の設計方法
 - 設計手順
 - 設計コンセプト
 - 設計のポイント

- 総合実習
 - オーディオアンプの設計
 - 動作確認と特性の測定
 - レビュー (評価)

参加受講者の声

- アナログ回路の設計の仕組みがわかってよかったです。
- 製品の動作確認用治具 (ハードウェア) を設計するための知識が深まったと思います。
- 丁寧な教え方と実習のおかげで効率よく勉強することができました。
- トランジスタ回路設計について一般的な考え方などを含め、説明していただくことにより、理解を深めることができました。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



FETの活用法から応用回路までを詳しく解説 FET回路の設計・評価技術 (アナログ回路 FET編)



受講対象者 「トランジスタ回路の設計・評価技術」(P40 参照)を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方

概要		カリキュラム内容	
FETの動作原理を理解するとともに、特性測定や応用回路設計・製作実習を通してFETを活用するための実践技術を習得します。		1. FETとは (1) 各種FETの特徴と振る舞い、回路記号の違い (2) 伝達特性 (3) リニア・モードとスイッチ・モード 2. 回路設計例 (1) 回路設計例 イ. LED点灯回路の設計・動作確認 3. リニア・モードの応用回路 (1) 複数個LEDの定電流駆動回路 (2) ジャンクション型FETを用いたソース接地増幅回路 イ. バイアス電圧の確認 ロ. 各部の動作波形と回路の振る舞い 4. スイッチ・モードの応用回路 (1) ブリッジ回路 イ. ハーフ・ブリッジ回路(コンプリメンタリ) ロ. フル・ブリッジ回路(コンプリメンタリ) (2) Nch MOSFETフル・ブリッジ回路 イ. ブート・ストラップ電源と専用ICの活用法 ロ. DCモータ駆動による回路動作検証 5. 総合課題 (1) DC/DCコンバータの特性と評価	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	12,500円
コース番号	E0311		
日程	5/12(火)~13(水)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	基本測定器、実習用ボード		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓(貸出しあり)		

本コース受講前に、「トランジスタ回路の設計・評価技術」(P40 参照)の受講をお勧めします。

参加受講者の声

- FETとトランジスタ回路の用途のちがいを理解できました。
- FETの特性について理解が深まりました。
- トランジスタとFETの設計の特徴をつかむことができました。
- 会社でFETを使ったDC-DCコンバータを使用した基板の設計グループに参画しているが、研修の機会が無く知識不足を感じていた。自身で数値設計する機会を得られて役立った。



オペアンプの活用法から応用回路までを身につける！ オペアンプ回路の設計・評価技術 (アナログ回路 OPアンプ編)



受講対象者 基本的な電気回路がわかる方

概要		カリキュラム内容	
オペアンプの電気的特性と各種増幅回路の設計手法について理解し、発振回路やフィルタ回路等の応用回路設計について実習を通して習得します。		1. オペアンプの特性と各種回路 (1) オペアンプの特性 イ. 理想オペアンプと等価回路の比較 ロ. 出力電圧・電流の制限 ハ. 周波数特性とGBW ニ. スルーレートによる信号伝達の遅延 (2) 各種回路の動作と特徴 イ. 反転・非反転増幅回路 ロ. 差動増幅回路 ハ. 加算・減算回路 ニ. 高利得増幅回路 2. 回路設計 (1) 発振回路の設計 イ. 単電源オペアンプによる発振回路とその動作 ロ. 方形波発振回路の定数設計 (2) 積分回路の設計 イ. 単電源オペアンプによる積分回路とその動作 ロ. 三角波発生回路の定数設計 (3) PWM信号発生回路の設計 イ. コンパレータの動作とPWM信号発生のおしくみ 3. 総合課題 (1) DCモータ速度制御回路の製作 イ. 方形波発振回路の製作 ロ. 三角波発生回路の製作 ハ. PWM信号発生回路の製作 ニ. 各部の波形観測と動作検証 (2) 回路の評価と改善	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	13,000円
コース番号	① E0411 ② E0412		
日程	① 4/27(月)~28(火) ② 10/20(火)~21(水)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	基本測定器		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓(貸出しあり)		



参加受講者の声

- サプライヤー任せにしているアナログ回路設計を自身でも理解できるようになるのに役立ちます。
- 業務でPWM制御を用いるので、原理を理解できてよかったです。
- 現物を動かしての実習で、OPアンプの動作原理がよく理解できました。
- オペアンプの具体的活用法について、実習を通して学ぶことができました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

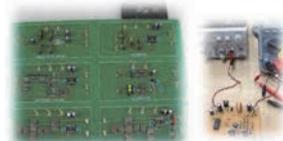
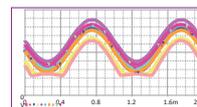


回路シミュレータSPICEの活用法を詳しく解説

シミュレータを活用したアナログ回路設計技術 (アナログ回路 シミュレーション編)

受講対象者 トランジスタ、オペアンプの動作がわかる方

概要		カリキュラム内容	
電子回路シミュレータ (SPICE) を用いて、電気的特性について評価します。また、回路基板を用いた実習により、実際の動作を確認することで、回路設計実務への活用技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> シミュレータの活用について <ol style="list-style-type: none"> 回路シミュレータを活用することのメリットとデメリット 回路シミュレータを有効活用するには SPICE系シミュレータの苦手分野 シミュレータの活用事例 <ol style="list-style-type: none"> エミッタ接地増幅回路の解析と実回路での動作検証 <ol style="list-style-type: none"> バイアス電圧 電源電圧が変動した場合の動作 周波数解析結果と実測データとの比較 過渡解析結果と実測データとの比較 歩留まりの予測 部品の特性を考慮したシミュレーション技法 <ol style="list-style-type: none"> 現実の部品とシミュレーションモデルの違い 部品のモデリングと実回路への合わせ込み <ol style="list-style-type: none"> コイルとコンデンサのモデリング オペアンプをモデリングするには 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> アクティブ・フィルタの設計・解析 <ol style="list-style-type: none"> 定数設計 部品と回路方式の選定および解析 実回路での動作検証と評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	16,000 円
コース番号	E0511		
日程	6/25(木)~26(金)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	基本測定器、実習用ボード <ソフト>回路シミュレータ (LTspice)		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		



参加受講者の声

- LTSpiceのモンテカルロ解析は知らなかったの役に立ちました。
- LTSpiceの使い方を理解することができました。また、使う上での注意点も学びました。
- 業務中はなかなか勉強する時間がとれず、なんとなくで設計時にspiceを使用していたため、色々な解析方法を学ぶことができてよかったです。
- 回路の意味、オシロの知識を深められました。



デジタル回路の基盤技術を身につける!

デジタル回路設計技術

受講対象者 基本的な電気回路がわかる方

概要		カリキュラム内容	
デジタルICの特性や、代表的なデジタル回路とその設計法を理解するとともに、デジタル回路設計に必要な技術を実習を中心としたカリキュラムにより習得します。		<ol style="list-style-type: none"> デジタルICの概要 <ol style="list-style-type: none"> デジタルとアナログ 2進数と16進数 TTL、CMOSの特徴 組み合わせ論理回路の設計 <ol style="list-style-type: none"> 論理式と論理回路 真理値表と論理式 論理式の簡単化 論理回路の構成 配線および動作確認 入出力回路 <ol style="list-style-type: none"> デジタルスイッチ入力回路 7セグLEDのデコーダ回路 演算回路 配線および動作確認 フリップフロップ <ol style="list-style-type: none"> 記憶の原理と回路実習 各種フリップフロップの特徴と動作 レジスタ回路 <ol style="list-style-type: none"> シフトレジスタ カウンタ回路 <ol style="list-style-type: none"> 2進カウンタとN進カウンタ 非同期式カウンタと同期式カウンタ 配線および動作確認 総合実習 <ol style="list-style-type: none"> 実習課題の仕様 回路設計実習 動作確認 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	11,000 円
コース番号	① E0611 ② E0612		
日程	①4/22(水)~23(木) ②6/23(火)~24(水)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	基本測定器		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		



参加受講者の声

- 回路の意味、オシロの知識を深められました。
- 「なんとなく、そういうもの」として納得していた知識について理解する機会になりました。
- 理論的なところから詳しく教えていただいたため、分かりやすかったです。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



各種デジタル回路設計技術のステップアップに！

HD Lによる回路設計技術 (デジタル回路設計 VHDL 編)

受講対象者 基本的なデジタル回路がわかる方、回路の集積化をめざす方



概要		カリキュラム内容	
FPGAのハードウェア概要やHDL記述のルール、開発環境等を理解し、システム開発の効率化に必要な設計手法を実践的に習得します。		1. HDL (ハードウェア記述言語) による開発 (1) ハードウェア概要 イ. FPGAの特徴 ロ. FPGAの構造 (2) 開発フロー イ. 論理合成 ロ. 配置配線 (3) HDL記述のルール イ. HDL概要 ロ. HDL構文 (4) 組合せ回路実装実習 イ. セレクタ ロ. マルチプレクサ ハ. エンコーダ、デコーダ ニ. 演算回路 (5) 順序回路実装実習 イ. フリップフロップ ロ. レジスタ ハ. カウンタ ニ. ステートマシン (6) シミュレーション実習 2. 設計のポイント (1) 階層設計 (2) 同期設計 (3) ステートマシン設計 3. 総合実習 (1) 詳細設計 (2) HDL記述 (3) 動作確認とデバッグ	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	15,500円
コース番号	E0711		
日程	7/14(火)~16(木)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間		
使用機器等	開発用ターゲットボード <ソフト>統合開発環境 (Xilinx社製Vivado)		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- FPGA設計に携わったことはじめてだったが、設計の仕方を一から理解することができました。
- 動作を行うことを通じ、構造、必要要素を確認する癖を身に付けるような機会になったように思います。
- HDLは初めてでしたが、ちゃんと足がかりの知識が身に付いた気がします。
- VHDL言語について知ることができた

電子回路/パワーエレクトロニクス



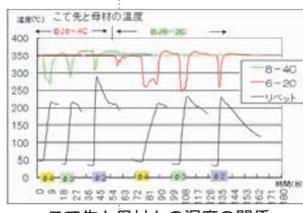
鉛フリーはんだの特徴と実装のポイントを身につける！

基板製作に係る鉛フリーはんだ付け技術 (鉛フリーはんだ付け編)

受講対象者 はんだ付けに携わり鉛フリーはんだの導入を検討中の方または鉛フリーはんだでお困りの方



概要		カリキュラム内容	
鉛フリーの手はんだ付け作業に必要な知識および問題・課題などを解説するとともに、品質管理の一手法を紹介します。また、はんだ付け実習により、実際の作業上のポイントを確認し、鉛フリーはんだ付け作業の実践技術・管理技術を習得します。		1. 鉛フリー化 (1) 環境問題と法規制 (2) 国内外における鉛フリー化の現状 2. 手はんだ付けの科学的知識 (1) 実装条件 (2) こて先と母材の相関関係 (3) めくれ性とフラックス 3. 鉛フリー手はんだ付けの課題 (1) はんだ組成の影響 (2) はんだ作業、修正の課題 (3) 品質保証とコスト 4. 鉛フリー手はんだ作業のポイント (1) 温度管理の必要性 (2) プロセス温度管理の重要性 (3) はんだごとの選定 (4) 周辺機器の上手な活用 (5) こて先の寿命対策 5. 鉛フリー手はんだ付け実習 (1) 手はんだ作業による温度変化の測定 (2) 手はんだ作業による不良発生の原因と対策 (3) 信頼性の高いはんだ付け技能の習得 6. まとめ (1) 鉛フリー化におけるコスト低減のヒントと作業改善 (2) 過去の事例の紹介 (3) 質疑応答	
予定講師	日本ボンコート 株式会社 講師		
定員	10	受講料	25,500円
コース番号	E0811		
日程	7/1(水)~2(木)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	温度コントローラ付はんだごて、実習用基板・部品等、ルーペ、工具一式		
受講者持参品	筆記用具		



参加受講者の声

- はんだの作業は普段から行っていますが、今回のセミナーでははんだについての理解が深まりました。
- いつも作業しているだけだったので理由を知らない事が多かったのですが、それがよく理解出来た事で指導に役立てるとしています。
- 業務でははんだづけ作業を行っているが我流の部分がかった為、色んな知識を得られました。
- はんだでのてさせない温度や、コテの角度でのりが変わることを知ることができました。

>> 担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



実際に電子機器を組立て、実装技術を身につける！

電子回路製作と実装技術



受講対象者 1つ1つの部品から電子機器が完成するまでのプロセスを習得したい方

概要		カリキュラム内容	
<p>電子機器組立ての技能（部品実装や配線作業など）の高度化をめざして、鉛フリーはんだの性質を理解し、電子部品の基板への実装技術等を習得します。 (技能検定の準備講習ではありません) ※製作した電子機器は、お持ち帰りいただけます。</p>		<p>1. はんだ付け (1) はんだによる実装 イ. 共晶はんだと鉛フリーはんだの知識 (2) 端子へのはんだ付け イ. 各種端子の形状におけるはんだの量と熱容量 (3) 基板へのはんだ付け イ. 表面実装部品とディスクリート部品、はんだごてのこて先状態と熱容量 (4) はんだ付け接続の検査 イ. 検査の目的と対象事項、各種検査</p> <p>2. 器具の取付け (1) ネジ締付け作業 イ. ネジ締付け用工具とネジ部品の使い方、適正ネジ締付けトルク</p> <p>3. 実装・組立 (1) 電気部品の端子 イ. 端子分類、リード線 (2) プリント基板部品取付け作業 イ. プリント基板に対する部品取付けの原則 (3) シャーシへの部品組立て イ. 機構図による組立て、ネジ取付け不良原因究明と再発防止策 (4) 配線作業 イ. 束線作業（捕縛・インシュロック）、線材端処理等 (5) 配線チェック イ. 目視チェックおよび導通チェック、誤配線の原因究明と再発防止策</p> <p>(6) 仕上げ作業 イ. 製品内のゴミ除去、シャーシの傷・汚れ等の点検作業</p> <p>4. 総合課題 (1) 総合課題の製作と検査 イ. 目視チェックおよび導通チェック、仕上げ作業 ロ. 品質管理および安全管理上の問題点について</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 33,000 円		
コース番号	E0911		
日程	10/27(火)~30(金)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 4 日間 計 24 時間		
使用機器等	はんだ付け作業機器一式、電子機器組立て工具一式、テスタなど	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1 から作業をしてみて、自身が得意とする作業、苦手とする作業をハッキリさせることに加えて技術力を高めることができたと思いました。 ●分らないところを的確にアドバイスして下さるのでスピーディーに作業を進めることができて良かったです。 ●作業経験はあったがその作業の理由を知ることができました。 ●基板実装、ハーネス加工について新たな技術が身につきました。 	
受講者持参品	筆記用具。使い慣れた上記使用機器等がありましたらご持参ください。		

電子回路/パワーエレクトロニクス



ノイズ対策とEMC設計の技術を身につける！

EMC対策のための電磁気学



受講対象者 ノイズ対策の考え方やノイズ対策でお困りの方

概要		カリキュラム内容	
<p>回路設計・製作でノイズ対策の効率化・最適化を行い、論理的側面（伝送線路理論や電磁界理論等）による検証・評価に関する知識・技術を習得します。</p>		<p>1. ノイズ対策と電磁気学との関係 (1) 信号や電源による電荷の移動 (2) ガウスやクーロンの法則 (3) アンペールの法則 (4) 電界と磁界からのエネルギーとその最小化</p> <p>2. 電磁波のエネルギーを最小にするための技術 (1) インダクタンスとキャパシタンスとノイズの関係 (2) 空間に流れる変位電流とは (3) 変位電流とノイズとの関係 (4) インダクタンスとノイズとの関係 (5) 機能回路（ノーマルモード）からコモンモードノイズが発生するメカニズム（ファラデーの法則）</p> <p>3. 信号伝搬回路とインピーダンスマッチング、イミューンティーと電磁気学 (1) 信号伝送回路から特性インピーダンス、反射係数 (2) さまざまな伝送路と特性インピーダンス (3) インピーダンスマッチング (4) 電磁気学に基づくイミューンティーの技術</p> <p>4. 実習・実験 (1) 電界の大きさ（点電荷、線電荷、面電荷） (2) 磁界の大きさ（ループと起電力） (3) ループの大きさとコモンモードノイズ</p>	
予定講師	有限会社 イーエスティー 代表取締役 鈴木 茂夫 氏		
定員	10 受講料 21,500 円		
コース番号	① E1011 ② E1012		
日程	①7/6(月)~7(火) ②9/10(木)~11(金)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	基本測定器、スペクトラムアナライザ	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノイズがどのように伝搬するのか、どのようにノイズの放射をおさえるのか、の考え方を理解することができました。 ●今回の講義を通じてノイズの考え方を身につけることができました。 ●ノイズ対策のノウハウを理論的に理解することができました。 ●設計における実践的な考えが身につくようなセミナーでした。 ●回路の作り方が理論的に分かりました。 	
受講者持参品	筆記用具、関数電卓（貸出しあり）		

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



ノイズ発生メカニズムを理論的に解析できる技術を身につける！ 電子回路から発生するノイズ対策技術 (デジタル電子回路 ノイズ対策編)



受講対象者 ノイズを理論的にとらえたい方

概要		カリキュラム内容	
EMCに関する計測量、コモンモードノイズ、ノーマルモードノイズについての理解を深めるとともに、主にデジタル回路から発生するノイズ対策についての実践技術を習得します。		1. EMCの知識 (1) EMCに関する計測量 (2) 電磁波の性質と特性インピーダンス (3) ノーマルモードノイズとコモンモードノイズ イ. ノーマルモードノイズの発生とその大きさ ロ. コモンモードノイズの発生とその大きさ 2. デジタル回路から発生するノイズと対策 (1) クロックパルスの周波数スペクトラム イ. 矩形波のスペクトラム ロ. スペクトラムレベルの改善 (2) 電源ライン (パターン) への対策 (3) GNDの対策 (4) パソコンの効果 3. 測定実習 (1) ダンピング抵抗の効果 (2) パソコンの最適値と決定法 (3) コモンモードノイズの測定 4. プリント基板のノイズと対策 (1) パターンの特性インピーダンス イ. プリントパターンの特性インピーダンス ロ. インピーダンス・マッチング (2) 基板に接続するケーブル イ. ケーブルの種類とノイズに対する効果 ロ. 同軸ケーブルの構造と特性インピーダンス (3) ノイズ対策部品 イ. フェライトコアの特性と活用について ロ. フィルタの特性と活用について (EMIフィルタ、電源ラインフィルタ) (4) シールドの効果 イ. シールド材と電磁波の関係 ロ. 電子機器の筐体のシールド対策	
予定講師	有限会社 イーエスティー 代表取締役 鈴木 茂夫 氏		
定員	10	受講料	29,000 円
コース番号	E1111		
日程	7/8(水)～10(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	基本測定器、 スペクトラムアナライザ、 実習用ボード		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		

参加受講者の声

- そもそもノイズとはどういうものか理解できました。
- なんとなくやっていたことを理論的に理解することで技術が深まりました。
- ノイズが発生するメカニズムや対策を、理論と実践でわかりやすく理解することが出来ました。
- 実際にノイズがフェライトコアやパソコンにより減っていく様子を実験で見ることができました。



ノイズ発生メカニズムを理論的に解析できる技術を身につける アナログ・デジタル混在回路におけるノイズ対策技術



受講対象者 ノイズ対策にお困りの方

概要		カリキュラム内容	
電子回路基板内で起こっている現象とノイズ発生メカニズムを理解するとともに、アナログ・デジタル混在回路におけるノイズ対策技術について実践的に習得します。		1. ノイズ発生メカニズム (1) ノイズ源と伝搬経路、ノイズを受ける部分の特徴 (2) 電子回路基板内で起こっている電磁波の放射とS/N劣化のメカニズム 2. デジタル回路から発生するノイズ (1) デジタル信号の特徴と周波数スペクトラム (2) ICから発生するスイッチングノイズ (3) ノーマルモードノイズが広がる経路 (4) ケーブルを通しての伝搬ノイズ 3. ノイズ変換 (1) ノーマルモードからコモンモードへのノイズ変換 イ. ノイズ変換を最小にするには (2) コモンモードノイズの伝搬と放射 イ. 電界・磁界の発生と伝搬 ロ. ケーブルからの放射ノイズ (3) コモンモードからノーマルモードへのノイズ変換 イ. 不平衡回路と平衡回路 4. アナログとデジタルの混在回路 (1) アナログ回路とデジタル回路の分離について イ. メリットとデメリット ロ. 分離されたGNDを流れる電流 (2) アナログ・デジタル混在回路基板の実際 5. 測定実習 (1) アナログ回路部 (微小信号増幅回路) の動作 イ. 回路の仕様 ロ. 回路動作の把握 (動作確認) (2) デジタル回路からアナログ回路へのノイズの影響 イ. 実測による検証 (不平衡回路と平衡回路) (3) アナログとデジタルのGNDを共通にした場合の影響 イ. 改善事項とその検討 (4) アナログ回路側のノイズ対策とその効果 イ. 実測による検証 (不平衡回路と平衡回路) ロ. コモンモードチョークコイルの効果	
予定講師	有限会社 イーエスティー 代表取締役 鈴木 茂夫 氏		
定員	10	受講料	29,500 円
コース番号	E1211		
日程	8/26(水)～28(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	基本測定器、 スペクトラムアナライザ、 実習用ボード		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		

参加受講者の声

- 明確な原因が分からないまま行っていた対策による解決ではなく、理論に則った教え方で設計ができるようになりそうです。
- ノイズ対策の理論を数式として整理でき、理解が深まりました。
- EMC対策のソフトウェア開発に活かせると思います。
- デジタル回路とアナログ回路のGND処理について学ぶことができました。シールドケーブルの処理について理論的に考えることができました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



AD/DA変換回路の仕組みから設計手法までを詳しく解説。現役回路設計技術者が最新技術動向を交え講義します!!

実習で学ぶ高性能AD/DA変換回路設計技術

受講対象者 基本的な電気・電子回路のわかる方

概要

AD/DA変換回路の動作原理について理解を深めるとともに、デバイスの性能を最大限引き出すための設計テクニック等、実習を通して習得します。

予定講師 **アキュフェーズ 株式会社**
製品企画部 部長 大貫 昭則 氏

定員 10 受講料 17,000 円

コース番号 E1311

日程 11月以降開講予定

時間 9:15 ~ 16:00
(休憩 45 分間含)
2 日間 計 12 時間

使用機器等 基本測定器、実習用ボード

受講者持参品 筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)

カリキュラム内容

- AD/DAコンバータICの概要
 - アナログ・デジタル信号処理の流れ
 - コンバータICの特徴と使用例
 - コンバータICのキーパラメータ
 - 分解能と変換スピード、SNR、THD、ダイナミックレンジ
 - IC選定のポイント
 - 基準電圧源
 - 変換精度と誤差に関する考察
- ローノイズアンプの設計と最新技術動向
 - 信号測定用ローノイズアンプの設計
 - 回路の仕様と定数設計
 - 回路製作と動作確認
 - DA変換回路の性能と動作の検証
 - 折り返し雑音と抑圧効果
 - アバーチャ効果
 - デジタル信号の品質とアナログ信号の精度
 - 最新技術動向
- AD変換回路の設計
 - AD変換の動作原理
 - 標準化と量子化、符号化の関係
 - 折り返し雑音とオーバーサンプリング技術
 - $\Delta\Sigma$ 変調方式について
 - 周辺回路の設計
 - 入力フィルタ
 - サンプル&ホールド回路
 - 基準電圧源と基準クロック
 - 変換精度と誤差に関する考察
- DA変換回路の設計
 - DA変換の動作原理
 - 再生化
 - アバーチャ効果、ディザとオーバーサンプリング技術
 - $\Delta\Sigma$ 変調方式について
 - 周辺回路の設計
 - 出力フィルタ

参加受講者の声

- 部品の選定や回路の構築の仕方で品質に大きな影響が出ることを学ぶことができました。
- 目的としていたAD/DA変換回路設計が理解できました。同時にEMC対策についても具体的な手法が学べてよかったです。
- AD/DA変換の理論と実機を用いての波形観測、測定をすることで動作の理解が深まりました



ハードウェア技術者の方にもオススメ!

組込み技術者のためのプログラミング (C言語 IoT スタートアップ)

受講対象者 これから組込みシステム開発のためにC言語を習得したい方

概要

組込みシステムの開発やマイコン制御に必要なC言語のプログラミング技術について習得します。

予定講師 **ポリテクセンター関東** 講師

定員 15 受講料 10,000 円

コース番号 ① E1411 ② E1412
③ E1413 ④ E1414

日程 ①4/13(月)~14(火) ②5/25(月)~26(火)
③7/29(水)~30(木) ④10/21(水)~22(木)

時間 9:15 ~ 16:00
(休憩 45 分間含)
2 日間 計 12 時間

使用機器等 開発用ターゲットボード
<ソフト>パソコン用Cコンパイラ
ターゲット用Cコンパイラ

受講者持参品 筆記用具

カリキュラム内容

- 開発環境と訓練目的の確認
 - 訓練の目的および専門的能力の確認
 - ソースコードから実行ファイルまでの生成の確認
 - コンパイルからプログラムの動作確認
- 開発技法とプログラミング
 - 組込み用途C言語の特徴
 - 汎用C言語と組込みC言語
 - 変数とメモリ
 - 制御対象のハードウェア (ROMとRAM)
 - 変数の種類と用途
 - フロー制御構文による標準I/O制御実習
 - フロー制御構文の理解 (if文、switch文、while文、for文)
 - ポインタ変数による配列の操作
- 応用課題
 - I/O制御実習 (マトリクスLEDの制御実習)
 - 割込みプログラミング
 - 動作確認・デバッグ
 - 評価・改善

```
void main(void) //main関数
{
    char col; //列制御用変数
    init(); //ハードウェア初期化
    p=Dot; //配列の先頭ポインタ
    while (1) { //無限ループ
        //スイッチがOFFの場合はループを飛ばす
        if (PORTA & 0x08) continue;

        for (col = 0; col < 8; col++)
            PORTB = 0;
        PORTA = col; //列制御用変数
        PORTB = p[col]; //配列ポインタ
    }
}
```



開発用ターゲットボード

参加受講者の声

- プログラムに対する知識、理解を深めることができました。
- C言語の構造を学べました。
- C言語を学ぶのは初めてでなかったが、アドレスの解説がわかりやすく、理解が深まりました。
- ポインタの知識や組込みの知識が深まりました。
- プログラムと動作するHWの関係を学ぶことができました。(HWがどのようにコードを読み込んでいるのか学びました)

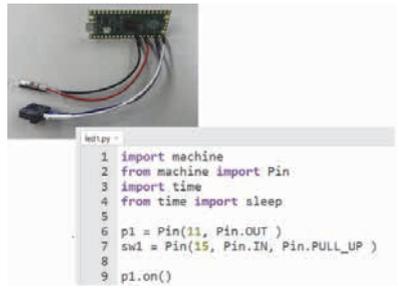
))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



Python を利用したマイコン制御を習得したい方にオススメ！ 組込み技術者のためのプログラミング (Python 言語 ICT スタートアップ)



受講対象者 これから組込みシステム開発のために Python 言語を習得したい方

概要		カリキュラム内容	
組込みシステムの開発やマイコン制御に必要な Python 言語のプログラミング技術について習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 開発環境と訓練目的の確認 <ol style="list-style-type: none"> 訓練の目的および専門的能力の確認 ソースコード作成から実行までの確認 インタプリタの特徴と確認 開発技法とプログラミング <ol style="list-style-type: none"> Python 言語の特徴 変数とメモリ <ol style="list-style-type: none"> 制御対象のハードウェア (ROMとRAM) データタイプの種類と用途 制御構文による標準 I/O 制御実習 <ol style="list-style-type: none"> 制御構文の理解 リストの操作 応用課題 <ol style="list-style-type: none"> I/O 制御実習 <ol style="list-style-type: none"> スイッチ、LED 制御実習 WiFi 通信設定 ソケット通信実習 動作確認・デバッグ 評価・改善 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Python の開発環境の導入から扱い方を学ぶことができ、より高度な開発に向けて足掛かりになることが期待できるように感じました。 ●ラズパイを使ってできることのイメージを持つことができました。 ●業務上プログラムのイメージがつきにくかったが理解できました。 </div>	
定員	10 受講料 15,500 円		
コース番号	① E1511 ② E1512		
日程	①6/10(水)~11(木) ②9/29(火)~30(水)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	開発用ターゲットボード <ソフト> Python 用開発環境		
受講者持参品	筆記用具		

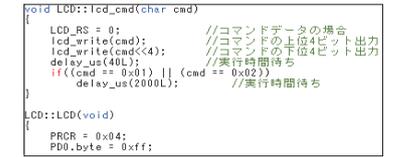
組込み



C++ を利用したマイコン制御を習得したい方へオススメ！ オブジェクト指向による組込みプログラム開発技術 (C++ 言語 IoT スタートアップ)



受講対象者 『組込み技術者のためのプログラミング (C 言語 IoT スタートアップ)』(P46 参照) を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方

概要		カリキュラム内容	
C 言語の拡張仕様である C++ を用いて、仕様変更に対する保守性や既存モデルの再利用性の向上のための設計技術や開発技術を実習を通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 訓練目標の確認 <ol style="list-style-type: none"> コース概要および専門的能力の確認 開発環境と実行環境の実装 <ol style="list-style-type: none"> 組込みシステムのための C++ の概要 <ol style="list-style-type: none"> C++ 言語のメリット・デメリット 組込みシステムにおける C++ の現状 開発環境 <ol style="list-style-type: none"> ホスト PC およびターゲットボード 統合開発環境 (クロスコンパイラ) の導入 オブジェクト指向開発技術 <ol style="list-style-type: none"> オブジェクト指向言語の概念と特徴 オブジェクト指向言語によるプログラム開発 <ol style="list-style-type: none"> クラス設計とデバイス制御プログラム コンストラクタ・デストラクタによるデバイス初期化・後処理 仮想関数と継承による既存ドライバの仕様拡張 組み込みハンドラ実装 デバイスドライバプログラム (LED、LCD、SW) 純粋仮想関数とオーバーライド ポリモフィズムを実践したプログラミング手法 組込みアプリケーション開発実習 <ol style="list-style-type: none"> 時計表示機能を搭載した端末の製作 <ol style="list-style-type: none"> システム設計 各種デバイス仕様に基づくプログラミング 動作・検証 確認・評価 <ol style="list-style-type: none"> コース全体についての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <pre>void LCD::lcd_cmd(char cmd) { LCD_RS = 0; lcd_write(cmd); lcd_write(cmd<<4); delay_us(40L); if((cmd == 0x01) (cmd == 0x02)) delay_us(2000L); } LCD::LCD(void) { PPRGR = 0x04; PDR.byte = 0xff; }</pre> <p style="text-align: center;">実習 [LCD のクラスの実装]</p> </div> 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●組み込みプログラムにおけるオブジェクト指向プログラミングの理解を深めることができました。 ●C++ のノウハウが社内になく、開発環境から学ぶことができました。 ●あいまだった文法の理解が深まったのと、組込みにおける C++ 活用法が明確になりました。 ●社内の既存のプログラムで理解できていなかった疑問がセミナーを通じて解消できたと思います。少なからず、自身の C++ に対する解析能力を高めることができました。 </div>	
定員	10 受講料 16,500 円		
コース番号	E1611		
日程	7/1(水)~2(木)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	開発用ターゲットボード <ソフト> 統合開発環境 ターゲット用 C++ コンパイラ		
受講者持参品	筆記用具	<p>本コース受講前に、『組込み技術者のためのプログラミング (C 言語 IoT スタートアップ)』(P46 参照) の受講をお勧めします。</p>	

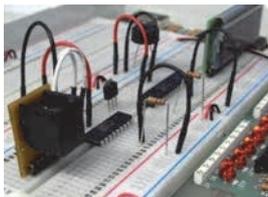
>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



PICマイコンの実践的な活用技術習得をめざして！ 機械制御のためのマイコン実践技術 (C言語 PICマイコン編)

受講対象者 「組み込み技術者のためのプログラミング (C言語 IoT スタートアップ)」(P46 参照) を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方

概要		カリキュラム内容			
<p>コントロールデバイスとして使用頻度の高いPICマイコンを用いて、C言語によるプログラミング手法を学ぶとともに、マイコンの各種周辺機能の使用法、外部モジュールの活用法やモータ制御技術について実習を中心としたカリキュラムにより習得します。</p>		<p>1. マイコンの構成 (1) マイコンの構成 (2) CPUアーキテクチャ (3) アセンブリ言語の概要</p> <p>2. C言語によるプログラム開発手順と開発手法 (1) C言語の概要 (2) main関数 (3) フロー制御 (4) プロジェクトの作成およびオプション設定 (5) コンパイルとリンク (6) デバッグ (7) ROM化</p> <p>3. プログラミング技法 (1) メモリマップとアドレッシング (2) 組み込みシステムにおける注意点 (3) 入出力制御実習</p> <p>4. 割込みプログラム (1) 割込み処理の概要 (2) 割込み処理関数と割込み初期化関数の作成 (3) 周辺機能割込み実習 (タイマ割込み等)</p> <p>5. 総合実習 (1) 現場に即した実習課題 (例: LCD制御、A/D変換処理、PWMによるDCモータ速度制御等) (2) 課題の仕様確認 (3) 仕様に基づくプログラミング (4) 動作テスト</p>			
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <p>PICマイコンを用いた総合実習</p>			
定員	10			受講料	16,500円
コース番号	E1711				
日程	6/17(水)~19(金)				
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間				
使用機器等	開発用ターゲットボード (PIC 16 シリーズ) <ソフト>統合開発環境 (MPLAB X) ターゲット用コンパイラ (XC8)				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

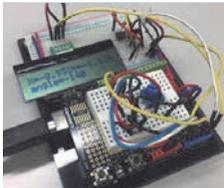
- 業務で使用するA/D変換器PWM機能について理論的に理解することができました。
- 実際に動作させながら、内容を理解できたのがよかったです。
- まだ1から製品開発したことがないため、実装方法等参考になりました。
- ハードを用意してブレッドボードを使って動き方を見たり、ソースレベルで設計することがなかったため、非常に勉強になりました。

各種センサの特徴を理解し、活用術までを身につける！



実践センサ活用技術 (マイコンインタフェース編)

受講対象者 基本的な電子回路が分かる方

概要		カリキュラム内容			
<p>計測制御システムの効率化・最適化やセンシング機器の改良をめざして、インタフェース回路を使用し、マイコンにより各種センサを活用する方法を習得します。</p>		<p>1. センサ概要 (1) センサと自動化システム (2) センサの種類と分類</p> <p>2. センサの動作原理と特性 (1) センサの動作原理と特性 イ. 温度センサについて ロ. 磁気センサについて ハ. 光センサについて ニ. その他のセンサの動作原理と特性 (2) 用途別活用方法</p> <p>3. インタフェース回路 (1) センサ信号の増幅とリニアライズ イ. オペアンプによる増幅回路 ロ. 補償抵抗によるリニアライズ回路 (2) 信号変換回路の種類と用途 イ. I-V変換回路 ロ. R-V変換回路 ハ. F-V変換回路 (3) センサ信号のデジタル化 イ. コンパレータ回路 (信号の2値化) ロ. ヒステリシス回路 ハ. A/D変換回路の種類と特長 ニ. センサモジュールの利用 (4) マイコンの仕様と統合開発環境</p> <p>4. 総合実習 (1) 簡易マイコンと加速度センサモジュールを使用した電子水平器の製作</p> <p>イ. 計測・制御システムの概要 ロ. 測定用センサと制御対象の仕様 (2) 評価 イ. 制御プログラム作成とシステム製作上のポイント</p>			
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <p>開発用ターゲットボード</p>			
定員	10			受講料	13,000円
コース番号	E1811				
日程	6/11(木)~12(金)				
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間				
使用機器等	パソコン、マイコンボード (Arduino)、電源、オシロスコープ、発振器、テスタ、ブレッドボード、各種センサ				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

- センサによって取得したデータをどのようにマイコンによって処理・表示するかを実践的に学ぶことができました。
- 本セミナーを通して、信号の処理等、ハードウェア寄りの知識を深めることができました。
- センサの知識を身につけられたとともに、電気回路からしくみを学べたことで、業務内で起きた疑問が解決できました。
- 普段あまり気にしていなかったセンサの役割、センサ-CPU間のつながり、電流量への変換をする過程でオペアンプが何をしているのかを理解できました。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



マイコンによる制御について実践的な技術を身につける！

マイコンを用いたワイヤレス通信システム構築

受講対象者 ワイヤレス通信について理解を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
マイコン応用製品の設計をめざして、ワイヤレス通信についての知識を理解することにより、ワイヤレス通信の仕様と通信制御の実装に必要な技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> ワイヤレス通信システムの概要 <ol style="list-style-type: none"> ワイヤレス通信の導入目的 ワイヤレス通信の仕様 <ol style="list-style-type: none"> ワイヤレス通信の概要 <ol style="list-style-type: none"> ワイヤレス通信の種類 ワイヤレス通信の規格 使用するワイヤレス通信の仕様 <ol style="list-style-type: none"> 規格（IEEE、ISO等） 法律（電波法等） 製品開発時の注意点 ワイヤレス通信モジュール <ol style="list-style-type: none"> ワイヤレス通信モジュールの仕様 <ol style="list-style-type: none"> 通信仕様 電氣的仕様 インターフェース仕様 モジュールの動作確認 マイコン側のインターフェース接続 <ol style="list-style-type: none"> 使用するマイコンの仕様 <ol style="list-style-type: none"> マイコンの概要 統合開発環境 ワイヤレス通信モジュールとの接続 ワイヤレス通信のプログラム <ol style="list-style-type: none"> マイコンの通信設定 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> スマートフォン・タブレットを用いたデータロガーの作成 <ol style="list-style-type: none"> 温度センサのデータロギング 測定データの仕様 通信システム構築上のポイント デバッグ・動作確認 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	17,500円
コース番号	E1911		
日程	8/18(火)～19(水)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	パソコン、統合開発環境、ワイヤレス通信モジュール、マイコンボード、マイコン用周辺回路、ワイヤレス通信端末等		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- Bluetoothに関してマイコンからの制御方法を具体的に理解することができました。
- 無線通信にふれたことがなかったため、新たな知識として身につきました。
- classicとBLEの違い、及び、BLEの大変さを学習することができました。

組込み



CAN通信の習得に！ 3日間コースから2日間コースにリニューアルしました。

CANインターフェース技術 (マイコン技術者のためのCANインターフェース技術)

受講対象者 マイコンのプログラミング経験がある方（必須ではありません）



概要		カリキュラム内容	
車載、FA、産業機器等で使用されているCAN通信について、インターフェース技術と分散システム構築に必要な知識や仕様に基づいた機器の設計・製作技術をプログラミングを通して習得します。		<ol style="list-style-type: none"> CANの概要 <ol style="list-style-type: none"> CANの規格と仕様 <ol style="list-style-type: none"> CANの概要と特徴 CANプロトコルのフレーム CANシステムの構築 <ol style="list-style-type: none"> システム選定 <ol style="list-style-type: none"> CANモジュール搭載マイコンの種類と特徴 CANトランシーバ概要 CAN-FD構成 CANシステムの応用例 <ol style="list-style-type: none"> 設定とデータ送受信処理 <ol style="list-style-type: none"> 初期化処理／フィルタリング機能 データフレーム送受信処理／リモートフレーム送受信 フレーム送受信割り込み 複数メッセージ送受信、エラー処理 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> 入出力機器の仕様とI/Oの配線仕様 CAN通信による機器入出力制御実習 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	12,500円
コース番号	E2011		
日程	8/20(木)～21(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	CAN用ターゲットボード 簡易CANアナライザ <ソフト>統合開発環境 (Arduino)		
受講者持参品	筆記用具		



開発用ターゲットボードと簡易CANアナライザ

参加受講者の声

- CAN通信における送受信するデータ構成等知識が身に付きました。
- CANの通信波形を見ることで、実務のデバッグに役立てそうでした。
- 初めて実機を動かしてCAN通信を行い、楽しかったです。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

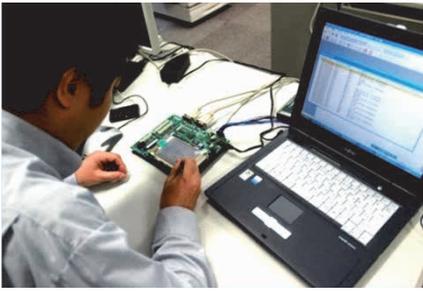


組込みLinuxシステムにネットワーク機能を搭載して世界を広げよう!

組込みLinuxによるTCP/IP通信システム構築 (組込みLinux活用技術 TCP/IP編)



受講対象者 C言語の基礎スキル(ポインタ、構造体など)がある方

概要		カリキュラム内容	
電子機器を用いた製品の改善や製品開発に関する業務の効率化をめざして、通信プロトコル、伝送手順、通信に関する実装技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 概要 <ol style="list-style-type: none"> 訓練の目的 ネットワークを活用した計測・通信制御システムの利用方法 TCP/IP概要 <ol style="list-style-type: none"> OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル 伝送手順 TCPとUDP ソケットシステムコールを活用した実装方法 <ol style="list-style-type: none"> IPアドレス、アドレスファミリーを管理する構造体について ソケットについて ソケットシステムコールについて サーバ構築の実装方法と特徴 マルチプロセスとマルチスレッドについて 通信システムの構築実習 <ol style="list-style-type: none"> デバイス制御を行なう通信制御アプリケーションの作成 <ol style="list-style-type: none"> 軽量Webサーバを利用したCGIプログラムの作成 ソケットを利用した簡易Webサーバの構築 ソケットを利用したメール送信サーバの構築 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 11,500円		
コース番号	E2111		
日程	6/10(水)~11(木)		
時間	9:15~16:00 (休憩45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	開発用ターゲットボード(SH) <ソフト>クロス開発環境(Linux) SH用Cコンパイラ(gcc)	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●TCP/IPについて独学で学んでいて理解が不十分だった点が整理できたと思います。 ●今後の業務で必要になる知識を身につけることが出来ました。 ●セミナー中の課題が、現実の問題に近い形で想定されていて良かったです。 	
受講者持参品	筆記用具		

組込み



AIの活用を目指して!

オープンソフトウェアライブラリを用いた人工知能(AI)活用技術

受講対象者 「組込み技術者のためのプログラミング(Python言語 ICTスタートアップ)」(P47参照)を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方

概要		カリキュラム内容	
画像処理・信号処理設計を活用した生産性の向上をめざして、畳み込みニューラルネットワーク実習や再帰型ニューラルネットワーク実習を通して、AI活用技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 機械学習概要 <ol style="list-style-type: none"> 人工知能の歴史と適応例 機械学習とは 分類問題 画像処理と認識 プログラミング実習 <ol style="list-style-type: none"> 開発環境について Python言語によるプログラミング TensorFlowとTFlearn OR、AND、XOR学習 画像分類処理 畳み込みニューラルネットワーク <ol style="list-style-type: none"> CNNの概要 手書き文字画像分類 画像処理 一般的な画像分類 再帰型ニューラルネットワーク <ol style="list-style-type: none"> 正弦波、三角波、方形波の予測 手書き文字画像分類 自然言語処理 応用課題 <ol style="list-style-type: none"> カメラ画像解析処理 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 15,500円		
コース番号	E2211		
日程	8/20(木)~21(金)		
時間	9:15~16:00 (休憩45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	開発用ターゲットボード <ソフト>クロス開発環境(Linux・TensorFlow等)	<p>本コース受講前に『組込み技術者のためのプログラミング(Python言語 ICTスタートアップ)』(P47参照)の受講をお勧めします。</p> <p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●AIとpythonの現状を知ることができました。 ●機械学習の大まかなイメージがつかめました。 ●今回のセミナーで得た知識が新しい仕事を作り出すきっかけとなる可能性があると感じます。 ●ディープラーニングのオープンソースライブラリの使い方を知れました。Jupyter notebookを知れました。 ●機械学習の入口を理解できました。社内でテスト、プログラム作成を行い、より深い知識を身に付けたいと思います。 ●よく使う構文を学んだり、TensorFlowを用いたエッジコンピューティング的なことを学ぶことができたのでよかったです。 	
受講者持参品	筆記用具		

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



正しいテスト技術で品質向上をめざす！

組込みソフトウェア開発者のためのテスト技法



受講対象者 組込みソフトウェア開発に携わった経験がある方

概要		カリキュラム内容	
<p>効率的かつ効果的なテストケースを設定する力を身につけ、組込みソフトウェア開発の基盤となるテスト技法、およびテストプロセスをマイコンボードを使用した実習を通して習得します。</p>		<p>1. ソフトウェアテストの概要 (1) 組込みシステムにおける品質の重要性 (2) ソフトウェアテスト イ. テストと品質 ロ. テストの目的 ハ. テストの種類 (3) 開発プロセスとテスト イ. 組込みソフトウェア向け開発プロセス ロ. 開発プロセスとテストの適用範囲</p> <p>2. テスト技法 (1) テストケース設計 イ. テストケース設計とは ロ. テストケース設計の手法 (2) ホワイトボックステスト イ. 命令網羅(ステートメントカバレッジ) 分岐網羅(ブランチカバレッジ) ロ. ホワイトボックステストの適用方法 (3) ブラックボックステスト イ. 同値分割、境界値分析 ロ. 状態遷移テスト、デジジョンテーブルテスト (4) テスト技法の比較 (5) 構成管理とトレーサビリティ イ. 構成管理の必要性</p> <p>ロ. マトリックス網羅表</p> <p>3. 組込みシステムテスト実習 (1) システム全体の仕様確認 イ. 仕様書とソースコード確認 (2) テストの進め方 (3) テスト実習 イ. テストケース設計 ロ. 論理テスト (4) 実機テスト (5) 検証</p>	
予定講師	株式会社 i Plat 取締役 岩崎 徹 氏		
定員	10	受講料	18,000 円
コース番号	① E2311 ② E2312		
日程	①7/21(火)~22(水) ②9/15(火)~16(水)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	開発用ターゲットボード <ソフト>統合開発環境 ターゲット用Cコンパイラ		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- これまであいまに覚えていたテスト技法を学び、業務上で何が足りないのかを考えることができました。
- 単体テストの検証をするにあたって考え方を学ぶことができました。
- ソフトウェアのテスト方法について、体系的なことを学べたため、自身の業務と照らし合わせて実際に使用し、役立てられそうと感じました。

組込み



E S C R 準拠のコーディングと実践的なレビューのノウハウを身につける！

組込みソフトウェア開発者のためのコーディング作法とレビュー技術



受講対象者 組込みソフトウェア開発に携わった経験がある方

概要		カリキュラム内容	
<p>組込みソフトウェアの信頼性、保守性、移植性、効率性の観点からコーディング作法と規約の必要性を理解し、コード品質を作り込むためのレビュー技術を実習により効果的に習得します。</p>		<p>1. コード品質の確保 (1) 組込みソフトウェア開発の現状 イ. 組込み製品出荷後における不具合の原因 ロ. 組込みソフトウェア開発における不具合の原因 (2) コード品質向上へのアプローチ イ. コード品質向上を阻害している要因 ロ. コード品質を向上するには</p> <p>2. コーディング作法 (1) コーディング作法とコーディング規約 イ. コーディング作法とコーディング規約とは ロ. コーディング規約の効果と現状 ハ. コーディング規約を形骸化させないためには (2) E S C R (Embedded System development Coding Reference) イ. E S C R とは ロ. E S C R の構成</p> <p>3. レビュー技術 (1) レビューとは イ. レビューの効果と現状 ロ. レビューを形骸化させないためには</p> <p>(2) レビューの進め方 イ. レビューの分類 ロ. レビューの組み合わせ ハ. レビューの進め方</p> <p>4. レビュー実習 (1) システム全体の仕様確認 イ. 仕様書とソースコード確認 ロ. 既存ソースコードの品質確認 (2) コーディングルールの理解 イ. 指摘事項の考察 (3) 会議レビュー実施 イ. 会議レビューの事前準備と実施 ロ. ソースコードの修正と動作確認</p>	
予定講師	株式会社 i Plat 取締役 岩崎 徹 氏		
定員	10	受講料	18,000 円
コース番号	E2411		
日程	9/9(水)~10(木)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	開発用ターゲットボード <ソフト>統合開発環境 ターゲット用Cコンパイラ		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- レビューの具体性や演習で理解が深まりました。
- コーディングルールやレビュー時の具体的な確認事項を学ぶことができました。
- 業務として足りなかったことを、今回のセミナーを通して学んだので、自社に戻って活用・展開したいです。
- コーディング、ルールの内容が、例を用いて説明があり、必要性が確認できました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



お手軽にスマートフォン・タブレット開発をしてみよう！ タブレットを活用したシステム構築 (ICT 向け OS 活用技術 Android Java 編)

受講対象者 Java を使ったタブレット向けアプリケーション開発をしてみたい方

概要		カリキュラム内容	
スマートフォン、もしくはタブレット向けアプリケーション開発プロセスである設計／実装技術を通して、Android の活用技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> Android の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 概要 <ol style="list-style-type: none"> Android と Linux との関係について Android の将来性 アーキテクチャ <ol style="list-style-type: none"> 基本アーキテクチャ <ol style="list-style-type: none"> Android の基本構造 ライブラリ アプリケーションフレームワーク アーキテクチャ構成要素の詳細 <ol style="list-style-type: none"> アプリケーション構成要素 (Activity、Intent、Service など) データストレージ機能 セキュリティモデル アプリケーション作成 <ol style="list-style-type: none"> 実習課題の説明 実習 (アプリケーション開発) <ol style="list-style-type: none"> GUI アプリケーションの作り方 画面遷移 センサデバイスの使用法 マルチメディアの使用法 データベースの使用法 まとめ <ol style="list-style-type: none"> コース全体について確認および講評 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	15 受講料 11,500 円		
コース番号	E2511		
日程	10/7(水)～8(木)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ターゲット端末 <ソフト> 統合開発環境	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Android OS の仕様や動作、Java 言語の動作が学習できました。 ● タブレット開発のための実例が学べました。 ● 開発環境の使い方から説明して頂いた為、会社で試すにあたり大変参考になりました。 ● 知らない知識が身に付いたのと、概念を理解できました。 ● 分かりやすくていねいな内容だったので、非常に良いセミナーでした。 	
受講者持参品	筆記用具		



お手軽にスマートフォン・タブレット開発をしてみよう！ タブレットを活用したシステム構築 (ICT 向け OS 活用技術 Android Kotlin 編)

受講対象者 Kotlin を使ったアプリケーション開発をしてみたい方

概要		カリキュラム内容	
スマートフォン、もしくはタブレット向けアプリケーション開発プロセスである設計／実装技術を通して、Android の活用技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> Android の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 概要 <ol style="list-style-type: none"> Android と Linux との関係について Android の将来性 アーキテクチャ <ol style="list-style-type: none"> 基本アーキテクチャ <ol style="list-style-type: none"> Android の基本構造 ライブラリ アプリケーションフレームワーク アーキテクチャ構成要素の詳細 <ol style="list-style-type: none"> アプリケーション構成要素 (Activity、Intent、Service など) データストレージ機能 セキュリティモデル アプリケーション作成 <ol style="list-style-type: none"> 実習課題の説明 実習 (アプリケーション開発) <ol style="list-style-type: none"> GUI アプリケーションの作り方 画面遷移 センサデバイスの使用法 マルチメディアの使用法 データベースの使用法 まとめ <ol style="list-style-type: none"> コース全体について確認および講評 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	15 受講料 11,500 円		
コース番号	E2611		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ターゲット端末 <ソフト> 統合開発環境		
受講者持参品	筆記用具		

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



タブレットを使ってカメラを遠隔制御してみよう！

タブレット型端末を利用した通信システム構築 (ICT 向け OS 通信技術 Android 編)

受講対象者 「タブレットを活用したシステム構築 (ICT 向け OS 活用技術 Android Java 編)」(P52 参照) を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方

概要		カリキュラム内容			
通信の規格やタブレット型端末の制御方法を理解し、無線機器同士によるデータの送受信等が可能な無線監視制御システムの構築方法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> アプリケーション開発環境 <ol style="list-style-type: none"> タブレット型端末について <ol style="list-style-type: none"> ライブラリについて 利用できるデバイスについて 開発環境について 画面の作成方法について タッチパネル制御について タブレット型端末における通信機能 <ol style="list-style-type: none"> 無線による通信システムの開発 <ol style="list-style-type: none"> 通信で利用するプロトコルについて サーバソケット・クライアントソケットについて スレッドについて 動作確認 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> ネットワークシステム対応監視カメラ遠隔制御プログラム作成実習 <ol style="list-style-type: none"> システム構成 使用機器のポイント システムの動作確認 確認・評価 <ol style="list-style-type: none"> コース全体について確認および講評 			
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <p>本コース受講前に『タブレットを活用したシステム構築 (ICT 向け OS 活用技術 Android Java 編)」(P52 参照) の受講をお勧めします。</p>			
定員	10			受講料	12,500 円
コース番号	E2711				
日程	10/15(木)~16(金)				
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間				
使用機器等	ターゲット端末 <ソフト>統合開発環境				
受講者持参品	筆記用具				

本コース受講前に『タブレットを活用したシステム構築 (ICT 向け OS 活用技術 Android Java 編)」(P52 参照) の受講をお勧めします。

参加受講者の声

- 話を聞くだけでなく実習を通してより理解が深まりました。
- カメラの遠隔制御を実際に行うことができ、仕事で参考にしたいと思いました。資料がとても丁寧で、振り返った時に分かりやすいと思いました。
- Android OS を用いたシステム構築のイメージがわきました。



ネットワーク通信機器の設定・操作で学びます！

製造現場における LAN 活用技術

受講対象者 効率的なネットワークシステムの構築技術を習得したい方



概要		カリキュラム内容			
ネットワーク通信におけるプロトコルや通信に使われている機器の知識を理解した上で、実機による演習を通して、ルーティングに必要なネットワークの技能・技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> ルーティング技術概要 <ol style="list-style-type: none"> I P アドレスとブロードキャストドメイン ブロードキャストドメインの分割とルーティング VLAN <ol style="list-style-type: none"> VLAN によるネットワークの分割 タグ VLAN による柔軟なネットワークの設計・構築 VLAN 演習 VLAN 間のルーティング <ol style="list-style-type: none"> L3 スイッチによる VLAN 間ルーティング スタティックルーティング ダイナミックルーティング (RIP) VLAN ルーティング演習 LAN-WAN 間接続 <ol style="list-style-type: none"> ルータによるルーティング設定 LAN-WAN 間接続とアドレス変換 (NAT) LAN-WAN 間接続演習 総括 <ol style="list-style-type: none"> シミュレータの紹介 			
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <p>使用する実習機器</p>			
定員	8			受講料	15,000 円
コース番号	E2811				
日程	7/6(月)~7(火)				
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間				
使用機器等	Cisco 製ルータ (Cisco 890 シリーズ) Cisco 製スイッチ (Catalyst 3560-CX シリーズ) Cisco 製スイッチ (Catalyst 2960-CX シリーズ)				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

- 何となくイメージは理解していたが、セミナーを受け内容が理解できました。
- ルータや L2 スイッチ等の具体的な動きを理解できました。
- ゼロから構築することで全体像をイメージすることができ、業務ではあまりさわらない機能を知ることができました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



パソコンで測定器のリモートコントロールを実現！ パソコンによる計測制御システム技術 (計測制御 RS-232C、GPIB 編)

受講対象者 計測器の取り扱いができる方

概要		カリキュラム内容	
汎用プログラミング言語を用いて、各種計測機器等の制御プログラミングおよび計測データの自動収集技術について実践的に習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 自動計測の概要 <ol style="list-style-type: none"> 各種自動計測の方法 プログラミング言語の概要 プログラム開発手法 <ol style="list-style-type: none"> 制御構文 (条件分岐、繰り返し処理) 制御関数 ファイル操作 <ol style="list-style-type: none"> ファイルの種類とファイル処理の方法 ファイル操作プログラミング実習 グラフ処理 <ol style="list-style-type: none"> グラフの作成方法について グラフ作成のためのプログラミング実習 インターフェース <ol style="list-style-type: none"> RS-232C / GPIB インターフェースの規格 RS-232C / GPIB のコントロール方法 通信処理技術 <ol style="list-style-type: none"> 通信設定 入出力処理 通信イベント処理 エラー処理 総合実習 <ol style="list-style-type: none"> 自動計測システム構築 【課題例】 <ul style="list-style-type: none"> 直流安定化電源を用いた出力電圧制御など オシロスコープを用いた波形解析・波形収集など 動作検証 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	9	受講料	14,000 円
コース番号	E2911		
日程	7/29(水)~31(金)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	各種測定器 <ソフト>統合開発環境 (Visual Basic)		
受講者持参品	筆記用具		



波形データ取得プログラム

参加受講者の声

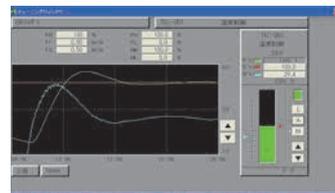
- GPIB と RS-232C の違い等についても知ることができました。
- 普段にげなく VISA ライブラリを使用して計測器を使っているのでも原理を知ることができました。
- 何となくで動かしていたため言葉が理解していなかったのが正しい言葉で伝えることが出来そうです。
- 業務でコードに四苦八苦し苦手意識があったので「むしろ楽しそう」と思わせていただけた本講座は有意義でした。



自動制御の仕組みがわかる！ 制御解析手法 (フィードバック制御編)

受講対象者 制御理論について学びたい方

概要		カリキュラム内容	
制御解析に必要なラプラス変換、行列式、微分方程式および PID 制御について、シミュレーションソフトや実習機器を活用しながら習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 制御とは <ol style="list-style-type: none"> 回路素子の数学的表現 複素数計算 回路パラメータと周波数スペクトル特性 制御解析 <ol style="list-style-type: none"> 微分方程式の解法 伝達関数とブロック線図 過渡応答および周波数応答の解析法 伝達関数とインパルス応答 安定判別と最適設定 <ol style="list-style-type: none"> 位相余裕とゲイン余裕 最適設定法 PID 制御 <ol style="list-style-type: none"> PID 調節計の機能と構成 P 動作、I 動作、D 動作 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> 機械モデル制御実習 (DC モータ) <ol style="list-style-type: none"> サーボアナライザによる周波数応答実習 P 動作、I 動作実習 プロセスモデル制御実習 (温度制御) <ol style="list-style-type: none"> PID (ステップ応答法) チューニング実習 PID (限界感度法) チューニング実習 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	12,000 円
コース番号	E3011		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	実習用ボード <ソフト>MATLAB		
受講者持参品	筆記用具		



参加受講者の声

- モデル化のやり方が理解できました。
- 今までカンでプログラム制御していた所が、理論的に見直せることができそうです。
- 理論の後に実践で試すことができたので理解しやすかったです。ラプラス変換などがよく分からず制御工学に苦手意識があったのですが、使えばいいと考えて実習でできたので苦手意識が薄まりました。
- 各制御方法の特徴を体験しながら理解できました。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



古典制御から現代制御までをシミュレーションで学ぶ！

シミュレーションで学ぶ古典制御と現代制御

受講対象者 制御系の開発・設計に携わる方

概要		カリキュラム内容	
<p>古典制御理論や現代制御理論についての理解を深め、シミュレータを活用した制御系の設計法および解析技法について習得します。</p>		<p>1. 古典制御理論による設計と運用 (1) 数値解析ソフトを用いた伝達関数法による解析 イ. ステップ応答 ロ. 周波数応答 ハ. 伝達関数から状態方程式への変換</p> <p>2. 現代制御理論による設計と運用 (1) 数値解析ソフトを用いた状態空間法による解析 イ. ステップ応答 ロ. 周波数応答 ハ. 状態方程式から伝達関数への変換</p> <p>(2) 安定性判別やパラメータ決定へのシミュレータ活用法 イ. 根軌跡法 ロ. 状態フィードバック</p> <p>3. 制御系の解析 (1) グラフィカル解析ツールを用いた解析 イ. モデル化 ロ. ブロック線図 ハ. シミュレーション (1次系、2次系) ニ. 線形解析</p> <p>4. 総合課題 (1) システムの設計と検証 イ. デジタル (離散) 制御系 ロ. アナログ・デジタル混在システム ハ. 非線形システム ねじれ振動が無視できない低剛性 2 慣性系モデル バックラッシュを含む 2 慣性系モデル</p>	
<p>予定講師</p>	<p>有限会社 システムシミュレーション研究所 代表取締役 城谷 聡美氏</p>		
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>22,000 円</p>
<p>コース番号</p>	<p>E3111</p>		
<p>日程</p>	<p>7/9(木)~10(金)</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p><ソフト> MATLAB</p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		

参加受講者の声

- SW 開発で制御ロジックを取り扱うこともあるため、その設計や不具合解析に役に立ちそうな知識を得ることができました。
- 古典制御や現代制御の考え方や設計方法を知ることができました。
- 実際の製品を根本に説明して頂けたのがよかったです。
- 今まで何となく利用してきた制御方法だったが、セミナーにより理論立てて理解することができました。
- 理論だけでなく実践的な内容だったのがよかったです。



PID制御をモータ制御回路で実現し、実践的技術を身につける！

PID制御によるサーボ制御技術

受講対象者 制御理論について理解を深めたい方



概要		カリキュラム内容	
<p>PID制御理論についての理解を深め、制御系の設計、シミュレータの活用法、サーボ系への適用技術について実践的に習得します。</p>		<p>1. 自動制御の全体像 (1) 自動制御の概要 (2) フィードバック制御の概要 (3) サーボ制御の概要 (4) サーボ制御設計手法 イ. 古典制御、現代制御、ポスト現代制御 ロ. 連続系、離散系、デジタル系</p> <p>2. サーボ制御系設計とその評価 (1) 制御対象のモデル化 (2) 伝達関数とブロック線図 (3) ステップ応答と周波数応答 (4) ボード線図</p> <p>3. 制御系シミュレーション (1) コンピュータを利用したのシミュレーション イ. 実習結果と考察</p> <p>4. PID制御とパラメータ安定実習 (1) 速応性と安定性、目標値に対する定常偏差を考慮した設計法 (2) サーボ制御装置に対する実装 イ. 速度制御実習 (P 制御速度サーボ、I 制御速度サーボなど) ロ. 位置決め制御実習 (1 型 2 次系サーボなど)</p> <p>ハ. 位相補償実習 (PI 補償、I-P 補償、位相進み遅れ補償など)</p>	
<p>予定講師</p>	<p>有限会社 システムシミュレーション研究所 代表取締役 城谷 聡美氏</p>		
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>28,500 円</p>
<p>コース番号</p>	<p>E3211</p>		
<p>日程</p>	<p>6/17(水)~19(金)</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p>サーボ制御装置 (DCサーボモータ) サーボ駆動装置、アナログ演算器 <ソフト> MATLAB</p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		



このような実習システムを使用します

参加受講者の声

- サーボ制御器を数式 / 周波数特性両アプローチで設計するための手法の概要を知ることができました。
- 社内の体系化できていない制御設計改善のヒントになりました。
- 今までイメージ程度しか理解してこなかった PID 制御が実習やシミュレーションを通して具現化した点が良かったです。
- 実機や Simulink で確認しながら学ぶことで理解が深まりました。
- P 制御や I 制御の役割、ボード線図の見方などについて具体的なイメージを持つことができるようになりました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



分散系制御をモータ制御回路で実現し、実践的技術を身につける！

デジタルサーボ制御技術

受講対象者 デジタルサーボシステムの理解を深めたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>PID制御理論を踏まえた上で分散系制御理論を理解し、最適なコントローラ的设计法を実習とシミュレーションを通して習得します。</p>		<p>1. デジタルサーボシステムとは (1) デジタルサーボの概要</p> <p>2. デジタルサーボ技術に対する取組み方 (1) 連続系コントローラをデジタルコントローラに置き換える (2) デジタルサーボ系の動特性確認</p> <p>3. デジタルサーボ系の制御要素 (1) 連続系制御対象の離散化 (2) 分散系伝達関数 (3) 積分と微分のデジタル変換 (4) むだ時間とゼロ次ホールド</p> <p>4. サーボ系の動特性計測と安定性評価 (1) デジタルサーボの安定理論と判別法 (2) 安定性に関する演習と実験</p> <p>5. サーボ系の動特性と補償技術 (1) コントローラ的方式 (2) 位相進み補償</p> <p>6. デジタルサーボの現実問題と改善技術 (1) サーボ系の応答速度とサンプリングタイムの影響</p>	
<p>予定講師</p>	<p>有限会社 システムシミュレーション研究所 代表取締役 城谷 聡美氏</p>	<p>(2) ゼロ次ホールドおよびむだ時間の影響 (3) 量子化誤差がサーボ系に及ぼす影響</p>	
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>22,000 円</p>
<p>コース番号</p>	<p>E3311</p>		
<p>日程</p>	<p>10/15(木)~16(金)</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p>サーボ制御シミュレーション装置、DCモータ負荷実験装置、dSPACE、アナログ演算器 <ソフト> MATLAB</p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		



サーボ制御シミュレーション装置

参加受講者の声

- デジタル制御の実現方法を、実務に近い形で理解出来ました。
- Z変換による制御など新たな知識を得ることができました。
- デジタル制御というと、最初にZ変換が出てくるため、難解なため説明も難しいし、結果も理解しにくいですが、逆にZ変換を周波数応答で考えて設計するのは理解しやすくて、実務でも使えると思いました。
- 力技のプログラムを理論的に組めると感じました。



ロバスト制御をモータ制御回路で実現し、実践的技術を身につける！

ロバスト制御によるサーボ制御技術

受講対象者 デジタル制御の様々な問題にお困りの方

概要		カリキュラム内容	
<p>機械系の共振、摩擦、バックラッシュによる精度のズレや安定性問題のほか、デジタル制御によって生ずる様々な課題を解決するための実践技術を習得します。</p>		<p>1. サーボ制御要求特性 (1) 基本設計 (安定性確保、定常偏差ゼロ、応答性向上、振動抑制) (2) 負荷を含めたサーボシステムの要求 イ. 負荷変動や外乱に対する抑制 ロ. サーボ不安定アルゴリズムの除去 ハ. モデル化誤差や外乱誤差に対するロバスト性</p> <p>2. モデル化 (1) 物理モデル (2) 伝達関数とブロック線図 (3) システムのモデル化</p> <p>3. トルク制御(電流制御)から真のトルク制御(加速度制御)へ (1) 比例制御による外乱抑制 (2) PI制御による外乱抑制 (3) 加速度制御</p> <p>4. オブザーバ (1) 外乱オブザーバによるフィードフォワード制御</p> <p>5. モデル追従 (1) モデル追従制御</p>	
<p>予定講師</p>	<p>有限会社 システムシミュレーション研究所 代表取締役 城谷 聡美氏</p>	<p>6. 低剛性負荷 (1) 低剛性負荷における制振制御</p> <p>7. その他技術 (1) その他の制御技術 (速度微分フィードバック、共振比例制御、状態フィードバック、H_∞など)</p>	
<p>定員</p>	<p>10</p>	<p>受講料</p>	<p>28,500 円</p>
<p>コース番号</p>	<p>E3411</p>		
<p>日程</p>	<p>11月以降開講予定</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p>サーボ制御シミュレーション装置、DCモータ、負荷実験装置、dSPACE、アナログ演算器 <ソフト> MATLAB</p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		



実習機材例

参加受講者の声

- これまで当たり前のようにはいていたロバスト性向上の制御が、今回受講したことにより、なぜはいていた、どの部分に有効なのか理解できました。
- 伝達関数の計算方法から MATLAB/Simulink の使い方で具体的な知識とサーボ制御・ロバスト制御について学ぶことができました。
- 普段はガス、油圧などの流体制御をしているので、トルク制御について学ぶことができました。

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



モータの仕組みと駆動回路作成により、動かし方がわかる！

小型モータの制御回路技術 (モータの特性と制御回路編)



受講対象者 オームの法則がわかる方

概要		カリキュラム内容	
各種モータの原理、構造、特性および運転法を理解するとともに、駆動回路製作およびモータ運転実習を通して、各種モータの駆動技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> モータの概要 <ol style="list-style-type: none"> モータの原理 <ol style="list-style-type: none"> 電流による磁界の発生 電磁力、起電力、電磁誘導 モータの構造 モータの特性 各種モータの特性測定と評価 <ol style="list-style-type: none"> トルク-速度特性と電流-速度特性 <ol style="list-style-type: none"> DCモータ ブラシレスDCモータ 単相誘導電動機 三相誘導電動機 ステッピングモータ 各種モータ駆動回路の設計・製作と特性測定 <ol style="list-style-type: none"> DCモータ駆動回路 <ol style="list-style-type: none"> PWM駆動回路の設計と製作 動作確認・検証 速度制御運転 ステッピングモータ駆動回路 <ol style="list-style-type: none"> 定電圧駆動回路の設計と製作 動作確認・検証 速度制御運転 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> DCモータ速度制御回路の製作および動作試験 <ol style="list-style-type: none"> 要求仕様と機構仕様 モータの選定 試作駆動回路の製作および動作試験 <ol style="list-style-type: none"> 試作駆動回路の課題と対策 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 16,500円		
コース番号	① E3511 ② E3512		
日程	①6/16(火)~18(木) ②9/2(水)~4(金)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間		
使用機器等	基本測定器、各種モータ	<h3>参加受講者の声</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●PWM制御の原理が理解できました。 ●モータを使った治具の開発に役立てることが出来ると思えました。 ●電気から触れることで、各種モータの原理が理解できました。 ●業務上、1つの分野に特化することが多いため、モータ制御回路を今回のセミナーで固めることが出来ました。また、不明確な部分が少なくなったことで他者へ指導できるようになりました。 	
受講者持参品	筆記用具		



シーケンス制御習得のスタートアップ！

有接点シーケンス制御の実践技術



受講対象者 これからシーケンス制御を学びたい方

概要		カリキュラム内容	
有接点シーケンス制御に用いられる主要な制御機器と制御回路について理解し、シーケンス図の読み方、配線手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> シーケンス制御の概要 <ol style="list-style-type: none"> 電気用図記号、機器記号、機能記号等 各種制御機器の種類と選定方法 <ol style="list-style-type: none"> スイッチ、センサ等 電磁継電器、限時継電器 その他制御機器（表示灯、ブレーカ、ヒューズなど） 制御回路用電線の選定 制御機器の定格と選定 制御回路 <ol style="list-style-type: none"> 安全対策 展開接続図の読み方 機器の配置と接続方法 各種制御回路 <ol style="list-style-type: none"> AND回路、OR回路 自己保持回路、インターロック回路 各種タイマ回路 その他 有接点シーケンス製作実習 <ol style="list-style-type: none"> 実習課題 配線の留意事項 配線作業 制御回路設計実習 回路の点検と試運転、メンテナンス 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	12 受講料 10,500円		
コース番号	① E3611 ② E3612 ③ E3613 ④ E3614 ⑤ E3615		
日程	①4/9(木)~10(金) ②6/1(月)~2(火) ③7/23(木)~24(金) ④7/30(木)~31(金) ⑤9/10(木)~11(金)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	スイッチ、表示灯、電磁継電器、 限時継電器	<h3>参加受講者の声</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●リレーシーケンスの理解が深められてよかったです。 ●図面を見ながら、ただただ組込んでいくだけだったので、シーケンスというものの仕組みが理解できて良かったです。 ●独学で本を読んでも知識が習得できないが、この講習は実習があったので貴重な経験となりました。 	
受講者持参品	筆記用具		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



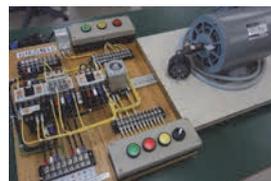
有接点シーケンスによる三相誘導電動機の制御手法を身につける！

シーケンス制御による電動機制御技術



受講対象者 「有接点シーケンス制御の実践技術」(P57 参照)を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方

概要		カリキュラム内容	
F Aの現場における動力として、最も活用されている誘導電動機の特徴を理解し、シーケンス制御による代表的な運転方法及び配線技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 三相電動機の概要 <ol style="list-style-type: none"> 三相誘導モータの原理・構造・始動法 (Y-Δ始動等) 定格 (電圧、電流、回転数、トルクなど) 制御機器及び計器 連続運転回転 <ol style="list-style-type: none"> 連続運転回転を用いた設計フロー <ol style="list-style-type: none"> 安全性に考慮した回路設計 効率性 (低コスト・標準化回路等) に考慮した回路設計 モータの駆動に適した機器の選定 フローチャート・タイムチャートの作成 配線作業、点検及び試運転 メンテナンスと管理法 正逆運転回路 <ol style="list-style-type: none"> 運転回路設計 (連続運転回路の設計フローを活かした設計) フローチャート・タイムチャートの作成 配線作業、点検及び試運転 電動機制御実習 <ol style="list-style-type: none"> Y-Δ始動回路 制御回路組立ての留意事項 安全性、効率性を考慮した回路設計実習 機器の選定及び配線 (制御回路組立て) 実習 点検及び試運転 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 実習の全体的な講評及び確認・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	12	受講料	10,500 円
コース番号	<ol style="list-style-type: none"> E3711 E3712 		
日程	<ol style="list-style-type: none"> 4/16(木)~17(金) 9/17(木)~18(金) 		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	電磁継電器、電磁接触器、サーマルリレー、三相誘導モータ		
受講者持参品	筆記用具		



参加受講者の声

- トラブル解決の際に、交換する部品の回路を具体的にイメージできました。
- シーケンスの回路の見方や配線の仕方が実習を通して理解できました。
- 業務では制御盤の設計をしているので回路は理解していたが、実際にどのように動作をするのかわからない部分が今回受講して明確になり、知識が深まりました。

本コース受講前に、『有接点シーケンス制御の実践技術』(P57 参照)の受講をお勧めします。



リレーシーケンスからのステップアップに！

PLCプログラミング技術 【機器：三菱 PLC F シリーズ】



受講対象者 有接点シーケンス回路が読める方

概要		カリキュラム内容	
PLC (Programmable Logic Controller) の概要及び制御回路 (ラダー図) の作成方法を理解し、実習を通して回路設計、配線等の実務を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 自動化における PLC <ol style="list-style-type: none"> 自動化における PLC の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> PLC の特徴 PLC の構成 入出力インターフェース プログラム設計 <ol style="list-style-type: none"> プログラムの作成 <ol style="list-style-type: none"> リレーシーケンス回路からの置き換え ラダーサポートツールの機能 PLC における制御の構造化 プログラムの標準化の必要性 拡張性、可読性のあるプログラムの検討 <ol style="list-style-type: none"> デバイス割付 コメント編集 自動制御システム制作実習 <ol style="list-style-type: none"> 実習課題の仕様 留意事項 標準化回路の設計 配線作業、点検作業 プログラミング実習 <ol style="list-style-type: none"> シーケンス命令 (AND、OR など) 自己保持回路、インターロック回路 タイマ回路、カウンタ回路 その他応用命令 試運転、デバッグ 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	12	受講料	11,000 円
コース番号	<ol style="list-style-type: none"> E3811 E3812 E3813 E3814 		
日程	<ol style="list-style-type: none"> 4/23(木)~24(金) 6/11(木)~12(金) 7/9(木)~10(金) 10/1(木)~2(金) 		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	三菱 PLC (FX3S)、スイッチ、ランプ <ソフト>ラダーサポートツール (GX Works 2)		
受講者持参品	筆記用具		



参加受講者の声

- ソフトの使用方法から、気を付ける点などを実例を含めて聞いて良かったです。
- PLC を使う制御盤の案件での品質向上につながると思いました。
- 補助リレーを使い自己保持をかける (出力リレーでの自己保持より良い) 理由を知りたかったのはじめ、疑問や知りたい事を理解できました。
- ラダー図で簡単にプログラムを変更することができるメリット (リレー制御と比べて) を体感できました。

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



PLCにおける数値データの取扱いを理解する！

PLC制御の回路技術 【機器：三菱 PLC Q シリーズ】



受講対象者 『PLCプログラミング技術【機器：三菱PLC Fシリーズ】(P58 参照)を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方』

概要		カリキュラム内容	
<p>PLCにおける数値データの取扱いを理解し、FAモデル(ミニコンベア実習装置)を用いた演習課題を通して、数値転送等の応用命令を習得します。</p>		<p>1. PLCの運用</p> <p>(1) PLCのハードウェア</p> <p>(2) ユニットの選定</p> <p>(3) 外部配線の設計</p> <p>(4) ラダーサポートツールの機能</p> <p>(5) ラダー図による回路作成</p> <p>(6) データメモリの編集</p> <p>(7) モニタリング、タイムチャート</p> <p>(8) デバッグ運転</p>	
<p>予定講師</p>	<p>ポリテクセンター関東 講師</p>	<p>(3) 入出力機器選定および電源・入出力配線</p> <p>(4) FAモデルの制御回路設計実習</p> <p>イ. コンベア制御実習</p> <p>ロ. 数値転送命令</p> <p>ハ. 算術演算命令、比較演算命令</p> <p>(5) 試運転・デバッグ・メンテナンス</p>	
<p>定員</p>	<p>10 受講料 11,000円</p>	<p>2. PLCの回路設計</p> <p>(1) 標準化回路の設計</p> <p>イ. 安全対策</p> <p>ロ. プログラムの共有化、デバッグの容易さ</p> <p>ハ. システムの保守性、管理性</p> <p>(2) データメモリ活用による生産管理</p> <p>(3) システムの改善</p> <p>イ. モニタリングとデバッグ運転</p> <p>ロ. プログラム修正</p>	
<p>コース番号</p>	<p>E3911</p>	<p>3. PLCの設計実習</p> <p>(1) 実習課題の仕様(搬送システム等の自動制御について)</p> <p>(2) プログラムの標準化</p>	
<p>日程</p>	<p>①8/5(水)~6(木) ②10/8(木)~9(金)</p>	<p>本コース受講前に、『PLCプログラミング技術【機器：三菱PLC Fシリーズ】(P58 参照)の受講をお勧めします。</p>	
<p>時間</p>	<p>9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間</p>	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●より深いPLCのプログラミング技術を学べました。 ●PLCやラダーの知識が無かったため、今回のセミナーで知識が深まりました。 	
<p>使用機器等</p>	<p>三菱PLC(Qシリーズ)、スイッチ、ランプ、負荷装置(ミニコンベア)<ソフト>ラダーサポートツール(GX Works 2)</p>	<p></p>	
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		



FAタッチパネルの画面設計技術を身につける！

PLCによるタッチパネル活用技術

受講対象者 『PLC制御の回路技術【機器：三菱PLC Qシリーズ】(P59 参照)を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方』

概要		カリキュラム内容	
<p>FAシステム用タッチパネルとラダープログラムとのデバイスデータ関連付け手法等を理解し、実習を通してタッチパネル活用法を習得します。</p>		<p>1. タッチパネルの概要</p> <p>(1) タッチパネルの概要と特徴</p> <p>(2) 各種接続形態</p> <p>(3) 通信形態</p>	
<p>予定講師</p>	<p>ポリテクセンター関東 講師</p>	<p>2. タッチパネルの画面設計</p> <p>(1) システム構成</p> <p>(2) 表示画面構成</p> <p>(3) PLCと表示画面のデバイス設定</p> <p>(4) 表示画面とPLCプログラムの作成</p> <p>(5) アラーム表示</p> <p>(6) タッチパネルによる負荷機器の制御</p> <p>(7) タッチパネルによるプログラムのデバッグ</p>	
<p>定員</p>	<p>10 受講料 11,000円</p>	<p>3. 実習課題</p> <p>(1) 現場に即した設計仕様の提示(例)ライン搬送システムなど</p> <p>(2) 自動制御運転および運用管理について</p> <p>(3) 入出力機器の接続、配線</p> <p>(4) PLCによる回路設計(プログラム)</p> <p>(5) 画面設計、生産管理、アラームと対策</p> <p>(6) 試運転・デバッグ</p>	
<p>コース番号</p>	<p>E4011</p>	<p>本コース受講前に、『PLC制御の回路技術【機器：三菱PLC Qシリーズ】(P59 参照)の受講をお勧めします。</p>	
<p>日程</p>	<p>10/15(木)~16(金)</p>	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一通りの操作法を学ぶことができ、それぞれの注意点など知ることができました。また、テキストがわかりやすくまとめられていることも良いです。 ●実際にタッチパネルのスイッチ、ランプ等の使い方を覚える事が出来ました。 ●タッチパネル上の描画はどのようにして作成し、操作、制御にどう関連付けるか理解することができました。 ●タッチパネルを自分で操作したことがなかったため、勉強になりました。 	
<p>時間</p>	<p>9:15~16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間</p>	<p></p>	
<p>使用機器等</p>	<p>三菱タッチパネル(GOT 2000)、三菱PLC(Qシリーズ)<ソフト>ラダーサポートツール(GX Works 2)、作図ソフトウェア(GT Designer 3)</p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

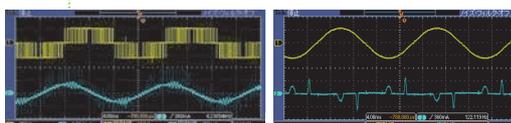
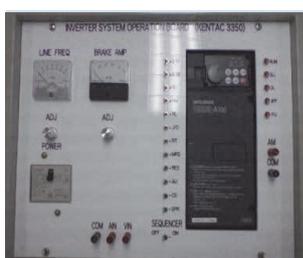


誘導電動機の原理を知って、インバータの活用方法を習得しよう！

電動機のインバータ活用技術



受講対象者 電動機をインバータ動作させたい方

概要		カリキュラム内容			
<p>三相誘導電動機及び汎用インバータのしくみを知り、実習により誘導電動機及びV/F制御におけるインバータの特性を理解することでインバータに関する技能・技術を習得します。</p>		<p>1. インバータ運転の概要 (1) 三相誘導電動機の特長、電動機の始動運転方法 (2) インバータ運転と商用運転の相違点 (3) インバータ運転制御の概略(配線、インバータ制御機器)</p> <p>2. インバータの機器配線設計 (1) 所要電動機出力の算定方法 (2) インバータ容量の算定方法 (3) インバータの特性 (4) 配線設計 (5) ノイズの発生と対策</p> <p>3. インバータの配線作業 (1) 汎用インバータと電源及び電動機との配線工事 (2) 汎用インバータと周辺装置との配線</p> <p>4. インバータ制御実習 (1) インバータ制御による電動機運転と施工、保守 イ. 各種パラメータ ロ. 可逆運転、可変速運転 ハ. インバータ運転⇄商用運転切替回路 (2) インバータの操作</p> <p>(3) インバータ使用上の諸問題 (4) メンテナンス</p> <p>5. まとめ</p>			
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 			
定員	10			受講料	10,500円
コース番号	E4111				
日程	11月以降開講予定				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間				
使用機器等	三菱製汎用インバータ、三相誘導電動機				
受講者持参品	筆記用具		<p>本コースはP L Cを使用しません。</p>		

参加受講者の声

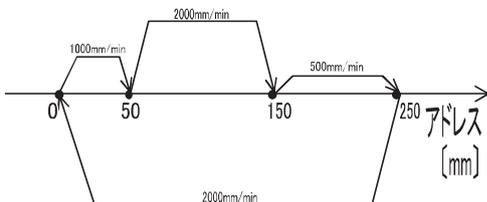
- インバータの動きを理解することができました。
- インバータを利用した装置検討にいかせそうです。



P L Cによる高精度な位置決め制御技術を身につける！

P L Cによるサーボモータ制御の実務

受講対象者 『P L C制御の回路技術【機器：三菱P L C Qシリーズ】(P59参照)を受講された方または同等以上の知識をお持ちの方

概要		カリキュラム内容			
<p>サーボモータの特徴を理解し、P L Cをコントローラとしたサーボシステムの立上げ方法と、高精度位置決めを行うためのデータ作成方法を習得します。</p>		<p>1. サーボモータ制御概要 (1) サーボ (2) 制御方式 (3) サーボシステムの構成</p> <p>2. サーボシステム (1) サーボモータの原理と特性 (2) ロータリエンコーダ (3) 位置決め制御方式 (4) 偏差カウンタの動作と応答特性</p> <p>3. モータの選定 (1) 選定時における注意点 (2) モータの選定フロー (3) トルクとモータ容量</p> <p>4. サーボモータ制御実習 (1) P L Cによる位置決め制御課題 イ. 単独軸の制御 ロ. X-Yテーブルによる2軸制御 (2) プログラムの標準化・運用管理及び安全 (3) 各部機能と入出力機器の接続 (4) 位置決め制御設計 イ. 原点復帰 ロ. 連続・軌跡制御</p> <p>5. 速度・アドレス変更、ティーチング命令 6. 2軸の補間制御 (5) 試運転・デバッグ・メンテナンス</p>			
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <p>指定の位置に指定の速度でピタッと位置決め</p>			
定員	5			受講料	18,500円
コース番号	E4211				
日程	11月以降開講予定				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間				
使用機器等	三菱P L C (Qシリーズ)、モーションユニット (QD77MS)、サーボアンプ (MR-J4-10B1) <ソフト>ラダーサポートツール (GX Works 2)				
受講者持参品	筆記用具		<p>本コース受講前に、『P L C制御の回路技術【機器：三菱P L C Qシリーズ】(P59参照)の受講をお勧めします。</p>		

参加受講者の声

- 製造現場にて多くのサーボを使用していますが、現場だけでは知る事のできない知識を修得する事ができました。
- 自分で調べてもわからなかった部分について説明を受けることができたので、よく理解できました。

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



空気圧設備のトラブル対策と省エネ対策を学ぶ

空気圧設備の保全と省エネルギー対策技術

受講対象者 空気圧経験者で設備保全を担当されている方

概要		カリキュラム内容	
空気圧機器のトラブル現象における対策方法および空気消費量削減や圧力損失改善により工場の省エネを実現する手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> コース概要及び留意事項 <ol style="list-style-type: none"> コースの目的 専門的能力の現状確認 安全上の留意事項 空気圧システムの構成 <ol style="list-style-type: none"> 空気圧システムの構成 圧縮空気中の不純物 不純物が空気圧機器に与える影響 機器のトラブル事例と対策 <ol style="list-style-type: none"> F・R・Lユニットの構造と故障原因 方向制御弁の構造と故障原因 駆動機器の構造と故障原因 機器の保守点検作業実習 <ol style="list-style-type: none"> F・R・Lユニットのメンテナンス 方向制御弁のメンテナンス 駆動機器のメンテナンス 空気圧機器を使用した実習 <ol style="list-style-type: none"> 空気圧実習装置を用いた実習 <ul style="list-style-type: none"> 速度制御弁によるメータアウト・メータイン制御実習 駆動機器の機能実習（クッション機能・オートスイッチ） 方向制御弁の種類による変化の確認 実習結果の検証・評価 使用者側から見た省エネ対策と考え方とシミュレーション <ol style="list-style-type: none"> 省エネルギー実習装置を用いた実習 エア漏れ対策の原因と考え方 エアフロー対策の考え方 省エネシミュレーションソフトを用いた実習 省エネシミュレーション結果と実際の結果の検証・評価 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答 訓練コース内容のまとめ 	
予定講師	SMC 株式会社 講師		
定員	10	受講料	10,500 円
コース番号	E4311		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	空気圧実習装置、 空気圧機器カットモデル、 トラブルシューティング用機器		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- 現場で実際に使っている物だったので、構造など理解することができました。
- 体系的に理解することができました。
- 丁寧に教えていただき、空気圧に関して理解が深まりました。

※ P84 掲載のコースと同一コースです。



協働ロボットの仕組みと原理を学ぶ

協働ロボットプログラミング制御技術

受講対象者 今後、協働ロボットを利用する業務に従事する方 ※ロボットは2人で1台です

概要		カリキュラム内容	
協働ロボットの仕組み、原理を学び、人とロボットと一緒に働くことができるシステムを作る技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> ロボット安全について <ol style="list-style-type: none"> 安全衛生 安全通則・安全基準に関する技術指針 ロボット災害・危険性・安全対策 産業用ロボットと協働ロボットの違い 協働ロボットの外部機器 <ol style="list-style-type: none"> センサについて アクチュエータについて ユーザーインターフェース 外部機器との接続方法について ロボット操作実習 <ol style="list-style-type: none"> 開発ツールの取扱い ロボット軸と座標系 ダイレクトティーチング <ul style="list-style-type: none"> パラメータ設定 ジョグ運転 ハンド操作 ロボットプログラムの作成 <ul style="list-style-type: none"> プログラム言語 プログラム作成 動作確認とデバッグ 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> 人とロボットが協働で行う製品組立て実習 <ul style="list-style-type: none"> (例) 置時計の組立て作業 協働ロボットが作業する工程の検討 プログラム作成 協働ロボットの安全設計 <ul style="list-style-type: none"> (例) 安全防護空間内の安全対策など 試運転・デバッグ 作業工程の分析・評価・検証 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	12,000 円
コース番号	E4411		
日程	10/29(木)～30(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	協働ロボット (COBOTTA)、 各種センサ、開発ソフト、 タブレット		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- ロボットに関すること、COBOTTA について深く知ることができました。
- 協働ロボがどの様に動いているのかよくわかりました。



>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



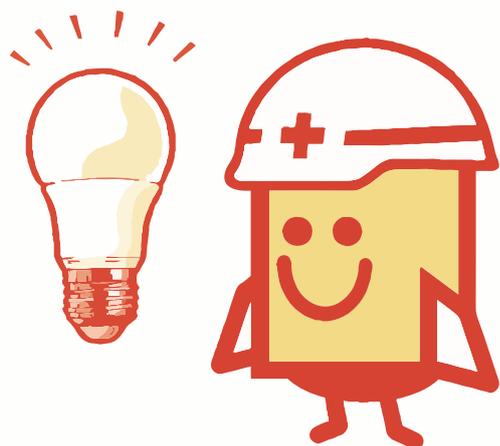
協働ロボットの仕組みと原理を学ぶ

協働ロボットを活用した自動化システム構築技術

受講対象者 今後、協働ロボットを利用する業務に従事する方 ※ロボットは2人で1台です

概要		カリキュラム内容	
協働ロボットの仕組み、原理を学び、人とロボットと一緒に働くことができるシステムを作る技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ロボット安全について <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全衛生 (2) 安全通則・安全基準に関する技術指針 (3) ロボット災害・危険性・安全対策 (4) 産業用ロボットと協働ロボットの違い 2. 協働ロボット周辺装置とインターフェイス <ol style="list-style-type: none"> (1) センサおよびアクチュエータとの接続 (2) 安全機器との接続 (3) ユーザーインターフェース (4) 外部機器との接続方法について (5) 上位制御装置との接続 (例) PLC等 3. プログラム実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) ダイレクトティーチング (2) 上位制御装置を利用したロボット制御プログラム 4. 総合課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習課題の仕様確認 (自動搬送システム、製品組立システムほか) (2) 実習課題の構築 <ol style="list-style-type: none"> イ. 配線作業、点検作業 ロ. 協働ロボットが作業する工程の検討 ハ. ロボットプログラミング ニ. 上位制御装置によるプログラミング (3) 試運転、デバッグ (4) 製作課題における動作の正確性、安全性等の検証・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	12,000円
コース番号	E4511		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩45分間含) 2日間 計12時間		
使用機器等	協働ロボット (COBOTTA)、各種センサ、開発ソフト、タブレット、負荷装置 (ミニコンペア)		
受講者持参品	筆記用具		

本コース受講前に、『協働ロボットプログラミング制御技術』(P61参照)の受講を前提としています。



>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



機械製図作業のうち、形状を中心に扱うコースです

実践機械製図（形状編）



受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
<p>機械設計／機械製図の現場力強化及び技能継承をめぐり、技能高度化に向けた設計現場で求められる機械製図の組立図及び部品図に関する形状について実践的な知識、技能を実習を通して習得します。</p>		<p>1. 製図一般 (1) 図面の役割 (2) 製図規格の確認 (3) 投影法の確認 (4) 図面より立体形状の実践的把握</p> <p>2. 機械製図上の留意事項 (1) 製図立体モデルより2次元図面への効果的図示法 イ. 投影図の選択法 ロ. 製造現場を意識した図形の配置方法 (2) 2次元図面より製図立体モデルの実践的把握 イ. 立体モデルの把握方法 ロ. スケッチ手法</p> <p>3. 実践的設計図面の描き方 (1) 事例から学ぶ設計製図 イ. 製図事例</p> <p>4. 製図総合課題 (1) 組立図及び部品図の課題実習 イ. 組立図を基にした部品図の作成</p>	
<p>予定講師</p>	<p>ポリテクセンター関東 講師</p>	<p>(2) 確認・評価</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
<p>定員</p>	<p>12</p>	<p>受講料</p>	<p>15,000円</p>
<p>コース番号</p>	<p>① M0111 ② M0112 ③ M0113 ④ M0114</p>		
<p>日程</p>	<p>①6/3(水)~5(金) ②7/14(火)~16(木) ③8/19(水)~21(金) ④9/28(月)~30(水)</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15 ~ 16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p>製図用具一式</p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		

参加受講者の声

- 図面の書き方読み方、規則・規格を知ることができ、とても理解が深まりました。
- ねじの書き方をしっかりと学んだ事が無かったため勉強になりました。
- JIS規格の説明に加えて、実務を想定した補足解説があり、役に立ちました。
- 製図に関して初めてなので色々分からない所が多かったが、とても勉強になりました。

本コース受講後、『実践機械製図（寸法編）』（P64参照）の受講をお勧めします。

機械製図作業のうち、寸法を中心に扱うコースです

実践機械製図（寸法編）



受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
<p>機械設計／機械製図の現場力強化及び技能継承をめぐり、技能高度化に向けた設計現場で求められる機械製図の組立図及び部品図に関する寸法について実践的な知識、技能を実習を通して習得します。</p>		<p>1. 製図一般 (1) 図面の役割 (2) 製図規格の確認</p> <p>2. 機械製図上の留意事項 (1) 加工を考慮した効果的寸法記入法 イ. 寸法記入の留意点 ロ. 特殊形状への寸法記入法 (2) 機能上の要求に基づく公差記入法 イ. 寸法公差の考え方 ロ. 「はめあい」における公差等級と公差域について ハ. 幾何公差の定義とその解釈 (3) 製品性能と表面性状 イ. 表面性状のパラメータ ロ. 表面性状の要求事項の指示方法</p> <p>3. 実践的設計図面の描き方 (1) 事例から学ぶ設計製図 イ. 製図事例</p> <p>4. 製図総合課題 (1) 組立図及び部品図の課題実習 イ. 組立図を基にした部品図の作成 (2) 確認・評価</p>	
<p>予定講師</p>	<p>ポリテクセンター関東 講師</p>	<p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
<p>定員</p>	<p>12</p>	<p>受講料</p>	<p>11,500円</p>
<p>コース番号</p>	<p>① M0211 ② M0212 ③ M0213</p>		
<p>日程</p>	<p>①6/24(水)~26(金) ②7/28(火)~30(木) ③9/2(水)~4(金)</p>		
<p>時間</p>	<p>9:15 ~ 16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間</p>		
<p>使用機器等</p>	<p>製図用具一式</p>		
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>		

参加受講者の声

- JIS規格に基づく知識を学ぶことができ、現場の仕事にも活かそうです。
- 実際に図面を作成するときに、役に立つ技術を得られました。
- 寸法指示の方法や幾何公差の内容を学べてよかったです。

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



機械設備設計のための総合力学

受講対象者 機械設備設計に携わる方、基本的な力学計算ができるが機械力学、材料力学に不安のある方

概要		カリキュラム内容	
<p>機械設備の設計にあたり必要となる力学的計算について現場における適切な公式の適用と設計法の確立を目指して、理論だけではなく実践的問題を例にとりながらポイントを踏まえて習得します。</p>		<p>1. 機械設備設計概要 (1) 機械と力学 (2) 機械設計製作における力学の重要性 (3) 機械設計製作における力学的解析</p> <p>2. 実例に対応した力学 (1) 変位、速度、加速度の関係 (2) 等速度、等加速度、正弦運動 (3) 角変位、角速度、角加速度の関係 (4) 部材に作用する力とモーメント (5) 回転系における慣性モーメントとトルク</p> <p>3. 実例に対応した材料力学 (1) 材料の機械的特性 (2) 引張試験における降伏点、引張強さ (3) 部材に作用する各種応力 (4) 許容応力、基準強さ、安全率の関係 (5) 梁に作用する曲げ応力と断面係数 (6) 回転軸に作用するねじり応力と極断面係数 (7) 座屈の式</p> <p>4. 総合課題</p> <p>5. まとめ</p>	
予定講師	牧野機械設計事務所 代表 牧野 雅和 氏		
定員	12 受講料 31,000 円		
コース番号	M0311		
日程	7/15(水)～17(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等		<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●力学を計算する上で、何が必要なか、入りの部分がわかるようになりました。 ●力学を実際にどうやって設計に役立てるかのイメージができました。 ●強度計算に対する理解が深まりました。 ●特に安全率に関しては、会社として（あるいは上司が）どう設定するかに合わせていくことが多く、自分で考えることがなかったため、理論や他の設計者の考え方を学べたことで理論的に仕事と向き合えるようになったと思います。 	
受講者持参品	筆記用具、関数電卓		



リスクマネジメントによる製品設計の考え方を学びます 製品設計におけるリスクマネジメント



受講対象者 機械設計・開発業務に携わっている方またはその指導的・中核的な役割を担う方およびその候補の方

概要		カリキュラム内容	
<p>製品企画／開発／デザインの現場力強化及び技能継承をめざして、技能高度化、故障対応・予防に向けた P L 法やクレーム対応などを理解し、事例分析や課題実習を通して、リスクに対応した設計を行う技術を習得します。</p>		<p>1. 設計におけるリスクマネジメント (1) リスクの分類とリスクの主要要素 (2) 経済性優先、妥協などを要因とした事故例 (3) 技術者が取り扱うリスクマネジメント (4) 事故事例分析</p> <p>2. 設計のトラブル事例分析実習 (1) 問題解決手法 (2) トラブル事例分析と是正処置の作成実習</p> <p>3. 予防設計 (1) 予防設計の流れ (2) 事例分析</p> <p>4. 設計における P L 対策 (1) P L 法の概要 (2) P L 活動 (3) P L 事故予防 (4) P L 事故防衛 (5) P L 対策</p> <p>5. 設計による機能の変質 (1) 事故事例分析</p> <p>6. 品質管理とリスクマネジメントを意識した開発設計 (1) 品質を優先した実体化 (2) 不適合記録の活用 (3) 品質意識の徹底の方法 (4) 設計品質向上の取り組み方</p> <p>7. 顧客満足度向上のための設計 (1) 中小企業のマーケティング (2) コスト低減のための準備と計画 (3) 対応スピードとリスクの関係</p> <p>8. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	ミーテック技術士事務所 代表 室橋 雅彦 氏		
定員	10 受講料 19,500 円		
コース番号	① M0411 ② M0412		
日程	①7/2(木)～3(金) ②9/3(木)～4(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等		<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●初期から FMEA をする機会がないので勉強になりました。 ●ユーザーの使用方法を考えられて色々な方向からリスクを感じることが出来ました。 ●実習で仮にやってみたことで見解ややり方がわかった為にとっても役に立ちました。 ●未然防止の観点から DRBFM の有効性を認識できました。 	
受講者持参品	筆記用具	<p>※ P94 掲載のコースと同一のコースです。</p>	

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



環境のバラツキに強い製品や条件の設計・開発・最適化手法を演習を通して学びます

品質工学に基づくパラメータ設計実践技術

受講対象者 研究 / 開発・設計・生産技術・製造技術・品質管理に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容			
<p>試作／解析／評価の生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化（改善）に向けた研究・開発、設計、生産技術、製造技術の各分野で品質工学を実践するための手順を実験演習を通じて、開発期間の圧縮と市場におけるトラブルを未然に防ぐことを両立させる設計技術を習得します。</p>		<p>1. 品質工学の概要 (1) 品質工学における品質の定義 (2) 損失関数 (3) パラメータ設計の役割 (4) 目的機能と基本機能 (5) 様々なS/N比と事例紹介</p> <p>2. 実験計画 (1) 統計的推測 (2) 分散分析の目的 (3) データの変動と寄与率 (4) 直交表を用いた実験 (5) 直交実験の解析演習</p> <p>3. パラメータ設計演習 (1) 設計演習の内容説明 (2) 設計対象「紙コプター」の目的機能 (3) 直交表に基づいた機体の製作 (4) 直交実験と解析 (5) 設計目標の提示</p> <p>4. 確認実験 (1) 実験演習の結果による分散分析 (2) 最適条件の導出 (3) 確認実験のための機体製作 (4) 確認実験</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>			
予定講師	熊田技術士事務所 代表 熊田 成人氏				
定員	10			受講料	31,500円
コース番号	M0511				
日程	6/1(月)～3(水)				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間				
使用機器等	電子ばかり、ストップウォッチ、パソコン、表計算ソフト、デジタルカメラ				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

- 品質工学の優位性は座学だけでは理解しづらいように思いましたが、実際のプロセスを経験することでその素晴らしさに気付きました。
- 課題の原因特定に役立てられると思います。
- なんとなく言葉だけ知っていた知識だったものが実験を通じて明確にすることができました。
- 設計評価を効率的に行う手法を知ることができました。

※ P94 掲載のコースと同一のコースです。

熱処理の方法や熱処理によるトラブル対策の技術を身につけましょう！

鉄鋼材料の熱処理技術



受講対象者 製造装置や工業製品の設計開発又は生産作業に従事する技能・技術者又はその候補者

概要		カリキュラム内容			
<p>金属熱処理の生産性の向上をめざして、効率化、最適化（改善）に向けた熱処理実習を通して、鉄鋼材料の知識と各種熱処理方法と評価および熱処理の不具合とその対策法に関する技能と技術を習得します。</p>		<p>1. 鉄鋼材料の基礎 (1) 鉄鋼材料の基礎 イ. 鉄鋼材料の種類 ロ. 鉄-炭素系平衡状態図 (2) 鉄鋼材料の機械的性質 (3) 金属強化法と熱処理</p> <p>2. 熱処理技術 (1) 熱処理の目的 (2) 焼ならし (3) 焼なまし (4) 焼入れ・焼戻し (5) サブゼロ処理 (6) 析出硬化 (7) 表面硬化(高周波焼入れ・浸炭・窒化等) (8) 加熱・冷却装置</p> <p>3. 熱処理欠陥の原因と対策 (1) 割れの原因と対策 (2) ひずみの発生と対策 (3) 不完全焼入れの原因と対策 (4) 酸化と脱炭 (5) 材料の偏析と結晶粒の粗大化</p> <p>4. 熱処理と評価実習 (1) 熱処理実習 イ. 炭素鋼 (S25C、S45C、SK105) の焼入れ・焼戻し ロ. 炭素鋼 (S25C、S45C、SK105) の焼ならし ハ. 応力除去焼なまし ニ. 焼入れによる変形・割れ ホ. 熱処理による強度比較</p> <p>(2) 組織観察実習 イ. 熱処理前の組織観察 ロ. 熱処理後の組織観察</p> <p>(3) 硬さ試験 (4) トラブル対策の検討および検証実習 (ひずみ・割れ等の対策)</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>			
予定講師	高度ポリテクセンター 講師				
定員	10			受講料	13,000円
コース番号	① M0611 ② M0612				
日程	①7/23(木)～24(金) ②9/10(木)～11(金)				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間				
使用機器等	電気炉、バフ研磨機、硬さ試験機、金属顕微鏡、マイクロスコープ				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

- 焼入れにおける炭素の活かし形など、具体的な方法がわかりました。
- 理解が難しい箇所も質問すれば丁寧に回答いただき理解が深まりました。
- 具体的な事が何1つわからなかった焼き入れについて知識を深める事ができました。
- 実際に熱処理を実施して、各々の組織を観察することができ、非常に理解しやすかったです。

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



2次元CADの活用方法を習得するコースです！

2次元CADによる機械設計技術（製図手法編）【機器：AutoCAD】



受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		AutoCAD	
<p>機械設計／機械製図の生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化（改善）に向けた製品企画から具体的加工の指示を出すまでの設計業務の流れと作図（設計製図、工程図等）を通して、既存の環境設定を用いたCAD図面の作成方法を習得します。</p>		<p>1. 構想と基本設計 (1) 構想から図面への考え方 イ. ポンチ絵や構想図から、点コマンドを使った外形や大きさの決め方 (2) 複数部品配置（レイアウト）のテンプレート設定 イ. 複数部品配置のための座標系と画層の使い分け</p> <p>2. 詳細設計・作図 (1) 設計製図効率を向上させるために事前に準備しておくべき事項 イ. データ管理機能（テンプレート、ブロック、外部参照など） (2) 基本構想段階でのCADの使い方 イ. 作図機能 (3) 製図段階でのCADの使い方 イ. 寸法記入と公差の考え方</p> <p>3. 実践課題 (1) 構想の具体化（構想からの具体的設計法） (2) 作図</p> <p>4. 設計の効率化 (1) 社内ノウハウを蓄積するための図面の標準化</p>		<p>イ. ISO、JIS、業界、社内規格の関連と規格化の手法 ロ. 加工、測定へのCADデータ活用とCADデータ作成時の注意点</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	<p>本コース受講後、『2次元CADによる機械設計技術（図面構築手法編）【機器：AutoCAD】』（P67参照）の受講をお勧めします。</p>
予定講師	株式会社 KreeD 講師				
定員	12	受講料	28,000円		
コース番号	① M0711 ② M0712				
日程	①6/3(水)～5(金) ②9/9(水)～11(金)				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間				
使用機器等	AutoCAD				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

- 穴加工の指示方法や表記方法を理解することができました。
- 独学でCADを使用していたが、活用する方法を学ぶ事ができてとても勉強になりました。
- 普段の業務だと速度重視のため、ツールの内容まで深く、新しく学べました。
- コマンドや簡略された操作方法を新たに学ぶことができ、マウスを画面上であちこちに動かす手間がはぶけるので学べて良かったです。

2次元CADの効果的な利用法を習得するコースです！

2次元CADによる機械設計技術（図面構築手法編）【機器：AutoCAD】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		AutoCAD	
<p>製図手法編の内容に加え、より効率的な作成を行うための、データ編集方法や、用途に適した作図環境構築方法について、図面の作図を通して習得します。</p>		<p>1. 構想と基本設計 (1) 複数部品配置（レイアウト）のテンプレート設定 イ. 複数部品配置のための座標系と画層の使い分け ロ. 組立図作成等を考慮したCADデータの整理分類法</p> <p>2. 詳細設計・作図 (1) 基本構想段階でのCADの使い方 イ. 編集機能 (2) 詳細設計段階でのCADの使い方 イ. 応用作図機能 (3) 製図段階でのCADの使い方 イ. 線種の使い分けと出力設定</p> <p>3. 実践課題 (1) 構想の具体化（構想からの具体的設計法） (2) 詳細設計（製品機能を重視した詳細設計） (3) 作図（対象製品に要求される寸法公差、幾何公差の選択）</p> <p>4. 設計の効率化 (1) 社内ノウハウを蓄積するための図面の標準化</p>		<p>イ. 市販品やカタログデータ等を活用したDBの構築と運用管理 ロ. 既存図面からの技術情報の抽出と図面管理 ハ. 加工、測定へのCADデータ活用とCADデータ作成時の注意点</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	<p>本コース受講前に、『2次元CADによる機械設計技術（製図手法編）【機器：AutoCAD】』（P67参照）の受講をお勧めします。</p>
予定講師	株式会社 KreeD 講師				
定員	12	受講料	28,000円		
コース番号	① M0811 ② M0812				
日程	①6/17(水)～19(金) ②10/14(水)～16(金)				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間				
使用機器等	AutoCAD				
受講者持参品	筆記用具				

参加受講者の声

- 業務で2DCADを使用するため、正確な操作方法を習得できました。
- コマンド等の新しい情報を知ることができました。
- それぞれの機能をゆっくり説明していただき、使用の幅が広がりました。
- 図面を描く際に必要な技術が身につくことで、業務の効率化が図れそうです。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



3次元CADのモデリングコースです！

設計ツールによるモデリング技術【機器：SolidWorks 2025】



受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		SolidWorks 2025
<p>製品設計業務における生産性の向上をめざして、効率化、最適化（改善）に向けたソリッドモデルを中心に3次元CADを設計ツールとして効果的に活用した設計プロセスと、PDQと量産までの後工程を意識した高品質なCADデータ作成方法を習得します。</p>		<p>1. 設計プロセス (1) 設計の流れ (2) 新規設計と流用設計 (3) 設計ツールとしての3次元CAD活用</p> <p>2. 3次元CADデータが具備すべき条件 (1) 3次元CADの種類と特徴 (2) 3次元CADの形状表現とPDQ (3) 3次元CADにおける図面の活用 (4) 3次元CADデータの活用事例 (5) モデルデータ管理</p> <p>3. CADによる設計検証演習 (1) 作業前の確認事項 イ. 仕様の検討 ロ. 目標値の確認 ハ. 構想図（ポンチ絵）作成 ニ. 設計基準の決定 (2) 検討用図面の作成 (3) 設計手順とCADモデル構築手順 イ. 各形状の機能と重要度 (4) 設計の各段階の検証項目とCADによる手法 イ. 図面による位置（寸法）の検証 ロ. 体積、表面積の検証 ハ. 質量、重心の検証</p> <p>4. 設計変更演習 (1) 設計変更とモデル構築手順の関係 イ. 履歴と親子関係 ロ. 設計変更と履歴</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>		<p>本コース受講後、『3次元CADを活用したアセンブリ技術【機器：SolidWorks 2025】』（P68参照）の受講をお勧めします。</p>
予定講師	株式会社 KreeD 講師			
定員	12	受講料	28,000円	
コース番号	① M0911 ② M0912 ③ M0913 ④ M0914			
日程	①6/22(月)~24(水) ②7/6(月)~8(水) ③8/31(月)~9/2(水) ④9/28(月)~30(水)			
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計18時間			
使用機器等	SolidWorks 2025			
受講者持参品	筆記用具			

参加受講者の声

- 参照平面や直線から早く曲線に切り替える方法等、知見を深めることができました。
- 技能・技術を身につけるきっかけとなる内容でした。
- チュートリアルを学習するだけでは分からなかった事柄が理解できました。
- 仕事上の部品の形状提案などを可視化して伝えることができるようになったと感じました。

3次元CADのアセンブリ&図面コースです！

3次元CADを活用したアセンブリ技術【機器：SolidWorks 2025】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		SolidWorks 2025
<p>機械設計の新たな品質の創造又は製品を生み出すことをめざして、高付加価値化に向けたアセンブリ機能を活用した検証実習を通して設計検討項目の検証方法を習得します。</p>		<p>1. 設計とは (1) 製品設計とは (2) 設計の流れと検証ツール</p> <p>2. アセンブリ (1) 重要なモノから組み付ける (2) 基準を明確にする</p> <p>3. 検証ツールとアセンブリ3ヶ条 (1) 設計で重要な部分での着目点 (2) アセンブリの基準とサブアセンブリ基準の関係 (3) 実習問題</p> <p>4. 検証作業 (1) モデルを活用した検証方法 (2) アセンブリ機能を活用した検証方法（干渉チェック、重心チェック） (3) 図面を活用した検証方法</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>		<p>本コース受講前に、『設計ツールによるモデリング技術【機器：SolidWorks 2025】』（P68参照）の受講をお勧めします。</p>
予定講師	株式会社 KreeD 講師			
定員	12	受講料	22,500円	
コース番号	① M1011 ② M1012 ③ M1013			
日程	①6/25(木)~26(金) ②7/9(木)~10(金) ③10/1(木)~2(金)			
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間			
使用機器等	SolidWorks 2025			
受講者持参品	筆記用具			



参加受講者の声

- モデル作成の知識が深まったことで、既存のモデルの作成意図をくみ取ることが出来、改修時の効率化に役立てることができそうです。
- 今まで知らなかった操作、機能を知る事ができました。
- SolidWorksの的確な操作が身につきました。
- 合致など詳細に説明していただき、良く理解できたと思います。

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



3次元CADのより複雑な形状を扱ったモデリングコースです。より高度な知識・技術を必要とする方にお勧めです！ 設計ツールを活用した製品設計技術（テクニカルソリッドモデリング編）【機器：SolidWorks 2025】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方（経験年数1年以上）

概要		カリキュラム内容		SolidWorks 2025
製品設計の生産性の向上をめざして、効率化、最適化（改善）に向けた流用設計のための設計変更（設計の付加価値）とさまざまな形状に対応できるモデリングテクニックを習得します。		1. 設計プロセス (1) 3DCADを使用した設計の流れ (2) 新規設計と流用設計		ロ. 中心線パラメータ ハ. レイアウトスケッチ
予定講師	株式会社 KreeD 講師	2. 流用設計 (1) モデルの修復 (2) 設計変更 (3) 課題実習		6. 総合実習 (1) 総合課題による実習 (2) 総合課題の解説
定員	12 受講料 28,000円	3. スケッチテクニック (1) 3Dスケッチ (2) さまざまなカーブ作成 (3) スケッチの活用 (4) 課題実習		7. まとめ (1) 質疑応答・評価
コース番号	M1111	4. マルチボディと特殊なフィーチャー (1) マルチボディテクニック (2) 特殊なフィーチャー (3) 課題実習		本コース受講前に、『設計ツールによるモデリング技術【機器：SolidWorks 2025】（P68 参照）の受講をお勧めします。
日程	7/1(水)～3(金)	5. スイープとロフト (1) スイープ イ. ガイドカーブの使用 ロ. ジオメトリ的分析 ハ. 連続性の概念 ニ. ねじれコントロール (2) ロフト イ. 拘束の開始・終了		
時間	9:15～16:00 (休憩45分間含) 3日間 計18時間			
使用機器等	SolidWorks 2025			
受講者持参品	筆記用具			

参加受講者の声

- 設計する際に教わった技能でより効率的に仕事ができそうです。
- 流用設計について独学であった為、広い目線での知識が深まりました。
- マルチボディの設計を活用することでデータをより活用できるようになりました。インポートデータの活用方法についても良く理解できました。
- 知らなかったモデリング手法を学ぶことができた（レイアウトモデリングなど）。
- スイープ、ロフトの使い分けが理解できました。

3次元CADのサーフェスコースです！

3次元CADを活用したサーフェスモデリング技術【機器：SolidWorks 2025】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		SolidWorks 2025
機械設計/機械製図の新たな品質及び製品の創造をめざして、高付加価値化に向けた製品の意匠性や機能を実現する自由曲面と自由曲線の作成実習を通して、製品設計する上で重要な「滑らかさ」・「連続性」・「曲線・曲面の評価方法」について理解し、生産現場に有効なサーフェスモデリング技術を習得します。		1. 曲面の必要条件 (1) 意匠面とは (2) 自由曲面・自由曲線の特徴と重要性 (3) 自由曲面・自由曲線を作成する上での注意点		 本コース受講前に、『設計ツールによるモデリング技術【機器：SolidWorks 2025】（P68 参照）の受講をお勧めします。
予定講師	株式会社 KreeD 講師	2. サーフェスモデリング (1) 曲面形状部品の製品設計の流れ (2) サーフェスモデリングの主要機能 (3) 各種曲面形状の作成法と特徴		
定員	12 受講料 28,000円	3. 自由曲面の設計・検証実習 (1) 曲線の種類と構成要素 (2) 曲線の連続性と評価 (3) 自由曲面の作成と接続性および評価 (4) 寸法精度と滑らかさ (5) 課題実習 イ. 図面データを基にした白紙からの曲面製品の設計 ロ. 滑らかさ・連続性を重視した自由曲面の設計 ハ. 自由曲面とソリッドとの融合によるモデルの構築		
コース番号	① M1211 ② M1212	4. まとめ (1) 質疑応答・評価		
日程	①7/21(火)～23(木) ②10/6(火)～8(木)			
時間	9:15～16:00 (休憩45分間含) 3日間 計18時間			
使用機器等	SolidWorks 2025			
受講者持参品	筆記用具			

参加受講者の声

- CATIA サーフェスの作成の手順がわかりました。
- 設計時における新しい技法の基礎を学ぶことが出来ました。
- まだ使ったことのないコマンドが使用できるようになりました。
- 自由曲面のモデリングにおいて、どんなメーカーでも、どんな人でも行き当たる問題は同じであり、その解決方法を詳しく学べたので、大変満足しています。何となくや使いながら覚えた部分のブラッシュアップが出来たことも良かったです。設計者側の視点で話をしてくださり、イメージと理解がしやすかったです。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



線形静解析（構造解析）を SolidWorks を使用して学んでいきます！

CAEを活用した構造解析技術（モデル化実践編）【機器：SolidWorks 2025】

受講対象者 3次元CADを利用した線形静解析を習得されたい方 ※ SolidWorks によるモデリングおよびアセンブリ操作が一通り可能な方に限ります。

概要		カリキュラム内容		SolidWorks 2025
製品設計業務の生産性の向上をめざして、効率化、最適化（改善）に向けたCAEによる様々な荷重条件・支持方法による有限要素のモデル化表現、モデルの簡素化等の実習を通して、解析技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 数値解析技術（CAE概論） <ol style="list-style-type: none"> 解析精度を重視した各種要素の効率的なモデル化技術の習得 適切な拘束条件の設定技術の習得 各種荷重の生成手法の習得 要素の数値積分、要素剛性マトリックスを生成するための写像関数を生成するための写像関数 解析結果の評価（線形、動的、非線形を含む）技術の習得 要素の品質のチェックについて 実例によるモデル化の指針 モデル化指針 <ol style="list-style-type: none"> モデル化概要 要素選択の指針 材料選択の指針 ソリッドモデリングの指針 メッシュ分割の指針 境界条件の指針 モデル簡素化 その他のモデル化 課題実習 <ol style="list-style-type: none"> 実習問題 1（梁の計算） 実習問題 2（静解析） 		<ol style="list-style-type: none"> 実習問題 3（熱応力解析） 実習問題 4（アセンブリ）
予定講師	株式会社 KreeD 講師			
定員	12	受講料	30,500 円	
コース番号	M1311			
日程	7/29(水)～31(金)			
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間			
使用機器等	SolidWorks 2025 SolidWorks Simulation			
受講者持参品	筆記用具			



参加受講者の声

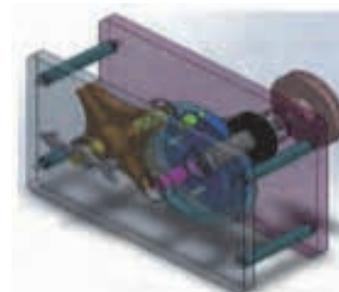
- これまであいまに設計していた強度の部分解析結果を使用して検討することができました。
- 自分ではっきりわかってない所や有限要素法のイメージなどがわかってよかったです。
- 解析結果を視覚的に表現できる手法を知ることにより解析データの共有がしやすくなりました。

公差解析に関する講義と SolidWorks 公差計算機能を利用した実習を通して学んでいきます！

公差設計技術【機器：SolidWorks 2025】

受講対象者 量産品を設計している設計者や周辺技術者、またはその候補の方 ※ SolidWorks の基本操作が一通り可能な方に限ります。

概要		カリキュラム内容		SolidWorks 2025
機械設計／機械製図の生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化（改善）に向けた最適な公差設定によりコスト競争力を強化するため、製品仕様と製造条件や製造コストを考慮した公差の設定・設計技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 公差の概要 <ol style="list-style-type: none"> 設計業務と設計者の技能 寸法公差とは 寸法公差と製品の形状について 幾何公差について 専門的能力の確認 公差設計概要 <ol style="list-style-type: none"> 公差設計必要性 公差設計と部品製作の精度 公差設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 課題提示 <ol style="list-style-type: none"> 課題：精密機械部品（部品の重ね合わせ） 課題：精密機械部品（はめあい、円筒形部品） 公差設計による公差の割り付け 設計検証 構造変更案の検討と変更案の公差設定 工程能力 <ol style="list-style-type: none"> 公差と工程能力の関係 工程能力指数による公差の設定 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答・評価 		
予定講師	株式会社 KreeD 講師			
定員	12	受講料	25,000 円	
コース番号	M1411			
日程	11月以降開講予定			
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間			
使用機器等	SolidWorks 2025			
受講者持参品	筆記用具			



本コース受講前に、「設計ツールによるモデリング技術【機器：SolidWorks 2025】（P68 参照）の受講をお勧めします。

参加受講者の声

- 公差設計についての知識を深めることが出来ました。
- Solid Works の機能、特に MBD と公差解析の使用法と利便性が良く分かりました。
- 新しい知識を取り入れることができました。

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



3次元CADのモデリングコースです！

設計ツールによるモデリング技術【機器：CATIA V5 2025】



受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		CATIA V5 2025
<p>製品設計業務における生産性の向上をめざして、効率化・最適化（改善）に向けたソリッドモデルを中心に3次元CADを設計ツールとして効果的に活用した設計プロセスと、PDQと量産までの後工程を意識した高品質なCADデータ作成方法を習得します。</p>		<p>1. 設計プロセス (1) 設計の流れ (2) 新規設計と流用設計 (3) 設計ツールとしての3次元CAD活用</p> <p>2. 3次元CADデータが具備すべき条件 (1) 3次元CADの種類と特徴 (2) 3次元CADの形状表現とPDQ (3) 3次元CADにおける図面の活用 (4) 3次元CADデータの活用事例（解析、製造） (5) モデルデータ管理</p> <p>3. CADによる設計検証演習 (1) 作業前の確認事項 イ. 仕様の検討 ロ. 目標値の確認 ハ. 構想図（ポンチ絵）作成 ニ. 設計基準の決定 (2) 検討用図面の作成 (3) 設計手順とCADモデル構築手順 イ. 各形状の機能と重要度 (4) 設計の各段階の検証項目とCADによる手法 イ. 図面による位置（寸法）の検証 ロ. 体積、表面積の検証</p> <p>ハ. 質量、重心の検証 ニ. その他（慣性特性、勾配など）の検証</p> <p>4. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>		<p>本コース受講後、『3次元CADを活用したアセンブリ技術【機器：CATIA V5 2025】（P71参照）の受講をお勧めします。</p>
<p>予定講師</p>	<p>株式会社 KreeD 講師</p>			
<p>定員</p>	<p>12</p>	<p>受講料</p>	<p>28,000円</p>	
<p>コース番号</p>	<p>① M1511 ② M1512</p>			
<p>日程</p>	<p>① 8/17(月)～19(水) ② 10/26(月)～28(水)</p>			
<p>時間</p>	<p>9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間</p>			
<p>使用機器等</p>	<p>CATIA V5 2025</p>			
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>			

参加受講者の声

- 今回のセミナーはCATIAの基礎が全て分かり、今まで使用してきたCADソフトとの比較を自分で行うことができたため、良い機会だと感じました。
- CATIAのモデリング技術について構成から学べたため、自分の知識を整理することができました。
- スケッチの書き方などより書きやすい方法を理解することができました。
- 講座は演習まで幅広く学べました。また、演習が多くあり、やっていく中で学ぶことができました（幾何拘束の重要性）。教材も手順がわかりやすく学びやすかったです。今まで使用していなかったコマンドを知ることが出来ました。

3次元CADのアセンブリ&図面コースです！

3次元CADを活用したアセンブリ技術【機器：CATIA V5 2025】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		CATIA V5 2025
<p>機械設計の新たな品質の創造又は製品を生み出すことをめざして、高付加価値化に向けたアセンブリ機能を活用した検証実習を通して設計検討項目の検証方法を習得します。</p>		<p>1. 設計とは (1) 製品設計とは (2) 設計の流れと検証ツール</p> <p>2. アセンブリ3ヶ条 (1) 重要なモノから組み付ける (2) 基準を明確にする</p> <p>3. 検証ツールとアセンブリ3ヶ条 (1) 設計で重要な部分での着目点 (2) アセンブリの基準とサブアセンブリ基準の関係 (3) 実習問題</p> <p>4. 検証作業 (1) モデルを活用した検証方法 (2) アセンブリ機能を活用した検証方法（干渉チェック、重心チェック） (3) 図面を活用した検証方法</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>		<p>本コース受講の前に、『設計ツールによるモデリング技術【機器：CATIA V5 2025】（P71参照）の受講をお勧めします。</p>
<p>予定講師</p>	<p>株式会社 KreeD 講師</p>			
<p>定員</p>	<p>12</p>	<p>受講料</p>	<p>22,500円</p>	
<p>コース番号</p>	<p>① M1611 ② M1612</p>			
<p>日程</p>	<p>① 8/20(木)～21(金) ② 10/29(木)～30(金)</p>			
<p>時間</p>	<p>9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間</p>			
<p>使用機器等</p>	<p>CATIA V5 2025</p>			
<p>受講者持参品</p>	<p>筆記用具</p>			

参加受講者の声

- 業務で使用したことの方法を習得出来ました。
- 社内でもアセンブリを使用していたが、なんとなく使っていた部分が、今回受講した内容で理解を深める事ができました。拘束方法やアセンブル手法（ボトムアップ、トップダウン）など
- 今回のセミナーでモデリングを含め、操作方法や効率の良い操作（作業手順）を学ぶことができ、大変良い経験になりました。会社に戻った時、今まで設計してきたものを見直ししたいと思います。
- モデル作成の知識が深まったことで、既存のモデルの作成意図をくみ取ることができ、改修時の効率化に役立てることができると思われます。

>> 担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



3次元 CAD のサーフェスコースです！

3次元CADを活用したサーフェスマデリング技術【機器：CATIA V5 2025】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		CATIA V5 2025
<p>機械設計／機械製図の新たな品質及び製品の創造をめざして、高付加価値化に向けた製品の意匠性や機能を実現する自由曲面と自由曲線の作成実習を通して、製品設計する上で重要な「滑らかさ」・「連続性」・「曲線・曲面の評価方法」について理解し、生産現場に有効なサーフェスマデリング技術を習得します。</p>				
予定講師	株式会社 KreeD 講師			
定員	12	受講料	28,000 円	
コース番号	M1711			
日程	8/26(水)～28(金)			
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間			
使用機器等	CATIA V5 2025 (GSD)			
受講者持参品	筆記用具			
		<p>1. 曲面の必要条件 (1) 意匠面とは (2) 自由曲面・自由曲線の特徴と重要性 (3) 自由曲面・自由曲線を作成する上での注意点</p> <p>2. サーフェスマデリング (1) 曲面形状部品の製品設計の流れ (2) サーフェスマデリングの主要機能 (3) 各種曲面形状の作成法と特徴</p> <p>3. 自由曲面の設計・検証実習 (1) 曲線の種類と構成要素 (2) 曲線の連続性と評価 (3) 自由曲面の作成と接続性および評価 (4) 寸法精度と滑らかさ (5) 課題実習 イ. 図面データを基にした白紙からの曲面製品の設計 ロ. 滑らかさ・連続性を重視した自由曲面の設計 ハ. 自由曲面とソリッドとの融合によるモデルの構築</p> <p>4. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>		

本コース受講の前に、『設計ツールによるモデリング技術【機器：CATIA V5 2025】(P71 参照) の受講をお勧めします。

参加受講者の声

- 簡単な操作（業務で使用する部分のみ）は知っていましたが、それ以外の操作コマンドが今回のセミナーで知れて良かったです。また、スケッチについても丁寧に説明してくれたので、知識を深めることができました。
- 実務経験者や、なんらかの専門の方が講師であると新しい視点が見つかるのでとてもよかったです。
- CATIA の教育を今まで習わずなんとなくでやっていたため、コマンドごとのそれぞれの性能などがわかりました。

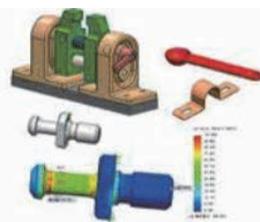


線形静解析（構造解析）を CATIA V5 を使用して学んでいきます！

CAEを活用した構造解析技術（モデル化実践編）【機器：CATIA V5 2025】

受講対象者 3次元CADを利用した線形静解析を習得されたい方 ※ CATIA V5 によるモデリングおよびアセンブリ操作が一通り可能な方に限ります。

概要		カリキュラム内容		CATIA V5 2025
<p>製品設計業務の生産性の向上をめざして、効率化、最適化（改善）に向けた CAE による様々な荷重条件・支持方法による有限要素のモデル化表現、モデルの簡素化等の実習を通して、解析技術を習得します。</p>				
予定講師	高度ポリテクセンター 外部講師			
定員	12	受講料	24,500 円	
コース番号	M1811			
日程	9/16(水)～18(金)			
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間			
使用機器等	CATIA V5 2025 (GPS, GAS)			
受講者持参品	筆記用具			
		<p>1. 数値解析技術（CAE 概論） (1) 解析精度を重視した各種要素の効率的なモデル化技術の習得 (2) 適切な拘束条件の設定技術の習得 (3) 各種荷重の生成手法の習得 (4) 要素の数値積分、要素剛性マトリックスを生成するための写像関数 (5) 解析結果の評価（線形、動的、非線形を含む）技術の習得 (6) 要素の品質のチェックについて (7) 実例によるモデル化の指針</p> <p>2. モデル化指針 (1) モデル化概要 (2) 要素選択の指針 (3) 材料選択の指針 (4) ソリッドモデリングの指針 (5) メッシュ分割の指針 (6) 境界条件の指針 (7) モデル簡素化 (8) その他のモデル化</p> <p>3. 課題実習 (1) 実習問題 1（要素の違いによる結果比較） (2) 実習問題 2（要素結合の違いによる結果比較） (3) 実習問題 3（材料の違いによる結果比較） (4) 実習問題 4（モデル化の違いによる結果比較） (5) 実習問題 5（要素分割方法の違いによる結果比較）</p> <p>(6) 実習問題 6（結果の見方）</p> <p>4. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>		



参加受講者の声

- ぼんやりと分かっていた事柄が理論について学ぶことができました。
- 担当講師と外部講師と講習内容別に担当されており、理論と実習とより深く学ぶことができました。また、どちらの講師も幅広い知識を持っており、非常に役に立つと思い、今後の業務に活かせると思います。
- 解析の経験は十分にあるが CATIA 操作がわからず受講しました。CATIA 操作以外の概念的な内容は久しぶりに聞いて良かったです。
- 解析の理論から操作まで、知らなかったことや、人づてに聞いていたことを知ることができました。

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



3次元CADのモデリングコースです！

設計ツールによるモデリング技術【機器：NX 2506】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		NX 2506	
<p>製品設計業務における生産性の向上をめざして、効率化・最適化（改善）に向けたソリッドモデルを中心に3次元CADを設計ツールとして効果的に活用した設計プロセスと、PDQと量産までの後工程を意識した高品質なCADデータ作成方法を習得します。</p>		<p>1. 設計プロセス (1) 設計の流れ (2) 新規設計と流用設計 (3) 設計ツールとしての3次元CAD活用</p> <p>2. 3次元CADデータが具備すべき条件 (1) 3次元CADの種類と特徴 (2) 3次元CADの形状表現とPDQ (3) 3次元CADにおける図面の活用 (4) 3次元CADデータの活用事例（解析、製造） (5) モデルデータ管理</p> <p>3. CADによる設計検証演習 (1) 作業前の確認事項 イ. 仕様の検討 ロ. 目標値の確認 ハ. 構想図（ポンチ絵）作成 ニ. 設計基準の決定 (2) 検討用図面の作成 (3) 設計手順とCADモデル構築手順 イ. 各形状の機能と重要度 (4) 設計の各段階の検証項目とCADによる手法 イ. 図面による位置（寸法）の検証 ロ. 体積、表面積の検証</p>		<p>ハ. 質量、重心の検証 ニ. その他（慣性特性、勾配など）の検証</p> <p>4. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	株式会社 KreeD 講師				
定員	10	受講料	31,500円		
コース番号	① M1911 ② M1912				
日程	①7/13(月)～15(水) ②10/19(月)～21(水)				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間				
使用機器等	NX 2506				
受講者持参品	筆記用具				

本コース受講後、『3次元CADを活用したアセンブリ技術【機器：NX 2506】』（P73参照）の受講をお勧めします。

参加受講者の声

- 弊社でNXを導入したため、今後の業務に役立てる事ができます。
- 形状解析を行っており、モデル作成を他人へ依頼していたが今後、1人で作業ができるようになりました。
- 製品や部品の構造の解析により改善につなげる事ができます。
- スケッチの書き方、幾何拘束を意識することができました。

3次元CADのアセンブリ&図面コースです！

3次元CADを活用したアセンブリ技術【機器：NX 2506】

受講対象者 設計・CAD業務に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容		NX 2506	
<p>機械設計の新たな品質の創造又は製品を生み出すことをめざして、高付加価値化に向けたアセンブリ機能を活用した検証実習を通して設計検討項目の検証方法を習得します。</p>		<p>1. 設計とは (1) 製品設計とは (2) 設計の流れと検証ツール</p> <p>2. アセンブリ3ヶ条 (1) 重要なモノから組み付ける (2) 基準を明確にする</p> <p>3. 検証ツールとアセンブリ3ヶ条 (1) 設計で重要な部分での着目点 (2) アセンブリの基準とサブアセンブリ基準の関係 (3) 実習問題</p> <p>4. 検証作業 (1) モデルを活用した検証方法 (2) アセンブリ機能を活用した検証方法（干渉チェック、重心チェック） (3) 図面を活用した検証方法</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>		<p>本コース受講前に、『設計ツールによるモデリング技術【機器：NX 2506】』（P73参照）の受講をお勧めします。</p>	
予定講師	株式会社 KreeD 講師				
定員	10	受講料	24,500円		
コース番号	① M2011 ② M2012				
日程	①7/16(木)～17(金) ②10/22(木)～23(金)				
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間				
使用機器等	NX 2506				
受講者持参品	筆記用具				

- ### 参加受講者の声
- 各コマンドの役割、操作方法の確認が行えました。
 - NXでのアセンブリは初めてだったため、丁寧に教えていただきとてもためになりました。
 - CAD、教育視点共に勉強になりました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



知識の整理整頓で、困ったの見える化を！ プラスチック射出成形品の設計



受講対象者 プラスチック部品設計業務や射出成形金型設計業務に携わっている方、関連業務に従事される方

概要		カリキュラム内容	
金型製作や射出成形加工などのプラスチック射出成形品の特徴を考慮に入れた、機械部品や機能部品の設計に必要な技能・技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 部品設計に必要な関連知識 <ol style="list-style-type: none"> プラスチック成形材料 <ol style="list-style-type: none"> プラスチックの種類と性質 プラスチックの選定 射出成形加工と成形不良 <ol style="list-style-type: none"> 成形サイクル 成形不良の種類と成形品形状との関係 部品の設計 <ol style="list-style-type: none"> 金型製作を考慮に入れた成形品の設計 <ol style="list-style-type: none"> 金型構造の理解、入れ子構造、ナイフエッジ 成形できるように考えた成形品の設計 <ol style="list-style-type: none"> 抜き勾配、肉厚、シャープコーナー 強度上のトラブルの起こらない成形品の設計 <ol style="list-style-type: none"> 変形及び強度、コーナーR、組立隙間 寸法精度を向上させる成形品の設計 <ol style="list-style-type: none"> 射出成形品の寸法区分、寸法公差の記入、成形収縮率 成形品設計の手順 <ol style="list-style-type: none"> 成形品の企画、意匠、成形品の設計、使用条件と目的、必要特性のリストアップ、材料の選定、二次加工、パーティングライン、アンダーカットの処理、ノックアウトの方法と位置、ゲートの位置と種類、金型構造、抜き勾配、肉厚、コーナーR、リブ、ボス、その他 射出成形実習 <ol style="list-style-type: none"> 射出成形金型の分解 射出成形金型の組立／調整作業 射出成形機への取付／取外し 射出成形実習（ショートショット法） まとめ 	
予定講師	高度ポリテクセンター 講師		
定員	12	受講料	18,500 円
コース番号	M2111		
日程	6/30(火)～7/2(木)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	射出成形機		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓（貸出しあり）		

参加受講者の声

- 射出成形部品を設計するにあたって、金型の構造や成型方法、成形機の使用方法を知ることでものを考えて設計すればよいかを学ぶことができました。
- ほとんど知識のない状態で参加したが、全て理解できるよう話していただき、専門的な単語もなく伝わるような言い回しで話してください、とても分かりやすかったです。実物を見せていただけなので、非常に理解が深まりました。
- 製品立上げの際に、提案の幅が広がりました。
- 実際に設計業務を行う前に注意点や金型加工の気配り等考えることが出来そうだと思います。



理論から実技までを通して、現場での実践的なスキルを身につけましょう！ プラスチック射出成形金型設計技術

受講対象者 プラスチック射出成形の生産と関連業務に従事する技能・技術者の方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
金型設計業務の現場力強化及び技能継承をめざして、技能高度化に向けた金型の構想・設計実習を通して、成形品設計や金型設計に必要な技能・技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> プラスチック成形概論 <ol style="list-style-type: none"> プラスチックの種類、特徴、用途 プラスチック成形法 射出成形概論 <ol style="list-style-type: none"> 射出成形機 射出成形の概要 成形サイクル 射出成形品の品質 成形機の選定 金型設計と成形品の設計 <ol style="list-style-type: none"> 成形品の肉厚 成形収縮率 パーティングライン 抜き勾配 リブ・ボス アンダーカット 金型の構造 <ol style="list-style-type: none"> 金型の種類 金型材料 金型設計の流れ 金型構想設計 <ol style="list-style-type: none"> スプル・ランナー・ゲート 金型温度調節 成形品の取り出し アンダーカットの処理 成形機の選定 抜き勾配 金型設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 課題の提示とポイント 金型構想設計 組立図の設計 確認・評価・改善検討 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答・評価 	
予定講師	株式会社 MDC 代表取締役 鈴木 次郎 氏		
定員	10	受講料	43,000 円
コース番号	M2211		
日程	6/16(火)～19(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 4 日間 計 24 時間		
使用機器等	製図用具、標準部品カタログ 各種成形品、金型		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓（貸出しあり）		

参加受講者の声

- 将来金型設計を行う業務が出てくることを考えると力学や化学を意識する必要がある点を理解できたことが良かったです。
- 感覚でやっていた事を数値で計算する技術が身につきました。
- 金型の設計方法や金型図面と初めて知ることができました。

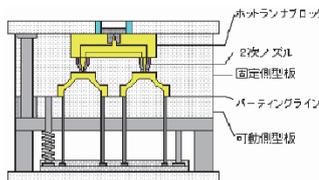
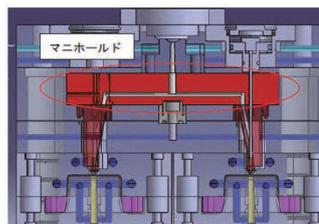
>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



今後、プラスチック射出成形金型分野でより一層の需要が見込まれるホットランナ金型について実施します

ホットランナー金型設計技術

受講対象者 プラスチック部品設計者、射出成形金型設計者、射出成形加工業務に携わっている方

概要		カリキュラム内容	
プラスチック金型設計業務の生産性の向上をめざして、効率化に向けたホットランナー金型設計の実習を通して、ホットランナーの知識と金型設計の技能・技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> ホットランナー金型の概要 <ol style="list-style-type: none"> ホットランナー金型の仕組みとメリット ホットランナーを組み込む際の留意事項 各種ゲート、種類と特徴 マニホールドの構造、設計 熱量計算の方法 ホットランナー設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 必要な設計計算 <ol style="list-style-type: none"> 電気の知識とヒータ容量の計算 金型冷却の計算 ホットランナー金型の構造 <ol style="list-style-type: none"> マニホールドとその周辺の構造について ヒータ配線のポイント 金型冷却構造 構造設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 構造設計の注意点 構造設計実習 解答例と解説 ホットランナー金型の事例紹介 	
予定講師	株式会社 MDC 代表取締役 鈴木 次郎 氏	 	
定員	10 受講料 22,500 円		
コース番号	M2311	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門的な知識を理論にもとづいて学ぶ事ができました。 ●実際の図面と現物が確認できました。 ●ホットランナーの知識や、疑問に思っていたことが分かりました。 ●感覚的だった事柄が言語化され、新たに知識として身に付きました。 </div>	
日程	10/19(月)～20(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	製図用具、射出成形用金型、プラスチック材料、各種成形品		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		

プラスチック射出成形金型設計技術 (トラブル要因と対策)

NEW

受講対象者 射出成形や成形品設計及び金型設計・製造に従事する技能・技術者の方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
金型設計業務の現場力強化及び技能継承をめざして、技能高度化に向けた金型の構想・設計実習を通して、成形品設計や金型設計に必要な技能・技術を習得する。		<ol style="list-style-type: none"> コース概要及び留意事項 <ol style="list-style-type: none"> コースの目的 専門的能力の現状確認 安全上の留意事項 プラスチック成形概論 <ol style="list-style-type: none"> プラスチックの種類、特徴、用途 プラスチック成形法 射出成形概論 <ol style="list-style-type: none"> 射出成形機 射出成形の概要 成形サイクル 射出成形品の品質 成形機の選定 金型設計と成形品の設計 <ol style="list-style-type: none"> 成形品の肉厚 成形収縮率 パーティングライン 抜き勾配 リブ・ポス アンダーカット 金型の構造 <ol style="list-style-type: none"> 金型の種類 <ol style="list-style-type: none"> ツープレート金型 スリープレート金型 ランナレス金型 金型材料 金型設計の流れ 金型構想設計 <ol style="list-style-type: none"> スプル・ランナー・ゲート 金型温度調節 成形品の取り出し アンダーカットの処理 成形機の選定 抜き勾配 金型設計実習 <ol style="list-style-type: none"> 課題の提示とポイント 金型構想設計 組立図の設計 確認・評価・改善検討 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 全体的な講評及び確認・評価 	
予定講師	株式会社 MDC 代表取締役 鈴木 次郎 氏		
定員	10 受講料 32,000 円		
コース番号	M2411		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	標準部品カタログ、射出成形用金型、プラスチック材料、各種成形品		
受講者持参品	筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



1人1台普通旋盤を使用し、加工を行う実習中心のコースです 旋盤精密加工技術



受講対象者 図面が読め、各種測定器（スケール、ノギス、マイクロメータ）の取り扱いができる方

概要		カリキュラム内容	
<p>部品加工や治工具製作における汎用機械加工の現場力強化をめざして、技能の高度化に向けた加工実習を通して、加工方法の検討や段取り等、実践的な旋盤作業（外径切削）に関する問題解決能力を習得します。</p>		<p>1. 芯出し作業 (1) 四爪チャックの構造 (2) 芯出し作業</p> <p>2. 高精度部品の加工工程 (1) 課題の提示 (2) 加工工程の検討・作成 (3) 切削条件の検討・作成 (4) 切削工具の検討・作成 (5) 測定器の選択</p> <p>3. 精密加工実習 (1) 外径削りの確認と検証 (2) 段付削りの確認と検証 (3) ねじ切り (4) テーパー削り (5) 偏心削り (6) 測定・評価と改善</p> <p>4. 仕上げ面精度の確認・評価 (1) 表面性状の規格 (2) 表面性状の検証と評価</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	9 受講料 25,500 円		
コース番号	① M2511 ② M2512		
日程	①6/15(月)～19(金) ②8/24(月)～28(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 5 日間 計 30 時間		
使用機器等	普通旋盤、各種バイト、測定器具、表面粗さ測定機	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●旋盤加工について、話で聞か動画で見る程度でしか知識を得られなかったでの、実際に加工を経験する事ができたおかげで他の作業にも活かせると思われました。 ●加工の知識の向上につながりました。 ●旋盤の技術が身についたので、部品を製作など行う事が出来るようになりました。 ●旋盤加工を改めて理解できる内容でした。 	
受講者持参品	作業服、作業帽子、安全靴、保護メガネ、筆記用具、関数電卓（貸出しあり）		



1人1台フライス盤を使用し、加工を行う実習中心のコースです フライス盤加工技術



受講対象者 図面が読め、各種測定器（スケール、ノギス、マイクロメータ）の取り扱いができる方

概要		カリキュラム内容	
<p>汎用機械加工の生産性の向上をめざして、効率化、最適化（改善）、安全性向上に向けた加工実習を通して、加工方法の検討や段取り等、実践的なフライス作業に関する技能・技術を習得します。</p>		<p>1. フライス加工 (1) フライス盤の操作・取扱い イ. フライス加工（正面フライス、エンドミル加工） ロ. フライス盤各部の名称と機能 ハ. 安全作業 (2) 切削条件の設定 イ. 切削条件の3要素 ロ. 仕上げ面粗さについて (3) 治具の取付作業（バイスの平行だし） (4) 工具（刃物）の取り付け イ. 切削工具各部の名称と機能 ロ. 工具材種 ハ. 工具の取り付け方</p> <p>2. 総合課題実習 (1) 課題の提示 (六面体加工・段付け加工・溝加工) イ. 加工法の確認 ロ. 加工工程による精度差異 ハ. 納期（能率）の考慮 (2) 加工工程の検討・作成 (3) 疑問点、問題点の抽出 (4) 最適加工方法についての討議 (5) 課題加工実習 (6) 測定・評価と改善</p> <p>3. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	6 受講料 27,500 円		
コース番号	① M2611 ② M2612 ③ M2613		
日程	①6/9(火)～12(金) ②7/14(火)～17(金) ③10/13(火)～16(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 4 日間 計 24 時間		
使用機器等	フライス盤、各種工具、測定器具、表面粗さ測定機	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●直角、平行の出し方、3条件の決め方を習得することができました。 ●今実務未経験だったので良い勉強になりました。 ●細かい専門的な知識は会社では学べない事も多いので、今回のセミナーはとても役に立ちました。 ●なぜそうなるのか、なぜそうするのかといった点についてほり下げがあった点が良かったです。 	
受講者持参品	作業服、作業帽子、安全靴、保護メガネ、筆記用具、関数電卓（貸出しあり）		

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



実験と測定を通して、旋削加工の理論を身につけるコースです

旋削加工の理論と実際

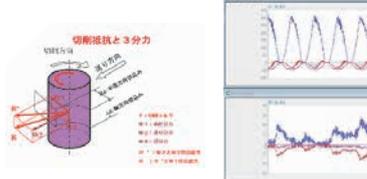
受講対象者 切削加工（主に旋削加工）に携わっている方

概要		カリキュラム内容	
機械加工の生産性の向上をめざして、最適化（改善）に向けた切削検証実習を通して、旋削加工の理論と実際との相違点を理解し、生産現場における問題解決を図ることができる能力を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 旋削加工概論 <ol style="list-style-type: none"> 切削加工の3条件 <ol style="list-style-type: none"> 旋削における最適な切削条件 表面粗さを決める要素 構成刃先による影響 工具の損傷 切り屑処理 加工硬化層 切削抵抗検証実習 <ol style="list-style-type: none"> 旋削加工における切削抵抗について <ol style="list-style-type: none"> 切削力の大きさや方向 検証実習内容の提示とポイント <ol style="list-style-type: none"> 切削条件の影響 被削材料、工具材料の影響 刃先形状の影響 切り屑処理 表面粗さ検証実習 <ol style="list-style-type: none"> 旋削加工における表面粗さについて <ol style="list-style-type: none"> 送りと表面粗さ ノーズRと表面粗さ 切削速度と表面粗さ 検証実習内容の提示とポイント <ol style="list-style-type: none"> 刃先形状の影響 加工条件の影響 被削材特性の影響 工具材料特性の影響 検証実習データのまとめと考察 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 18,000円		
コース番号	M2711		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間		
使用機器等	普通旋盤、NC旋盤、切削動力計、表面粗さ測定機、マイクロSCOPE	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実験した結果を元に、生産効率を上げられる様な考え方がわかりました。 ●機械加工をする上で刀具と素材の加工面がなぜそうなるのが理解できました。 ●まだ仕事（業務）内で説明を受けていない内容を勉強させていただきました。 ●適切な切削工具を選ぶ方法を学べました。実験データで加工現象が分かりやすく理解できました。 	
受講者持参品	作業服、作業帽子、安全靴、保護メガネ、筆記用具、関数電卓（貸出しあり）		

実験と測定を通して、フライス加工の理論を身につけるコースです

フライス加工の理論と実際

受講対象者 切削加工（主にフライス加工）に携わっている方

概要		カリキュラム内容	
汎用機械加工の生産性の向上をめざして、最適化（改善）に向けた切削検証実習を通して、フライス加工の理論と実際との相違点を学習し、生産現場における問題解決を図ることができる能力を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> フライス加工概論 <ol style="list-style-type: none"> 切削加工の3条件、被削材料と工具材料について <ol style="list-style-type: none"> 構成刃先について 切削抵抗について 仕上面の生成 フライス加工の切削特性 <ol style="list-style-type: none"> 正面フライス加工について エンドミル加工について エンドミル加工による表面粗さ検証実習 <ol style="list-style-type: none"> 検証実習内容の提示とポイント <ol style="list-style-type: none"> 切削条件の影響 被削材料特性、工具材料特性の影響 工具形状の影響 検証実習データのまとめと考察 エンドミル加工による加工面形状検証実習 <ol style="list-style-type: none"> 検証実習内容の提示とポイント <ol style="list-style-type: none"> 切削条件の影響 被削材料特性、工具材料特性の影響 工具形状の影響 検証実習データのまとめと考察 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 	
定員	10 受講料 17,000円		
コース番号	M2811		
日程	9/16(水)～18(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間		
使用機器等	NCフライス盤、切削動力計、表面粗さ測定機、形状測定機、マイクロSCOPE	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理論立ててわかりやすくご説明頂き、初めての内容でもとっつきやすかったです。業界未経験かつ物理、光学の知識がうとい身でも理論が理解でき、検証によっての裏付けも参考になりました。 ●エンドミルのたおれの原因を理論的に知れたのが良かったです。 ●動力計による切削負荷の可視化で、様々な条件の実態を知ることができました。 	
受講者持参品	作業服、作業帽子、安全靴、保護メガネ、筆記用具、関数電卓（貸出しあり）		

切削理論

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



マニュアルプログラミングにより作成したプログラムで加工を行うコースです NC旋盤プログラミング技術 (プログラム～加工編)

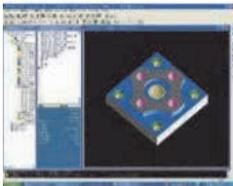
受講対象者 図面が読め、各種測定器 (スケール、ノギス、マイクロメータ) の取り扱いができる方

概要		カリキュラム内容	
NC機械加工の生産性向上をめざして、工程の最適化 (改善) に向けたプログラミング課題実習と加工・検証実習を通じて、要求される条件を満足するためのプログラム、工具補正の設定などNC旋盤作業に関する技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 各種機能とプログラム作成方法 <ol style="list-style-type: none"> 主軸・送り・工具・準備・補助機能 荒加工用プログラム作成方法および注意点 仕上げ加工用プログラム作成方法および注意点 ノーズR補正 固定サイクル プログラミング課題実習 <ol style="list-style-type: none"> 課題提示および注意点 表面粗さ、幾何公差、加工精度等 加工工程の検討 疑問点、問題点の抽出 プログラミング 加工の検証と評価 <ol style="list-style-type: none"> 加工作業の確認と検討 <ol style="list-style-type: none"> プログラムチェック方法の確認と検討 テストカット方法の確認と検討 作業、工程の課題発見と着眼点 改善策とその検証 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10 受講料 23,500 円		
コース番号	① M2911 ② M2912		
日程	①7/27 (月)～31 (金) ②10/26 (月)～30 (金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 5 日間 計 30 時間		
使用機器等	NC旋盤、各種切削工具、各種測定機器	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外径バリ対策としてRで対処する知識を得ることができました。 ●自身のスキルとして今後の仕事に活かしていく強みになりました。 ●基本的な知識をえられたのでそこから応用できると思いました。 ●Gコードなどの解からなかった機能を身につけることができよかったです。 	
受講者持参品	作業服、作業帽子、筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		



マニュアルプログラミングにより作成したプログラムで加工を行うコースです マシニングセンタープログラミング技術 (プログラム～加工編)

受講対象者 図面が読め、各種測定器 (スケール、ノギス、マイクロメータ) の取り扱いができる方

概要		カリキュラム内容	
NC機械加工の生産性向上をめざして、工程の最適化 (改善) に向けたプログラミング課題実習と加工・検証実習を通じて、要求される条件を満足するためのプログラム、工具補正の設定などマシニングセンター作業に関する技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 各種機能とプログラム作成方法 <ol style="list-style-type: none"> 主軸・送り・工具・準備・補助機能 機械座標系とワーク座標系 工具長オフセットと工具径オフセットおよび注意事項 サブプログラム 固定サイクル プログラムパターン プログラミング課題実習 <ol style="list-style-type: none"> 課題提示および注意点 表面あらし、加工精度等 加工工程の検討 疑問点、問題点の抽出 プログラミング 加工の検証と評価 <ol style="list-style-type: none"> 加工作業の確認と検討 <ol style="list-style-type: none"> プログラムチェック方法の確認と検討 テストカット方法の確認と検討 テスト加工 改善策とその検証 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	 <p>プログラム例</p>  	
定員	10 受講料 24,000 円		
コース番号	① M3011 ② M3012		
日程	①8/3 (月)～7 (金) ②9/28 (月)～10/2 (金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 5 日間 計 30 時間		
使用機器等	立形マシニングセンタ、各種切削工具、治具、測定機器	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●何となく理解していたプログラムの動き方、Gコードの内容等が根本から理解することができました。 ●現場では普段使っていないプログラムの使い方を知ることができました。 ●プログラムに関する知識を全く持っていなかった自分にとって、今回の講習はとても為になりました。今後この知識を活かしていこうと強い意思も持てました。 ●専門的な技術というものを持っていなかったので色々勉強になりました。 	
受講者持参品	作業服、作業帽子、筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		

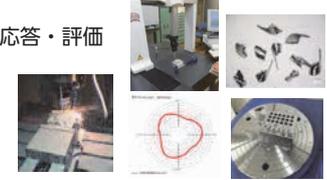
)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



マシニングセンタによる穴加工を中心としたコースです 穴加工の最適化技術 (マシニングセンタ編)

受講対象者 図面が読め、各種測定器 (スケール、ノギス、マイクロメータ) の取り扱いができる方

概要		カリキュラム内容	
<p>NC機械加工の生産性向上をめざして、高い精度 (穴径、位置度、真円度、真直度、粗さ等) 穴やトラブルの多い深穴・ねじ加工等を対象に、各種穴加工用工具の特性を理解し、最適化に向けたマシニングセンタの実加工による検証実習を通じて、高能率・高精度に穴加工するための工具・工程・条件等の最適化技術を習得します。</p>		<p>1. 穴加工用工具の各種特性 (1) ドリルの特性 イ. ねじれ角、先端角、溝長、シンニング等が及ぼす影響 ロ. 材種や表面処理が及ぼす影響 (2) リーマの特性 イ. 食付き角、すくい角、ねじれ角等が及ぼす影響 ロ. 加工特性と問題点 (3) ボーリングの特性 イ. ボーリングバーの種類と活用 ロ. リーマ加工との違い (4) タップの特性 イ. 各種ソーリング ロ. 下穴径とひっかけり率との関係 ハ. タップ加工における問題点</p> <p>2. 高精度穴加工の条件 (1) 加工工程による加工精度への影響と対策 (2) 加工条件による加工精度への影響と対策 (3) 工具形状による加工精度への影響と対策</p> <p>3. 穴加工用プログラム (1) 効率的なプログラミングと活用法 (2) 加工実習用穴加工プログラムの作成</p> <p>4. 加工実習 (1) 切削条件の違いによる穴の拡大傾向 (2) プログラムの違いによる切削負荷 (3) センタ穴有無による加工精度 (4) 各種リーマとボーリングによる加工精度</p> <p>(5) エンドミル加工による加工精度 (6) タップ加工の切削負荷</p> <p>5. 測定と検証 (1) 各種穴加工における切削負荷の影響と対策 (2) 穴の拡大しろ、表面粗さ、真円度、位置度などの加工精度の検証 (3) 切削油剤の効果と環境対策</p> <p>6. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	23,500 円
コース番号	M3111		
日程	9/1 (火) ~ 4 (金)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 4 日間 計 24 時間		
使用機器等	立形マシニングセンタ、各種工具、三次元測定機、表面粗さ測定機、真円度測定機		
受講者持参品	作業服、作業帽子、筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		



参加受講者の声

- 業務で課題になっていた工具の消耗の問題点解決に繋がる知識を身につけられました。(加工条件等)。
- 精度穴の精度や加工技術について学べることができました。
- 工具の選定やそれに係るコストなど新たな発見がありました。
- 実際に加工をおこない検証する事で具体的にわかり易いセミナーでした。これまで知識のみだった部分についてもこのセミナーで身に付ける事が出来たと思いました。

切削工具の使い方・選び方によるトラブル回避法 (マシニングセンタ編)

NEW

受講対象者 切削加工に従事する技能・技術者又はその候補者の方

概要		カリキュラム内容	
<p>NC機械加工の生産性の向上をめざして、効率化、最適化 (改善) に向けた切削加工実習を通して、切削工具の理解を深め、生産現場におけるトラブル回避や改善ができる能力を習得する。</p>		<p>1. コース概要及び留意事項 (1) コースの目的 (2) 専門的能力の現状確認 (3) 安全上の留意事項</p> <p>2. ミーリング工具の選択 (1) 種類と形状の機能について (2) 工具材種とコーティングの機能について (3) 摩耗形態と対策について</p> <p>3. 加工ワークによる工具の選び方 (1) ワークの材質による工具の選び方 (2) ワークの形状による工具の選び方 (3) 生産性を考慮した工具の選び方 (エンドミル・ドリル等)</p> <p>4. トラブル事例とその対策 (1) 失敗例によるトラブル対策法 (切削条件・加工内容の変化)</p> <p>5. 切削条件と能率の考え方 (1) 切削条件と能率の関係 (2) 高能率化に向けた切削条件の設定 (3) 高能率化に向けた工具選定</p> <p>6. トラブル回避のための加工実習 (1) 工具損傷対策実習 (2) 寸法・形状精度対策実習 (3) 加工面粗さ対策実習 (4) 測定結果の検証と改善提案の検討 (5) 評価・講評</p> <p>7. まとめ (1) まとめ (2) 質疑応答</p>	
予定講師	アイエムケーツールズ 城戸好信 氏		
定員	10	受講料	25,500 円
コース番号	M3211		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	立形マシニングセンタ、各種工具、表面粗さ測定機、形状測定機、マイクロSCOPE		
受講者持参品	作業服、作業帽子、筆記用具、関数電卓 (貸出しあり)		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

カスタムマクロで、NCプログラムをより便利にするコースです。

カスタムマクロによるNCプログラミング技術

受講対象者 NC工作機械でプログラミング業務に従事する技能・技術者等であって、指導的・中核的な役割を担う者又はその候補者

概要		カリキュラム内容	
NC機械加工の生産性の向上をめざして、効率化に向けたプログラム作成実習を通して、NCのカスタムマクロを理解し、段取りや加工を効率的に行うためのプログラミングの手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> カスタムマクロとは <ol style="list-style-type: none"> NC機械のカスタマイズの必要性と方法 カスタムマクロの特徴と機能 変数の種類と使用方法、各種関数の使用方法 カスタムマクロのチェックのためのNC機の設定方法 プログラムの機能 <ol style="list-style-type: none"> 演算式と条件式の使い方と確認 変数の表示の特徴 ローカル変数とコモン変数の特徴と使用方法 新機能の作成方法 演算誤差の対策、演算精度 エラー処理 システム変数 <ol style="list-style-type: none"> システム変数の種類と使用方法 システム変数を利用した効率的なプログラミング手法 段取りのための効率的なプログラミング手法 マクロプログラムの呼び出し方法 <ol style="list-style-type: none"> 単純呼び出しとモーダル呼び出し Tコード、Gコード、Mコード呼び出し サブプログラムとマクロ呼び出しの違いと特徴 マクロ呼び出しを利用した効率的なパターン形状プログラミング手法 その他の機能と注意点 <ol style="list-style-type: none"> スキップ機能の特徴とプログラム マクロ実行のタイミングと注意点 スキップ機能を利用した効率的なプログラミング手法 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	12,000円
コース番号	M3311		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 3日間 計 18時間		
使用機器等	立形マシニングセンタ		
受講者持参品	作業服、作業帽子、筆記用具、関数電卓(貸出しあり)		

参加受講者の声

- カスタムマクロの構成やプログラムの組み方がよく分かりました。
- 似たような形で寸法違いの製品が多く手直しでプログラムを作っていたので、マクロ化すれば時間短縮や事故の確率が減ると思いました。
- ぼんやりしていた内容が少しだけ理解できました。業務に活かせそうです。
- 等間隔での穴明け加工など、実用できるものも多く学べました。

設計する上で知っておくべき溶接の概要を学び、実際に溶接施工を体験します。

設計・施工管理に活かす溶接技術 学科講習はオンラインで行います

受講対象者 機械設計、施工管理、技術開発業務に携わっている方、関連業務に従事される方



学科オンライン
開催

概要		カリキュラム内容	
機械の設計に携わる方を対象に、溶接関連知識の習得や溶接の実体験を通じて、溶接技術の要点を理解し、適切な設計と正しい指示、トラブル対処、品質改善などができる技術を習得します。		<ul style="list-style-type: none"> ◆1・2日目の学科講習は、オンライン配信により受講いただけます(配信：高度ポリテクセンター)。 ◆3日目の実技講習は、ポリテクセンター関東にお越しいただき、実習を実施します。 ◆オンライン配信を受講いただくには、以下について各自で準備いただけます。 ①受講用の端末(パソコン、タブレット等) ②インターネット接続環境 ③WEB会議アプリケーション[Microsoft Teams®](アプリ版) ※事前インストール、ID・パスワード登録が必要です。Web版は機能に制限があるため、アプリ版の利用を推奨いたします。 ◆ログオンアカウントや接続方法等のオンライン配信受講に係る詳細等はお申込手続き終了後にお送りいたします。 	
予定講師	高度ポリテクセンター 講師(学科) ポリテクセンター関東 講師(実技)		
定員	9	受講料	11,500円
コース番号	① M3411 ② M3412		
日程	① 6/9(火)、6/11(木)、6/16(火) ② 9/29(火)、10/1(木)、10/6(火) 13:00～16:00(休憩含む) 3日間 計 9時間		
時間	① 6/27(土) ② 10/10(土) 9:15～16:00(休憩 45分間含) 1日間 6時間 計 4日間 15時間		
使用機器等	TIG溶接機、半自動アーク溶接機等		
受講者準備品	オンライン 学科講習	テキスト、筆記用具、 関数電卓	
持参品	通所 実技講習	テキスト、筆記用具、作業服、 作業帽子、安全靴	

- コース概要及び留意事項
 - 訓練の目的
 - 専門的能力の現状確認
 - 安全上の留意事項
- 溶接法および溶接機器
 - 溶接法とその分類
 - 代表的なガスシールドアーク溶接法の原理と特徴
 - 炭酸ガスアーク溶接法(MAG溶接法)
 - TIG溶接法
- 金属材料の溶接性、溶接部の特徴
 - 溶接用鋼材と溶接熱影響部の性質
 - 溶接に使用される構造用鋼の種類と性質(鋼、ステンレス鋼等)
 - 溶接による熱影響部の材質変化
- 溶接構造の力学と設計
 - 継手設計に影響する各種強度について
 - 静的強度、ぜい性、疲労強度
 - 残留応力と溶接変形
 - 溶接継手設計の基礎
 - 板厚と開先・部材の形状による溶接法の分類
 - 溶接継手の種類
 - 継手設計
 - 溶接継手の強度計算・実例演習
 - 強度計算
 - 許容応力
 - 実例演習
 - 設計、技術者視点の溶接施工と問題解決法
 - 溶接施工要領書の読み方
 - ミルシートによる治金的、機械的性質等の確認方法及び施工法への展開
 - 各種溶接法、継手形状の溶接実習
 - 溶接強度計算に必要な溶接各部の寸法測定
 - 溶接品質に影響を及ぼす変動要因の実例
 - 溶接施工における留意事項と問題解決法

参加受講者の声

- 初めてオンライン受講しました。自宅や社内で受講できるので良かったです。
- 対面の実習もわかりやすく、受講して良かったです。

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



理論から実技まで TIG 溶接について学ぼう！

ステンレス鋼の TIG 溶接技能クリニック

受講対象者 TIG 溶接作業に従事する技能・技術者の方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
溶接加工の現場力強化及び技能継承をめざして、現在の習熟度を確し、技能高度化に向けたステンレス鋼の TIG 溶接作業の各種継手の溶接実習を通して、適正な溶接施工に関する技能と実際に起こりうる品質上の問題点の把握及び解決手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ステンレス鋼の TIG 溶接 <ol style="list-style-type: none"> (1) 直流 TIG 溶接法と機器 <ol style="list-style-type: none"> イ. 原理と特徴 ロ. 溶接電源 ハ. 溶接トーチなど (2) 溶接材料 <ol style="list-style-type: none"> イ. 溶加棒 (溶接ワイヤ) ロ. シールドガス ハ. タングステン電極 (3) 溶接施工実務 <ol style="list-style-type: none"> イ. ステンレス鋼の溶接特性 ロ. 目的に応じた溶接施工 ハ. パルス溶接の実際 ニ. 溶接欠陥とその対策 2. 溶接施工実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 溶接施工 <ol style="list-style-type: none"> イ. 完全溶込み溶接 ロ. 部分溶込み溶接 ハ. 各種姿勢溶接 ニ. パルス溶接 3. 品質の問題把握と解決手法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 製品の評価方法 (2) 技量の診断 (3) 問題点の把握、解決手法 (4) 溶接作業者に対する技術的指導・育成方法 4. 成果発表 <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題成果発表 (2) 発表内容に関する質疑応答 5. まとめ <ol style="list-style-type: none"> (1) 質疑応答・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	9 受講料 17,000 円		
コース番号	M3511		
日程	6/18(木)～19(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	TIG 溶接機一式、安全保護具、器具一式	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実際に体感した事で、ふだん外注している溶接したのに対して理解が深まりました。 ●TIG のパルス溶接についてくわしく教えて下さりました。電流設定の考え方など具体的な理由を知れたので応用に活かせると感じました。 ●溶接の具体的なやり方を実際に体験しながら学ぶことができたので未経験でしたがとても勉強になりました。 ●図面だけでなく実際の作業がわかりました。 	
受講者持参品	作業帽子、安全靴、作業服、筆記用具		

理論から実技まで TIG 溶接について学ぼう！

アルミニウム合金の TIG 溶接技能クリニック

受講対象者 TIG 溶接作業に従事する技能・技術者の方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
溶接加工の現場力強化及び技能継承をめざして、現在の習熟度を確し、技能高度化に向けたアルミニウムおよびその合金の TIG 溶接作業の各種継手の溶接実習を通して、適正な溶接施工に関する技能と実際に起こりうる品質上の問題点の把握及び解決手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. アルミニウムおよびその合金の TIG 溶接 <ol style="list-style-type: none"> (1) TIG 溶接法と機器 <ol style="list-style-type: none"> イ. 原理と特徴 ロ. 溶接電源 ハ. 溶接トーチなど (2) 溶接材料 <ol style="list-style-type: none"> イ. 溶加棒 ロ. シールドガス ハ. タングステン電極 (3) 溶接施工実務 <ol style="list-style-type: none"> イ. アルミニウムおよびその合金の溶接特性 ロ. 目的に応じた溶接施工 ハ. 溶接性に及ぼす出力電流波形の影響 ニ. 溶接欠陥とその対策 2. 溶接施工実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 溶接施工 <ol style="list-style-type: none"> イ. 完全溶込み溶接 ロ. 部分溶込み溶接 ハ. 各種姿勢溶接 ニ. 目的に応じた出力電流波形条件の検討 ホ. 目的に応じた溶加棒条件の検討 3. 品質の問題把握と解決手法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 製品の評価方法 (2) 技量の診断 (3) 問題点の把握、解決手法 (4) 溶接作業者に対する技術的指導・育成方法 4. 成果発表 <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題成果発表 (2) 発表内容に関する質疑応答 5. まとめ <ol style="list-style-type: none"> (1) 質疑応答・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	9 受講料 15,500 円		
コース番号	M3611		
日程	6/22(月)～23(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	TIG 溶接機一式、安全保護具、器具一式	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原理を理解し知識を得る事で今後の業務に役立てられます。後は数多くの練習で技術を上げていきます。 ●現場での課題(品質、作業性、作業方法など)、一緒に考えて頂いたことで大変理解が深まりました。 ●これまで初歩的な事を教えてもらった事がなかったのでよかったです。 ●アルミの性質を学ぶことができました。 	
受講者持参品	作業帽子、安全靴、作業服、筆記用具		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



理論から実技まで炭酸ガス半自動アーク溶接について学ぼう！

半自動アーク溶接技能クリニック

受講対象者 半自動溶接作業に従事する技能・技術者の方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
溶接加工の現場力強化及び技能継承をめざして、現在の習熟度を確認し、技能高度化に向けた半自動アーク溶接作業の各種姿勢の溶接実習等を通して、適切な半自動アーク溶接施工に関する技能と実際に起こりうる品質上の問題点の把握及び解決手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 半自動アーク溶接 <ol style="list-style-type: none"> 半自動アーク溶接法と機器 <ol style="list-style-type: none"> 原理と特徴 溶接電源 溶接トーチ、ワイヤ送給装置など 溶接材料 <ol style="list-style-type: none"> 溶接ワイヤ シールドガスなど 溶接施工実務 <ol style="list-style-type: none"> 溶接施工前の段取り作業 溶接施工 溶接欠陥とその対策 溶接施工実習 <ol style="list-style-type: none"> 要求に応じた溶接施工 <ol style="list-style-type: none"> 完全溶込み溶接 部分溶込み溶接 各種姿勢溶接 評価と問題解決法 <ol style="list-style-type: none"> 製品の評価方法 施工技术 問題点の把握、解決手法 溶接作業者に対する技術的指導・育成方法 成果発表 <ol style="list-style-type: none"> 課題成果発表 発表内容に関する質疑応答 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	9 受講料 15,500 円		
コース番号	M3711		
日程	6/25(木)～26(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	炭酸ガス半自動アーク溶接機一式、安全保護具、器工具一式	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あいまだった所が理論的にはっきりとしました。 ●行っていた業務でモヤモヤしていたことが理解することができました。 ●新たな知識を得る事で品質向上・生産率を上げる自信が持てました。学んだ事を無駄にせず技術力向上を目指します。 ●受講するに当たって、1人1人のスピードにあわせて頂けたので楽しく受講することができました。 	
受講者持参品	作業帽子、安全靴、作業服、筆記用具		



設備機器のメンテナンス、故障トラブルに強くなる！

生産現場の機械保全技術

受講対象者 設備保全業務に従事している方またはその候補の方



概要		カリキュラム内容	
機械保全の現場力強化をめざし、機械要素の保全実習を通じて機械を構成する部品の要素およびトラブルの原因を理解し、機械装置のトラブルを未然に防ぐための保全技能・技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> コース概要及び留意事項 締結要素 <ol style="list-style-type: none"> ねじ規格・種類 軸力・強度区分・締結トルク 緩む原因と対策 ボルト締結実験・その他 伝動要素 <ol style="list-style-type: none"> 軸継手 Vベルト ローラーチェーン 伝動装置調整実習・その他 潤滑剤 <ol style="list-style-type: none"> 潤滑効果 潤滑材種類 潤滑剤劣化 軸及び軸受とその周辺要素 <ol style="list-style-type: none"> 軸とキー 止め輪 はめあいの考え方 ベ어링 歯車 各種シール その他周辺要素 <ol style="list-style-type: none"> 減速機を例に分解・組立実習 まとめ 	
予定講師	高度ポリテクセンター 講師		
定員	16 受講料 9,000 円		
コース番号	M3811		
日程	6/3(水)～4(木)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	基本手工具類、トルクレンチ、軸力計、各種測定器、伝動実習装置、減速機、ベ어링ヒーター、他	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●機械のメンテナンス等に活かせる知識が身につきました。 ●何となく行っていた作業であったが、部品や作業上 NG なこと等、深く学ぶことが出来ました。 ●道具、部品などくわしく知る事ができました。 ●今までは上司に指示通り作業していたが理論的な事を教わってなかったので理論的に知れて良かったと思います。 ●Vベルトやチェーン交換等はやった事あったが、専門的な知識はもっていませんでしたので勉強になりました。同僚にも伝えていきたいです。 	
受講者持参品	筆記用具、作業服(上)		

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



空気圧機器の全空圧制御技術と機器の特性を学ぶ

空気圧実践技術

受講対象者 空気圧装置の組立や保全業務などに従事する方

概要		カリキュラム内容	
<p>空気圧制御システムの生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化（改善）、安全性向上に向けた空気圧機器の構造・作動原理・JISによる回路図記号を理解した上で、実機に用いられる主要な制御回路の構成、動作特性を理解し、装置のトラブル防止や問題解決・改善に対応した職務を遂行できる方法を習得します。</p>		<p>1. 空気圧の概要 (1) 圧縮空気の利用 (2) 空気圧に関する種々の原理・原則</p> <p>2. 空気圧機器の構成 (1) 空気圧機器の構成 (2) 空気圧制御システム (3) 空気圧機器</p> <p>3. 空気圧機器の制御 (1) シリンダの制御を通じた論理回路 イ. シリンダの制御方法と特徴 ロ. 方向切替弁の種類と特徴 ハ. 論理式、真理値表 ニ. 論理式と制御回路</p> <p>4. 総合課題 (1) 空気圧装置の構成 (2) 実機（トランスファーマシン）を想定した電気空気圧回路の作成 イ. シリンダの往復動作回路の構築・制御及び検証 ロ. 複数のシリンダにおけるシーケンス回路の構築・制御及び検証 ハ. 圧力検出・遅延・連続運転・中間停止回路の構築・制御および検証</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	<p>(3) 動作検証</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
定員	10	受講料	20,000 円
コース番号	① M3911 ② M3912 ③ M3913		
日程	①6/24(水)~26(金) ②7/15(水)~17(金) ③8/19(水)~21(金)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	空気圧トレーニングキット、 空気圧機器カットモデル等		
受講者持参品	作業服、筆記用具		



全空気圧制御機器の実習装置で実施します

参加受講者の声

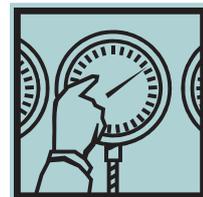
- 空気配管図や機器の構造知ることができて部品選定にとっても役立つ知識を学べたことが良かったと感じました。
- 今自分が知っていた知識よりも、もっと深く知れて色んな事をもっと知りたいと思いました。
- 装置の動きやカットモデルを見る事ができて勉強になりました。エアの回路も普段は触れる事がないため知識を増やす事ができました。
- 作動システムの基本と細かな機器の動作を知ることができました。

全空気圧制御のトラブルシューティング技術やメンテナンス方法を学ぶ

空気圧機器の保全（メンテナンスとトラブルシューティング）

受講対象者 空気圧装置の運転や製造、保全の業務などに従事する方

概要		カリキュラム内容	
<p>生産設備保全の現場力強化及び技能継承をめざして、故障対応・予防に向けた診断実習やトラブルシューティングを通して、実践的な空気圧装置組立調整作業及び故障診断、保全に関する技術・技能を習得します。</p>		<p>1. 空気圧機器の保守管理の概要 (1) 空気圧機器制御システム概要 (2) 予防保全の為の対策 イ. 清浄機器 ロ. 空気圧制御機器 ハ. アクチュエータ ニ. 回路全般</p> <p>2. トラブルの原因分析と対策 (1) 清浄化機器の構造とトラブル (2) 制御バルブ（圧力・流量・方向）の構造とトラブル (3) アクチュエータの構造とトラブル</p> <p>3. 機器の故障診断実習 (1) FRLユニット（空気圧調整機器） イ. 分解・組立、点検・調整 ロ. トラブル要因の把握と改善策 (2) 電磁操作弁（ソレノイドバルブ） イ. 分解・組立、点検・調整 ロ. トラブル要因の把握と改善策 (3) 空気圧シリンダ イ. 分解・組立、点検・調整 ロ. トラブル要因の把握と改善策 (4) 空気圧回路、電気制御回路 イ. 組立、運転、調整 ロ. トラブル要因の把握と改善策</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師	<p>4. トラブルシューティングまとめ (1) 日常的点検項目 (2) 重点チェック項目 (3) 不具合発生時の着目ポイント</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
定員	10	受講料	19,000 円
コース番号	M4011		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	空気圧トレーニングキット、 空気圧機器等		
受講者持参品	作業服、筆記用具		



参加受講者の声

- あいまだった知識を深掘りして、理解し、身に付けることができました。
- 分解等の実技と仕組などの座学で深いところまで知ることができました。
- エア回路の組み方が大変理解出来ました。故障しているエア機器を見つけるのに役に立つと思います。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

)) 申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



空気圧設備のトラブル対策と省エネ対策を学ぶ 空気圧設備の保全と省エネルギー対策技術

受講対象者 空気圧経験者で設備保全を担当されている方

概要		カリキュラム内容	
空気圧機器のトラブル現象における対策方法および空気消費量削減や圧力損失改善により工場の省エネを実現する手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要及び留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) コースの目的 (2) 専門的能力の現状確認 (3) 安全上の留意事項 2. 空気圧システムの構成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 空気圧システムの構成 (2) 圧縮空気中の不純物 (3) 不純物が空気圧機器に与える影響 3. 機器のトラブル事例と対策 <ol style="list-style-type: none"> (1) F・R・Lユニットの構造と故障原因 (2) 方向制御弁の構造と故障原因 (3) 駆動機器の構造と故障原因 4. 機器の保守点検作業実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) F・R・Lユニットのメンテナンス (2) 方向制御弁のメンテナンス (3) 駆動機器のメンテナンス 5. 空気圧機器を使用した実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 空気圧実習装置を用いた実習 <ol style="list-style-type: none"> イ. 速度制御弁によるメータアウト・メータイン制御実習 ロ. 駆動機器の機能実習（クッション機能・オートスイッチ） ハ. 方向制御弁の種類による変化の確認 (2) 実習結果の検証・評価 6. 使用者側から見た省エネ対策と考え方とシミュレーション <ol style="list-style-type: none"> (1) 省エネルギー実習装置を用いた実習 (2) エア漏れ対策の原因と考え方 (3) エアフロー対策の考え方 (4) 省エネシミュレーションソフトを用いた実習 (5) 省エネシミュレーション結果と実際の結果の検証・評価 7. まとめ <ol style="list-style-type: none"> (1) 質疑応答 (2) 訓練コース内容のまとめ 	
予定講師	SMC 株式会社 講師		
定員	10	受講料	10,500 円
コース番号	E4311		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	空気圧実習装置、 空気圧機器カットモデル、 トラブルシューティング用機器		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- 現場で実際に使っている物だったので、構造など理解することができました。
- 体系的に理解することができました。
- 丁寧に教えていただき、空気圧に関して理解が深まりました。

※ P61 掲載のコースと同一コースです。

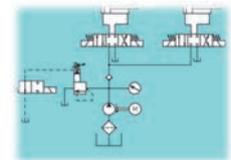


基礎知識から実機制御回路の動作特性まで実践的なスキルを身につける！ 油圧実践技術

受講対象者 油圧装置の組立・保全業務などに従事する技能・技術者の方またはその候補の方



概要		カリキュラム内容	
油圧制御システム設計の生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化（改善）、安全性向上に向けた油圧機器の構造、作動原理、JISによる回路図記号を理解した上で、実機に用いられる主要な制御回路の構成、動作特性を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 油圧の概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) 専門的能力の確認 (2) 油圧の利用 (3) 油圧を扱うに必要な原理・原則・公式 2. 作動油 <ol style="list-style-type: none"> (1) 作動油の種類とその特徴 (2) 作動油の粘度と粘度指数 (3) 作動油の適正使用 (4) 油の圧縮性について (5) コンタミネントによる影響 3. 主な油圧要素 <ol style="list-style-type: none"> (1) 油圧ポンプ (2) 制御弁（圧力、流量、方向） (3) アクチュエータ (4) 周辺機器 4. 実践実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 油圧回路の構成 <ol style="list-style-type: none"> イ. 仕事の3要素と油圧の5要素 (2) 特性実験実習 <ol style="list-style-type: none"> イ. 回路圧とポンプ吐出し量の測定と特性解析 ロ. 負荷圧とリリーフ量の測定と特性解析 ハ. 流量特性と運動速度の特性解析 (3) 昇降装置を想定した課題 <ol style="list-style-type: none"> イ. 方向制御弁による昇降運動の制御方法 ロ. 速度制御手法の違いによる動作特性の検証 ハ. 中間停止回路およびアンロード回路の特性の検証 ニ. 重量荷重におけるアクチュエータの位置保持回路 5. まとめ <ol style="list-style-type: none"> (1) 質疑応答・評価 	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	20,500 円
コース番号	① M4111 ② M4112 ③ M4113 ④ M4114		
日程	①6/3(水)~5(金) ②7/1(水)~3(金) ③8/26(水)~28(金) ④10/7(水)~9(金)		
時間	9:15 ~ 16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	油圧実習装置、 油圧機器カットモデル等		
受講者持参品	作業服、筆記用具		



油圧回路参考図（ベントアンロード回路）

参加受講者の声

- 自身の理解と部下への教育に役立ちます。
- 油路図だけでは理解できなかったことがわかりました。
- 応用可能な知識を学ぶことができました。
- 油の流れや圧力差等の具体的な理論が理解出来ました。
- 油圧の原理・知識を学ぶことで、今後油圧に関して、理解を早めることができると思います。

)) 推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10~15をご覧ください。



機械保全に必要な油圧機器を実践的に学ぶ！

油圧システムの保全技術

受講対象者 油圧を用いた製造装置の生産技術、機械保全に従事する技能・技術者の方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
<p>生産設備保全の現場力強化及び技能継承をめざして、技能高度化、故障対応・予防に向けた、産業用油圧装置の故障およびその原因について、トラブル対応実習などを通して原因究明と改善方法を習得します。</p>		<p>1. 油圧システムにおけるトラブル概要 (1) 油圧システムの異常現象 (2) 構成機器の構造・作動原理を把握することの重要性 (3) 実用回路の把握</p> <p>2. 構成機器の構造動作原理 (1) ポンプ イ. ギアポンプ ロ. ベーンポンプ ハ. ピストンポンプ (2) バルブ イ. リリーフ弁 ロ. 絞り弁 (スロットルバルブ) ハ. 電磁弁 ニ. パイロットチェック弁 ホ. カウンタバランス弁 ヘ. 流量調整弁 (フローコントロールバルブ) ト. 減圧弁</p> <p>3. 構成機器の分解組立・特性実習 (1) 分解組立時の留意点 (2) 分解・組立実習 (3) 機器特性試験・評価</p> <p>4. 実用回路とトラブル対応実習 (1) 抵抗負荷実習 イ. 速度制御実習 ロ. 省エネ回路実習 ハ. 流量調整弁の特性実習 (2) 垂直負荷実習 イ. 流量制御方式の違いによる特性評価実習 ロ. 位置保持回路実習、ショックレス回路実習 (3) 動作不具合からのトラブルシューティング (4) 原因の予測と分解確認実習 (5) 正常動作確認実習</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	10	受講料	20,500 円
コース番号	① M4211 ② M4212		
日程	①6/10(水)~12(金) ②7/29(水)~31(金)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	油圧実習装置、 油圧機器カットモデル等		
受講者持参品	作業服、筆記用具		

参加受講者の声

- 油圧に関する専門知識を身に付けられました。
- 圧を扱うシステムに関する知識が深まりました。
- 仕事で油圧をあつかっているが、1つ1つの部品についてあまりくわしく知らなかったので、勉強できて良かったです。
- 油圧に対する知識を整理し、設計業務に役立てられそうです。

各種測定器の正しい使用方法について身につけるコースです

精密測定技術 (長さ測定編)



受講対象者 測定作業に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
<p>機械・精密測定 / 機械検査の生産性向上をめざして、長さ寸法測定の適正化に向けた測定実習を通して、精密で信頼性の高い測定を行うための理論を学び、測定器の定期検査方法を含めた正しい取り扱いと、測定方法、データ活用、誤差要因とその対処に必要な技能・技術を習得します。</p>		<p>1. 測定の重要性 (1) 測定と計測について イ. 計測と測定 ロ. 測定におけるトレーサビリティ ハ. 測定と検査 測定データにおける不確かさについて ニ. 測定データにおける不確かさについて (2) 測定の重要性 イ. 検査と評価</p> <p>2. 長さ測定実習 (1) 測定誤差の原因と対策 イ. 測定環境 ロ. 寸法測定の誤差要因 ハ. 各要因に対する対策方法 (2) 測定器の精度と特性 イ. 長さ基準とは ロ. 測定器の信頼性 ハ. 測定器の選択 (3) マイクロメータ、デジタルマイクロメータ、ノギス、ハイトゲージ、てこ式ダイヤルゲージでの測定 イ. 構造、取扱い、調整 ロ. 器差、アッペの原理など</p> <p>ハ. 熱的影響による誤差の測定、断熱効果のある測定器 ニ. ブロックゲージの取扱い</p> <p>3. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	12	受講料	10,500 円
コース番号	① M4311 ② M4312 ③ M4313		
日程	①6/11(木)~12(金) ②9/10(木)~11(金) ③10/13(火)~14(水)		
時間	9:15~16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	スケール、ノギス、マイクロメータ、 ダイヤルゲージ、ブロックゲージ、 その他		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- マイクロの仕組みを解体することでよく知ることができました。
- 測定器は日常的に使用しているのですが、よく分かっていなかった部分があったので、今回のセミナーで理解が深まりました。
- 正しい使い方を覚えたことで正確性が上がります。
- 様々な測定機器を体験して、今後の仕事で役に立ちそうです。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。



切削加工したサンプルワークの測定から、測定機の使用方法、測定結果と切削加工との関係を身につけるコースです 精密形状測定技術

受講対象者 測定作業に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
<p>機械・精密測定 / 機械検査の生産性向上をめざして、最適化に向けた測定実習を通して、形状測定機器のシステム上の特徴とその精度を理解し、形状測定に必要な技能・技術を習得します。</p>		<p>1. 形状測定の重要性 (1) 形状測定とは (2) 形状測定の特徴と重要性 (3) 形状測定関連の規格 (4) 計測のトレーサビリティ</p> <p>2. 形状測定 (1) 幾何偏差の定義 (2) 真円度測定機 イ. 真円度測定機の原理と構造 ロ. 真円度の評価方法 ハ. その他の幾何偏差 (3) 表面性状に関する定義とパラメータ (4) 表面粗さ測定機 イ. 表面粗さ測定機の原理と構造 ロ. 表面性状の評価方法</p> <p>3. 測定実習 (1) 幾何偏差測定サンプルの提示と実習のポイント (2) 表面粗さ測定サンプルの提示と実習のポイント (3) 測定結果から加工方法及び加工条件の評価・考察</p> <p>4. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	アメテック 株式会社 講師		
定員	8	受講料	15,000 円
コース番号	M4411		
日程	9/24(木)～25(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	表面粗さ測定機 (フォームタリサーフ Laser: テーラーホブソン) 真円度測定機 (タリロンド 585H PRO: テーラーホブソン)		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- 表面粗さや幾何偏差の測定について理解を深めることができました。
- 規格のちがいによる評価方法について習得できませんでした。
- 測定技術以外にも、加工物や加工刃と精度についてなど教えていただけて、自身の理解につながりました。



三次元測定機の操作、座標系の考え方と設定の仕方、各種測定プログラムを身につけるコースです 三次元測定技術（寸法測定編）

受講対象者 測定作業に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
<p>機械・精密測定 / 機械検査の生産性向上をめざして、効率化、最適化（改善）に向けた測定実習を通し、三次元測定機による測定結果のばらつきを要因を理解し、測定結果の信頼性を判断できる能力と、生産活動に見合った測定品質（測定点数や測定位置など）の改善に関する技能・技術を習得します。</p>		<p>1. 三次元測定概論 (1) 三次元測定機の特徴、構成 (2) 精度試験方法 (3) 三次元測定機の不確かさ要因</p> <p>2. 三次元測定実習 (1) プローブの選択、校正の注意点 (2) 座標系設定における留意点と効率化 (3) 測定のポイントと効率化</p> <p>3. 製品の測定 (1) 各機能を利用した効率的な測定方法の検討 (2) ワークサンプルを使った測定実習 イ. ワークの説明 ロ. 測定のポイント</p> <p>4. 測定方法の検討と実践 (1) 各種部品の測定実習（グループワーク） イ. 形状及び要求精度の確認 ロ. 測定物座標系の検討 ハ. 測定順序と出力内容の検討 ニ. 誤差の要因 (2) 評価及び改善</p> <p>5. 測定の評価と改善 (1) 三次元測定データの評価について (2) より精密な測定をするための改善策等</p> <p>6. まとめ (1) 質疑応答・評価</p>	
予定講師	ポリテクセンター関東 講師		
定員	6	受講料	20,000 円
コース番号	M4511		
日程	11月以降開講予定		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	CNC 3 次元測定機（ミットヨ）、ソフトウェア (MCOSMOS GEOPACKVer.4.1 : ミットヨ)		
受講者持参品	筆記用具		

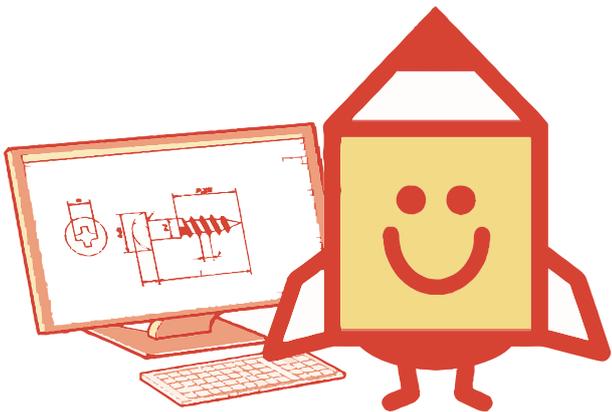


※ティーチングなどのプログラムに関する内容は行いません。

参加受講者の声

- 測定の知識がなかった為、同僚から引き継いだ方法で作業していたが、本セミナーで理論的な根拠を得る事で、形式的な測定作業から、自分自身で考えながら測定できるようになるための契機になったと思えました。
- 実機を使用して構造、考え方、操作について丁寧に説明いただいたので、よく理解できました。
- 今回の研修で測定要素など細かい所まで知ることができました。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

P D
A C

製造現場での仕事の進め方のポイントをマスターしよう！

製造現場担当者の実践力向上 (職場のリーダーを目指そう)

受講対象者 報連相や現場の規律を再認識し、仕事の進め方のレベルアップをはかりたい方

概要		カリキュラム内容	
生産現場における業務の効率化をめざして、問題発生時対処の迅速化及び、積極的に問題解決と意思決定していくための手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> セミナー概要 モノづくり現場と担当者の心構えの振り返り 自考自律型担当者が求められている背景 製造業現場における担当者の必須スキル <ol style="list-style-type: none"> 現場担当者に必要な意識と行動 <ol style="list-style-type: none"> 組織と組織人の意識の再認識 多様な利害関係者との良好な関係構築スキル向上のポイント お客様との接点での行動の振り返り(挨拶から始まる現場の品質) 現場に必要な4つのスキル <ol style="list-style-type: none"> 専門知識・技能 チームで働く力、考え抜く力、一歩を踏み出す力 自身の役割と周囲の期待 演習「疑似モノづくりによる4つの力の発揮」 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	<ol style="list-style-type: none"> 現場力強化のための自考自律的行動 <ol style="list-style-type: none"> 発表 講師講評 	
定員	20	受講料	10,000 円
コース番号	① E4611 ② E4612	<ol style="list-style-type: none"> まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答 講評・評価 	
日程	①4/9(木)～10(金) ②10/22(木)～23(金)	 <p>講義風景</p>	
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間	<p>製造現場のリーダーを目指す方にお勧めしたいコースです。</p>	
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仕事上でよく理解していなかった 5S の重要性や目的を確認することができ、今後の改善活動に役立てられると思いました。 ● 製造現場に合わせた内容になっており、用語の意味確認も併せて行えたので学びが深まりました。 ● 問題の対処方、コミュニケーションや“仕事”の大切さを実感し、改めて理解できました。 ● 自己分析、改めて目で見える形で出されると、自分でも納得できて、大変になりました。 	
受講者持参品	筆記用具		

P D
A C

現場のマネジメントスキルを習得する！

現場監督者の実践力向上 (成果を出すリーダー育成)

受講対象者 生産現場で指導的役割の方

概要		カリキュラム内容	
現場担当者をどのように動かしていくのか、現場担当者の考働力を開発し、自律的な生産現場を作る手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> セミナー概要 参加者自己紹介プレゼン 監督の基本 <ol style="list-style-type: none"> 現場監督の 4 M (観る・見る・診る・看る) 組織成立の 3 要素と現場の力 担当者の行動 <ol style="list-style-type: none"> 現場監督の言動と担当者の行動の質 <ol style="list-style-type: none"> 理解と納得 行動と成果 期待と行動(効力) 期待と成果(胆力) 演習「製造現場の問題解決(グループ討議)」 部下指導育成 <ol style="list-style-type: none"> 生産現場のコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 褒めると叱る 目的の共有 演習 部下面接事例の検討 <ol style="list-style-type: none"> 産業用インバータの製造現場 不足する技能等の聞き取り 習得すべき技能、スキルの洗い出し 習得までのプロセスの聞き取りと提案 育成課題と育成 <ol style="list-style-type: none"> スキルズインベントリー 育成計画と実践 演習 自己啓発計画 <ol style="list-style-type: none"> 受講者自らの自己啓発計画の作成 習得する技能、スキルの可視化 習得期間の明確化 社会人基礎力開発 <ol style="list-style-type: none"> 社会人基礎力と担当者の意欲 <ol style="list-style-type: none"> 担当者の資質と意欲の把握 社会人基礎力と教育訓練 演習「部下を育てる」 <ol style="list-style-type: none"> 説明をして、メモを取らせる 自ら作業してみても手本を見せる やらせてみる 質問をし、考えさせる 問題と理解したことをフィードバックする まとめ <ol style="list-style-type: none"> 全体的な講評及び確認・評価 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	 <p>講義風景</p>	
定員	20	受講料	10,000 円
コース番号	E4711	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相手によって指導の仕方を選ぶだけでなく、成長度合によって変化させる必要がある事を知りました。 ● 他社の方の話は参考になりました。自社の研修内容をより詳しく、わかりやすく理解することができました。 ● リーダーとして、どういった対応をとれば、モチベーションアップにつながるのか又、成長できるのかといった所に活用できそうです。 ● リーダーになったばかりで、部下との接し方に自信がなかったが、今後の自分の接し方の見本ができました。 	
日程	6/9(火)～10(水)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙、心理テスト		
受講者持参品	筆記用具		

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



**P D
A C**

現場のリーダーとして必要なスキルを習得する！ 仕事と人を動かす現場監督者の育成 (リーダーシップ力の強化)



受講対象者 生産現場で指導的役割の方または将来指導的役割をめざす方

概要		カリキュラム内容	
<p>製造現場における作業段取りや指示、後進育成などの技能継承をめざして、現場のリーダーとして身につけておく基本スキルを確認し、監督者として生産性向上を実践する担当者との関わり方や仕事と現場を動かしていくためのポイントを習得します。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 現場監督（主任）の役割 (1) 監督の役割と意思決定（権限）と責任 (2) 作業の段取り確認と作業安全の確保、作業品質の維持、作業進捗の確認 (3) 担当者の動意確認と作業監督 (4) 上下左右への報・連・相 (5) 演習「段取り、作業指示、問題解決」</p> <p>3. 現場監督（主任）に求められていること (1) 班のマネジメント イ. 作業者の意欲向上ととりまとめ ロ. 問題を発見し課題と解決策を検討すること (2) マネジメントスキルの修得 イ. 組織論（課業管理・人間関係論・モチベーション理論）と組織開発 ロ. 成果志向と関係構築志向 ハ. モチベーションとリーダーシップ (3) 演習「製造現場の新人担当者のケーススタディ」</p> <p>4. より良い現場監督（主任） (1) 現場のコミュニケーション イ. 朝礼と終礼でやること、やってはいけないこと ロ. 日々どのようなコミュニケーションをとるのか (2) 班員の指導育成</p> <p>イ. 目標管理と面接 ロ. 班員の学びの計画と支援 (3) 仕事を回す イ. 小集団活動を活性化させる ロ. 改善提案ができるチーム ハ. チームビルディング (4) 演習「班のマネジメントケーススタディ」</p> <p>5. 自己啓発計画書の演習</p> <p>6. まとめ</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師		
定員	20	受講料	10,000 円
コース番号	E4811		
日程	9/17(木)～18(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具		



グループ討議風景

参加受講者の声

- 受講前とは違う考え方を学び刺激を受ける事が出来ました。
- 様々な方と交流する事ができ自分では持っていなかった考え方を知る事が出来、良い体験ができました。
- 今まで抽象的だったリーダー像が具体的に理由付けして教えてもらえたので、とても良かったです。
- 現場監督業がどうあるべきかが明確に勉強することができました。

**P D
A C**

製造現場の中長期的な戦略を策定する能力を習得する！ 戦略的現場管理者の育成 (できる管理者になろう)



受講対象者 生産現場全体を管理する役割の方、または今後製造現場全体を管理する立場になる方

概要		カリキュラム内容	
<p>監督者と管理者の役割の違いを認識し、高い視点と広い視野から戦略的に現場でマネジメントを行っていくことで現場の魅力高め、顧客の評価を高めていくポイントを習得します。</p>		<p>1. コース概要 (1) 訓練の概要 (2) オリエンテーション (3) 安全上の留意事項</p> <p>2. 管理者とは (1) 監督者と管理者の違いと管理者の役割 (2) 戦略的視点と戦術的視点 (3) 課題設定・考察・意思決定 (4) 演習「製造現場の問題抽出と課題設定」</p> <p>3. 管理の要点 (1) 管理の5機能 (2) 場造りと人造り (3) PDCAからRGPDCAへ (4) 目標設定と進捗管理・リスク管理 (5) 戦略的人材管理 (6) 演習「管理の課題と原因分析」</p> <p>4. 現場の魅力 (1) 現場の魅力が多面的に捉える (2) マーケティング戦略と製造現場の魅力 (3) 演習「製造現場の問題解決」 (事例 試作品製造会社の現場リーダーのケース)</p> <p>5. 総合演習 (1) 戦略立案 実行計画策定 4-(3)の事例 試作品製造会社の現場リーダーのケースの戦略的対象部門(設計開発または組立加工他) 選定と現状把握・分析</p> <p>(2) 到達目標設定（生産性・費用・利益率など）戦略立案・代替案立案 (3) 戦略の評価と実行計画の落とし込み (4) 発表・講師講評</p> <p>6. まとめ (1) 訓練コース内容のまとめ (2) 質疑応答 (3) 講評・評価</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師		
定員	20	受講料	10,000 円
コース番号	E4911		
日程	7/16(木)～17(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具		



講義風景

参加受講者の声

- 自分の考えが、いかに柔軟でないか実感しました。実践にて活かしたいです。
- 部下に評価される管理者になれるよう、テキスト含め心にとめ、実践します。
- 今まではPDCAのみの考え方だったがRGを追加させる事でより理解が深まりました。
- 管理者の役割、マネジメント手法を具体的に学ぶことができました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

PD
AC

自発自律的な部下を育てる方法をマスターしよう！ 技能伝承のための部下・後輩指導育成 (OJT トレーナー育成)



受講対象者 部下のやる気を引き出し、自ら考え律しながら成長していく部下育成法を習得したい方

概要		カリキュラム内容	
生産現場の現場改善における多種多様な技術の技能伝承をめざして、後輩育成のための指導技法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 訓練の概要 技能伝承 <ol style="list-style-type: none"> 技能伝承の重要性 部下・後輩指導育成の概要 <ol style="list-style-type: none"> 人材育成の3本柱 経営ビジョンと求める人材 指導役の指導 部下・後輩育成の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 目的の提示 <ol style="list-style-type: none"> 育成目的の提示 モチベーション管理 現状把握・分析 <ol style="list-style-type: none"> 継承するノウハウの洗い出し 育成対象者の棚卸 育成計画と育成 <ol style="list-style-type: none"> 意図的計画の推進 進捗管理と効果測定 育成担当者の行動 <ol style="list-style-type: none"> 育成担当者に求められる5つのスキル 個別カリキュラム設計 指導のポイント <ol style="list-style-type: none"> コミュニケーション コーチング 支援的助言 総合演習 <ol style="list-style-type: none"> 部下指導育成の課題と育成計画の作成 <ol style="list-style-type: none"> 事例読み込み 育成計画作成 部下後輩動機付け面接 講師講評 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師		
定員	20	受講料	10,000 円
コース番号	E5011		
日程	9/28(月)～29(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、 マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具		

本コースと合わせて、下記のセミナーを受講されると相乗効果が発揮されます。
『仕事と人を動かす現場監督者の育成(リーダーシップ力の強化)』(P89 参照)
『現場監督者の実践力向上(成果を出すリーダー育成)』(P88 参照)

参加受講者の声

- 社内にマニュアル等がない事例なので、体系的に学ぶことができました。
- 今までのやり方の良い所、悪い所をある程度把握できました。また、他の人の意見を聞いて、違った考え方があり勉強になりました。
- 基本的な考え方、方針について学ぶ事ができました。他業種の方々とお話できて良い経験になりました。OJT の基本的な考え方、計画の立て方を学べてとても勉強になりました。

PD
AC

QC 7 つ道具の活用方法をマスターしよう！ QC 7 つ道具活用による製造現場における品質改善・品質保証



受講対象者 生産現場で品質管理や品質改善に携わっている方、QC 7 つ道具を習得したい方

概要		カリキュラム内容	
生産現場における業務の効率化・最適化(改善)による生産性向上をめざして、製造現場で発生する問題について、QC7 つ道具を使用して、定量的および定性的な問題分析をおこない、解決していくための手法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> コース概要及び留意事項 <ol style="list-style-type: none"> 訓練の目標 受講者が有する専門的能力の確認 安全上の留意事項 品質管理 <ol style="list-style-type: none"> 品質管理 品質保証 品質改善(問題解決) 品質管理の重要性 製造業における定量的な問題の解決技法 <ol style="list-style-type: none"> QC 7 つ道具の使い方と留意点 <ol style="list-style-type: none"> QC 7 つ道具の概要 QC 7 つ道具の使い方のポイント 演習 QC 7 つ道具体験 品質管理演習 QC 7 つ道具活用実践(部品組立工程事例) <ol style="list-style-type: none"> 課題読み込み データ分析 発表・講師講評 総合演習 <ol style="list-style-type: none"> 受講者の製造工程における統計的な手法を用いた管理図の作成 受講者自身が担当する機械部品等の製造・検査工程での課題 課題解決に向けた特性要因図の作成 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答 訓練コース内容のまとめ 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師		
定員	20	受講料	10,000 円
コース番号	E5111		
日程	8/3(月)～4(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、 マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具、電卓(√計算のできるもの。貸出しあり)、 直線定規(15～30cm、貸出しあり)		



演習風景

- QC7 つ道具
- パレート図
 - 管理図
 - ヒストグラム
 - 層別
 - 特性要因図
 - チェックシート
 - 散布図

参加受講者の声

- 無知な自分に他の受講者の方々が色々教えて下さり、感銘を受けました。
- QC7 つ道具について今まで独学で行ってききましたが、今回の受講で理解が深まり、品質の向上に役立たせる事が出来そうです。
- QC7 つ道具について以前よりくわしくなった(と思う)ので、これからの業務改善に活かせると思います。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。

人材育成

品質管理



**P D
A C**

新QC7つ道具の活用方法をマスターしよう！

新QC7つ道具活用による製造現場における品質改善・品質保証

受講対象者 生産現場で品質管理や品質改善に携わっている方、新QC7つ道具を習得したい方

概要		カリキュラム内容	
<p>生産現場における業務の効率化・最適化（改善）による生産性向上をめざして、製造現場で発生する問題について、新QC7つ道具を使用して、定性的な問題分析をおこない、解決していくための手法を習得します。</p>		<p>1. 品質管理 (1) セミナー概要 (2) 品質管理 品質保証 品質改善（問題解決） (3) 品質管理の重要性</p> <p>2. 製造業における定性的な問題の解決技法 (1) 新QC7つ道具の使い方と留意点 イ. 新QC7つ道具の概要 ロ. 新QC7つ道具の使い方のポイント ハ. 演習「新QC7つ道具体験」 (2) 問題解決演習 新QC7つ道具活用実践（金属部品加工工程事例） イ. 課題読み込み ロ. 問題解決 ハ. 発表・講師講評</p> <p>3. 総合演習 (1) 受講者の製造現場における問題を新QC7つ道具で整理 (2) 原因の推定と解決策策定 (3) 発表 講師講評</p> <p>4. まとめ (1) 質疑応答 (2) 訓練コース内容のまとめ</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	 <p>演習風景</p>	
定員	20 受講料 10,000 円		
コース番号	E5211		
日程	9/10(木)～11(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙	<p>新QC7つ道具</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">●親和図法 <li style="width: 50%;">●連関図法 <li style="width: 50%;">●系統図法 <li style="width: 50%;">●マトリックス図法 <li style="width: 50%;">●アローダイアグラム <li style="width: 50%;">●PDPC法 <li style="width: 50%;">●マトリックスデータ解析法 	
受講者持参品	筆記用具	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会社で学べない専門的な内容が身に付きました。 ●独学だったので、例をもとに考えられたので頭を整理することができました。 ●業務で学べた言語データを整理する手法を学びました。 	

**P D
A C**

ものづくり現場で発生している問題の真の原因を効率的に見つけ出し、効果的な解決策を策定する手法をマスターする。

なぜなぜ分析による真の要因追求と現場改善

受講対象者 生産現場で現場改善に取り組んでいる方。またはこれから取り組む方。



概要		カリキュラム内容	
<p>工程管理／技術管理の生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化（改善）、安全性向上に向けて問題の真の要因を原理・原則に基づいて追求し、三現主義（現場・現物・現実）で現場改善を実践する手法を習得します。</p>		<p>1. コース概要及び留意事項 (1) 訓練の目的 (2) 専門的能力の現状確認及び問題点の整理 (3) 安全上の留意事項</p> <p>2. 問題解決の進め方 (1) 管理のサイクル（デミングサイクル） (2) 問題解決の進め方 (3) 問題解決に活用する手法 (4) 不良・故障の発生要因 (5) 相対目標と絶対目標 (6) 課題実習（現状分析能力の確認）</p> <p>3. なぜなぜ分析 (1) なぜなぜ分析とは (2) なぜなぜ分析の進め方 (3) なぜなぜ分析事例研究</p> <p>4. 工程の原理・原則 (1) 工程精通（工程の原理・原則） (2) 原則発見のポイント イ. 静的状態事例 ロ. 動的状態事例 (3) 工程精通事例研究</p> <p>5. ポカミス防止 (1) ポカミスとは（真の要因が追求できていない代表事例） (2) ポカミスの発生 (3) ポカミス防止の可能性 (4) ポカミスにおけるマネジメントシステム (5) ポカミス防止へのアプローチ</p> <p>6. グループ実習 (1) 問題の真の要因追求</p> <p>(2) 解決すべき課題の整理 (3) 改善計画を立案 (4) 発表</p> <p>7. まとめ (1) 全体的な講評及び確認・評価</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	 <p>講義風景</p>	
定員	20 受講料 10,000 円		
コース番号	E5311		
日程	4/16(木)～17(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙	<p>本コース受講後、『なぜなぜ分析による製造現場の問題解決』（P92参照）、『製造現場の問題解決力向上（実践コース）』（P92参照）の受講をお勧めします。</p>	
受講者持参品	筆記用具	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なぜなぜ分析に必要な要素・手順が具体的かつ端的に理解できました。 ●おおまかに理解していましたが、受講してみても不足している知識が多いことがわかりよかったです。 ●今回初めてなぜなぜ分析にふれましたが、やり方とポイントを学べたので実務に活かしたいと思いました。 ●情報を集めて「事実」だけにに基づきなぜなぜ分析を行うことが最も大事であることがわかりました。 	

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

P D
A C

ものづくり現場の問題を発見する手法、問題を解決するなぜなぜ分析手法を身につける！

なぜなぜ分析による製造現場の問題解決

受講対象者 生産現場で品質問題の解決に携わっている方

概要		カリキュラム内容	
<p>工程管理／技術管理の生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化（改善）、安全性向上に向けた事象の論理的つながりを軸に効率的かつ効果的な問題解決手法の実践を通して、製造現場の問題を解決する能力を習得します。</p>		<p>1. コース概要及び留意事項 (1) 訓練の目的 (2) 専門的能力の現状確認及び問題点の整理 (3) 安全上の留意事項</p> <p>2. 効果的な問題解決 (1) 効果的・効率的な問題解決とは イ. 問題解決思考と論理 ロ. 体系的思考と暗算的思考 ハ. 列挙・評価・直観 (2) 演習「情報整理と仕分け」</p> <p>3. なぜなぜ分析の進め方 (1) 効率的な問題解決の進め方 イ. なぜなぜ分析のポイント ロ. 問題解決に役立つツールと使い方 ハ. 問題の定量化 ニ. 論理の精査とIs notによる真因検証 ホ. 対処と解決 (2) 演習「真因追及と検証」</p> <p>4. 総合演習 (1) なぜなぜ分析で製造現場の問題解決 イ. 事例読み込み ロ. 問題の抽出と真因追及 ハ. 真因検証と解決策の策定 ニ. 解決策の評価 ホ. 発表と講師講評</p> <p>5. まとめ (1) 訓練コース内容のまとめ (2) 質疑応答</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	 <p>演習風景</p> <p>本コース受講前に、『なぜなぜ分析による真の要因追求と現場改善』（P91 参照）の受講をお勧めします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自社でおこなっているなぜなぜ分析に参加する際に、今回習得したノウハウを活かすことができそうです。 ● なんとなく知っていた知識をちゃんと知れました。 ● 講習がわかりやすく、理解を深めることができました。 ● 理論的に考えることが身に付きました。 </div>	
定員	20 受講料 10,000 円		
コース番号	E5411		
日程	5/14(木)～15(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具		

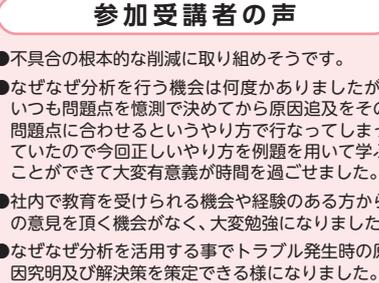
P D
A C

ものづくり現場で発生する問題を根本的に解決するなぜなぜ分析の実践力を身につける！

製造現場の問題解決力向上（実践コース）

～現場で使えるなぜなぜ分析を身につける～

受講対象者 なぜなぜ分析を使いこなして、生産現場の問題解決を図りたい方

概要		カリキュラム内容	
<p>実際に現場で発生している問題を題材に、真の原因を見つけ、有効な対策を行うための考え方や手法を習得します。</p>		<p>(1 日目)</p> <p>1. コース概要及び留意事項 (1) 訓練の目的 (2) 受講者が有する専門的能力の確認 (3) 安全上の留意事項</p> <p>2. 問題解決の手順 (1) 問題解決の手順 (2) 事実関係を正しく把握する（証拠を集める） (3) 原因追究～なぜなぜ分析のやり方とポイント (4) 解決策を考える切り口</p> <p>3. なぜなぜ分析演習 (1) なぜなぜ分析 基本演習（2 件） イ. 事例 部品組立工場での組立ミスの分析演習 ロ. 事例 空調設備の制御装置の不良品発生時の分析演習 (2) 宿題の説明 イ. 職場に戻って 2 日目までの間に発生した問題について、事実関係の把握と真因追及を実施する ロ. 2 日目に事実関係となぜなぜ分析の結果を持参する</p> <p>(2 日目)</p> <p>4. 問題解決実践演習 (1) 事実関係の把握となぜなぜ分析の完成度を高めるためのグループ演習 イ. 受講生がなぜなぜ分析の資料について検討し、なぜなぜ分析の完成度を高める ロ. 正しいなぜなぜのやり方や間違えやすいポイントなどを習得する ハ. 1 件あたり 1H 程度</p> <p>5. まとめ (1) 質疑応答 (2) 訓練コース内容のまとめ</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	 <p style="text-align: center;">参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不具合の根本的な削減に取り組みそうです。 ● なぜなぜ分析を行う機会は何度かありましたが、いつも問題点を憶測で決めてから原因追及をその問題点に合わせるというやり方で行なっていたので今回正しいやり方を例題を用いて学ぶことができ大変有意義な時間が過ごせました。 ● 社内教育を受けられる機会や経験のある方からの意見を頂く機会がなく、大変勉強になりました。 ● なぜなぜ分析を活用する事でトラブル発生時の原因究明及び解決策を策定できる様になりました。 	
定員	20 受講料 10,000 円		
コース番号	E5511		
日程	8/7(金)、9/4(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具		

※当コースは1日目と2日目を1ヶ月あけて実施します

1日目 ・ 問題解決の手順の講義
 ・ 宿題の提示

約1ヶ月 ↓ 現場で実際に発生している問題で宿題を実施

2日目 ・ 宿題をもとにグループ討議

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



5 Sは現場改善に必須。5 S実践と定着の指導方法をマスターしよう！

**P D
A C**

現場の問題解決実践 (5Sの実践と定着)

受講対象者 職場で業務改善の指導的立場の方またはこれから指導的役割をめざす方

概要		カリキュラム内容	
5 Sの大切さを認識するだけでなく、5 Sを現場にどうやって根付かせていけばよいのか、実践のポイントを習得します。また、5 Sの対象範囲を広げ、人やモノの動きも5 Sを活用していくことを習得します。		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> セミナー概要 受講者自己紹介 現場改善技法のポイント <ol style="list-style-type: none"> 現場改善の代表的なツール 改善が定着しない要因 <ol style="list-style-type: none"> 現場改善が定着しない原因と対策の検討(演習) 現場改善指導 <ol style="list-style-type: none"> 指導計画の要点 <ol style="list-style-type: none"> 到達目標の設定 指導項目の明確化 指導の展開 演習「指導計画書の作成」 現場改善の実践 <ol style="list-style-type: none"> 整理・整頓の手順と指導方法 <ol style="list-style-type: none"> 整理・整頓の技法 整理の技法(A B C分類)と整頓の技法(棚割、ピクトグラム、図解化) 指導技法(担当者の技量に応じた指導技法、作業内容に応じた指導技法) 清掃と清潔の手法と指導方法 <ol style="list-style-type: none"> 清掃の意味と目的 清掃・清潔不良による事故 躰の方法 <ol style="list-style-type: none"> ルールと手順の明確化 ポーンスペナルティによる指導 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	<ol style="list-style-type: none"> 八、演習「手順書改善ケーススタディ」 <ol style="list-style-type: none"> 定着の手法 5 S委員会の運営 赤札と黄色札による意識付け、不要物の洗い出し 5 SのPDCAサイクルを回す 総合演習 <ol style="list-style-type: none"> ケーススタディ <ol style="list-style-type: none"> 5 S実践 まとめ  	
定員	20	受講料	10,000円
コース番号	E5611		
日程	4/20(月)～21(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- 他業種の方と交流する事がなかったので、みなさんと事例の話などでできて良かったです。
- 本だけでは得られない知識や方法を知ることが出来ました。
- 5Sの推進には目的・ルールの明確化が必要ということ学びましたので、それを職場内でも展開出来ると思いました。
- 会社の現状が良く分かり、知らなかった知識を知ることができました。

職場の安全性向上と生産性向上につながる5 Sをマスターしよう！

**P D
A C**

現場の安全確保(5S)と生産性向上

受講対象者 職場で業務改善の指導的立場の方で、業務改善スキルの向上を目指したい方

概要		カリキュラム内容	
製造現場における生産工程の効率化(改善)をめざして、現場の問題把握・改善技法及び後輩育成のための指導技法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 訓練の概要 <ol style="list-style-type: none"> セミナー概要 受講者自己紹介 現場改善の課題 <ol style="list-style-type: none"> 現場の安全と生産性と5 S 現場の5 Sが定着しない理由 <ol style="list-style-type: none"> 現場改善が定着しない原因 演習「現場の改善課題抽出」 現場改善のポイント <ol style="list-style-type: none"> 改善推進の基礎固め <ol style="list-style-type: none"> 現場改善の目的と方針 5 Sルールの策定 無駄の定量化と改善目標の設定 5 S推進の具体的ポイント <ol style="list-style-type: none"> 整理の方法と推進のポイント 整頓のための番地管理方法 整頓のための工夫 清掃の具体的な進め方 現場の可視化 組織の財産として伝承するポイント 総合演習 <ol style="list-style-type: none"> ケース事例読み込み <ol style="list-style-type: none"> 事例「精密ネジ加工業の労働災害予防」 現状把握、現場改善目標設定、現場改善提案 発表 講師講評 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答 訓練コース内容のまとめ  	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	<p>本コース受講前に、『現場の問題解決実践(5Sの実践と定着)』(P93参照)の受講をお勧めします。</p>	
定員	20	受講料	10,000円
コース番号	E5711		
日程	5/27(水)～28(木)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙		
受講者持参品	筆記用具、電卓(貸出しあり)		

参加受講者の声

- 5Sの推進には目的・ルールの明確化が必要ということ学びましたので、それを職場内でも展開出来ると思いました。
- グループワークにより他の受講者から刺激を受けました。自分では思いつかなかった案がたくさん出ており、自社にて活かそうと思いました。
- 5 Sは安全・品質・生産性につながる事が分かりました。
- 5Sの意味、重要性を講義で理解することができました。

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

>>申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

P D
A C

リスクマネジメントによる製品設計の考え方を学びます 製品設計におけるリスクマネジメント

受講対象者 機械設計・開発業務に携わっている方またはその指導的・中核的な役割を担う方およびその候補の方

概要		カリキュラム内容	
製品企画／開発／デザインの現場力強化及び技能継承をめざして、技能高度化、故障対応・予防に向けた P L 法やクレーム対応などを理解し、事例分析や課題実習を通して、リスクに対応した設計を行う技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 設計におけるリスクマネジメント <ol style="list-style-type: none"> リスクの分類とリスクの主要要素 経済性優先、妥協などを要因とした事故例 技術者が取り扱うリスクマネジメント 事故事例分析 設計のトラブル事例分析実習 <ol style="list-style-type: none"> 問題解決手法 トラブル事例分析と是正処置の作成実習 予防設計 <ol style="list-style-type: none"> 予防設計の流れ 事例分析 設計における P L 対策 <ol style="list-style-type: none"> P L 法の概要 P L 活動 P L 事故予防 P L 事故防御 P L 対策 設計による機能の変質 <ol style="list-style-type: none"> 事故事例分析 品質管理とリスクマネジメントを意識した開発設計 <ol style="list-style-type: none"> 品質を優先した実体化 	
予定講師	ミームテック技術士事務所 代表 室橋 雅彦 氏	<ol style="list-style-type: none"> 不適合記録の活用 品質意識の徹底の方法 設計品質向上の取り組み方 	
定員	10	受講料	19,500 円
コース番号	① M0411 ② M0412		
日程	① 7/2(木)～3(金) ② 9/3(木)～4(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 2 日間 計 12 時間		
使用機器等			
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- 初期から FMEA をする機会がないので勉強になりました。
- ユーザーの使用方法を考えられて色々な方向からリスクを感じることが出来ました。
- 実習で仮にやってみただけで見解ややり方がわかった為にとっても役に立ちました。
- 未然防止の観点から DRBFM の有効性を認識できました。

※ P65 掲載のコースと同一のコースです。

P D
A C

環境のバラツキに強い製品や条件の設計・開発・最適化手法を演習を通して学びます 品質工学に基づくパラメータ設計実践技術

受講対象者 研究／開発・設計・生産技術・製造技術・品質管理に携わっている方またはその候補の方

概要		カリキュラム内容	
試作／解析／評価の生産性の向上をめざして、効率化、適正化、最適化(改善)に向けた研究・開発、設計、生産技術、製造技術の各分野で品質工学を実践するための手順を実験演習を通じて、開発期間の圧縮と市場におけるトラブルを未然に防ぐことを両立させる設計技術を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> 品質工学の概要 <ol style="list-style-type: none"> 品質工学における品質の定義 損失関数 パラメータ設計の役割 目的機能と基本機能 様々な S N 比と事例紹介 実験計画 <ol style="list-style-type: none"> 統計的推測 分散分析の目的 データの変動と寄与率 直交表を用いた実験 直交実験の解析演習 パラメータ設計演習 <ol style="list-style-type: none"> 設計演習の内容説明 設計対象「紙コプター」の目的機能 直交表に基づいた機体の製作 直交実験と解析 設計目標の提示 確認実験 <ol style="list-style-type: none"> 実験演習の結果による分散分析 最適条件の導出 確認実験のための機体製作 確認実験 	
予定講師	熊田技術士事務所 代表 熊田 成人 氏	<ol style="list-style-type: none"> 5. まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答・評価 	
定員	10	受講料	31,500 円
コース番号	M0511		
日程	6/1(月)～3(水)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45 分間含) 3 日間 計 18 時間		
使用機器等	電子ばかり、ストップウォッチ、パソコン、表計算ソフト、デジタルカメラ		
受講者持参品	筆記用具		

参加受講者の声

- 品質工学の優位性は座学だけでは理解しづらいように思いましたが、実際のプロセスを経験することでその素晴らしさに気付きました。
- 課題の原因特定に役立てられると思います。
- なんとなく言葉だけ知っていた知識だったものが実験を通じて明確にすることができました。
- 設計評価を効率的に行う手法を知ることができました。

※ P66 掲載のコースと同一のコースです。

>>推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。



カイゼンの手法をマスターし、現場の生産性向上につなげよう！



生産現場における現場改善技法

受講対象者 生産現場で生産リードタイム短縮を中心とした改善に携わっている方

概要		カリキュラム内容	
<p>生産現場における生産性の効率化・最適化をめざして、生産現場に発生する問題点の分析や改善のための手法及び生産効率を向上させるため現場改善（作業改善）の技法を習得します。</p>		<p>1. 生産現場の改善 (1) 作業改善（作業研究）の体系 (2) 改善の手順 (3) 標準時間の設定の実習</p> <p>2. 生産現場の環境改善 (1) 職場環境改善の体系 (2) 5S定着のしくみ (3) 見える化：目で見える現場管理の展開事例</p> <p>3. 生産現場の作業改善 (1) 運搬の効率化 (2) 切替・段取り替えの改善：段替稼働分析実習 (3) 多工程待ちのサイクルタイムの実習 (4) 自動化と設備効率化の実習 (5) ポカよけ（フール・プルーフ）</p> <p>4. 作業分析手法と改善効果測定 (1) 工程・作業・動作分析 (2) 生産性・リードタイム・稼働率</p> <p>5. 工程改善の実践的課題実習 (1) 制約条件と時間と作業の細分化 (2) PERTとクリティカルパスで真のボトルネック改善 (3) PERT分析、PERT作成演習</p> <p>6. 作業改善の実践的課題実習 (1) 生産システム上の作業改善</p> <p>7. 作業分析の実践的課題実習 (1) 受講者の現場での作業分析</p> <p>8. まとめ (1) 質疑応答 (2) まとめ (3) 講評・評価</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	 <p>演習風景</p>	
定員	20 受講料 10,000円		
コース番号	E5811		
日程	10/19(月)～20(火)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●改善の知識がほとんどなかったので、1から学ぶことができました。 ●ライン編成効率の計算方法をしらなかったためになりました。 ●今までぼんやりとした感じでの改善を行っていたが、文書化された知識を得て、今後に活かして行けると感じました。 ●演習を通してラインバランスやピッチタイムをどうやって短くするかなどの知識を得ることができました。 	
受講者持参品	筆記用具		

生産現場の問題発見と改善手法を習得する！



生産現場改善手法 (現場力向上)

受講対象者 生産現場で生産性向上（カイゼン活動）に携わっている方またはこれから担当する方

概要		カリキュラム内容	
<p>生産現場の問題をどのように認識（発見）し、改善テーマを見つけていくのか、そして改善テーマに対してどのような改善行動を取ればよいのか、作業環境、作業、作業要員の3つの軸で現場を改善する手法を習得します。</p>		<p>1. オリエンテーション (1) セミナー概要 (2) 受講者自己紹介</p> <p>2. 生産現場の課題 (1) 能率のムダ・材料のムダ・作り直しのムダ (2) 動きにくい・見にくい・判りにくい (3) 問題意識を持って作業現場をみていない (4) 演習「現場の課題と解決策の検討」</p> <p>3. 生産現場の分析 (1) IE概要 (2) 問題の定量化 (3) レイアウト分析・動線分析 (4) 作業要員分析 (5) 演習「現場分析演習」</p> <p>4. 現場カイゼン (1) 改善ツールと使い方 (2) 段取りカイゼン・作業カイゼン (3) 作業要員カイゼン（リーダーシップとコーチング） (4) 演習「改善ツールを活用した現場改善ケーススタディ」</p> <p>5. 現場の付加価値 (1) 現場の付加価値を高めるメリット</p> <p>(2) 作業の付加価値・人の付加価値</p> <p>6. 総合演習 (1) 生産現場ケーススタディ</p> <p>7. まとめ (1) 2日間の振り返り (2) 質疑応答</p>	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	 <p>グループ討議結果の発表</p>	
定員	20 受講料 10,000円		
コース番号	E5911		
日程	8/27(木)～28(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間		
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今まで凝り固まった思考だったが、他社の意見や思考を学べました。 ●ワークショップを通じて実際に自分で考えた事が理解を深めました。 ●先生が分かりやすい言葉を選んでくれて助かりました。否定せずやさしく受け止めてくれたので安心感の中受講できました。とても良い時間でした。 ●演習を通して、いろんな視点からの意見を聞けて参考になり、そもそもディスカッションの機会が少なかったので、とても貴重な体験ができました。 	
受講者持参品	筆記用具		

>>担当講師は予定です。変更になることがありますのでご了承願います。

))申込方法は、「お申し込みから受講までの手続きの流れ」P114をご覧ください。

P D
A C

ヒューマンエラーが発生するメカニズムを知り、予防策を身につけよう！

ヒューマンエラー対策実践 (ポカミスのない職場作り)



受講対象者 生産現場で、安全衛生または、作業管理を行っている方

概要		カリキュラム内容	
ヒューマンエラー発生メカニズムを理解し、エラーを発生させない仕組み作りと、エラー再発防止策の実践力を習得します。また、職場に展開し定着させる有効な手法も習得します。		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> セミナー概要・カリキュラム内容の説明 自己紹介 ヒューマンエラーとは <ol style="list-style-type: none"> ヒューマンエラー概要 ヒューマンエラー発生メカニズム 行動科学と心理的要因 事例演習 「ヒューマンエラー事例からエラーを考える」 ヒューマンエラー防止策 <ol style="list-style-type: none"> 予防安全と発生時対処 設備や作業要素からヒューマンエラーの要因を排除する 担当者の行動からヒューマンエラー発生の要因を削減する 視覚効果を使う 演習「職場のヒューマンエラー問題を明らかにする」 現場での定着 <ol style="list-style-type: none"> 定着とは（わかる・動ける・守れる） 間違った3大対策（犯人を探す 本人の責任追求をする 対処に終わる） 職場で事例を共有、全員で対策を検討 現場パトロールと無事故シール 総合演習 <ol style="list-style-type: none"> 職場のヒューマンエラー対策と定着策を立案し、実行策を策定する <ol style="list-style-type: none"> ヒューマンエラーを部門別（設計開発・加工組立など）に分解 発生原因追求と短期的・長期的解決策の立案 発表・受講生相互コメント・講師講評と振り返り講義 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 2日間のまとめ 質疑応答 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	定員	20 受講料 10,000 円
コース番号	E6011	日程	6/22(月)～23(火)
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間	使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙
受講者持参品	筆記用具		



グループ討議風景

参加受講者の声

- ヒューマンエラーの特徴を知ること自分の分析に役立ちました。
- 分析、分類のやり方が明確になりました。また、他社さんのやり方が非常に勉強になりました。
- ヒューマンエラーの基礎を習得できた事で製造現場の班長や作業員へ伝達・指導ができると思います。
- 課題やヒューマンエラーに対する向き合い方や、対策の方法を学ぶことができました。

P D
A C

コスト削減と生産性向上の観点から改善を図る！

原価管理から見た生産性向上

受講対象者 原価管理に携わっている方またはその候補の方あるいはコストダウンを検討されている方

概要		カリキュラム内容	
原価管理をコスト（費用削減）と生産性（業務効率向上）の2軸でとらえ、企業収益力向上のポイントを習得します。		<ol style="list-style-type: none"> コース概要及び留意事項 <ol style="list-style-type: none"> コースの目的 専門的能力の現状確認 安全上の留意事項 原価管理とは <ol style="list-style-type: none"> なぜ原価管理が必要なのか 原価管理の基礎知識 原価を構成する要素 損益分岐点 財務諸表と、その読み方 演習 原価計算、財務分析 コストを下げる視点 <ol style="list-style-type: none"> コスト削減の着眼点 財務的なコスト削減 発注改善、外注管理の改善 生産性を上げる視点 <ol style="list-style-type: none"> ラインバランス・ライン編成効率（加工・組立・検査） PERT 工場レイアウト 演習「製造現場を事例にした改善演習」 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 質疑応答 訓練コース内容のまとめ 講評・評価 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	定員	20 受講料 10,000 円
コース番号	E6111	日程	7/23(木)～24(金)
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計12時間	使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙
受講者持参品	筆記用具、電卓（貸出しあり）		



演習風景

- 本コースは、原価計算や経理の基礎知識をお持ちですと、理解が深まります。

参加受講者の声

- 原価の構成やコストを抑えることの重要性を会社の人員に浸透させることができると感じました。
- 改めて基礎より学び、業務を理論的に整理することが出来ました。
- 原価、コストの視点から既存の業務を考えることができそうです。
- 標準原価と実際原価から原価差異を分析する手法は会社でも活かそうです。

))推奨する受講の順番やコースの関連は、「推奨コースフロー」P10～15をご覧ください。

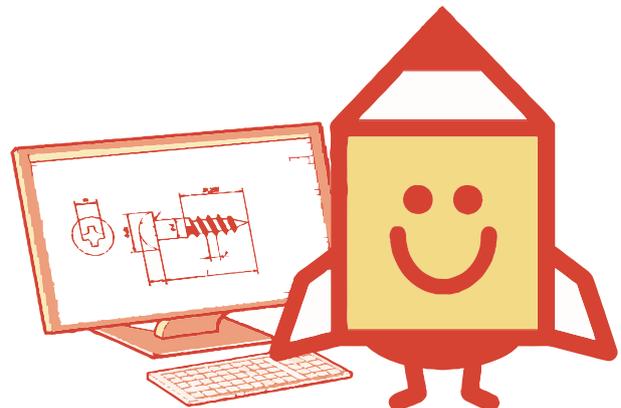
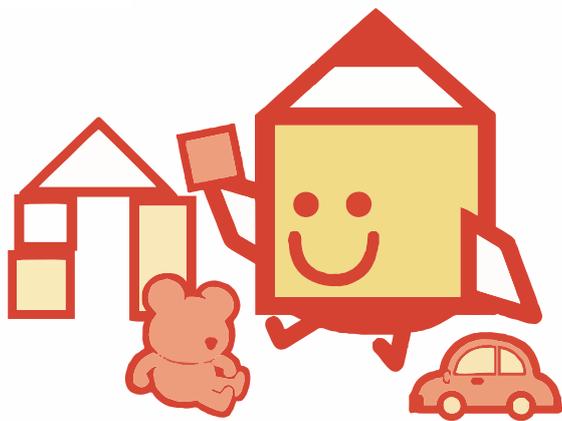


製造現場の問題を数字でみえる化！

P D A C コスト削減と製造現場の原価管理 (数字で現場の問題発見と解決)

受講対象者 コスト削減を推進するにあたり、原価管理の実践能力を身につけたい方

概要		カリキュラム内容	
現場で活用できる原価管理の知識を身に付け、製造原価報告書を切り口としたコストダウンや問題解決力を習得します。また、原価管理の視点から意思決定を行っていく方法を習得します。		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> セミナー概要・カリキュラム内容の説明 自己紹介 安全上の留意事項 原価管理 <ol style="list-style-type: none"> 製造現場の担当者にとって必須となる原価の知識とは 原価管理の目的と活用範囲 製品損益と実際損益 製造原価報告書の作り方 演習 製造原価報告書作成 コストダウンと利益創出 <ol style="list-style-type: none"> 外部コストと内部コスト 原価差異 コスト削減とコスト削減のための費用回収 財務諸表とキャッシュフロー 品質コスト 貢献利益分析 コスト削減 <ol style="list-style-type: none"> コスト削減の着眼点 材料費のコスト削減 労務費のコスト削減 間接費のコスト削減 為替とコスト 	
予定講師	株式会社 MxE コンサルティング 講師	(6) 生産性の向上によるコスト削減	
定員	20	受講料	10,000 円
コース番号	E6211	<ol style="list-style-type: none"> 総合演習 <ol style="list-style-type: none"> コストダウン事例演習 事例「建築設備資材製造業の材料ロス削減、経費削減 他」 イ. ケース読み込み・コストダウン提案 ロ. 発表 講師講評 まとめ <ol style="list-style-type: none"> 2日間のまとめ 質疑応答 	
日程	8/20(木)～21(金)		
時間	9:15～16:00 (休憩 45分間含) 2日間 計 12時間	<p>参加受講者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ●改めて数字でとらえる大事さを学びました。 ●問題点がどこにあるのか、数字で把握することの必要性が理解できました。 ●お金の流れ、会計についての解像度が上がりました。 ●数字での原価分析が安かったか高かったかだけでなく、2方向から分析する視点を得ることができました。 	
使用機器等	ホワイトボード、模造紙、マーカー、付箋紙	<p>●本コースは、原価計算や経理の基礎知識をお持ちですと、理解が深まります。</p>	
受講者持参品	筆記用具、電卓（貸出しあり）		



さらなるスキルアップを
目指すなら！

高度 ポリテクセンター

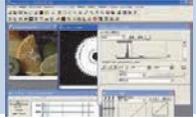
高度ポリテクセンターは、職業能力開発支援業務における先導的な役割を担う施設として、全国の企業等を対象とした年間700コース以上の豊富な在職者訓練を実施している施設です。

様々な技術分野のコース

高度ポリテクセンターって
どんなところ？



紹介ページ

切削・研削加工	塑性加工・金型	射出成形・金型	溶接	測定・検査・計測	材料・表面処理
 機械保全	 現場運営・改善	 環境・安全	 機械設計	 自動化	 電気設備
 自動制御	 パワーエレクトロニクス	 電子回路	 画像・信号処理	 組込み・ICT	 通信システム
					

人気コースの例

- 5軸制御マシニングセンタによる加工技術
- 見て触って理解する金型技術
- 設計者CAEを活用した伝熱・熱応用解析
- ロボットシステム設計技術
- 実習で学ぶ生成AIと実践的RAGアプリケーション開発
- マイコン制御システム開発技術

※詳しくは、公式サイトをご覧ください。

お問合せ先

高度ポリテクセンター

- 〒 千葉県千葉市美浜区若葉3-1-2
- ☎ 043-296-2582
- ✉ kodo-poly02@jeed.go.jp



公式サイト

在職者向け研修（能力開発セミナー）のご案内

主催（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構高度訓練センター（高度ポリテクセンター）

航空機部品の 熱処理技術と 品質管理実践



【対象】

各種製品の製造業務に従事する方

- ・航空機・同附属品製造企業様
- ・航空機分野へ参入をご検討中の企業様、ご興味をお持ちの企業様
- ★他分野の製造企業様にもお役立ちいただける内容です

受講料 33,000 円

定員 10 名

日時 令和 8 年 11 月 18 日、19 日、20 日 9:15~16:00

会場 ポリテクセンター関東（神奈川県横浜市南希望ヶ丘 78 番地）

※申し込みは高度ポリテクセンターへ

熱処理実習を通して、現場で活かせる実践的なスキルを習得します。

さらに、設備の構造、トレーサビリティ、規格対応など、航空機部品製造現場で求められる知識と技能を身につけ、即戦力となる技術者を育成します。

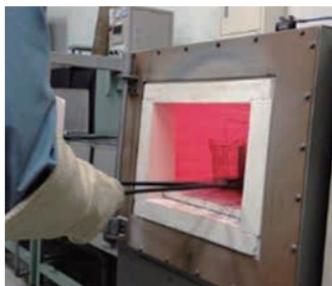
この研修は、航空機部品の熱処理加工業務に必要な職業能力と、習得に必要な訓練要素を体系的に整理し、現場での課題解決に役立てられる内容です。

航空機・同附属品製造企業様はもちろん、参入をご検討中の企業様や、航空機・同附属品製造に携わっていない企業様の従業員の人材育成にもおすすめです。この機会にぜひご受講ください。

講師

株式会社上島熱処理工業所

坂田 玲璽 氏



内容

1. 航空機に必要な安全確保
2. 金属材料の基礎
3. 熱処理技術
4. 熱処理実習
焼入れ・焼戻し・焼ならし・焼なまし
硬さ・組織評価などの基本技術
5. 航空機部品の熱処理の概要
炉構造、温度管理、プロセス記録とトレーサビリティ
6. 熱処理プロセスと設備管理
炉や熱電対の校正・定期メンテナンス
7. 品質管理と規格対応
NADCAP/AMS 規格の概要と実務対応

※当日の進行状況により変更される場合がありますので、予めご了承願います

お問い合わせ／お申込みは



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構千葉支部

高度ポリテクセンター

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 3 丁目 1 - 2
TEL : 043-296-2582 FAX : 043-296-2585

高度ポリテクセンター



オーダーメイド型セミナーのご案内

こんなお悩みはありませんか？

- ・公開中のセミナーは日程が合わない・・・
- ・自社の実情や目的に合った研修を実施したい！
- ・研修の成果をすぐに仕事に役立てたい！
- ・社内に講師がいない、機器・場所がなくて研修ができない・・・



当社向けに既存のコースをアレンジしてもらいたい・・・

シーガル社 社員研修担当
海猫さん

オーダーメイドのセミナーのご提案（10名様から）

企業や事業主団体のご要望に応じた、オーダーメイド型のセミナーも実施しています。開催日（平日・休日）や日数、訓練時間数（12時間以上）、受講者数（原則10名以上）のほか、人材育成の要望に沿った形で、訓練カリキュラムをカスタマイズして、セミナーを実施することもできます。

オーダーメイド型 セミナー計画の ポイント	ポイント1	コースガイドに掲載しているコースを基本に内容、訓練時間数、受講定員などをアレンジしてオーダーメイド型セミナーとして実施できます。コースガイド掲載コース以外に、貴社の課題や目標に応じた訓練カリキュラムをご提案することもできます。
	ポイント2	企業様へ出張実施も可能です（訓練機器等の制約があります）。オンラインによる実施についても一部対応が可能です。
	ポイント3	実施人数は、原則10名以上となります。（協力会社、系列会社の合同実施でも可能です。）
	ポイント4	訓練時間は、1セミナー12時間以上（1日6時間として2日間以上）です。日程はご相談ください。
	ポイント5	受講料は、教材及び当センターが定める諸経費を含めてご提示します。

ご相談から実施までの流れ

お問い合わせ（初めての場合は電話をお勧めします）

ご相談対応（コース内容、日程、受講者数など）

内容、日程、受講者数の仮決定→受講料見積額の提示

内容、日程、受講者名簿の確認・了解→実施決定（4週間前）

請求書、受講票の送付（3週間前）

指定銀行口座への受講料振込（15日前）

セミナー実施

- 受講料見積額提示後、受講人数を変更する場合、お一人様当たりの受講料は変わります。
- 受講者名簿をご提示いただいた後、受講人数の変更はお受けできません。請求受講料を全額ご負担いただくこととなりますので、予めご了承ください。（受講者の変更は可能です）
- 経理処理などの都合により15日前に振込ができない場合はご相談ください

三波工業株式会社 代表取締役社長 萩原 清司 様

神奈川県横浜市金沢区福浦一丁目 12-12 ▶ <https://www.sampa.co.jp/>

設立：1946年（昭和21年）11月3日

事業内容：(1) 艦艇用電子機器の艦装支援および保守整備 (2) 航空機用電子機器の保守整備 (3) 船舶および地上用電子機器の装備ならびに保守整備 (4) レーザ応用機器および特殊電子機器の開発・設計・製造 (5) システムエンジニアリング

受講コース：（能力開発セミナー）

電子回路の計測技術、デジタル回路設計技術、旋盤精密加工技術、精密形状測定技術、生産現場の機械保全技術、空気圧実践技術、油圧実践技術ほか

代表取締役社長 萩原清司 様にお話を伺いました。



Q 御社の特徴や強みはどんなところですか。

三波工業株式会社は、3つの波（電波・音波・磁波）を司る装備品に関する業務を行うことを目的として設立された会社です。

主に自衛隊向けの電子機器に特化した事業展開と、その分野で長年にわたり培われた高度な技術力と迅速なメンテナンス体制が大きな特徴・強みになります。

設計・製造からフィールドエンジニアリング（メンテナンス・整備）までを一貫して担っており、製品ライフサイクル全体をサポートし、お客様である自衛隊を通じ我が国の安全に寄与しています。

Q 能力開発セミナーを利用しようと思ったきっかけと利用してみた感想はいかがですか。

能力開発セミナーは、20年以上前から利用しています。新しい事業に必要な知識を学ぶために活用させていただいております。

様々な分野の高度な専門技術を1から学ぶためには労力が必要ですが、段階的・体系的に丁寧に教えて頂き、新しい事業への第一歩として色々な部署で役に立っていると感じています。

Q セミナーを受講した社員の方の感想などはいかがでしたか。

受講した社員の感想は、非常に好評であり、内容的にわかりやすく、受講したセミナーだけでなく他の講義も受講したいとの声や、自分自身忘れかけていたことを復習できたとの声が聞かれました。当初の目的は達成できたと感じました。

Q セミナーを受講した社員の方に変化はありましたか。

技術的な面のスキルアップはもちろんですが、新しい分野への知見の習得に意欲を感じるようになりました。身近にこういったセミナーを受講できることを認識できたことが大きいと思います。

Q 御社の人材育成の理念や方針はどういったものでしょうか。

『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、誉めてやらねば、人は動かじ』を基本に、技術者として必要な好奇心や情熱を引き出すように心がけています。

Q ポリテクセンター関東に期待すること、要望などをお聞かせください。

新しい事業や既存技術スキルアップの社外教育の場として、様々なカリキュラムの提供をお願いいたします。



訓練を受講された木村様、長嶋様に、受講の感想をお伺いしました。

Q 会社の部署、業務などを教えてください。

【艦艇部門 木村 様】

艦船装備品の各種の電源装置や、レーダー受信機や通信機器、艦装品の電源に関する整備、調整、故障診断、修理などを担当しています。

【航機部門 長嶋 様】

航空機の無線機などの通信機器の修理・メンテナンスを担当しています。定められた検査規定に基づき、検査手順書を作成し、修理し、動作確認を実施しています。

Q 受講してみていかがでしたか。

木村 様「オシロスコープをはじめとした測定計測器を目的に合わせて適切に選択し、電子回路の特性を正確に調べる方法と、不具合の原因を見つけるために、計測結果が何を示しているか判断するポイントを、実例を交えて詳しく教えてもらったので理解が深まりました。理論を正確に理解することが大切だと感じました。

デジタル回路設計では、デジタル回路設計ソフトを使用して、回路を設計する手法を学びました。」

長嶋 様「電気回路の構成や測定関連機材（直流安定化電源、オシロスコープ、ファンクションジェネレータ）の活用方法、測定における注意点など、職場で必要な知識を得ることができました。

また、デジタル回路設計では、デジタル回路設計ソフトを用いながら、回路設計の手順（論理記号や論理式と実際のICなどの動作）について学習し、7セグメントLEDなどを使った実習基板で、適切に信号を伝達できているのか確認することができました。」

Q 今回のセミナーで学んだことを今後の仕事にどう活かしていきたいですか。

木村 様「例えば、リップルなど、いままで現象として捉えていただけだった電気・電子回路特性を原理や発生する原因から知ることができました。

実機を検査する際に、不具合箇所を早く的確に見つけ出し、機器の状態を正確に把握して、時間をかけずに正常な状態に修正・修理できるようになりたいです。」

長嶋 様「今回のセミナーはオシロスコープを使う機会が多々あり、弊社の専門分野に直結する内容でした。

より正確な検査を行うために、今回学んだ計測器の操作や注意事項を念頭に置いて、今後の仕事につなげていきたいです。また、ベテランの先輩に相談する際に的確な質問ができるようになりたいです。」

Q 今後の抱負と、身に付けたい分野・技術などをお聞かせください。

木村 様「製品の修理やメンテナンスを極めたいです。

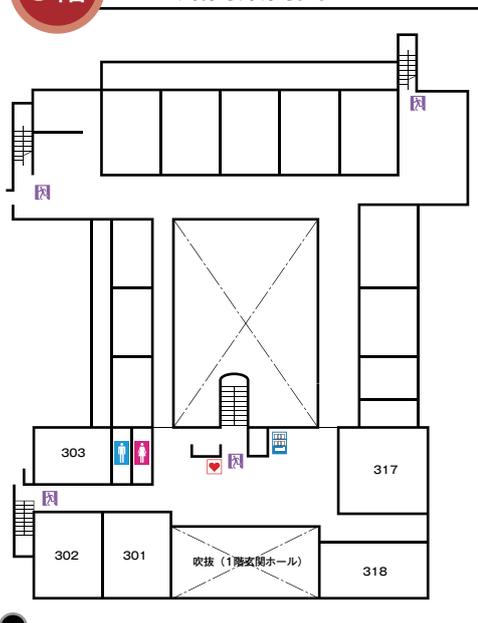
今回受講したデジタル回路設計技術をきっかけに、電気・電子回路の理解を深め、メンテナンス対象機器の特性を把握した上で、どんな機器でも修理できる広い知識・技術を身に付けたいです。」

長嶋 様「今回のセミナーは低～中周波数での実習が中心だったと認識しています。弊社では高周波数帯を扱うことが多いので、ネットワークアナライザーやスペクトラムアナライザーを使用する研修を受講したいです。」

ポリテクセンター関東 館内案内図

3階

館内案内図



館内案内図

2階



1階

館内案内図



各種助成制度のご案内

能力開発セミナーは、以下の各種助成・補助制度において、受給の対象の教育訓練となる場合があります。(助成対象の教育訓練に該当するかは、各制度の審査機関が判断します。)

受給要件の詳細、申請手続き方法などは、各お問合せ先へご相談ください。

※令和7年12月現在の情報に基づき掲載しています。
制度改正等の可能性がありますので、必ず最新の情報をご確認ください。



●秦野市 中小企業人材育成事業補助金

秦野市内において事業を営んでおり、市税等を完納している中小企業の皆様が、自社の人材育成事業計画により従業員等を研修機関へ派遣する事業及び企業内研修等講師の派遣を受ける場合の、費用の一部を補助します。

補助金額：受講料の2分の1（上限10万円）

お問合せ先 秦野市役所 環境産業部 産業振興課 TEL：0463-82-9646

●綾瀬市 ものづくり人材育成補助金（人材育成事業）

綾瀬市内で1年以上事業を営み市税等を完納している中小企業に対し、ポリテクセンター関東が実施する研修事業の費用の一部を補助します。

補助金額：受講料の2分の1以内（年間上限20万円）

お問合せ先 綾瀬市役所 産業振興部 商工振興課 TEL：0467-70-5661

●川崎市 働き方改革・生産性向上推進事業補助金（デジタル人材等育成支援）

生産性向上に向けたデジタル化等の経営課題の解決を図ることができる人材を育成するために要する経費を支援します。

※令和7年度については既に公募を終了しています。

補助金額：補助対象経費の2分の1（3分の2※）以内で1件あたり20万円（30万円※）上限

※デジタル人材の育成に係る取組については、補助上限額・補助率を拡充

お問合せ先 川崎市役所 経済労働局労働雇用部 TEL：044-200-1732

●人材開発支援助成金

職業訓練などを実施する事業主等に対して訓練経費や訓練中の賃金の一部を助成し、労働者のキャリア形成を効果的に促進する制度です。

お問合せ先 神奈川県労働局 神奈川県助成金センター TEL：045-277-8801

●雇用調整助成金

経済上の理由で事業活動の縮小を余儀なくされた事業主が、休業および教育訓練により労働者の雇用の維持を図る場合に、休業手当、賃金の一部を助成する制度です。

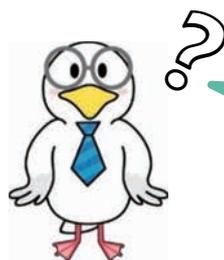
お問合せ先 神奈川県労働局 神奈川県助成金センター TEL：045-277-8815

※それぞれの対象要件、助成・補助内容等、詳細については、各お問合せ先へご確認ください。

人材育成に関する企画・提案サービス

こんなお悩みはありませんか？

- ・各職場に必要な能力は？
- ・従業員がどのような能力を持っているか？
- ・従業員に身に付けてほしい能力は？
- ・その能力を身に付けるために何をしなければならぬか？



シーガル社 人材育成担当
鴨目さん

人材育成って具体的にどうやって進めたらいいのかな。どこかに相談したい・・・

職業能力開発体系による「人材育成プラン」のご提案

計画的・効果的な人材育成のために **4つの見える化** をサポートします！



Q1 人材育成のメリットは何ですか。

従業員のスキルアップにより生産性の向上や事業の拡大が期待できます。また、従業員のモチベーションが向上し、職場定着率の向上にもつながります。

Q2 費用はかかりますか。

無料でご相談・ご提案をいたします。

Q3 どのように支援してもらえますか。

職業能力開発体系（業務に必要な職業能力と訓練カリキュラムとを体系的に整理したツール）を用いて、従業員の能力を把握し、人材育成目標と研修計画を策定します。職業訓練は当センターの能力開発セミナー等をご紹介します。



生産性向上支援訓練のご案内

生産管理、IoT・クラウド活用、組織マネジメント、マーケティング、データ活用などあらゆる産業分野の生産性向上に効果的なカリキュラムにより、企業が生産性を向上させるために必要な知識・スキルを習得する職業訓練です。

個別企業の課題に合わせてカリキュラムをカスタマイズする訓練コースや地域のニーズを踏まえた訓練コースを設定し、専門的知見を有する民間機関等に委託して実施します。

訓練分野・コース

・現場の課題を発見し、改善する方法を学びたい。
・RPAを活用して業務を自動化したい。
・テレワークを導入し業務を効率化したい。

【生産・業務プロセスの改善】

・生産現場の問題解決 ・品質管理基本/実践
・テレワークを活用した業務効率化 ・RPA活用 など

・従業員の仕事の効率化を促進したい。
・リスクを低減させる方法を学びたい。
・個人のノウハウを社内で見える化したい。

【組織マネジメント】

・組織力強化のための管理
・業務効率向上のための時間管理 など

・役割の変化への対応を学ばせたい。
・ベテラン従業員に指導の手法を学ばせたい。
・ベテラン従業員のOJTスキルを向上させたい。

【生涯キャリア形成】

・後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割
・効果的なOJTを実施するための指導法 など

・顧客満足度の向上を図りたい。
・消費者の動向を営業に活用したい。
・インターネットを活用して販売促進を図りたい。

【売上げ増加】

・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
・提案型営業手法/実践 など

・データ集計の作業を効率化したい。
・マクロを使って定型業務を自動化したい
・集客につながるHPを作成したい

【IT業務改善】

・表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
・集客につなげるホームページ作成 など

受講対象者

企業・団体の業種・規模を問わず、ご利用いただけます。

受講者は企業の従業員の方（事業主からの受講指示を受けた方に限ります。）が対象です。

実施場所

ご要望に合わせて、自社会議室等での実施が可能です。

ポリテクセンター関東の教室の利用も可能です。（空きがある場合に限りです。）

訓練時間

1コース4時間～30時間の範囲内で設定が可能です。

受講料

1コースの訓練時間に応じて、1人あたり2,200円（税込）～6,600円（税込）です。

実施方法

当センターが民間のコンサルティング会社、大学などの専門機関の中から、ご希望の訓練コース、カリキュラムの内容を踏まえて、最も適切な専門機関等を選定し委託して実施します。

ご利用の形態

次の3つの方式があります。

①オーダーコース

個別の企業または団体を対象とし、ご要望に合わせ訓練カリキュラムをカスタマイズし、企業または団体単位で訓練を実施する方式です。

②オープンコース

予め当センターが地域の企業ニーズを踏まえて訓練内容、実施日程、実施機関、実施場所等を設定して、広く企業から受講者を募集し実施する方式です。

③事業取組団体方式

事業協同組合等の事業主団体に、会員企業を対象とした生産性向上支援訓練の実施を委託する方式で、当センターが取組を支援します。（詳細内容の資料は、当センターまでご請求ください。）

【サブスクリプション型生産性向上支援訓練のご案内】

eラーニング形式により複数の訓練を2か月間定額（1人あたり税込み920円）で受講できる「サブスクリプション型生産性向上支援訓練」が令和5年度より開始されました。詳細については、当センターにお問い合わせください。

【生産性向上支援訓練に関するお問い合わせ先】

生産性向上人材育成支援センター 生産性センター業務課

TEL：045-391-2819 FAX：045-391-9699

URL：<https://www3.jeed.go.jp/kanagawa/poly/corporation/index.html>



テクノインストラクター派遣サービス

企業または事業主団体等の皆さまが実施する、人材育成・技能向上等のための社員教育や研修に、当センターの職業訓練指導員（テクノインストラクター）を講師として派遣することができます。オンラインによる遠隔での訓練指導にも一部対応しています。

※派遣費用（1時間 5,000円/人）のほか、当センターで実施の場合は以下の会議室等使用料が、当センター以外の場所で実施の場合は講師交通費等が、オンラインによる実施の場合は通信費等が、別途かかります。詳しくはお問い合わせください。

施設設備等貸出サービス

企業または事業主団体等の皆さまが実施する、人材育成・技能向上等のための研修会や講習会に、当センターの会議室、研修室等をご利用できます。

131 大会議室



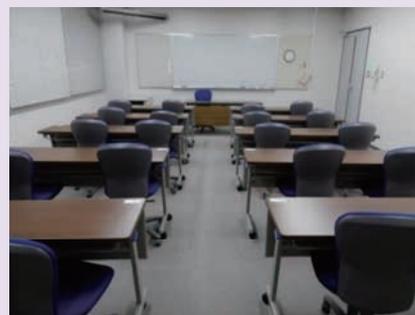
定員 78 名

201 会議室



定員 36 名

207 研修室



定員 20 名

208 研修室



定員 20 名

301 研修室



定員 36 名

多目的実習場



定員 ー

■ 利用できる日

12月29日～1月3日を除く毎日（土日祝日を含む）
ただし、当センターが使用しない日に限ります。あらかじめ空き状況をご確認ください。

■ 利用時間

平日 8:00～21:00 土日祝日 8:00～19:00

■ 駐車場

平日、土日祝日ともご利用できますが、台数が多い場合はご相談下さい。

■ 飲食施設

館内にレストランがあります。（P117「Q17. 昼食をとれる場所はありますか？」参照）

施設設備等貸出サービスの利用方法

■ 利用手続き

- ① 事前に電話で、使用目的や使用希望日の空き状況をお問い合わせください。
テクノインストラクターの派遣のご相談についても、以下の番号あてご連絡ください。
TEL:045-391-2819
- ② 仮予約が可能な期間は以下のとおりです。(令和8年6月以前のご利用については(仮予約)受付中です。)
 - i 令和8年7月から9月に利用：令和8年5月1日から仮予約開始
 - ii 令和8年10月から12月に利用：令和8年8月3日から仮予約開始
 - iii 令和9年1月から3月に利用：令和8年11月2日から仮予約開始
- ③ 仮予約後、利用日の2か月前から受付をいたしますので、所定の「施設設備使用申請書」に必要事項を記載して、当センター訓練第二課あて郵送により提出してください。
※申請用紙は、当センター Web ページ
(https://www3.jeed.go.jp/kanagawa/poly/corporation/shisetu_index.html) からダウンロードできます。
※申請書受付前の仮予約中は、当センターの都合によりご利用できなくなる場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ④ 仮予約後は速やかに施設設備使用申請書をご提出ください。仮予約後、利用日の15日前までに提出がない場合は、仮予約を取り消したものとみなします。
- ⑤ 申請書を審査し承認の場合は、「使用承諾書」と「使用料請求書」を交付します。
- ⑥ 原則として、利用日の2日前までに使用料を当センター指定口座にお振り込みください。
- ⑦ 変更・キャンセルは、原則として利用日の15日前まで可能です。これ以降の変更・キャンセルは使用料がかかりますのでご注意ください。



■ 注意事項

- ① 当センターでは利用者が主催する研修等の受付等の業務は致しかねます。
- ② 申請した使用目的以外での利用はできません。
- ③ 火気の使用は事前にご相談ください。騒音・臭気等作業安全に十分注意を払ってご利用ください。
- ④ 利用者が故意または重大な過失により当センターの設備等を破損、消失、焼失等した場合は、その損害を賠償していただきます。
- ⑤ 利用中の一切の事故については、当センターでは責任を負いかねます。
- ⑥ 利用後は、掲示物・張り紙・搬入物品等の撤去を行い、清掃・片付けをして原状回復をお願いいたします。

■ 会議室等の使用料

部屋名	面積 (㎡)	定員 (人)	使用料(税込み) (1時間当たり:円)		室内設置設備
			5月～10月	11月～4月	
131 大会議室	183.41	78	1,000	1,400	BDプレイヤー、プロジェクター、書画カメラ(HDMIケーブル有)、マイク
201 会議室	87.55	36	800	1,250	プロジェクター、書画カメラ(HDMIケーブル有)
207 研修室	54.42	20	500	750	
208 研修室	56.79	20	500	750	
209 研修室	54.42	20	500	750	
301 研修室	91.12	36	650	950	プロジェクター、書画カメラ(HDMIケーブル有)
多目的実習場(1階)	約150	-	1,350	1,250	

設備名	使用料(税込み) (1時間当たり:円)
BDプレイヤー	50
プロジェクター	50
書画カメラ	50
マイク	50

- ① 1時間当たり350円の警備員費が別途かかります。
- ② 料金には消費税及び地方消費税が含まれています。
- ③ 施設使用料には5～10月は冷房費、11～4月は暖房費が含まれています。
- ④ DVDプレイヤーにはモニターの使用料が含まれています。
- ⑤ BDプレイヤー、プロジェクター、書画カメラにはスクリーンの使用料が含まれています。
- ⑥ 金額が改定になることがありますのであらかじめご了承ください。上記の金額は、令和8年4月現在の金額を表示しています。

室内に設置されていない機材は、別途貸出となります。当日の貸出し予約状況等を事前にお問い合わせください。

【テクノインストラクター派遣／施設設備等貸出サービスに関するお問い合わせ先】

生産性向上人材育成支援センター 訓練第二課

TEL:045-391-2819 FAX:045-391-9699

URL:<https://www3.jeed.go.jp/kanagawa/poly/corporation/index.html>



訓練受講生への求人のご案内

～企業と受講生とのマッチングをお手伝いします～

当センターでは、求職者の方々を対象に再就職に必要な知識・技能を習得するための職業訓練を実施しています。訓練内容は、ものづくりを中心に地域の人材ニーズに対応した多様な職業訓練を設定し、令和 8 年度には約 600 名の職業訓練を実施予定です。

訓練内容

一般訓練



ポリテクセンター関東が行う訓練の特徴

★ものづくり分野で必要な知識・技能・技術の習得はもちろん現場での対応力・実践力を重視した訓練を行っています。



★実技を重視した実践的なカリキュラムにより「わかる」から「できる」ところまでサポートしています。

導入訓練付訓練

導入訓練



住宅リフォーム
技術科

導入訓練とは、社会人として仕事を行っていくうえで、また、実践的な訓練を円滑に受講するために必要な基礎力を高める訓練です。

企業実習付訓練

導入訓練



ビル管理
技術科

導入訓練



システム・
エンジニア科

・おおむね 55 歳未満の方対象
・導入訓練と企業実習を実施

求人票の提出について

求人票をご提出いただく場合は、当センターのホームページから求人票の様式〔ハローワーク求人票（写）でも可能〕をダウンロードしていただき、貴社の求人条件をご記入のうえ、貴社の会社概要と一緒に郵送もしくは FAX にてご送付ください。

「求職者人材情報誌」の送付申込みについて

受講生の希望職種・職務経験・アピールポイント・免許／資格などをまとめた冊子を、原則各訓練修了 3 か月前に発行しています。「求職者人材情報誌」をご希望の場合は、当センターのホームページから「求職者人材情報誌送付依頼書」をダウンロードしていただき、必要事項をご記入のうえ、求人票・会社概要と一緒に郵便もしくは FAX にてお申し込みください。

企業実習生の受け入れのお願い

当センターでは、おおむね 55 歳未満の方を対象に施設内での訓練と企業実習を組み合わせた訓練を実施しています。7 か月間の訓練期間中のうち一定期間、企業実習生として受講生を受け入れていただける企業を募集しています。企業実習生を受け入れていただくことによって、実習を通して人柄や特性を確認し、採用をご検討いただくこともできます。企業実習生の受け入れへのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

システム・エンジニア科

8月開講（企業実習1月）
2月開講（企業実習7月）

ビル管理技術科

6月開講（企業実習11月）
12月開講（企業実習5月）

企業実習付職業訓練の概要

- 1 受講生は、当センターで、訓練の関連職種に必要な専門的な知識・技能・技術を身に付けます。
- 2 訓練期間中に受講生と職員が相談のうえ、企業実習先を選定します。その後企業へ依頼し、実習の委託契約を結び、一定期間の企業実習を行います。
- 3 企業実習の後、再度当センターにおいて実習のまとめ振り返りを行い、即戦力へのフォローアップを行います。

◆システム・エンジニア科

導入訓練 1 か月 → 施設内訓練 4 か月 → 企業実習 19 日 → フォローアップ（施設内）訓練

◆ビル管理技術科

導入訓練 1 か月 → 施設内訓練 4 か月 → 企業実習 18 日 → フォローアップ（施設内）訓練

企業実習実施の流れ

実習先の選定

受講生と職員が相談のうえ、企業実習先を選定します。

実習受入依頼

選定した希望実習先企業に対し、職員が実習受入依頼を行います。

契約締結

受入の承諾が得られ次第、委託料等を定めた契約書を作成し、締結します。

企業実習

職員が実習先企業を訪問し、企業実習の実施状況を確認します。

委託費ほかについて

- 委託契約を締結していただき、これに基づき委託費をお支払いします。
- 企業実習生への賃金、交通費等の支払いは不要です。
- 企業実習生は、当センターの負担により労働者災害補償保険に加入します。



【求人・企業実習生受け入れに関するお問い合わせ先】

訓練第一課

TEL : 045-391-2848 FAX : 045-391-9699

URL : <https://www3.jeed.go.jp/kanagawa/poly/training/ability-02.htm>

Web サイトに詳しい情報がありますのでご覧ください。



ポリテクセンター関東

検索



Webによる能力開発セミナー情報の検索

ポリテクセンター関東のWebサイトでは、最新の能力開発セミナーコース情報が確認できます。
<https://www3.jeed.go.jp/kanagawa/poly/seminar/index.html>





独立行政法人高砂・神宮・求職者雇用支援機構神奈川支部
 関東職業能力開発促進センター
ポリテクセンター関東

求職者の方へ
在職者の方へ
事業主の方へ
利用者の声

ハートレーニング ～急がば学べ～

新たなスキルアップにチャレンジするすべてのみなさんをサポートする、
 「公的職業訓練」の「愛称」と「キャッチフレーズ」です。

こちらをクリック！



求職者向け職業訓練

再就職のための職業訓練を無料で実施しています。



**在職者向け職業訓練
(能力開発セミナー)**

人材育成・スキルアップのための職業訓練を実施しています。



**求職者支援制度による職業訓練
(都道府県支部)**

求職者支援訓練の実態を検討している機関の方はこちらをご覧ください。



生産性向上人材育成支援センター

事業主の皆様が行う生産性向上に向けた人材育成を支援しています。

申込方法も確認できます！

能力開発セミナーの申し込み、訓練内容等について

- 令和7年度（4月～3月）に開催するコースの受講申込を受付中です。開催日の21日前まで申し込みできます。
- 利用された訓練内容はこちらをご覧ください

お申し込み方法 >

よくあるご質問 >

オーダーメイド型セミナー >

交通のご案内、お問い合わせ >

訓練内容の詳細や最新の申し込み受付状況を確認できます！

コース番号	コース名	開催日程	実施期間	状況	備考
04211	産別女性社員（若手育成）	4/23	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
04211	産別女性社員（若手育成）	4/7,8	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
04211	産別女性社員（若手育成）	4/7,8	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
01011	産別女性社員（若手育成）	4/9,10	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
04211	産別女性社員（若手育成）	4/10,11	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
03911	産別女性社員（若手育成）	4/10,11	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：株式会社M&Eコンサルティング 講師
04211	産別女性社員（若手育成）	4/14,15	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：株式会社M&Eコンサルティング 講師
01711	産別女性社員（若手育成）	4/18,18	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
04211	産別女性社員（若手育成）	4/17,18	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
04411	産別女性社員（若手育成）	4/17,18	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
04411	産別女性社員（若手育成）	4/21,22	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：ポリテクセンター-群馬 講師
04211	産別女性社員（若手育成）	4/23,24	ポリテクセンター-群馬	終了しました	申込講師：株式会社M&Eコンサルティング 講師

各種様式もこちらからダウンロードできます！

1. 受講申し込み

「受講申込書」に必要な事項をご記入の上、メールまたはFAXでお送りください。

- 受講申込書 (Excelファイル) (15.23 KB)
- 受講申込書 (PDFファイル) (168.37 KB)

※ 申込書受付後、受講の可否（「受講可能」または「キャンセル待ち」）をメールまたはFAXでご連絡いたします。原則受付から3日以内に連絡いたしますが、連絡がない場合は、お問合せください。

※ 申し込み締め切りは開催日21日前です。ただし、締め切り後も受け入れ可能なコースもありますので、お問合せください。

(独)高齡・障害・求職者雇用支援機構 関東圏の訓練施設一覧



- | | | | |
|---|--|------------|--------------------|
| ① | ポリテクセンター群馬 (群馬職業能力開発促進センター)
〒370-1213 群馬県高崎市山名町 918 | ポリテク群馬 | 検索 |
| ② | ポリテクセンター栃木 (栃木職業能力開発促進センター)
〒320-0072 栃木県宇都宮市若草 1-4-23 | ポリテク栃木 | 検索 |
| ③ | ポリテクセンター茨城 (茨城職業能力開発促進センター)
〒303-0033 茨城県常総市水海道高野町 591 | ポリテク茨城 | 検索 |
| ④ | ポリテクセンター埼玉 (埼玉職業能力開発促進センター)
〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山 2-18-8 | ポリテク埼玉 | 検索 |
| ⑤ | ポリテクセンター山梨 (山梨職業能力開発促進センター)
〒400-0854 山梨県甲府市中小河原町 403-1 | ポリテク山梨 | 検索 |
| ⑥ | ポリテクセンター関東 (関東職業能力開発促進センター)
〒241-0824 神奈川県横浜市旭区南希望が丘 78 | ポリテク関東 | 検索 |
| ⑦ | 高度ポリテクセンター (千葉職業能力開発促進センター高度訓練センター)
〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 3-1-2 | 高度ポリテク | 検索 |
| ⑧ | ポリテクセンター千葉 (千葉職業能力開発促進センター)
〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町 274 | ポリテク千葉 | 検索 |
| ⑨ | ポリテクセンター君津 (千葉職業能力開発促進センター君津訓練センター)
〒299-1142 千葉県君津市坂田 428 | ポリテク君津 | 検索 |
| ① | 関東職業能力開発大学校 (関東ポリテクカレッジ)
〒323-0813 栃木県小山市横倉 612-1 | 関東ポリテクカレッジ | 検索 |
| ② | 千葉職業能力開発短期大学校千葉校 (ポリテクカレッジ千葉 千葉キャンパス)
〒260-0025 千葉県千葉市中央区問屋町 2-25 | ポリテクカレッジ千葉 | 検索 |
| ③ | 千葉職業能力開発短期大学校成田校 (ポリテクカレッジ千葉 成田キャンパス)
〒286-0045 千葉県成田市並木町 221-20 | ポリテクカレッジ千葉 | 検索 |
| ④ | 港湾職業能力開発短期大学校横浜校 (港湾カレッジ)
〒231-0811 神奈川県横浜市中区本牧ふ頭 1 | 港湾カレッジ | 検索 |

お申し込みから受講までの手続きの流れ

受付期間

令和8年2月16日(月)午前9時00分から受付開始

- 先着順での受付となります。
※上記受付開始日以前にお送りいただいた申込書は、開始時間との差分を加算した時間に受理したものとみなします。
- **申し込み締め切りは開講日21日前です。**
- 申込者数に制限は設けませんが、原則1コース(コース番号毎)あたり**1社3名まで**としています。
3名を超えたお申し込みについては、開講日15日前にコースに空きがある場合、別途ご連絡いたします。

申し込みから受講まで

1 受講申し込み

- 「受講申込書 (P119)」に必要事項をご記入の上、メールまたはFAX(郵送・持参も可)でお送りください。
 - 申し込み締め切りは開講日21日前です。
ただし、締め切り後も受け入れ可能なコースもありますので、お問合せください。
- ※令和8年度途中より、全国統一のWeb受付システムが稼働する予定です。詳しくは、ホームページ上でお知らせする予定です。

2 受講決定

- 申込書受付後、受講の可否(「受講可能」または「キャンセル待ち」)をメールまたはFAXでご連絡いたします。原則受付から3日以内に連絡いたしますが、連絡がない場合は、お問合せください。
- 受講者に空きが出たらキャンセル待ち順にご連絡いたしますが、開講日15日前までに連絡がない場合は受講が難しいものをご了解ください。
- 他日程と重複してお申込みいただくことは可能です。「キャンセル待ち」から「受講可能」になった時点で重複申込コースの「取消届」をご提出いただけます。

3 受講者の変更・申込キャンセル(取消)

- 受講者の変更は、開講日前日まで対応できます。開講日の前日(土日祝日にあたる場合はその前の平日)までに、「受講者変更・取消届 (P121)」に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでお送りください。
- 申し込みのキャンセル(取消)をしたい場合は、開講日の15日前(土日祝日にあたる場合はその前の平日)までに、「受講者変更・取消届 (P121)」に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでお送りください。それ以降の取消やキャンセルのご連絡がない場合は受講料をご負担いただけます。

コースの中止・日程変更について

- コース開講日の約1か月前の時点で、申込人員が催行決定数に達していない場合は、中止とさせていただきますので、予めご了承の上、お申し込みください。
- 講師都合、災害、疾病等により、コース開講直前や開講途中に中止とさせていただきますので、予めご了承の上、お申し込みください。
- コースを中止した場合には、お支払い済みの受講料は指定口座あて返金いたします。一部を中止した場合には当センターの規定に基づき所定の金額を指定口座あて返金いたします。* ご負担いただいた振込手数料は対象外です。
- やむを得ない事情により日程を変更する場合があります。変更した日程での受講が出来ない場合には、お支払い済みの受講料は指定口座あて返金いたします。* ご負担いただいた振込手数料は対象外です。

申し込みから受講まで

4 請求書・受講票の送付

- コース開講月の前月上旬に「請求書」「受講票」を送付します。

5 受講料のお支払い

- 開講日15日前までに、請求書明記の銀行口座に受講料をお振込みください。
- 振込手数料はご負担願います。現金でのお支払いはできません。

6 受講日当日

- 開催時間は9:15~16:00（昼休憩45分間）です。一部時間が異なるコースもありますので各コース詳細ページをご確認ください。
- 「受講票」「筆記用具」及び各コース指定の持ち物をご持参ください。
- 正面玄関1階の館内案内図で場所を確認し、直接教室へお越しください。
- 受講後、所定の出席時間（2日コースは12時間、3日以上コースは総訓練時間の80%）を満たした受講者に、職業能力開発促進法に定める修了証書を交付します。

アンケート調査へのご協力をお願い

受講者及びその事業主の方を対象に、受講されたセミナーに関する満足度や改善要望等のアンケートを行っています。一部のコースでは、セミナーで学んだ内容の会社での活用状況もお聞きしています。今後のコース設定の参考にいたしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

よくあるご質問 FAQ

1 受講申し込みについて

Q1 受講を申し込む際の条件は？

- 在職中の方や、能力向上をめざす方であればどなたでも受講できます。
- 受講に必要な知識・技能レベル等の条件を設定しているコースもありますので、各コース詳細ページ(P16～97)の「受講対象者」欄をご確認ください。

Q2 神奈川県外に住んでいますが、受講できますか？

- 居住地による制限はありません。

Q3 希望するコースの受講申込者数が定員に達している場合は？

- 「キャンセル待ち」としてお申し込みを受け付けることができます。空きが出た時点で順次ご連絡いたします。コース開講15日前までに連絡がない場合は、受講は難しいものとご了承願います。
- 他日程に重複してお申込みいただくことは可能ですが、キャンセル待ちから受講可能となった際には重複コースの「受講者変更・取消届」(Q6参照)をご提出ください。

2 受講料について

Q4 受講料の支払い方法は？

- 開講月前月上旬に振込先を明記した請求書を送付しますので、開講日の15日前までに指定の銀行口座に受講料をお振込みください。なお、開講月前月上旬以後にお申込みいただいた際は順次請求書を送付いたします。
- 振込手数料はご負担願います。現金でのお支払いはできません。

3 変更・キャンセル(取消)について

Q5 申し込んだ後で受講者を変更することはできますか？

- 受講者の変更は、コース開講日の前日まで対応できます。
- コース開講日の前日(土日祝日に当たる場合はその前の平日)までに「受講者変更・取消届」(P121)をメールまたはFAXでお送りください。

Q6 申し込んだコースをキャンセル(取消)したい場合は？

- コース開講日の15日前(土日祝日に当たる場合はその前の平日)までに「受講者変更・取消届」(P121)をメールまたはFAXでお送りください。
- コース開講日の15日前までに届の提出がなされない場合、受講料の全額をご負担いただけます。
- 支払済みの受講料を他のコースや別日程のコースへ振り替えることはできませんので、ご了承願います。

Q7 申し込んだコースを別のコースに変更できますか？

- まず「受講者変更・取消届」(P121)で申し込んだコースをキャンセル(取消)し、その後、改めて受講申込書(P119)をお送りください。

4 中止・日程変更について

Q8 申し込んだコースが中止になったり、日程が変更になることはありますか？

- コース開講日の約1か月前の時点で、申込人員が催行決定数に達していない場合は、中止とさせていただく場合があります。
- コースを中止した場合にはお支払い済みの受講料は指定口座あて返金いたします。一部を中止した場合には当センターの規定に基づき所定の金額を指定口座あて返金いたします(ご負担いただいた振込手数料は対象外です)。
- やむを得ない事情により日程を変更する場合があります。変更した日程での受講が出来ない場合には、お支払い済みの受講料は指定口座あて返金いたします(ご負担いただいた振込手数料は対象外です)。

Q9 開講直前や開講途中で中止になることもありますか？

- 講師都合、風水雪害・大規模地震等の自然災害の発生、予期せぬ事故・災害の発生、疾病の発生等により、コース開講直前や開講途中で中止させていただくことがあります。
- コースの中止や日程変更に係る返金の取り扱いはQ8のとおりです。

5 受講について

Q10 車で行っても大丈夫ですか？

- 無料の駐車場（80台）が利用できます。駐車スペースを確保するものではありません。駐車できない場合もありますので、ご了承ください。

Q11 セミナー会場（ポリテクセンター関東）に宿泊施設はありますか？

- ありません。宿泊を希望される場合は、各自で手配をお願いします。

Q12 受講する際の服装は？

- 特に決まりはありませんが、作業に適した服装及び靴を推奨します。なお、各コース詳細ページの“受講者持参品”欄に、作業服等の指定がある場合は持参してください。
- 感染症対策のため、室内換気を増やしていますので、教室内の冷暖房効果が低下することが想定されます。ご自身で衣服や水分補給などによる体温調節を行っていただくようお願いします。
- 更衣室はセミナー会場（教室）で担当講師がご案内します。

Q13 セミナー会場（教室）へはどう行けばいいのですか？

- 正面玄関1階の館内案内図で場所を確認し、直接教室へお越しください。

Q14 テキストは販売していますか？

- 販売はしていません。なお、テキスト代は、コース受講料に含まれています。

Q15 コースのカリキュラム内容や、テキストを確認することはできますか？

- カリキュラム内容は、各コース詳細ページ（P16～97）に掲載しています。テキストの確認はできません。
- さらに詳しいカリキュラム内容についてのご質問は、お電話（TEL：045-391-2819）でお問い合わせください。
- テキストは開講当日に配付しますので、事前にテキストの内容の確認はできません。

Q16 申し込んだコースを全日程欠席した場合、テキストはもらえますか？

- テキスト送付をご希望の方はお電話（TEL：045-391-2819）でご連絡ください。ただし、受講料をお支払い済みの場合に限りです。

Q17 昼食をとれる場所がありますか？

- 館内にレストランがあります(平日のみ営業)。持参の弁当などは各階の飲食可能なスペースでお召し上がりいただけます。

Q18 セミナー会場写真・動画の撮影や、録音をしてもいいですか？

- 受講中の写真・動画の撮影、録音等は原則お断りしておりますので、ご了承ください。(訓練の受講に当たって障害者差別解消法に基づく合理的配慮が必要な場合、その他やむを得ない事由により、事前に訓練を実施する施設の職員の許可を得た場合を除く。)

Q19 コースの受講証明などはありますか？

- 所定の出席時間を満たした受講者に限り、職業能力開発促進法に定める修了証書を交付します。
- 2日間（総訓練時間が12時間）のコースについては、全12時間の出席、3日間以上のコースについては、総訓練時間の80%以上の出席で、修了証書を交付します。
- 修了証書の再発行はできませんので、各種助成金等申請のための受講証明書類に使用される場合は、大切に保管してください。

Q20 領収書を発行してもらえますか？

- 領収書をご希望の際は、お電話（TEL：045-391-2819）でご連絡ください。その際、コース番号、コース名、受講者名、領収書の宛名（受講者本人または所属企業名）についてお知らせください。
- 領収書の発行に当たり、宛名の確認のため、所属企業の名刺等をご提出いただくことがあります。

能力開発セミナー受講申込書

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部 関東職業能力開発促進センター所長 殿
能力開発セミナーについて、訓練内容を確認の上、下記のとおり申込みます。

※当センター処理欄

●受講申込コース

コース番号	コース名	開講日	ふりがな	生年月日 性別(該当に☑) (属性情報に利用します)	受講者の就業状況 (該当に☑)【*1】 訓練に関連する 経験・技能等【*2】	申込結果 (※当センター処理欄)
			受講予定者氏名			
1	H0112 実践建築設計2次元CAD 技術【機器:Jw_cad 8.22】	2月11日	しえん いちろう	西暦 1995年 11月11日生 ☑男 ☐女	☑正社員 ☐非正規雇用 ☐その他(自営業等) 機械設計7年	☐受講可能 ☐キャンセル待ち(番)
			支援 一郎	西暦 年		
2						☐受講可能 ☐キャンセル待ち(番)
3		月 日		月 日生 ☐男 ☐女	☐非正規雇用 ☐その他(自営業等)	☐受講可能 ☐キャンセル待ち(番)

氏名・生年月日は「修了証書」に記載されますので、記入もれや間違いがないよう、よくご確認の上、記載して下さい。

【*1】非正規雇用とは、一般的にパート、アルバイト、契約社員などが該当しますが、さまざまな呼称があるため、貴社・ご自身の判断で記入して構いません。
【*2】訓練を進める上での参考としますので、申し込むコースの内容に関連した職務経験、資格、教育訓練受講歴などをお持ちの方は差し支えない範囲で記入して下さい。(例: 切削加工5年)
●記入者情報 (個人でのお申込みの場合、*印のある欄のみご記入ください。)

申込区分*	<input checked="" type="checkbox"/> 会社からの申込み【*3】 <input type="checkbox"/> 個人での申込み(いずれかに☑チェックしてください)			
法人名	株式会社▲▲製作所	事業所名 横浜事務所		
法人番号	(法人番号がない場合は、以下の該当に○印) 1. 団体、2. 個人事業主、3. 個人			
所在地* 個人の方は住所	〒 241 - 08□□ 横浜市旭区南●●丘1-2-3 <個人申込の方は、自宅等郵便送付先住所をご記入下さい>			
従業員数	<input type="checkbox"/> A.1~29 <input type="checkbox"/> B.30~99 <input checked="" type="checkbox"/> C.100~299 <input type="checkbox"/> D.300~499 <input type="checkbox"/> E.500~999 <input type="checkbox"/> F.1000~ (いずれかに☑チェックしてください)			
担当者 及び 連絡先	ふりがな*	のうりよく はなこ	所属部署 役職	総務部人材育成課 担当課長
	氏名*	能力 花子	FAX*	045-●●●-●●●●
	TEL*	045-●●●-●●●●		
	E-mail*	nouryoku@■■■.com		

●該当する業種にチェックを入れて下さい。

農業、林業	<input checked="" type="checkbox"/> 電機・ガス・熱供給・水道業	不動産業、物品賃貸業	医療、福祉
漁業	情報通信業	学術研究、専門・技術サービス業	複合サービス事業
鉱業、採石業、砂利採取業	運輸業、郵便業	宿泊業、飲食サービス業	サービス業
建設業	卸売業、小売業	生活関連サービス業、娯楽業	公務
製造業	金融業、保険業	教育、学習支援業	分類不能の産業

●セミナー申込にあたり(該当にチェックを入れて下さい)

- (1) 以前から当センターをご存じでしたか。 1. はい 2. いいえ
 (2) 当センターをどのようにしてお知りになりましたか。

<input type="checkbox"/> 1. Web検索	<input type="checkbox"/> 6. 所属企業(上司・同僚)からの紹介
<input checked="" type="checkbox"/> 2. セミナーパンフレット	<input type="checkbox"/> 7. 所属団体からの紹介(団体名:)
<input type="checkbox"/> 3. ダイレクトメール	<input type="checkbox"/> 8. 知人からの紹介
<input type="checkbox"/> 4. 展示会(展示会名:)	<input type="checkbox"/> 9. 担当講師・職員からの紹介
<input type="checkbox"/> 5. メルマガ	<input type="checkbox"/> 10. その他()

R8PZ

(注) 訓練内容等のご不明な点、あるいは安全面・健康上においてご不安な点などございましたら、あらかじめご相談ください。

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構は「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号)を遵守し、保有個人情報を適切に管理し、個人の権利利益を保護いたします。
- ご記入いただいた個人情報については、能力開発セミナーの受講に関する事務処理(各種連絡、修了証書交付、修了台帳の整備、アンケート送付等)及び業務統計、当機構の能力開発セミナーや関連するイベント等のご案内に使用されるものであり、それ以外に使用することはありません。申込区分欄で「会社からの申込み」を選択された場合は申込担当者様宛に送付いたします。
→今後、当機構の能力開発セミナーや関連するイベント等のご案内を希望しない場合は、右欄にチェックを入れてください。 希望しない
- 本申込書が当センターに到着後、受講の可否について返信いたします。
※送信後、3日以内に返信がない場合は、電話にてお問合せください。

E-mail : kanto-poly03@jeed.go.jp
送信先FAX番号 : 045-391-9699

能力開発セミナー受講申込書

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部 関東職業能力開発促進センター所長 殿
能力開発セミナーについて、訓練内容を確認の上、下記のとおり申込みます。

※当センター処理欄

●受講申込コース

コース番号	コース名	開講日	ふりがな		生年月日 性別 (該当に☑) (属性情報に利用します)	受講者の就業状況 (該当に☑)【*1】 訓練に関連する 経験・技能等【*2】	申込結果 (※当センター処理欄)
			受講予定者氏名				
1		月 日			西暦 年 月 日生 ☐男 ☐女	☐ 正社員 ☐ 非正規雇用 ☐ その他(自営業等)	☐ 受講可能 ☐ キャンセル待ち(番)
2		月 日			西暦 年 月 日生 ☐男 ☐女	☐ 正社員 ☐ 非正規雇用 ☐ その他(自営業等)	☐ 受講可能 ☐ キャンセル待ち(番)
3		月 日			西暦 年 月 日生 ☐男 ☐女	☐ 正社員 ☐ 非正規雇用 ☐ その他(自営業等)	☐ 受講可能 ☐ キャンセル待ち(番)

【*1】非正規雇用とは、一般的にパート、アルバイト、契約社員などが該当しますが、さまざまな呼称があるため、貴社・ご自身の判断で記入して構いません。
【*2】訓練を進める上での参考としますので、申し込むコースの内容に関連した職務経験、資格、教育訓練受講歴などをお持ちの方は差し支えない範囲で記入して下さい。(例：切削加工5年)

●記入者情報 (個人でのお申込みの場合、*印のある欄のみご記入ください。)

申込区分*	<input type="checkbox"/> 会社からの申込み【*3】 <input type="checkbox"/> 個人での申込み (いずれかに☑チェックしてください) <small>【*3】会社からの申込みを選択された場合は、受講後所属する会社の代表者の方(事業主、営業所長、工場長等)にアンケート調査へのご協力をお願いしています。</small>	
法人名		事業所名
法人番号		(法人番号がない場合は、以下の該当に○印) 1. 団体、2. 個人事業主、3. 個人
所在地* 個人の方は住所	〒 - <個人申込の方は、自宅等郵便送付先住所をご記入下さい>	
従業員数	<input type="checkbox"/> A.1~29 <input type="checkbox"/> B.30~99 <input type="checkbox"/> C.100~299 <input type="checkbox"/> D.300~499 <input type="checkbox"/> E.500~999 <input type="checkbox"/> F.1000~ (いずれかに☑チェックしてください)	
担当者 及び 連絡先	ふりがな*	所属部署 役職
	氏名*	FAX*
	TEL*	
	E-mail*	

●該当する業種にチェックを入れて下さい。

農業、林業	電機・ガス・熱供給・水道業	不動産業、物品賃貸業	医療、福祉
漁業	情報通信業	学術研究、専門・技術サービス業	複合サービス事業
鉱業、採石業、砂利採取業	運輸業、郵便業	宿泊業、飲食サービス業	サービス業
建設業	卸売業、小売業	生活関連サービス業、娯楽業	公務
製造業	金融業、保険業	教育、学習支援業	分類不能の産業

●セミナー申込にあたり (該当にチェックを入れて下さい)

- (1) 以前から当センターをご存じでしたか。 1. はい 2. いいえ
 (2) 当センターをどのようにしてお知りになりましたか。

1. Web検索	6. 所属企業(上司・同僚)からの紹介
2. セミナーパンフレット	7. 所属団体からの紹介(団体名:)
3. ダイレクトメール	8. 知人からの紹介
4. 展示会(展示会名:)	9. 担当講師・職員からの紹介
5. メルマガ	10. その他()

R8PZ

(注) 訓練内容等のご不明な点、あるいは安全面・健康上においてご不安な点などございましたら、あらかじめご相談ください。

●独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構は「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号)を遵守し、保有個人情報を適切に管理し、個人の権利利益を保護いたします。

●ご記入いただいた個人情報については、能力開発セミナーの受講に関する事務処理(各種連絡、修了証書交付、修了台帳の整備、アンケート送付等)及び業務統計、当機構の能力開発セミナーや関連するイベント等のご案内に使用するためであり、それ以外に使用することはありません。申込区分欄で「会社からの申込み」を選択された場合は申込担当者様宛に送付いたします。

→今後、当機構の能力開発セミナーや関連するイベント等のご案内を希望しない場合は、右欄にチェックを入れてください。 希望しない

●本申込書が当センターに到着後、受講の可否について返信いたします。
※送信後、3日以内に返信がない場合は、電話にてお問合せください。

E-mail : kanto-poly03@jeed.go.jp
送信先FAX番号 : 045-391-9699

記 入 例

令和 ● 年 ● 月 ● 日

能力開発セミナー受講者変更・取消届

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部 関東職業能力開発促進センター所長 殿

※当センター処理欄

(注)「開講日の15日前(土日祝日に当たる場合はその前の平日)」を過ぎてからの受講取消は、受講料の全額をご負担いただきますので、予めご了承下さい。

●受講申込コース

コース番号	開講日 (初日)	受講申込者		該当に☑ <small>受講者変更は右欄も記入 受講者変更は右欄も記入 右欄も記入してください</small>	変更後受講者		生年月日 性別 <small>(属性情報に利用します)</small>	受講者の就業状況 (該当に☑)【*1】 訓練に関連する 経験・技能等【*2】	
		ふりがな 氏名	ふりがな 氏名		ふりがな 氏名	ふりがな 氏名		正社員 非正規雇用 その他(自営業等)	経験・技能等
1	M04117月9日	しえん いちろう 支援 一郎	こよう たろう 雇用 太郎	<input checked="" type="checkbox"/> 受講者変更 <input type="checkbox"/> 受講取消	西暦 1993 年 9 月 6 日生 <input checked="" type="checkbox"/> 男・ <input type="checkbox"/> 女	<input checked="" type="checkbox"/> 正社員 <input type="checkbox"/> 非正規雇用 <input type="checkbox"/> その他(自営業等) 機械設計5年			
2	月 日	◆受講者変更の場合 申し込んだコースの開講日前日まで、受講者変更できます。			<input type="checkbox"/> 受講取消	西暦 年 月 日生 <input type="checkbox"/> 男・ <input type="checkbox"/> 女	<input type="checkbox"/> 正社員 <input type="checkbox"/> 非正規雇用 <input type="checkbox"/> その他(自営業等)		
3	E68116月11日	しえん いちろう 支援 一郎		<input type="checkbox"/> 受講者変更 <input checked="" type="checkbox"/> 受講取消	西暦 年 月 日生 <input type="checkbox"/> 男・ <input type="checkbox"/> 女	<input type="checkbox"/> 正社員 <input type="checkbox"/> 非正規雇用 <input type="checkbox"/> その他(自営業等)			

【*1】非正規雇用とは、一般的にパート
【*2】訓練を進める上での参考とします

◆受講取消の場合
申し込んだコースの開講日の15日を過ぎてからの受講取消は、受講料の全額をご負担いただきます。

自身の判断で記入して構いません。
記入し支えない範囲で記入して下さい。(例：切削加工5年)

●記入者情報

【会社からのお申し込みの場合】

法人名	株式会社▲▲製作所			
事業所名	横浜事業所 <small>〈事業所が複数ある場合、所在地の事業所名をご記入下さい〉</small>			
担当者 及び 連絡先	ふりがな	のうりょく はなこ	TEL	045-●●●●-●●●●
	氏名	能力 花子	FAX	045-●●●●-●●●●
			E-mail	nouryoku@■■■.com

【個人でのお申込みの場合】

住 所	〒 - <small>〈個人申込の方は、自宅等郵便送付先住所をご記入下さい〉</small>		
TEL		FAX	
E-mail			

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構は「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号)を遵守し、保有個人情報を適切に管理し、個人の権利利益を保護いたします。
- ご記入いただいた個人情報については、能力開発セミナーの受講に関する事務処理(各種連絡、修了証書交付、修了台帳の整備、アンケート送付等)及び業務統計、当機構の能力開発セミナーや関連するイベント等のご案内に使用するものであり、それ以外に使用することはありません。会社からお申込みされた場合は申込担当者様宛に送付いたします。
- 本届が当センターに到着後、受付完了した旨、返信いたします。
※送信後、3日以内に返信がない場合は、電話にてお問合せください。

E-mail : kanto-poly03@jeed.go.jp
送信先FAX番号 : 045-391-9699

変更取消届

能力開発セミナー受講者変更・取消届

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部 関東職業能力開発促進センター所長 殿

※当センター処理欄

(注)「開講日の15日前(土日祝日に当たる場合はその前の平日)」を過ぎてからの受講取消は、受講料の全額をご負担いただきますので、予めご了承下さい。

●受講申込コース

コース番号	開講日 (初日)	受講申込者		該当に☑ 受講者変更は右欄も記入	変更後受講者		生年月日 性別 (属性情報に利用します)	受講者の就業状況 (該当に☑)【*1】	
		ふりがな	氏名		ふりがな	氏名		訓練に関連する 経験・技能等【*2】	
1	月 日			<input type="checkbox"/> 受講者変更 右欄も記入してください <input type="checkbox"/> 受講取消			西暦 年 月 日生 ☐男・☐女	<input type="checkbox"/> 正社員 <input type="checkbox"/> 非正規雇用 <input type="checkbox"/> その他(自営業等)	
2	月 日			<input type="checkbox"/> 受講者変更 右欄も記入してください <input type="checkbox"/> 受講取消			西暦 年 月 日生 ☐男・☐女	<input type="checkbox"/> 正社員 <input type="checkbox"/> 非正規雇用 <input type="checkbox"/> その他(自営業等)	
3	月 日			<input type="checkbox"/> 受講者変更 右欄も記入してください <input type="checkbox"/> 受講取消			西暦 年 月 日生 ☐男・☐女	<input type="checkbox"/> 正社員 <input type="checkbox"/> 非正規雇用 <input type="checkbox"/> その他(自営業等)	

【*1】非正規雇用とは、一般的にパート、アルバイト、契約社員などが該当しますが、さまざまな呼称があるため、貴社・ご自身の判断で記入して構いません。
 【*2】訓練を進める上での参考としますので、申し込むコースの内容に関連した職務経験、資格、教育訓練受講歴などをお持ちの方は差し支えない範囲で記入して下さい。(例：切削加工5年)

●記入者情報

【会社からのお申し込みの場合】

法人名			
事業所名 <small style="text-align: right;">〈事業所が複数ある場合、所在地の事業所名をご記入下さい〉</small>			
担当者 及び 連絡先	ふりがな		TEL
	氏名		FAX
			E-mail

【個人でのお申込みの場合】

住所	<small>〈個人申込の方は、自宅等郵便送付先住所をご記入下さい〉</small>		
TEL		FAX	
E-mail			

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構は「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号)を遵守し、保有個人情報を適切に管理し、個人の権利利益を保護いたします。
- ご記入いただいた個人情報については、能力開発セミナーの受講に関する事務処理(各種連絡、修了証書交付、修了台帳の整備、アンケート送付等)及び業務統計、当機構の能力開発セミナーや関連するイベント等のご案内に使用するものであり、それ以外に使用することはありません。会社からお申込みされた場合は申込担当者様宛に送付いたします。
- 本届が当センターに到着後、受付完了した旨、返信いたします。
※送信後、3日以内に返信がない場合は、電話にてお問合せください。

E-mail : kanto-poly03@jeed.go.jp

送信先FAX番号 : 045-391-9699

ポリテクセンター関東 (関東職業能力開発促進センター)

厚生労働省所管の独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部が運営する
公共職業能力開発施設です。

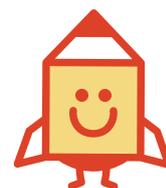
70年の歴史
横浜・希望が丘の職業訓練校

ポリテクセンター
TOP



能力開発セミナーとは

ものづくり分野（製造業）の仕事に役立つ技能・技術を学べる研修
講義・実習で使用する機器は企業で使用しているものと同じ
分野は建築、設備、電気、電子、機械、管理など豊富なラインナップ
公共施設だから受講しやすい受講料設定



公的職業訓練のキャラクター

ハロトレくん

能力開発セミナーを受講するには

★パンフレットで受けたいコースを選んで申込み
(申込方法はP114)

★社員まとめて（10名様～）受講させたい
(オーダーメイド型ご相談、詳しくはP100)

※令和8年度途中より、全国統一の Web 受付システムが稼働する予定です。
詳しくは、ホームページ上でお知らせする予定です。

在職者の方へ

デジタルパンフレットはこちら

